ISSN 0916-4375

Research

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

臨床研究業績年報

Vol.43 2023

Institute for Clinical Research
Osaka National Hospital

独立行政法人
国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター

Research
R-CRIONH

ISSN 0916-4375

Research

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

臨床研究業績年報

Vol.43 2023

Institute for Clinical Research
Osaka National Hospital

独立行政法人
国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター

Research
R-CRIONH

＜目　　次＞

Ⅰ. 研究業績

診療部門

＜総合診療部＞ …… 1
＜腎臓内科＞ …… 4
＜糖尿病・内分泌内科＞ …… 6
＜輸血療法部＞ …… １０
＜血液内科＞ …… １２
＜血友病科＞ …… ２０
＜呼吸器内科＞ …… ２６
＜脳神経内科＞ …… ２８
＜感染症内科＞ …… ３８
＜精神科＞ …… ５０
＜消化器内科＞ …… ５２
＜循環器内科＞ …… ６４
＜小児科＞ …… ８０
＜外科　肝胆膵外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・乳腺外科＞ …… ８１
＜形成外科＞ …… １０７
＜整形外科＞ …… １１０
＜脳神経外科＞ …… １１５
＜心臓血管外科＞ …… １２８
＜皮膚科＞ …… １３２
＜泌尿器科＞ …… １３４
＜産科・婦人科＞ …… １３６
＜眼科＞ …… １３８
＜耳鼻咽喉科＞ …… １４１
＜放射線診断科・放射線治療科＞ …… １４２
＜口腔外科＞ …… １４８
＜救命救急センター＞ …… １５０
＜麻酔科＞ …… １６３
＜臨床検査科＞ …… １６５
＜リハビリテーション科＞ …… １７３
＜臨床腫瘍科＞ …… １７６
＜薬剤部＞ …… １８０
＜看護部＞ …… １８６
＜栄養管理部＞ …… １８９
＜ケアサポートチーム＞ …… １９２
＜臨床心理室＞ …… １９６
＜メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」＞ …… ２００

＜臨床工学室＞ ……２０２
＜院長室＞ ……２０５

臨床研究センター

＜臨床研究センター＞ ……２０７
＜幹細胞医療研究室＞ ……２２３
＜再生医療研究室＞ ……２２６
＜分子医療研究室＞ ……２３２
＜エイズ先端医療開発室＞ ……２４０
＜HIV 感染制御研究室＞ ……２４７
＜臨床疫学研究室＞ ……２５０
＜がん療法研究開発室＞ ……２５５
＜高度医療技術開発室＞ ……２７９
＜医療情報研究室＞ ……２８７
＜災害医療研究室＞ ……２８９
＜臨床研究推進室＞ ……２９１
＜レギュラトリーサイエンス研究室＞ ……２９３

II. 研究助成一覧 ……２９７

III. 全研究業績の区分分類と業績件数の総括表
診療科全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表 ……２９９
臨床研究センター全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表 ……２９９
全研究業績の区分分類と業績件数の総括表 ……２９９
研究業績の区分基準と記号 ……３００

Ⅰ. 研究業績

–診療部門–

総合診療科

中島 伸

総合診療科は常勤医師 4 名、非常勤医師 3 名、内科専攻医 1～2 名、初期研修医 1～3 名、診療看護師 2 名で日々の診療を行っています。対象疾患は肺炎や尿路感染などの感染症を中心として、不明熱、外傷（脊椎圧迫骨折、軽症頭部外傷など）、めまい、脱水症など多岐に及んでおり、入院患者数は 15 名程度です。また、これらの中から興味深い症例や治療成績評価についての学会発表を行いました。今後は論文数を増やしていきたいと考えています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Mashima Y, Tanigawa M, Yokoi H : Information heterogeneity between progress notes by physicians and nurses for inpatients with digestive system diseases.「Scientific Reports」 2024 年 4 月

A-1

竹本雪子：意識障害「救急看護ビジュアルノート：患者対応と基本手技をらくらくマスター（Emer-Log 2023 年春季増刊）」芝田理花 編集、p105-110、メディカ出版、大阪、2023 年 4 月 5 日

A-3

森 寛泰、山口壽美枝、竹本雪子、福田貴史、松本謙太郎、和田 晃、大西光雄、平尾素宏、中島 伸：診療看護師（NP）が一次・二次救急患者に対応するための包括的指示書の作成。「日本 NP 学会誌」7(1) 36-46、2023 年 5 月 1 日

A-4

中島 伸：検査結果は異常なのに症状がない！「レジデントノート」25(1):p.153-154、羊土社、2023 年 4 月 1 日

中島 伸：うまくいく秘訣は直前の打合せ「レジデントノート」25(3):p.535-537、羊土社、2023 年 5 月 1 日

中島 伸：ChatGPT を使ってみた「レジデントノート」25(4):p.681-683、羊土社、2023 年 6 月 1 日

中島 伸：続・ChatGPT を使ってみた「レジデントノート」25(6):p.1141-1143、羊土社、2023 年 7 月 1 日

中島 伸：「俺、ヤバい！」「レジデントノート」25(7):p.1295-1297、羊土社、2023 年 8 月 1 日

中島 伸：自損事故の原因「レジデントノート」25(9):p.1705-1707、羊土社、2023年9月1日

中島 伸:軽症頭部外傷あれこれ(その1)「レジデントノート」25(10):p.1861-1863、羊土社、2023年10月1日

中島 伸:軽症頭部外傷あれこれ(その2)「レジデントノート」25(12):p.2253-2255、羊土社、2023年11月1日

中島 伸:軽症頭部外傷あれこれ(その3)「レジデントノート」25(13):p.2401-2403、羊土社、2023年12月1日

中島 伸:軽症頭部外傷あれこれ(その4)「レジデントノート」25(15):p.2825-2827、羊土社、2024年1月1日

中島 伸：勉強は道楽、受験はゲームだ「レジデントノート」25(16):p.2983-2985、羊土社、2024年2月1日

中島 伸:連載の終了にあたって「レジデントノート」25(18):p.3414-3415、羊土社、2024年3月1日

B-4

森 寛泰、大西光雄:医師と診療看護師(NP)が協働して実践するAdvanced triage.。第126回近畿救急医学研究会シンポジウム、大阪、2023年6月24日

森 寛泰、大西光雄、中島 伸:医師と診療看護師(NP)が協働して実践するAdvanced triage。第26回日本臨床救急医学会学術集会、東京、2023年7月24日

中島 伸：医療従事者の心理的安全を確保するための工夫。第77回国立病院総合医学会、広島、2023年10月20日

山口壽美枝、森 寛泰、竹本雪子、福田寿代、近藤信吾、中村泉美、大西光雄、平尾素宏：診療看護師（NP）の検証システムの構築。第9回日本NP学会・学術集会、札幌、2023年10月21日

森 寛泰、山口壽美枝、竹本雪子、勝田充重、中島 伸：診療看護師（NP）の血液培養採取の手技が病院経営に与える影響。第9回日本NP学会学術集会、札幌、2023年10月22日

竹本雪子、山口壽美枝、川上智久、中島 伸：当院における診療看護師（NP）の広域抗菌薬使用状況～抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の集計から～。第9回日本NP学会学術集会、札幌、2023年10月22日

勝田充重、島原由美子：セフェム系抗菌薬使用に伴う抗菌薬関連脳症を発症した感染性心内膜炎の透析患者の一例。第 51 回日本集中治療学会学術集会、北海道、2024 年 3 月 14 日

B-8
中島 伸：フレイルとは何ぞや？。おおさか健康セミナー「いつまでも家で過ごしたい」～フレイル予防と介護のあれこれ～、大阪、2023 年 11 月 18 日

中島 伸：頭部外傷後高次脳機能障害について～医療機関及び職場における対応～。令和 5 年度 第 1 回労災医療研修会、大阪、2023 年 6 月 30 日

腎臓内科

岩谷博次

IgA 腎症はもっとも多い原発性糸球体腎炎であり、病巣感染との関連が指摘されている。これまで病巣感染や血尿の観点から検討してきた経験を踏まえ、日々の臨床では病巣感染を見つけ、可能な限り除去する努力を行っている。また IgA のヒンジ部の O 型糖鎖は短くなっており、糖鎖と治療反応性との関連を過去に報告してきた。さらに、腎組織が類似している紫斑病性腎炎においても同様に糖鎖は短くなっていることを報告している。

IgA 腎症に関して、これまでの基礎的、臨床的検討を行ってきた豊富な経験をもとに、専門外来を開設しており、近隣の医療機関のみならず、日本全国、北は北海道から南は沖縄まで全国各地の大学病院、基幹病院からも紹介を受けている。

またネフローゼ症候群においても、病巣感染と関連があることがわかりつつある。微小変化型ネフローゼ症候群において、病巣感染巣の外科的除去によりステロイドを使用することなく完全寛解導入に成功した世界初の症例を英文報告している。その他の組織型のネフローゼ症候群でも、病巣感染の除去にて、ステロイドを使用せずに寛解することに成功している。さらに微小変化型ネフローゼ症候群においてはアレルギーとの強い関連が報告されているが、このアレルギーを積極的に抑制することで再発抑制につながる可能性を当科より報告している。これらの豊富な経験を基に診療を行っており、一次性ネフローゼ症候群に関しても日本全国より紹介を受けている。

腎臓領域では、利尿薬の使い方も重要である。水利尿薬であるトルバプタンの使用経験は豊富であるが、その薬剤の細胞内液や細胞外液に対する影響等を論文報告している。本薬剤は、多発性嚢胞腎でも用いるが、本疾患についても専門外来を開設しており、多くの医療機関より紹介を受けている。

腎機能が低下した患者さんでは、血管石灰化が起こりやすく心血管イベントを起こしやすい。そのため、血管石灰化に関連のある因子も検討し論文報告している。

慢性腎臓病患者さんの教育についても積極的に取り組んでおり、患者集団指導は減塩につながる可能性を論文報告している。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Shichijo A Y., Iwatani:H : Suplatast Tosilate and Eicosapentaenoic Acid as a Possible Strategy for Maintaining Remission in Minimal Change Nephrotic Syndrome: A Case Report. Cureus, 15(10):e48048, 2023 年 10 月 31 日

Hotta A, Iwatani H: Efficacy of comprehensive group-based education in lowering body weight, uric acid levels, and diuretic use in patients with chronic kidney disease: A retrospective study. BMC Nephrology, 24(1):272, 2023 年 9 月 14 日

B-4

堀田亜州美、岩谷博次: CKD 集団指導は、半年後の体重に抑制的に関連し高食塩摂取者で有意で、尿酸にも抑制的である。第 66 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2023 年 6 月 10 日

岩谷博次：慢性腎臓病（CKD）に対する SGLT2 阻害薬使用とケトン体との関連。第 66 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2023 年 6 月 11 日

B-6

笹倉桃子、三村一眞、勝沼倫子、小堀愛美、森 優希、部坂 篤、木村良紀、岩谷博次:腎後性腎不全解除後に Post Obstructive Diuresis(POD) を発症した 1 例。第 243 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

小林琴美、小堀愛美、三村一眞、勝沼倫子、森 優希、部坂 篤、木村良紀、岩谷博次:間質性腎炎疑いに対する治療薬ステロイドの漸減中に判明したコレステロール塞栓症(CCE)の 1 例。第 243 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

B-8

岩谷博次:IgA 腎症の治療と日常生活上の注意について。東大阪市保健所主催の難病講演会、大阪、2014 年 3 月 23 日

岩谷博次：大阪東部地区 CKD 診療セミナー、腎臓病における日常診療の疑問の解消～事前アンケートへの回答～、大阪、2023 年 12 月 14 日

岩谷博次：当エリアにおける CKD 治療の課題と今後の在り方について。守ろう腎臓～大阪市の CKD 治療を共に考える会～、大阪、2023 年 11 月 11 日

岩谷博次：多発性嚢胞腎の診断と治療～最新の知見まで～。大阪府保険医協会泌尿器科部会講演会、大阪、2023 年 7 月 29 日

岩谷博次： CKD における尿酸の意義。心腎連関尿酸 WEB セミナー、web 講演会、2023 年 6 月 22 日

岩谷博次：常染色体優性多発性嚢胞腎の診断と治療～腹部超音波検査も含めて～。ADPKD 学術講演会～多発性嚢胞腎の診療連携について考える～、web 講演会、2023 年 2 月 16 日

B-9

岩谷博次：LOVE FLAP FM 大阪（ラジオ出演）、腎臓病の話、大阪、2023 年 2 月 15 日

糖尿病･内分泌内科

加藤　研

当科は糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め､患者の QOL 改善に取り組んでいる。

糖尿病は、患者数も多く根治が困難な慢性疾患であるが、こんにち多くの新薬が上市されており、専門医が個々の患者の病態に合わせた治療法、治療薬を提案していくことが重要である。

当科の取り組みとして、看護部・栄養管理室・薬剤科・臨床検査科・リハビリテーション科と糖尿病チームを組織し、共同で糖尿病教室・糖尿病デーの催しを行い患者への情報提供に取り組んでいる。看護部とフットケア外来、栄養管理室と透析予防外来、看護部・栄養管理室とともに１型糖尿病センターを開設し専門医療を提供している。最近の糖尿病治療分野ではグルコースセンシング機器としての CGM（持続グルコースモニタリング）や isCGM（間歇スキャン式持続グルコースモニタリング：腕に留置したセンサーに読み取り機をかざしてグルコース値をモニターする）またインスリン注入機器としてはインスリンポンプ（CSII）のみならず SAP（Sensor Augmented Pump：持続グルコースモニター付きインスリンポンプ）など、先進糖尿病治療デバイスの進化が目立っている。当科ではそのような先進デバイスを駆使し糖尿病患者のより質のよい血糖コントロール実現に寄与している。

また、最近では内分泌専門医の資格をもつ医師とともに内分泌疾患の精査、負荷試験入院も受け入れ、診療領域の幅を広げている。

【2023年度 研究発表業績】

A-0

Sakane N, Kato K, Hata S, Nishimura E, Araki R, Kouyama K, Hatao M, Matoba Y, Matsushita Y, Domichi M, Suganuma A, Sakane S, Murata T, Wu FL. : Protective and risk factors of impaired awareness of hypoglycemia in patients with type 1 diabetes: a cross-sectional analysis of baseline data from the PR-IAH study.「Diabetol Metab Syndr.」15(1):79、2023 年 4 月 25 日

Sakane N, Kato K, Hata S, Nishimura E, Araki R, Kouyama K, Hatao M, Matoba Y, Matsushita Y, Domichi M, Suganuma A, Sakane S, Murata T, Wu FL. : Association of Impaired Awareness of Hypoglycemia with Driving Safety and Hypoglycemia Problem-solving Abilities among Patients with Type 1 Diabetes in Japan: The PR-IAH Study.「Intern Med.」62(10):1431-1439、2023 年 5 月 15 日

Katakami N, Mita T, Yoshii H, Shiraiwa T, Yasuda T, Okada Y, Kurozumi A, Hatazaki M,

Kaneto H, Osonoi T, Yamamoto T, Kuribayashi N, Maeda K, Yokoyama H, Kosugi K, Ohtoshi K, Hayashi I, Sumitani S, Tsugawa M, Ryomoto K, Kato K, Nakamura T, Kawashima S, Sato Y, Watada H, Shimomura I; UTOPIA study investigators. : Tofogliflozin long-term effects on atherosclerosis progression and major clinical parameters in patients with type 2 diabetes mellitus lacking a history of cardiovascular disease: a 2-year extension study of the UTOPIA trial.「Cardiovasc Diabetol.」22(1):143、2023 年 6 月 22 日

Toyoda M, Murata T, Hirota Y, Hosoda K, Kato K, Kouyama K, Kouyama R, Kuroda A, Matoba Y, Matsuhisa M, Meguro S, Miura J, Nishimura K, Shimada A, Suzuki S, Suzuki S, Tone A, Sakane N, ; ISCHIA Study Group : Possible Relationship between the Deteriorated Accuracy of Intermittent-Scanning Continuous Glucose Monitoring Device and the Contact Dermatitis: Post-hoc analysis of the ISCHIA Study. 「Tokai J Exp Clin Med」 48(3):83-90、2023 年 9 月 20 日

Murata T, Hirota Y, Hosoda K, Kato K, Kouyama K, Kouyama R, Kuroda A ,Matoba Y, Matsuhisa M, Meguro S, Miura J, Nishimura K, Sakane N, Toyoda M, Shimada A, Suzuki S, Tone A, Toyoda M : Predictors of the effectiveness of isCGM usage in adults with type1 diabetes mellitus: Post-hoc analysis of the ISCHIA study. 「Diabetology International.」 2024 年 2 月 15 日

Masuda T, Katakami N, Watanabe H, Taya N, Miyashita K, Takahara M, Kato K, Kuroda A, Matsuhisa M, Shimomura I. : Evaluation of changes in glycemic control and diabetic complications over time and factors associated with the progression of diabetic complications in Japanese patients with juvenile-onset type 1 diabetes mellitus.「J Diabetes.」16(2):e13486、2024 年 2 月

A-2
加藤 研、川嶋聡：II　1型糖尿病治療の理論Up-to-Date 2 CSII・SAP「ライフキャリアから診る1型糖尿病」前田泰孝　編著、P.32-42、中外医学社、2023年5月10日

A-6
加藤 研：インスリンポンプ・SAP・CGM情報ファイル医師座談会 Webサイト「糖尿病ネットワーク」内、株式会社創新社、東京、2023年8月18日

B-4
坂根靖子、加藤 研、秦 誠倫、西村英里香、荒木里香、鴻山訓一、畑尾満佐子、松下裕一、的場ゆか、村田 敬、坂根直樹：重症低血糖を繰り返す成人1型糖尿病を持つ人の心理と低血糖問題解決能力の意義。第66回日本糖尿病学会年次学術集会、鹿児島、2023年5月11日

益田貴史、片上直人、今田 侑、藤川 慧、細江重郎、田矢直大、渡邉裕尭、大森一生、佐々木周伍、下 直樹、髙原充佳、宮下和幸、加藤 研、河盛 段、黒田暁生、安田哲行、松久宗英、下村伊一郎：若年発症1型糖尿病患者における糖尿病性腎症，動脈硬化に関連する因子。第66回日本糖尿病学会年次学術集会、鹿児島、2023年5月11日

加藤 研、秦 誠倫、西村英里香、荒木里香、鴻山訓一、畑尾満佐子、松下裕一、的場ゆか、村田 敬、坂根直樹：1型糖尿病における無自覚性低血糖が安全運転に与える影響：PR-IAH研究のサブ解析。第66回日本糖尿病学会年次学術集会、鹿児島、2023年5月11日

村田 敬、坂根直樹、廣田勇士、豊田雅夫、松久宗英、黒田暁生、伊藤 新、目黒周、三浦順之助、的場ゆか、加藤 研、鈴木渉太：1型糖尿病患者におけるFreeStyleリブレ（第3世代アルゴリズム）の計測特性分析。第66回日本糖尿病学会年次学術集会、鹿児島、2023年5月12日

B-5
加藤 研：HCLの活用とパーソナライズ医療について。合同シンポジウム　第22回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会、東京、2023年11月5日

B-6
増田博紀、小椋紫芳、吉田英人、西窪英之、松井俊郎、渡會皓介、松廣有紀、秦 誠倫、山本裕一、加藤 研：2 型糖尿病の治療を自己中断し、糖尿病性舞踏病を発症した 1 例。第 241 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2023 年 9 月 2 日

藤平和秀、秦 誠倫、吉田英人、西窪英之、渡會皓介、松井俊郎、小椋紫芳、松廣有紀、山本裕一、加藤 研：粘液水腫性昏睡に対してレボチロキシン経静脈投与が有効であった 1 例。第 242 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2023 年 12 月 9 日

石田みどり、山本真弓、宮城正和、石井陽菜、内藤裕子、竹野淳、小椋紫芳、松廣有紀、秦 誠倫、加藤 研：1型糖尿病患者の障子に対するイメージ改善を図る取り組み。第60回日本糖尿病学会近畿地方会、神戸、2023年10月14日

渡會皓介、吉田英人、松井俊郎、西窪英之、小椋紫芳、松廣有紀、秦 誠倫、加藤 研：ハイブリッドクローズドループモードを使用した血液透析中の1型糖尿病の2例。第60回日本糖尿病学会近畿地方会、神戸、2023年10月14日

渡會皓介、吉田英人、松井俊郎、西窪英之、小椋紫芳、松廣有紀、秦 誠倫、加藤 研：維持透析中の1型糖尿病患者にHybrid closed loop（HCL）療法を導入した2症例。第22回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会、東京、2023年11月4日

B-8
加藤 研:質の良い血糖コントロールの実現に欠かせない先進糖尿病治療デバイスについて。大阪市中央区南医師会　糖尿病地域連携セミナー、大阪、2023 年 5 月 27 日

加藤 研：isCGMを活用した1型糖尿病診療について。Abbott Japan Diabetes Care Expert Seminar、大阪、2023年9月29日

秦 誠倫：原発性アルドステロン症の診断と治療。Diabetes Seminar-総合診療を考える-、大阪、2023年10月3日

加藤 研：ランチョンセミナー9 リアルタイムＣＧＭの活用方法について。第60回日本糖尿病学会近畿地方会、神戸、2023年11月14日

加藤 研：ＣＧＭを活用した糖尿病診療について。2023年度豊中CDEセミナー、大阪、2023年11月18日

秦 誠倫：原発性アルドステロン症の診断と治療。良質な糖尿病治療を目指して、大阪、2024年2月2日

加藤 研： AID(Automated Insulin Delivery)療法について。糖尿病と脂質代謝を考える会、大阪、2024 年 2 月 14 日

B-9
小椋紫芳：FM 大阪『LOVE FLAP』、大阪、2023 年 10 月 19 日

秦 誠倫：FM 大阪『SARAYA　presents SDGs FLAP~ HEALTH CARE SPECIAL~』、大阪、2023 年 11 月 12 日

輸血療法部

柴山浩彦

輸血療法部では､安全かつ適切な輸血療法の実践をめざして輸血の管理､検査､供給を行っている。同種血輸血製剤に関しては、発注および在庫調整を適切に行い、病棟や外来での輸血依頼や手術の状況に応じて、常時、必要量を払い出しできる状態を維持し、低い廃棄率での過不足のない管理を実現できるように努力している。

2023 年度の赤血球製剤の使用単位数は 7738 単位（2021 年度：6590 単位、2022 年度：7523 単位)、廃棄率は 0.36％（2021 年度：0.18％、2022 年度：0.32％)、血漿製剤は 3270 単位（2464 単位、3248 単位)、廃棄率は 0.18％（0.64％、0.19％)、血小板製剤は 9000 単位（5880 単位、11360 単位)、廃棄率は 0.11％（0.59％、0.35％）と、赤血球製剤・血漿製剤の 2023 年度の使用量は 2022 年度を上回り、3 製剤とも廃棄率は低いまま推移している。2023 年 1～12 月の FFP/RBC 比が 0.36（＜0.54)、ALB/RBC 比が 1.58（<2）であり、輸血適正使用加算の算定基準を満たした。また、各製剤の払い出しの際に、製剤ごとに色の異なるバッグを用いて運搬する運用を 2022 年 9 月から開始しており、その運用も定着してきている。

輸血副作用に関する情報収集も輸血部の重要な任務であり、輸血後副作用調査を実施し､また､日赤からの遡及調査のため､輸血を受けた患者の血液を 2 年間、適切に保存している。2023 年度に、日赤に副作用の報告をおこなったのは 14 件であった。うち、13 件は軽微な副作用であったが、1 件は血圧低下を認める重篤なものとして報告した。また､日赤からの遡及調査依頼は 5 件あり､うち 2 件は、献血者の HEV 感染によるものであったが、当院で輸血を受けた患者に影響はみられなかった。

ほか、2023 年度におこなった活動としては、超緊急輸血オーダーの入力システムの不備が判明したため、システムの改修をおこなった。宗教的輸血拒否患者への対応について、当院の基本方針は「相対的無輸血」であることを、院内オンラインマニュアルの中にある輸血療法マニュアルの改訂（Ver5⇒Ver5.1）をおこない、小項目から大項目に移行することでわかりやすいように変更した。また､同時に、赤血球輸血製剤は出庫後 1 時間以内であれば、未使用の製剤は輸血部に返却可能であることを追記し、廃棄を減らす工夫をおこなった。新たに FFP 解凍装置（ドライ式）を 1 台購入した（院内に、ドライ式 2 台、加温水槽方式 4 台あり)。

2023 年度は、2023 年 4 月 24 日、6 月 26 日、8 月 28 日、10 月 23 日、12 月 25 日、2024 年 2 月 26 日に、合計 6 回、輸血療法部運営会議を開催した。2023 年 8 月から、大阪府赤十字センター職員が当院の輸血療法部運営会議にオブザーバー参加している。

【2023 年度 研究業績発表】

B-8

柴山浩彦：安全な輸血療法をめざして 4 ～貧血の鑑別診断と治療～。令和 5 年度チーム医療推進のための研修 3（輸血）、WEB 講演、2024 年 2 月 9 日

血液内科

柴山浩彦

令和3年4月1日より、私と長手泰宏医師が常勤医として、中谷綾医師が非常勤医として当院での血液内科の診療が再開され、令和5年4月1日からは、數藤孝雄医師が新たに常勤医として、中川悠太医師が血液内科をサブスペとする内科専攻医として加わった。当科の診療の対象となる疾患は、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍性疾患のみならず、再生不良性貧血（AA）、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）（いずれも指定難病の疾患）などの非腫瘍性血液疾患も含んでいる。それらの疾患の患者の診療を、入院および外来にて実施している。令和3年度の1年間ののべ入院患者数は約140名、令和4年度は約280名、令和5年度は約340名に増加している。うち最も多かったのは悪性リンパ腫の約200名であり、次に、急性白血病が37名、多発性骨髄腫が23名、慢性白血病が3名、骨髄異形成症候群が14名であった。また、非腫瘍性血液疾患のAAが3名、ITPが4名、自己免疫性溶血性貧血が2名、後天性血友病Aが6名入院した。外来通院ののべ患者数も令和3年度は約1650名であったが、令和4年度は約2500名、令和5年度は約3100名に増えた。それらの患者のうち、約1180名の患者が外来化学療法室にて抗癌剤治療を受けている。血液内科の化学療法についても、令和5年度にあらたに保険承認された薬剤もあり、新たなレジメン登録をおこなっている。また、血液疾患の診断のためには、骨髄検査が重要であり、外来および入院にて令和3年度には114件の骨髄検査を実施、令和4年度は182件、令和5年度は162件に増加した。初期研修医も、常時2〜3名が、当科を2ヶ月ずつラウンドした。研修医には、常時4名の入院患者の副担当医となってもらい、血液内科診療を経験してもらった。また、当科外来に初診となった患者の問診、診察、鑑別診断をおこなう外来研修を、研修医1名あたり、複数回実施した。研修医には、入院中に受け持ちした患者において、その診断・治療が興味深かった場合は積極的に学会で症例報告を行ってもらった。令和5年度には、日本内科学会近畿地方会で1件、近畿血液学地方会で1件、発表してもらっている。臨床研究としては、関西骨髄腫フォーラム（KMF）という多発性骨髄腫およびその類縁疾患の多施設共同のレジストリー研究の研究事務局を私が務めている。西日本臨床血液研究グループ（W-JHS）で実施している医師主導臨床研究のうち、MM-01 試験、MM-02 試験、HL-01 試験の3試験の研究代表医師を務めている。また、日本血液学会で実施した「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究」（JSH-MM-15 研究）の研究事務局を務め、研究結果を第84回日本血液学会学術集会で発表し、IJH（International Journal of Hematology）誌に英語論文で発表した。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Hino A, Fukushima K, Kusakabe S, Ueda T, Sudo T, Fujita J, Motooka D, Takeda AK, Shinozaki NO, Watanabe S, Yokota T, Shibayama H, Nakamura S, Hosen N. Prolonged gut microbial alterations in post-transplant survivors of allogeneic haematopoietic stem cell transplantation. *Br J Haematol* 2023 May;201(4):725-737. doi: 10.1111/bjh.18574.

Sunami K, Fuchida SI, Suzuki K, Ri M, Matsumoto M, Shimazaki C, Asaoku H, Shibayama H, Ishizawa K, Takamatsu H, Ikeda T, Maruyama D, Imada K, Uchiyama M, Kiguchi T, Iyama S, Murakami H, Onishi R, Tada K, Iida S. Anti-CD38 antibody isatuximab monotherapy for Japanese individuals with relapsed/refractory multiple myeloma: An update of the phase 1/2 ISLANDs study. *Hematol Oncol* 2023 Aug;41(3):442-452. doi: 10.1002/hon.3105.

Nagate Y, Nakaya A, Kamimura R, Hirose Y, Nojima S, Fujita J, Kiyohara E, Shibayama H. Venetoclax Combined with Azacytidine Can Be a First-line Treatment Option for Elderly Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm. *Intern Med* 2023;62(17):2547-2551. doi: 10.2169/internalmedicine.0318-22.

Nakaya A, Shibayama H, Uoshima N, Yamamura R, Yoshioka S, Imada K, Shimura Y, Hotta M, Matsui T, Kosugi S, Hanamoto H, Uchiyama H, Yoshihara S, Fuchida SI, Onda Y, Tanaka Y, Ohta K, Matsuda M, Kanda J, Yoko A, Kiyota M, Kawata E, Takahashi R, Fukushima K, Tanaka H, Yagi H, Takakuwa T, Hosen N, Ito T, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Hino M. Impact of cytogenetic abnormalities in symptomatic multiple myeloma; a Japanese real-world analysis from Kansai Myeloma Forum. *Leuk Res Rep* 2023 Nov 17; 20: 100395 doi: 10.1016/j.lrr.2023.100395.

Sudo T, Yamashita E, Kikuta J, Ishii M. Protocol for live imaging of transferred mouse bone marrow cells by two-photon microscopy. *STAR Protoc* 2023 Dec 15;4(4):102654. doi: 10.1016/j.xpro.2023.102654.

Horigome Y, Iino M, Harazaki Y, Kobayashi T, Handa H, Hiramatsu Y, Kuroi T, Tanimoto K, Matsue K, Abe M, Ishida T, Ito S, Iwasaki H, Kuroda J, Shibayama H, Sunami K, Takamatsu H, Tamura H, Hayashi T, Akagi K, Maeda T, Yoshida T, Mori I, Shinozaki T, Iida S. A prospective, multicenter, observational study of ixazomib plus lenalidomide-dexamethasone in patients with relapsed/refractory multiple myeloma in Japan. *Ann Hematol* 2024 Feb;103(2):475-488. doi: 10.1007/s00277-023-05428-7.

Kogure Y, Handa H, Ito Y, Ri M, Horigome Y, Iino M, Harazaki Y, Kobayashi T, Abe M, Ishida T, Ito S, Iwasaki H, Kuroda J, Shibayama H, Sunami K, Takamatsu H, Tamura H, Hayashi T, Akagi K, Shinozaki T, Yoshida T, Mori I, Iida S, Maeda T, Kataoka K. ctDNA improves prognostic prediction in relapsed/refractory MM receiving ixazomib, lenalidomide, and dexamethasone. *Blood* 2024 Mar 1: blood.2023022540. doi: 10.1182/blood.2023022540.

Nakamura N, Arima N, Takakuwa T, Yoshioka S, Imada K, Fukushima K, Hotta M, Fuchida SI, Kanda J, Uoshima N, Shimura Y, Tanaka H, Ohta K, Kosugi S, Yagi H, Yoshihara S, Yamamura R, Adachi Y, Hanamoto H, Shibayama H, Hosen N, Ito T, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Hino M; Kansai Myeloma Forum. Efficacy of elotuzumab for multiple myeloma deteriorates after daratumumab: a multicenter retrospective study. *Ann Hematol* 2024 Mar 16. doi: 10.1007/s00277-024-05705-z.

Shibayama H, Itagaki M, Handa H, Yokoyama A, Saito A, Kosugi S, Ota S, Yoshimitsu M, Tanaka Y, Kurahashi S, Fuchida SI, Iino M, Shimizu T, Moriuchi Y, Toyama K, Mitani K, Tsukune Y, Kada A, Tamura H, Abe M, Iwasaki H, Kuroda J, Takamatsu H, Sunami K, Kizaki M, Ishida T, Saito T, Matsumura I, Akashi K, Iida S. Primary analysis of a prospective cohort study of Japanese patients with plasma cell neoplasms in the novel drug era (2016-2021). *Int J Hematol* 2024 Mar 29. doi: 10.1007/s12185-024-03754-8.

A-3
中谷 綾、長手泰宏、戸田 淳、山下勇大、廣瀬由美子、森 清、 柴山浩彦：症例報告　形質芽球性骨髄腫と類似した臨床像を呈した形質芽球性リンパ腫「臨床血液」64(4): 260-264, 2023

A-4
柴山浩彦：特集　多発性骨髄腫の病態解明と治療の進歩　免疫療法の現状と展開「医学と薬学」80(6): 609-616, 2023

柴山浩彦：IX.リンパ系の腫瘍　2．悪性リンパ腫と類縁疾患　（2）慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫「別冊日本臨床　領域別症候群シリーズ」No.29　血液症候群（第 3 版）－その他の血液疾患を含めて－IV、p237-241、日本臨床社、2024 年 2 月 29 日

柴山浩彦：IX.リンパ系の腫瘍　2．悪性リンパ腫と類縁疾患　（14）形質芽球性リンパ腫「別冊日本臨床　領域別症候群シリーズ」No.29　血液症候群（第 3 版）－その他の血液疾患を含めて－IV、pp300-303、日本臨床社、2024 年 2 月 29 日

B-2
Kogure Y, Handa H, Ito Y, Ri M, Horigome Y, Iino M, Harazaki Y, Kobayashi T, Abe M, Ishida T, Ito S, Iwasaki H, Kuroda J, Shibayama H, Sunami K, Takamatsu H, Tamura H, Hayashi T, Akagi K, Shinozaki T, Yoshida T, Mori I, Iida S, Maeda T, Kataoka K : Circulating tumor DNA assessment improves prognostic prediction in relapsed/refractory multiple myeloma receiving ixazomib, lenalidomide, and dexamethasone. EHA2023（欧州血液学会）2023 年 6 月 9 日

B-3
柴山浩彦：イブニングセミナー1-9「初発 FL に対するオビヌツズマブ治療の意義

～GALLIUM 試験最終解析を踏まえて～」。第 85 回日本血液学会学術集会、東京、2023 年 10 月 13 日

B-4
高桑輝人、吉原哲、吉岡聡、堀田雅章、志村勇司、諫田淳也、淵田真一、魚嶋伸彦、太田健介、小杉 智、福島健太郎、田中宏和、柴山浩彦、伊藤量基、黒田純也、高折晃史、島崎千尋、保仙直毅、松村 到、日野雅之：VRD 導入と移植の有無の治療成績－関西骨髄腫フォーラム後方視的研究－。第 48 回日本骨髄腫学会学術集会、東京、2023 年 5 月 27 日

木暮泰寛、李 政樹、伊藤勇太、半田寛、堀米佑一、飯野昌樹、原崎頼子、小林敬宏、安倍正博、石田禎夫、伊藤薫樹、岩崎浩己、黒田純也、柴山浩彦、角南一貴、高松博幸、田村秀人、林 敏昭、赤木 究、篠崎智大、吉田孝寛、森 郁生、飯田真介、前田高宏、片岡圭亮：ctDNA 解析は骨髄腫治療の予後予測を改善する。第 85 回日本血液学会学術集会、東京、2023 年 10 月 13 日

下田和哉、枝廣陽子、大石晃嗣、後藤明彦、竹中克斗、柴山浩彦、清水隆之、臼杵憲祐、伊藤雅文、Scott A. VanWart、Oleh Zagrijtschuk、Albert Qin、河瀬弘明、宮地就久、佐藤俊明、小松則夫、桐戸敬太：低リスク真性多血症患者におけるロペグインターフェロン アルファ-2b の安全性と有効性。第 85 回日本血液学会学術集会、東京、2023 年 10 月 13 日

中村直和、有馬靖佳、高桑輝人、吉岡 聡、今田和典、福島健太郎、堀田雅章、淵田真一、諫田淳也、魚嶋伸彦、志村勇司、田中宏和、太田健介、小杉智、八木秀男、吉原 哲、山村亮介、足立陽子、花本仁、柴山浩彦、保仙直毅、伊藤量基、島崎千尋、高折晃史、黒田純也、松村 到、日野雅之：ダラツムマブ治療後にエロツズマブの効果は低下する：関西骨髄腫フォーラムデータベースによる後方視的解析。第 85 回日本血液学会学術集会、東京、2023 年 10 月 14 日

小澤孝幸、上田智朗、石川淳、上田周二、小杉智、井上 愛、服部英喜、倉上弘幸、福島健太郎、柴山浩彦、保仙直毅：びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する高齢者総合機能評価を用いた R-CHOP 治療成績。第 85 回日本血液学会学術集会、東京、2023 年 10 月 14 日　e-Poster

堀米佑一、飯野昌樹、原崎頼子、小林敬宏、半田 寛、平松靖史、黒井大雅、谷本一樹、末永孝生、李 政樹、安倍正博、赤木 究、林 敏昭、石田禎夫、伊藤薫樹、岩崎浩己、黒田純也、前田高宏、柴山浩彦、角南一貴、高松博幸、田村秀人、吉田孝寛、森 郁生、篠崎智大、飯田真介：本邦における 295 例の再発・難治性多発性骨髄腫患者を対象とした IRd 療法の多施設共同前向き観察研究。第 85 回日本血液学会学術集会、東京、2023 年 10 月 14 日

B-5
柴山浩彦：共催セミナー６「初発 DLBCL に対する Pola-R-CHP 療法」。第 67 回日

本輸血・細胞治療学会近畿支部総会、京都、2023 年 11 月 18 日

B-6
西嶋吉継、戸田 淳、長手泰宏、中谷綾、柴山浩彦：骨髄不全型 PNH との鑑別をした TTP の一例。第 118 回近畿血液学地方会、大阪、 2023 年 5 月 27 日

中川悠太、數藤孝雄、長手泰宏、中谷 綾、柴山浩彦：血管内リンパ腫が一過性に自然軽快したと思われる一例。第 119 回近畿血液学地方会、大阪、2023 年 11 月 25 日

高田恭輔、長手泰宏、中川悠太、數藤孝雄、中谷 綾、柴山浩彦：濾胞性リンパ腫化学療法後に COVID-19 感染症状が 10 ヶ月持続した 1 例。第 242 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2023 年 12 月 9 日

B-8
柴山浩彦：BTK 阻害薬による WM/LPL の治療。Consider the update therapy for CLL&WM、WEB 講演、2023 年 4 月 6 日

柴山浩彦：MDS/AML の最新の話題。大阪市中央区東医師会学術講習会、WEB 講演、2023 年 4 月 19 日

長手泰宏：貧血の鑑別と診断。大阪市中央区東医師会学術講習会、WEB 講演、2023 年 4 月 19 日

柴山浩彦：チラブルチニブによる WM/LPL の治療。希少疾患コラボレーションセミナー、WEB 講演、2023 年 4 月 20 日

柴山浩彦：カルケンスによる初発 CLL の治療。AZ Hematology Web Seminar From Kansai、WEB 講演、2023 年 4 月 28 日

柴山浩彦：カルケンスによる初発 CLL の治療。Hematology Expert Seminar from FUKUI、WEB 講演、2023 年 5 月 9 日

柴山浩彦：血液内科医が診る高齢者の貧血の鑑別。Combination Web セミナー～貧血治療編～、WEB 講演、2023 年 5 月 15 日

柴山浩彦：初発 DLBCL 療法 Update。Malignant Lymphoma Seminar、WEB 講演、2023 年 5 月 17 日

長手泰宏：当院の骨髄腫治療方針。Multiple Myeloma Forum、大阪、2023 年 5 月 26 日

柴山浩彦：初発 FL に対するリスク因子に基づいた治療戦略。Lymphoma Seminar

～治療介入のポイント～、WEB 講演、2023 年 6 月 8 日

柴山浩彦：BTK 阻害薬による WM/LPL の治療。岡山 B 細胞性腫瘍カンファレンス、岡山、2023 年 6 月 9 日

柴山浩彦：初発 DLBCL 療法 Update。第 170 回地域連携学術講演会、WEB 講演、2023 年 6 月 13 日

柴山浩彦：再発・難治 PTCL に対するハイヤスタによる治療。ハイヤスタ錠発売 1 周年記念講演会 in WAKAYAMA、WEB 講演会、2023 年 6 月 15 日

柴山浩彦：初発 DLBCL 療法 Update。Chugai Lymphoma Webinar、WEB 講演、2023 年 6 月 16 日

柴山浩彦：多発性骨髄腫。NPO 法人血液情報広場・つばさ主催フォーラム in 神戸、神戸、2023 年 6 月 18 日

柴山浩彦「アカラブルチニブ±オビヌツズマブによる初発 CLL の治療」AstraZeneca Hematology Web Symposium、WEB 講演、2023 年 6 月 19 日

柴山浩彦：IsaD 療法を長期継続している超高齢 MM 症例。第 3 回骨髄腫セミナー in 天王寺、大阪、2023 年 6 月 30 日

柴山浩彦：初発 FL に対するリスク因子に基づいた治療戦略。Asahikawa Hematology Seminar 2023、WEB 講演、2023 年 7 月 6 日

柴山浩彦：病病連携でイサツキシマブレジメンをどう活かすか。奈良市 MM Network Conference、奈良、2023 年 8 月 4 日

柴山浩彦：初発 WM/LPL の治療～Up to Date～。ベレキシブル Web ライブセミナー2023、WEB 配信、2023 年 8 月 31 日

柴山浩彦：初発 FL に対するリスク因子に基づいた治療戦略。ISHIKAWA FL Meeting、金沢、2023 年 9 月 1 日

柴山浩彦：初発 DLBCL に対する Pola-R-CHP 療法。Meet the Expert on DLBCL、WEB 講演、2023 年 9 月 7 日

柴山浩彦「多発性骨髄腫における免疫療法」Novartis Hematology Web Seminar -MM Part-、WEB 講演、2023 年 9 月 8 日

長手泰宏「精神疾患を背景に移植非適応と判断した ALL 症例」ALL Strategy Seminar、 大阪、2023 年 9 月 8 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」Hematology Seminar、WEB 講演、2023 年 9 月 11 日

柴山浩彦「DLBCL の治療変遷について」第 16 回東近江がん治療カンファレンス、WEB 講演、2023 年 9 月 15 日

柴山浩彦「初発 DLBCL に対する Pola-R-CHP 療法 -高齢者治療に関して-」阪神 DLBCL セミナー、西宮、2023 年 9 月 19 日

柴山浩彦「髄液浸潤をきたした PTCL に対するフォロデシンの効果」リンパ腫 Web Seminar、WEB 講演、2023 年 9 月 22 日

柴山浩彦「初発 DLBCL に対する Pola-R-CHP 療法」第 4 回諏訪血液がん Web セミナー、WEB 講演、2023 年 9 月 25 日

柴山浩彦「ALL 治療における BiTE 製剤の位置付け」Hematology Symposium～ALL 治療における免疫療法の意義と治療ストラテジーを再考する～、浜松、2023 年 9 月 29 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」中部造血器腫瘍セミナー、WEB 講演、2023 年 10 月 17 日

長手泰宏「指趾の壊死で発症、化学療法直後に皮疹で再発したリンパ腫症例」リンフォーマ井戸端会議、WEB 講演、2023 年 10 月 24 日

柴山浩彦「MPN の過去・現在・未来」大阪真性多血症フォーラム、WEB 講演、2023 年 10 月 26 日

柴山浩彦「初発 CLL に対するケモフリー治療」第 3 回 Hematology brush up seminar in HYOGO、WEB 講演、2023 年 10 月 27 日

柴山浩彦「高齢者に適した WM/LPL の治療」Hematology Headline Channel～高齢者における骨髄腫・リンパ腫の治療を考える～、WEB 講演、2023 年 10 月 31 日

柴山浩彦「WM/LPL 治療 UP TO DATE～2023 年版造血器腫瘍診療ガイドラインから～」Janssen Pro Web Seminar　BTKi が描く新たな治療戦略　原発性マクログロブリン血症治療、WEB 講演、2023 年 11 月 14 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」Hematologic Malignancies Seminar、WEB 講演、2023 年 11 月 16 日

柴山浩彦「初発 DLBCL に対する Pola-R-CHP 療法 -高齢者治療に関して-」Polivy Tama Academic Seminar in Hematology、WEB 講演、2023 年 11 月 30 日

柴山浩彦「CAR-T 細胞治療について」令和 5 年度がん看護セミナー、大阪、2023 年 12 月 9 日

柴山浩彦「再発・難治 PTCL の治療～ハイヤスタの位置付け～」Meiji Seika ファルマ株式会社 Web カンファレンス、WEB 講演、2024 年 1 月 11 日

柴山浩彦「初発 FL に対するオビヌツズマブ治療の意義～GALLIUM 試験最終解析を踏まえて～」東京造血器腫瘍研究会 2024、東京、2024 年 1 月 13 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」Hematology Seminar、WEB 講演、2024 年 1 月 19 日

柴山浩彦「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」CLL Clinical Conference～造血器腫瘍診療ガイドライン 2023 を踏まえて～、大阪、2024 年 1 月 20 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」道北原発性マクログロブリン血症 WEB ライブセミナー、WEB 講演、2024 年 1 月 25 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」ベレキシブル WEB ライブセミナー、大阪、2024 年 2 月 6 日

柴山浩彦「骨髄腫治療におけるサリドマイドの使いどころ」造血器腫瘍治療戦略 Web セミナー、神戸、2024 年 2 月 9 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」MM X WM/LPL collaboration セミナー、WEB 講演、2024 年 2 月 21 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」ベレキシブル WEB ライブセミナー、WEB 講演、2024 年 2 月 28 日

柴山浩彦「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」関西造血器腫瘍セミナー、WEB 講演、2024 年 2 月 29 日

柴山浩彦「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」Hematology Clinical Seminar、WEB 講演、2024 年 3 月 7 日

柴山浩彦 Panel Discussion「移植非適応多発性骨髄腫に対する維持治療」Myeloma Academy 2024、大阪、2024 年 3 月 8 日

B-9
長手泰弘：FM 大阪『LOVE FLAP』出演、2023 年 9 月 7 日放送

血友病科

武山雅博

血友病科は、血友病診療ブロック拠点病院の一つである大阪医療センターに2021年4月新設され、3年が経過しました。2023年10月から武山が新科長として奈良県立医科大学小児科から赴任しました。大阪府下のみならず県外の医療機関から多くのご紹介を頂き、血友病患者・保因者や、類縁疾患であるフォンヴィルブランド病や様々な凝固異常症をもつ患者さんが当科へ受診されるようになってきております。特に、術前検査でAPTTの延長を主訴に当科へ紹介される患者さんが増えております。

当科では、血友病診療ブロック拠点病院および血友病専門医として、凝血学的検査に基づく凝固異常症患者の正確な診断を行い、さらに患者さんのライフスタイルやライフステージに合わせた最適な治療法を提案しています

血友病の治療は従来、不足する凝固因子を補充する（補充療法）が一般的でしたが、最近、凝固因子製剤ではない治療薬（抗体製剤など）が開発されています。このような新規治療製剤は、これまで行われていた一般的な凝固検査ではその凝固能を評価することが困難で包括的な凝固機能を評価する事が必要であり、当科では様々な測定装置を用いて凝固機能解析を行う研究体制を整えています。また、現在、血友病患者レジストリの構築が進められており、当院にレジストリ事務局が設置され、2024年度中には患者登録が開始される予定です。

また、院内各診療科・中央臨床検査部門の多大なるご協力のもとで、手術や観血的処置を要する血友病患者さんの周術期止血治療にも積極的に取り組んでいます。さらに、リハビリテーション科や中央生理検査部門にご協力頂き、血友病患者の関節症に対する理学的ケアや超音波検査を行っています。

血友病患者のトータルケアの実現には、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、臨床心理士はじめ、様々なコメディカルスタッフのご協力が必須です。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

【2023年度 研究発表業績】

A-0

Oda A,Takeyama M,Kitazawa T, Nogami K：The emicizumab-bridged ternary complex with activated factor IX and factor X evaluated by fluorescence resonance energy transfer.ThrombosisResearchPublished:March31,2024.DOI:https://doi.org/10.1016/j.thromres.2024年3月30日

Takeyama M, Furukawa S, Ogiwara K, Tamura S, Ohno H, Higasa S, Shimonishi N, Nakajima Y, Onishi T, Nogami K.：Coagulation potentials of plasma-derived factors VIIa and X mixture (Byclot®) evaluated by global coagulation assay in patients with acquired haemophilia A「Haemophilia」30(1):P249-252. 2024年1月

Takeyama M, Matsumoto N, Abe H, Harada S, Ogiwara K, Furukawa S, Shimonishi N, Nakajima Y, Yada K, Soeda T, Nogami K. : Coagulant potentials of emicizumab in the plasmas from infant and toddler patients with hemophilia A.「Pediatr Blood Cancer.」, 70(10):e30590. 2023 年 10 月

Shimonishi N, Sasai K, Ogiwara K, Furukawa S, Nakajima Y, Mizumachi K, Yada K, Takeyama M, Shima M, Mizuno N, Nogami K. : Longitudinal dynamic changes in factor VIII inhibitor titers in patients with hemophilia A and inhibitors receiving emicizumab prophylaxis.「Int J Hematol.」2023 Dec;118(6):690-698、2023 年 12 月

Takeyama M, Furukawa S, Ogiwara K, Tamura S, Ohno H, Higasa S, Shimonishi N, Nakajima Y, Onishi T, Nogami K : Coagulation potentials of plasma-derived factors VIIa and X mixture (Byclot®) evaluated by global coagulation assay in patients with acquired haemophilia A.「Haemophilia」30(1):249-252. 2024 年 1 月

Mizumachi K, Nakajima Y, Shimonishi N, Furukawa S, Ogiwara K, Takeyama M, Nogami K : Hybrid human-porcine factor VIII proteins partially escape the inhibitory effects of anti-factor VIII inhibitor alloantibodies having A2 or C2 domain specificity 「Haemophilia」30(1):140-150, 2024 年 1 月

Nagao A, Tokugawa T, Matsuo Y, Shirayama R, Morishita E, Nozima M, Kinai E, Nishida Y, Fukutake K. : The length of the sanitary napkins can be used as a handier index than pictorial blood loss assessment chart to predict the heavy menstrual bleeding. 「J Obstet Gynaecol Res」2023 Jul;49(7):1838-1845. Epub 2023 年 5 月 4 日

Yada K, Fujitate N, Ogiwara K, Soeda T, Kitazawa T, Nogami K : Reduced plasma factor X is associated with a lack of response to recombinant activated factor VII in patients with hemophilia A and inhibitor, but does not impair emicizumab-driven hemostasis *in vitro*.「Thrombosis Research」237:P.37-45、2024 年 3 月 22 日

Mawarikado Y, Sakata A, Inagaki Y, Harada S, Tatsumi K, Matsumoto N, Ogiwara K, Yada K, Yoshimura Y, Kido A, Tanaka Y, Shima M, Nogami K : Force-sensing treadmill gait analysis system can detect gait abnormalities in haemophilia patients without arthropathy. 「Haemophilia」doi: 10.1111/hae.14987. 2024 年 5 月 20 日

Yada K, Nogami K : Genetic background of inhibitor development in patients with hemophilia in Japan: Trajectory of multi-center prospective cohort study Japan Hemophilia Inhibitor Study (J-HIS). :「日本小児血液がん学会雑誌」60(5)P.284-291、2024 年 3 月 7 日

Yada K, Ogiwara K, Shimonishi N, Nakajima Y, Soeda T, Kitazawa T, Nogami K : : Emicizumab-mediated hemostatic function assessed by thrombin generation assay in an in vitro model of factor VIII-depleted thrombophilia plasma. 「International Journal of

Hematology」119(2):P.109-118、2024 年 2 月.

A-4
西田恭治：わが国における血友病の診療 up-to-date「Thrombosis Medicine」13(2): 85-90、先端医学社、2023 年 6 月

A-6
武山雅博：話題フォーカス 新機序薬で血友病患者の QOL 向上　次々登場する Non-Factor 製剤「Medical Tribune」57(5)P4. 2024 年 3 月 7 日

B-1
Yada K : The frontiers of diagnosis and treatment in Japanese hemophilia patients with inhibitors based on prospective cohort study in Japan, J-HIS2 (Japan Hemophilia Inhibitor Study 2). 2023East Asia Hemophilia Forum、Seoul、2023 年 4 月 6 日

B-3
武山雅博：Non-Factor 製剤のアップデート。第 37 回日本エイズ学会 シンポジウム、京都、2023 年 12 月 5 日

武山雅博：ライフステージ別の血友病治療戦略。日本血栓止血学会 SSC シンポジウム、東京、2024 年月 17 日

西田恭治：知っておくべき血友病治療環境の世界動向ーパンデミックやウクライナ戦争を踏まえてー。第 45 回日本血栓止血学会学術集会、北九州、2023 年 6 月 15 日

矢田弘史、西田恭治：包括的凝固機能に基づく血友病保因者における凝固線溶能の評価。第 45 回日本血栓止血学会学術集会、北九州、2023 年 6 月 16 日

矢倉裕輝、石田奈々、西田恭治、矢田弘史：出血性疾患緊急時患者カードの所持状況に関する調査。第 45 回日本血栓止血学会学術集会、北九州、2023 年 6 月 16 日

矢田弘史：新時代を生きる血友病患者のより良い未来にむけて～臨床的観点から～。第 45 回日本血栓止血学会学術集会 サノフィスポンサードシンポジウム、北九州、2023 年 6 月 17 日

矢田弘史：レジストリの研究・創薬・育薬への発展。第 45 回日本血栓止血学会学術集会特別シンポジウム、北九州、2023 年 6 月 17 日

B-4
矢田弘史、西田恭治：包括的凝固機能に基づく血友病保因者における凝固線溶能の評価。第 45 回日本血栓止血学会学術集会、北九州、2023 年 6 月 16 日

矢倉裕輝、石田奈々、西田恭治、矢田弘史：出血性疾患緊急時患者カードの所持状況に関する調査。第 45 回日本血栓止血学会学術集会、北九州、2023 年 6 月 15 日-17 日

B-5
武山雅博：ヘムライブラの検査上の注意点とモニタリング法について。第 62 回日本臨床検査医学会 東海・北陸支部総会ランチョンセミナー、三重、2024 年 3 月 2 日

B-7
武山雅博:新生児から幼児の血友病 A 患者におけるヘムライブラの凝固能の検討。血友病の未来を考える会 in OSAKA 2023、大阪、2023 年 11 月 11 日

武山雅博：ライフステージ別に考える血友病治療戦略。血友病 Web seminar、WEB 開催、2024 年 2 月 1 日

武山雅博：患者さんの関節を考える。Hemophilia meeting～画像検査からわかること～、大阪、2024 年 3 月 9 日

武山雅博：定期補充が標準化した中での成人血友病 B 治療と社会生活。血友病 B Web セミナー、WEB 開催、2024 年 3 月 22 日

西田恭治：臨床から見た軽症・中等症血友病－そのパラドックス－。Osaka Hemophila Network 2023～血友病患者の救急対応と軽症・中等症患者への対応～、WEB 開催、2023 年 4 月 20 日

西田恭治：Beyond ABRからBeyond Japan～多様な血友病医療の視点～。兵庫県小児血友病診療連携WEBセミナー、WEB開催、2023年5月19日

西田恭治：これからの血友病保因者対応。Haemophilia UpDate Seminar、WEB 開催、2023 年 5 月 27 日

西田恭治：これからの血友病保因者対応。第 2 回 Hemophilia Total Care Seminar in 群馬、WEB 開催、2023 年 7 月 27 日

西田恭治:これからの血友病保因者対応～保因者健診のコツ～。第 11 回止血異常懇話会、広島、2023 年 8 月 19 日

西田恭治：わが国における血友病診療 up-to-date。Hemophilia Web Seminar、WEB 開催、2023 年 8 月 30 日

西田恭治:これからの血友病保因者対応－保因者健診のコツ－。第 6 回 Hemophilia total care seminar in Niigata、WEB 開催、2023 年 8 月 31 日

西田恭治：血友病 QOL 向上を目指してーこれからの包括医療チーム作りー。血友病 Web 講演会 in 沖縄、WEB 開催、2023 年 9 月 1 日

西田恭治：女性の出血とフォン・ヴィレブランド病。女性の止血異常を考える～保因者・VWD の観点で、WEB 開催、2023 年 9 月 6 日

西田恭治：血友病保因者対応のすすめー5 つのコツー。血友病 WEB セミナー～血友病保因者について～、WEB 開催、2023 年 9 月 15 日

西田恭治：これからの血友病保因者対応～保因者検診のコツ。血友病とその家族について考える会、弘前、2023 年 11 月 22 日

西田恭治：血友病治療の歩み。オルツビーオ®承認記念講演会、大阪、2023 年 11 月 25 日

西田恭治：血友病治療の歩み。EMPOWER 2023、東京、2023 年 11 月 26 日

西田恭治：これで怖くないフォン・ヴィレブランド病。これで怖くないフォン・ヴィレブランド病、WEB 開催、2023 年 11 月 28 日

西田恭治：明日からの血友病保因者対応。東北信血友病 Web ミーティング、WEB 開催、2024 年 2 月 2 日

西田恭治：これからの血友病保因者対応ー保因者健診のコツー。Hemophilia Collaboration Web Seminar、WEB 開催、2024 年 2 月 6 日

西田恭治：クライシス下の血友病世界動向 2024。XPAND! ALTUVIIO webinar、WEB 開催、2024 年 2 月 13 日

西田恭治：明日から出来る血友病保因者健診。岐阜県血友病包括診療セミナー、岐阜、2024年3月2日

西田恭治：古くて新しい血友病 B の 2024 年。Hemophilia Webinar、WEB 開催、2024 年 3 月 15 日

西田恭治：クライシス下の血友病世界動向 2024。Hemophilia Meeting、WEB 開催、2024 年 3 月 29 日

矢田弘史：基礎から見た中等症・軽症血友病の病態と診断治療におけるピットフォール。Osaka Hemophilia Network 2023、WEB 開催、2023 年 4 月 20 日

矢田弘史：大阪医療センターにおける関節診療の現状。CHUGAI Hemophilia Meeting in Kansai、大阪、2022 年 10 月 20 日

矢田弘史：大阪医療センター（血友病診療ブロック拠点病院）における関節診療の取り組み。Hemophilia Seminar、WEB 開催、2023 年 4 月 27 日

Yada K：Significance and future of clinical use of HEM ～From the experience of those who have walked with HEM through its long journey from development to launch and clinical application～。Hemophilia Global Training Program、大阪、2023 年 5 月 25 日

矢田弘史：後天性血友病 A の診断と治療。後天性血友病 A WEB セミナー、WEB 開催、2023 年 7 月 5 日

矢田弘史：より健康的な生活を送るための合併症を見据えたケア。CSL ベーリングトータルケアセミナー、広島、2023 年 7 月 29 日

B-8
武山雅博：産業医のための血友病の基礎知識から最新の話題。令和 5 年度第 2 回学校医（産業医）講習会、大阪、2024 年 3 月 16 日

矢田弘史：血友病診療について～ 当院血友病科の紹介 ～。大阪医療センター令和 5 年度新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2023 年 4 月 12 日

矢田弘史：血友病診療の up to date ～血友病性関節症に対する早期診断の重要性とその対策を含めて～。市民公開講座 なるほど！血友病ワークショップ 2、大阪、2023 年 6 月 3 日

B-9
武山雅博：OCTOR’S FLAP, FM 大阪ラジオ「LOVE FLAP」、2023 年 12 月 14 日

呼吸器内科

南　誠剛

本年度から、呼吸器悪性腫瘍のみならず、呼吸器疾患全般にわたって診療するようになった。

従来通り、呼吸器悪性腫瘍（肺癌，胸膜中皮腫など）に関しては、呼吸器外科・放射線診断科・放射線治療科・臨床検査科・臨床腫瘍科と協同して、肺癌の診断及び化学療法を含む集学的治療を行っている。特に近年から、周術期にも癌免疫療法による術前・術後補助療法の適応が拡大してきたため、術前・術後の症例検討を入念に行っている。

気管支鏡診断や気管支鏡下の処置にも力を入れていて、呼吸器悪性腫瘍の検体採取のみならず、びまん委肺疾患の気管支鏡下生検や気管支肺胞洗浄液回収を、積極的かつ迅速に施行するようになった。本検査によって診断確定に至った稀な非癌の呼吸器疾患の症例を学会発表するに至った。

共同観察研究「非高齢者喘息フェノタイプから高齢者喘息フェノタイプへの移行様式に関する研究」(研究責任者；NHO 東京病院　鈴川 真穂)、「診療報酬請求データを活用した、実臨床下の日本の癌患者における間質性肺疾患の特定アルゴリズムのバリデーション」（研究責任者；国立病院機構大阪医療センター　松村泰志 院長）等にも参加した。引き続き、治験や他施設との共同研究に取り組んでいきたい。

【2023 年度 研究発表業績】

A-2

南 誠剛：II急性循環器“症候群”を呈する疾患への実践的対応　8 急性呼吸窮迫症候群（ARDS）「秒で判断・分で理解！循環器疾患“かもしれない”症候の救急・急変対応ノート」p166-172、編集：樋口義治、著者：樋口義治、中村大輔、外海洋平、山田知輝、南口 仁、市堀泰裕、石原隆行、倉谷 徹、岡本直高、森 直己、仲谷健史、南 誠剛、明田秀太、南江堂、東京、2024 年 3 月 15 日

B-4

二見真史、東 浩志、安藤性實、南 誠剛：胃癌に投与した FOLFOX＋Nivo 肺障害の改善後に FOLFOX 単独投与により器質化肺炎を呈した 1 例。第 102 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 7 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会、大阪、2024 年 1 月 20 日

渡邉久遠、東 浩志、二見真史、安藤性實、南 誠剛：メサラジンによる薬剤性好酸球性肺炎に起因したと考えられる肺胞出血の 1 例。第 243 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

B-8

南 誠剛：気管支喘息治療の Up-To-Date～吸入とバイオの２段構え～。大阪市中央

区東医師会 法円坂地域連携フォーラム、大阪、2023 年 5 月 20 日

南 誠剛：マイナーなメジャー疾患（COPD）を見直す。第 59 回法円坂フォーラム、大阪、2023 年 10 月 7 日

二見真史：結核は忘れた頃にやってくる。第 59 回法円坂フォーラム、大阪、2023 年 10 月 7 日

B-9.
南 誠剛：DOCTOR’s FLAP。FM 大阪、2023 年 05 月 04 日放送

脳神経内科

山上　宏/永野恵子

脳神経内科は脳卒中診療を中心とした脳神経内科疾患を診療する部門です。脳神経外科と協力した脳卒中診療、痙攣発作や脳炎などの神経救急診療を 24 時間体制で行っています。当科はスタッフ全員が脳卒中専門医であり、その中に脳神経血管内治療専門医、日本神経学会専門医を擁しています。今年度からは、診療科名を脳卒中内科から脳神経内科へ改め、脳卒中だけでなく広く神経疾患についての診療を開始しました。

当科は国内外の多数の他施設共同研究に参加しており、2023 年度には潜因性脳梗塞に対する植込み型心電計の他施設登録研究 CRYPTON-ICM、脳卒中学会による SARS-CoV-2 感染患者における脳卒中の登録研究、癌合併脳卒中の登録研究 SCAN、発症から時間の経過した主幹動脈閉塞による脳梗塞の国際共同研究 CLEAR、脳動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術後の抗血小板療法に関する研究 DAPTS-ACE、広範囲脳梗塞を有する主幹動脈閉塞例に対する血管内治療のランダム化比較試験 RESCUE-Japan LIMIT などから、多くの論文を発表しました。また、急性期脳出血に対する国際共同比較試験（FASTEST）や脳主幹動脈閉塞の再開通療法に使用するダイレーターの安全性と有効性に関する研究（TG-DL）などの医師主導臨床開発研究にも参加し、後者からは論文も報告されました。また、軽症脳梗塞を対象とした新規経口抗凝固薬の国際治験（BAY 2433334、BMS-986177）に参加、特定臨床研究である心房細動とアテローム血栓症を合併した脳梗塞例に対する抗血栓療法に関する比較試験（ATIS-NVAF）の代表研究者および事務局を担当しています。同じく特定臨床研究である心房細動を有する脳梗塞に対するアブレーションの効果に関する比較試験（STABLED）に循環器内科と共同で参加しています。

また、初期研修医の学会発表も積極的に指導を行い、内科学会近畿地方会など 2 演題の発表を行っています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Shimada Y, Todo K, Doijiri R, Yamazaki H, Sonoda K, Koge J, Iwata T, Ueno Y, Yamagami H, Kimura N, Morimoto M, Kondo D, Koga M, Nagata E, Miyamoto N, Kimura Y, Gon Y, Okazaki S, Sasaki T, Mochizuki H: Higher Frequency of Premature Atrial Contractions Correlates With Atrial Fibrillation Detection after Cryptogenic Stroke. Stroke. doi: 10.1161/STROKEAHA.123.044813.2024 年 3 月 4 日

Nishiyama Y, Miyamoto S, Sakaguchi M, Sakai N, Yoshida K, Tokuda N, Ichi S, Iguchi Y, Koga M, Yamaura I, Hirano T, Yamagami H, Kimura K: Clinical characteristics of stroke in SARS-CoV-2 infected patients in Japan: A

prospective nationwide study. J Neurol Sci. 457:122865, 2024年2月15日

Kawano T, Gon Y, Sakaguchi M, Yamagami H, Abe S, Hashimoto H, Ohara N, Takahashi D, Abe Y, Takahashi T, Okazaki S, Todo K, Mochizuki H, Sasaki T: Von Willebrand Factor Antigen Levels Predict Poor Outcomes in Patients With Stroke and Cancer: Findings From the Multicenter, Prospective, Observational SCAN Study. J Am Heart Assoc. 13(3):e032284, 2024年2月6日

Todo K, Okazaki S, Doijiri R, Yamazaki H, Sonoda K, Koge J, Iwata T, Ueno Y, Yamagami H, Kimura N, Morimoto M, Kondo D, Koga M, Nagata E, Miyamoto N, Kimura Y, Gon Y, Sasaki T, Mochizuki H: Atrial Fibrillation Detection and Ischemic Stroke Recurrence in Cryptogenic Stroke: A Retrospective, Multicenter, Observational Study. J Am Heart Assoc. 13(3):e031508, 2024年2月6日

Abdalkader M, Ning S, Qureshi MM, Haussen DC, Strbian D, Nagel S, Demeestere J, Puetz V, Mohammaden MH, Olive Gadea M, Winzer S, Yamagami H, Tanaka K, Marto JP, Tomppo L, Henon H, Sheth SA, Ortega-Gutierrez S, Martinez-Majander N, Caparros F, Lemmens R, Dusart A, Bellante F, Zaidi SF, Siegler JE, Nannoni S, Kaesmacher J, Dobrocky T, Farooqui M, Salazar-Marioni S, Virtanen P, Vandewalle L, Wouters A, Jesser J, Ventura R, Castonguay AC, Uchida K, Puri AS, Masoud HE, Klein P, Mansoor Z, Bui J, Kang M, Mujanovic A, Rizzo F, Kokkonen T, Ramos JN, Strambo D, Michel P, Möhlenbruch MA, Lin E, Kaiser DPO, Yoshimura S, Sakai N, Cordonnier C, Ringleb PA, Roy D, Zaidat OO, Fischer U, Ribo M, Raymond J, Nogueira RG, Nguyen TN: Sex Differences in Outcomes of Late-Window Endovascular Stroke Therapy. Stroke. 55(2):278-287, 2024年2月6日

Nguyen TN, Qureshi MM, Klein P, Yamagami H, Abdalkader M, Mikulik R, Sathya A, Mansour OY, Czlonkowska A, Lo H, Field TS, Charidimou A, Banerjee S, Yaghi S, Siegler JE, Sedova P, Kwan J, de Sousa DA, Demeestere J, Inoa V, Omran SS, Zhang L, Michel P, Strambo D, Marto JP, Nogueira RG: Global Impact of the COVID-19 Pandemic on Cerebral Venous Thrombosis and Mortality. J Stroke. 26(1):129, 2024年1月

Ozaki T, Yamagami H, Morimoto M, Hatano T, Oishi H, Haraguchi K, Yoshimura S, Sugiu K, Iihara K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Satow T, Hayakawa M, Sakai C, Miyamoto S, Kitagawa K, Daimon T, Kagimura T, Sakai N: Short- versus long-term Dual AntiPlatelet Therapy for Stent-Assisted treatment of CErebral aneurysm (DAPTS ACE): a multicenter, open-label, randomized clinical trial. J Neurointerv Surg. 16(2):171-176,2024年1月12日.

Kuwahara S, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Imamura H, Takeuchi M, Shirakawa M, Sakakibara F, Haraguchi K, Kimura N, Suzuki K, Yoshimura S: Impact of atherosclerotic etiology on technical and clinical outcomes of mechanical thrombectomy with a stent retriever: subanalysis of the Japan Trevo Registry. J Neurointerv Surg. doi: 10.1136/jnis-2023-021192.2024 年 1 月 3 日

Jesser J, Nguyen T, Dmytriw AA, Yamagami H, Miao Z, Sommer LJ, Stockero A, Pfaff JAR, Ospel J, Goyal M, Patel AB, Pereira VM, Hanning U, Meyer L, van Zwam WH, Bendszus M, Wiesmann M, Möhlenbruch M, Weyland CS: Treatment practice of vasospasm during endovascular thrombectomy: an international survey. Stroke Vasc Neurol. doi: 10.1136/svn-2023-002788. 2023 年 11 月 19 日

Ueno Y, Miyamoto N, Hira K, Doijiri R, Yamazaki H, Sonoda K, Koge J, Iwata T, Todo K, Yamagami H, Kimura N, Morimoto M, Kondo D, Okazaki S, Koga M, Nagata E, Hattori N: Left atrial appendage flow velocity predicts occult atrial fibrillation in cryptogenic stroke: a CRYPTON-ICM registry. J Neurol. 270(12):5878-5888, 2023 年 11 月

Ohta T, Takeuchi M, Yamagami H, Tsuto K, Yamamoto S, Asai K, Ishii A, Imamura H, Yoshimura S, Fukumitsu R, Sakai C, Sakai N, Tateshima S: First-in-human trial of a self-expandable, temporary dilation system for intracranial atherosclerotic disease in patients presenting with acute ischemic stroke. J Neurointerv Surg. doi: 10.1136/jnis-2023-020983. 2023 年 11 月 24 日

Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Uemura K, Imamura H, Takeuchi M, Shirakawa M, Sakakibara F, Haraguchi K, Kimura N, Suzuki K, Ayabe J, Yamamoto D, Shindo S, Kimoto A, Morita K, Akiyama Y, Takezawa H, Toyota S, Tanaka K, Kasakura S, Tsukagoshi E, Ueda T, Yoshimura S: Japan Trevo Registry: Real-world Registry of Stent Retriever Alone or in Combined Therapy with Aspiration Catheter for Acute Ischemic Stroke in Japan. Neurol Med Chir (Tokyo). 63(11):503-511, 2023 年 11 月 15 日

Shindo S, Uchida K, Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Inoue M, Sakakibara F, Nakajima M, Ueda M, Morimoto T: Intravenous alteplase before endovascular therapy for acute large vessel occlusion with large ischemic core: subanalysis of a randomized clinical trial. J Neurointerv Surg. doi: 10.1136/jnis-2023-020846.2023 年 10 月 27 日

Saito T, Sakakibara F, Uchida K, Yoshimura S, Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Morimoto T: Effect of edaravone on symptomatic intracranial hemorrhage

in patients with acute large vessel occlusion on apixaban for non-valvular atrial fibrillation. J Neurol Sci. 453:120806, 2023 年 10 月 15 日

Ospel JM, Kunz WG, McDonough RV, Goyal M, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Yoshimura S: Cost-effectiveness of Endovascular Treatment for Acute Stroke with Large Infarct: A United States Perspective. Radiology. 309(1):e223320, 2023 年 10 月

Sakakibara F, Uchida K, Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Inoue M, Ando K, Yoshida A, Tanaka K, Yoshimoto T, Koge J, Beppu M, Shirakawa M, Morimoto T: Mode of Imaging Study and Endovascular Therapy for a Large Ischemic Core: Insights From the RESCUE-Japan LIMIT. J Stroke. 25(3):388-398, 2023 年 9 月

Klein P, Huo X, Chen Y, Abdalkader M, Qiu Z, Nagel S, Raymond J, Liu L, Siegler JE, Strbian D, Field TS, Yaghi S, Qureshi MM, Demeestere J, Puetz V, Berberich A, Michel P, Fischer U, Kaesmacher J, Yamagami H, Alemseged F, Tsivgoulis G, Schonewille WJ, Hu W, Liu X, Li C, Ji X, Drumm B, Banerjee S, Sacco S, Sandset EC, Kristoffersen ES, Slade P, Mikulik R, Romoli M, Diana F, Krishnan K, Dhillon P, Lee JS, Kasper E, Dasenbrock H, Ton MD, Masiliūnas R, Arsovska AA, Marto JP, Dmytriw AA, Regenhardt RW, Silva GS, Siepmann T, Sun D, Sang H, Diestro JD, Yang P, Mohammaden MH, Li F, Masoud HE, Ma A, Raynald, Ganesh A, Liu J, Meyer L, Dippel DWJ, Thomalla G, Parsons M, Qureshi AI, Goyal M, Yoo AJ, Lapergue B, Zaidat OO, Chen HS, Campbell BCV, Jovin TG, Nogueira RG, Miao Z, Saposnik G, Nguyen TN: Specialist Perspectives on the Imaging Selection of Large Vessel Occlusion in the Late Window. Clin Neuroradiol. 33(3):801-811, 2023 年 9 月

Uchida K, Yamagami H, Sakai N, Shirakawa M, Beppu M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Todo K, Hayakawa M, Shindo S, Ota S, Morimoto M, Takeuchi M, Imamura H, Ikeda H, Tanaka K, Ishihara H, Kakita H, Sano T, Araki H, Nomura T, Sakakibara F, Yoshimura S: Endovascular therapy for acute intracranial large vessel occlusion due to atherothrombosis: Multicenter historical registry. J Neurointerv Surg. doi: 10.1136/jnis-2023-020670. 2023 年 8 月 30 日

Sahoo A, Abdalkader M, Yamagami H, Huo X, Sun D, Jia B, Weyland CS, Diana F, Kaliaev A, Klein P, Bui J, Kasab SA, de Havenon A, Zaidat OO, Zi W, Yang Q, Michel P, Siegler JE, Yaghi S, Hu W, Nguyen TN: Endovascular Therapy for Acute Stroke: New Evidence and Indications. J Neuroendovasc Ther. 17(11):232-242, 2023 年

Gon Y, Sakaguchi M, Yamagami H, Abe S, Hashimoto H, Ohara N, Takahashi D, Abe Y, Takahashi T, Kitano T, Okazaki S, Todo K, Sasaki T, Hattori S, Mochizuki H: Predictors of Survival in Patients With Ischemic Stroke and Active Cancer: A Prospective, Multicenter, Observational Study. J Am Heart Assoc. 12(15):e029618, 2023 年 8 月

Namitome S, Uchida K, Shindo S, Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Inoue M, Beppu M, Sakakibara F, Shirakawa M, Ueda M, Morimoto T: Number of Passes of Endovascular Therapy for Stroke With a Large Ischemic Core: Secondary Analysis of RESCUE-Japan LIMIT. Stroke. 54(8):1985-1992, 2023 年 8 月

Ozaki T, Yamagami H, Morimoto M, Imamura H, Hatano T, Oishi H, Haraguchi K, Yoshimura S, Satow T, Sugiu K, Iihara K, Matsumaru Y, Hayakawa M, Matsumoto Y, Sakai C, Miyamoto S, Kitagawa K, Kagimura T, Sakai N: Relation between duration of dual antiplatelet therapy and risk of ischemic stroke after stent-assisted treatment of cerebral aneurysm (DAPTS ACE-registry). J Neurointerv Surg. doi: 10.1136/jnis-2023-020495. 2023 年 7 月 11 日

Ikenouchi H, Koge J, Tanaka T, Yamaguchi E, Egashira S, Doijiri R, Yamazaki H, Sonoda K, Iwata T, Todo K, Ueno Y, Yamagami H, Ihara M, Toyoda K, Koga M: P-wave terminal force in lead V(1) and atrial fibrillation burden in cryptogenic stroke with implantable loop recorders. J Thromb Thrombolysis. 56(1):103-110, 2023 年 7 月

Fujiwara S, Sakai N, Imamura H, Ohara N, Tanaka K, Yamagami H, Matsumoto Y, Takeuchi M, Uchida K, Yoshimura S, Morimoto T: Impact of thrombocytopenia on hemorrhagic complications after endovascular therapy for acute large vessel occlusion: Sub-analysis of RESCUE-Japan registry 2. J Neurol Sci. 449:120659, 2023 年 6 月 15 日

Edwards C, Drumm B, Siegler JE, Schonewille WJ, Klein P, Huo X, Chen Y, Abdalkader M, Qureshi MM, Strbian D, Liu X, Hu W, Ji X, Li C, Fischer U, Nagel S, Puetz V, Michel P, Alemseged F, Sacco S, Yamagami H, Yaghi S, Strambo D, Kristoffersen ES, Sandset EC, Mikulik R, Tsivgoulis G, Masoud HE, de Sousa DA, Marto JP, Lobotesis K, Roi D, Berberich A, Demeestere J, Meinel TR, Rivera R, Poli S, Ton MD, Zhu Y, Li F, Sang H, Thomalla G, Parsons M, Campbell BCV, Zaidat OO, Chen HS, Field TS, Raymond J, Kaesmacher J, Nogueira RG, Jovin TG, Sun D, Liu R, Qureshi AI, Qiu Z, Miao Z, Banerjee S, Nguyen TN: Basilar artery occlusion management: Specialist perspectives from an international survey. J Neuroimaging. 33(3):422-433, 2023 年 5 月－6 月

Suda S, Katano T, Kitagawa K, Iguchi Y, Fujimoto S, Ono K, Kano O, Takekawa H, Koga M, Ihara M, Morimoto M, Yamagami H, Terasaki T, Yamaguchi K, Okubo S, Ueno Y, Ohara N, Kamiya Y, Takeuchi M, Yazawa Y, Terasawa Y, Doijiri R, Tsuboi Y, Sonoda K, Nomura K, Shimoyama T, Kutsuna A, Kimura K. Detection of Atrial Fibrillation Using Insertable Cardiac Monitors in Patients With Cryptogenic Stroke in Japan (the LOOK Study): Protocol for a Prospective Multicenter Observational Study. JMIR Res Protoc. 12:e39307, 2023 年 8 月 13 日

Sakurai R, Gon Y, Shimada Y, Okazaki S, Todo K, Sasaki T, Mochizuki H. Association between the controlling nutritional status score and outcomes in ischemic stroke patients with active cancer. J Clin Neurosci. 120:170-174, 2024 年 1 月 20 日

Seekircher L, Tschiderer L, Lind L, Safarova MS, Kavousi M, Ikram MA, Lonn E, Yusuf S, Grobbee DE, Kastelein JJP, Visseren FLJ, Walters M, Dawson J, Higgins P, Agewall S, Catapano A, de Groot E, Espeland MA, Klingenschmid G, Magliano D, Olsen MH, Preiss D, Sander D, Skilton M, Zozulińska-Ziółkiewicz DA, Grooteman MPC, Blankestijn PJ, Kitagawa K, Okazaki S, Manzi MV, Mancusi C, Izzo R, Desvarieux M, Rundek T, Gerstein HC, Bots ML, Sweeting MJ, Lorenz MW, Willeit P. Intima-media thickness at the near or far wall of the common carotid artery in cardiovascular risk assessment. Eur Heart J Open. 3(5):oead089. doi: 10.1093/ehjopen/oead089, 2023 年 9 月 20 日

Kihara K, Kajiyama Y, Kimura Y, Okazaki S, Esa N, Nobe R, Shimizu K, Ohno K, Motooka D, Matsumura T, Shimazu T, Nakamura S, Fujinaga Y, Mochizuki H. Adult-onset botulism in a Japanese woman with prolonged spore excretion. J Infect Chemother. 29(12):1172-1176, 2023 年 8 月 18 日

Kihara K, Kinoshita M, Sugimoto T, Okazaki S, Murata H, Beppu S, Shiraishi N, Sugiyama Y, Koda T, Okuno T, Mochizuki H. Humoral and cellular responses to SARS-CoV-2 vaccination in patients with autoantibody-mediated neuroimmunology. J Neurol Neurosurg Psychiatry. 94(6):495-497, 2023 年 6 月

Kitano T, Sakaguchi M, Okazaki S, Todo K, Mochizuki H. Real-time cerebral blood flow velocity during limb-shaking transient ischemic attacks. Acta Neurol Belg. 123(2):635-636, 2023 年 9 月

A-1
山上 宏：脳神経血管内治療.「今日の治療指針 2024」福井次矢、髙木 誠、小室一成　総編集、P929、医学書院、2024 年 1 月 1 日

A-3
高橋実佑、田中聡司、笠倉至言、渡邊和具、原田理史、宮崎愛理、上月美穂、川端将生、津室 悠、西村佑子、松島健祐、阿部友太朗、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、山本司郎、石田 永、山上 宏、三田英治：肝細胞癌の多発肺転移に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法を導入し、ギラン・バレー症候群を来した一例「肝臓」64: P243-252、2023 年

A-4
山上 宏、坂井信幸：救急業務における脳主幹動脈閉塞による脳卒中観察基準.「Prehospital Care」36（4）: P 32-36、東京法令出版、2023 年 8 月 20 日

山上 宏：脳神経内科二刀流とは「脳神経外科速報」2023 年増刊. P 182-186、メディカ出版、2023 年 10 月 1 日

B-1
Yamagami H.TRAINING THE THROMBECTOMY WORKFORCE: LESSONS FROM JAPAN. 15th World Stroke Congress. Toronto, 2023 年 10 月 10 日

Yamagami H. Endovascular therapy for ICAS-related large vessel occlusion. 15th World Stroke Congress. Toronto, 2023 年 10 月 11 日

Okazaki S. Non-atherosclerotic intracranial stenosis. 11th Japan Korea Joint Stroke Conference. Busan, Korea, 2023 年 11 月 16 日

B-2
Tanaka K, Yamagami H, Qureshi MM, Uchida K, Siegler JE, Nogueira RG, Yoshimura S, Sakai N, Strbian D, Nagel S, Demeestere J, Puetz V, Haussen DC, Abdalkader M, Olive-Gadea M, Mohammaden MH, Marto JP, Dusart A, Winzer S, Tomppo L, Caparros F, Henon H, Bellante F, Ramos JN, Ortega-Gutierrez S, Sheth SA, Nannoni S, Kaesmacher J, Vandewalle L, Martinez-Majander N, Salazar-Marioni S, Farooqui M, Virtanen P, Ventura R, Zaidi S, Castonguay AC, Puri AS, Farzin B, Masoud HE, Klein P, Strambo D, Möhlenbruch MA, Ringleb PA, Zaidat OO, Raymond J, Lemmens R, Ribo M, Michel P, Nguyen TN. Outcomes of endovascular therapy for late large vessel occlusion in patients with pre-stroke disability. International Stroke Conference 2024, Phoenix, 2023 年 2 月 1 日

B-3
山上 宏：冠動脈病変を合併する頚動脈狭窄病変に対する治療のストラテジー。第 10 回日本心血管脳卒中学会、東京、2023 年 4 月 15 日

山上 宏：再灌流療法の新たなエビデンス。第 64 回日本神経学会学術大会、千葉、2023 年 6 月 2 日

山上 宏.：Tandem occlusionによる急性期脳梗塞に対する再開通療法。第41回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 京都、2023年8月26日

山上 宏：範囲虚血病変を有する脳梗塞に対する再開通療法。66回日本脳循環代謝学会学術集会. 福岡、2023年11月10日

山上 宏：eperfusion Therapy for Late-window Stroke: Revisiting the Concept of Tissue Clock。39回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 京都、2023年11月25日

山上 宏：複数のリスクを有する脳卒中への対応　～ブレインハートチームの課題～。第11回日本心血管脳卒中学会学術集会、横浜、2024年3月6日

山上 宏：内科医が脳血管内治療に携わる理由。第49回日本脳卒中学会学術集会、横浜、2024年3月7日

山上 宏：急性期脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法。第88回日本循環器学会学術集会、神戸、2024年3月9日

岡﨑周平：脳合併症を伴うIEの診断と治療への提言。第10回日本心血管脳卒中学会、東京、2023年4月15日

岡﨑周平：脳梗塞再発予防の進歩：頭蓋内動脈狭窄とその病態に関連する因子。第64回日本神経学会学術大会、千葉、2023年5月31日

岡﨑周平：血栓回収をしない脳卒中内科医の矜持。第4回日本脳神経内科血管治療研究会2023、盛岡、2023年8月20日

岡﨑周平：Large Artery Atherosclerosis再考：TOAST分類の限界と新たな疾患概念の提案。第49回日本脳卒中学会学術集会、横浜、2024年3月9日

B-4
山本司郎、浅井克則、井筒伸之、森山拓也、小川拓也、木谷知樹、永野恵子、山上 宏、藤中俊之、坂井信幸：ステント型血管形成デバイスを用いたintracranial atherosclerotic diseaseの1例: 抗血小板剤の作用発現時間に関する考察。第4回日本脳神経内科血管治療研究会、盛岡市、2023年8月19日

小川拓也、矢倉一、平松佑一、瀬川翔太、藤本宏明、河野悌司、畠中めぐみ、宮井一郎：視床出血後に出現した協調運動障害に対して筋活動計による視覚的フィードバックが有効であった一例。第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会、福岡、2023年6月29日

小川拓也、平松佑一、瀬川翔太、藤本宏明、河野悌司、畠中めぐみ、矢倉一、宮井一郎：脳卒中患者の機能的自立度評価の改善効率の予測誤差に影響を与える因子の解析。第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会、福岡、2023 年 6 月 30 日

岡﨑周平：血栓回収療法時代の院内発症脳梗塞の特徴：OCR-STROKE レジストリ。第 49 回日本脳卒中学会学術集会、横浜、2024 年 3 月 7 日

B-6
羽白 亮、山本司郎、福島貴嗣、森山拓也、小川拓也、永野恵子、中村雅、 上田恭敬、山上宏：心臓腫瘤・完全房室ブロックを合併しステロイドが著効した IgG4 関連大動脈周囲炎疑診の一例。第 242 回　内科学会近畿地方会、2023 年 12 月 9 日

山野敏基、森山拓也、小川拓也、木村陽子、岡﨑周平、山本司郎、永野恵子、山上 宏：脳梗塞で発症した神経サルコイドーシスの一例。日本神経学会　第 127 回近畿地方会、2024 年 3 月 3 日

森山拓也、小川拓也、木村陽、山本司郎、永野恵子、山上 宏：Atrial cardiopathy の関与が考えられた脳主幹動脈閉塞の一例。第 49 回　日本脳卒中学会総会、2024 年 3 月 7 日

① 班研究・研究助成実

2023 年 5 月 31 日提出分

岡﨑 周平. 科研費 基盤研究 C 研究代表者 実施状況報告書（別紙添付）

2023 年 5 月提出分

岡﨑周平. 循環器病研究開発費 分担研究者 事業実績報告（別紙添付）

感染症内科

渡邊　大

当院は平成 9 年 4 月にエイズ治療の近畿地方ブロック拠点病院に選定され、診療・研究・情報発信・教育研修の 4 つの機能を求められています。毎年 100 例前後の新規 HIV 感染者が受診し、令和 5 年 12 月末で当院の HIV 感染者の累計患者数は 4152 名となりました。当科では、HIV 感染症に関する多様なニーズに対して、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・カウンセラー・情報担当官らでチーム医療を実践しています。感染症内科の診療内容は、HIV 感染症が全体の 9 割近くを占めています。

「主な診療と研究」

日和見感染症に対する治療や予防の進歩と抗 HIV 療法の確立によって、エイズによる死亡者数は減少しました。当科では、AIDS 指標疾患であるニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カンジダ症、クリプトコッカス髄膜炎、非結核性抗酸菌症など多彩な病原体による日和見感染症の診療を行っています。抗 HIV 療法では、ガイドラインに則した最新の治療を提供し、定期通院ができている患者の全員で治療が奏効しています。抗 HIV 療法は患者の予後を改善し、パートナーへの感染も予防することから、現在では全ての感染者に治療の開始が推奨されています。抗 HIV 療法は長期間にわたり正確な内服を継続しなければならないため、その身体的・精神的負担は現在も残されています。さらには、非 AIDS 関連悪性腫瘍の増加、糖尿病や心・腎合併症など生活習慣病への対応の必要性も増してきています。研究については臨床研究センター・エイズ先端医療研究部の紹介文をご参照ください。

「情報発信と教育研修」

HIV 感染症は、病原体も感染経路も予防方法も明らかであるにも関わらず蔓延しています。日本では、他の疾患と比べ 30～50 歳代の比較的若年者が主要な年齢層です。ブロック拠点病院である当院に HIV 感染者の診療が集中していますが、中核拠点病院を始めとした各拠点病院と連絡会議や研修会を行い、地域全体で診療できる体制を目指しています。研修のための各種マニュアルや冊子を作成し、無料で公開・配布しています。HIV/AIDS 先端医療開発センターのホームページからも、最新の情報発信を行っています（https://osaka.hosp.go.jp/department/khac/）。近年、HIV 感染者の高齢化に伴い、HIV 感染症以外の疾病の対策や長期療養の必要性が一層高まりました。地域の医療機関や訪問看護との連携も積極的に行っています。症例相談、針刺し等の職務感染防止への対応、生活療養支援など、さまざまな相談にすみやかに対応できる体制を目指しています。

【2023 年度 研究業績発表】

A-0

Kushida H, Watanabe D, Yagura H, Nakauchi T, Hirota K, Ueji T, Nishida Y, Uehira T, Yoshino M, Shirasaka T : Evaluation of plasma doravirine concentrations in patients with

HIV-1 undergoing Hemodialysis.「J Infect Chemother」29(5):558-561、2023 May; Epub 2023 年 2 月 9 日

Kagiura F, Matsuyama R, Watanabe D, Tsuchihashi Y, Kanou K, Takahashi T, Matsui Y, Kakehashi M, Sunagawa T, Shirasaka T : Trends in CD4+ Cell Counts, Viral Load, Treatment, Testing History, and Sociodemographic Characteristics of Newly Diagnosed HIV Patients in Osaka, Japan, From 2003 through 2017: A Descriptive Study.「J Epidemiol」33(5):256-261. 2023 年 5 月 5 日

Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, Minami R, Nishizawa M, Teshima T, Yoshida S, Ito T, Hayashida T, Koga M, Nagashima M, Sadamasu K, Kondo M, Kato S, Uno S, Taniguchi T, Igari H, Samukawa S, Nakajima H, Yoshino Y, Horiba M, Moro H, Watanabe T, Imahashi M, Yokomaku Y, Mori H, Fujii T, Takada K, Nakamura A, Nakamura H, Tateyama M, Matsushita S, Yoshimura K, Sugiura W, Matano T, Kikuchi T; Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network : Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network.「J Int AIDS Soc」26(5): e26086、2023 年 5 月

Kawado M, Mieno M, Hashimoto S, Amano K, Ogane M, Oka S, Okamoto G, Gatanaga H, Higasa S, Yatsuhashi H, Shirasaka T : HIV RNA and HCV RNA levels, and mortality: the Japan Cohort Study of HIV Patients Infected through Blood Products.「Open AIDS J」17: e187461362306230. Epub 2023 年 7 月 25 日

Ogbuagu O, Segal-Maurer S , Ratanasuwan W, Avihingsanon A, Brinson C, Workowski K, Antinori A, Yazdanpanah Y, Trottier B, Wang H, Margot N, Dvory-Sobol H, Rhee M, Baeten J, Molina J; GS-US-200-4625 investigators (DeJesus E, Richmond G, Berhe M, Ruane P, Sinclair G, Lichtenstein K, Ramgopal M, Wiznia A, Workowski K, Sanchez W, Brinson C, McGowan J,Creticos C, Berger D, Wheeler D, Hagins D, Crofoot G, Sims J, Osiyemi O, Hodge T, Zurawski C, Ogbuagu O, Segal-Maurer S, Ratanasuwan W, Avihingsanon A, Siripassorn K, Chetchotisakd P, Castagna A, Antinori A, Castelli F, Ronot-Bregigeon S, Molina J, Yazdanpanah Y, Trottier B, Brunetta J, Shirasaka T, Yokomaku Y, Koenig E, Mallolas J, Stellbrink H, Hung C, Rassool M) : Efficacy and safety of the novel capsid inhibitor lenacapavir to treat multidrug-resistant HIV: week 52 results of a phase 2/3 trial.「Lancet HIV」10(8): e497-e505. 2023 Aug. Epub 2023 年7月11日

Yotsumoto M, Kinai E, Watanabe H, Watanabe D, Shirasaka T : Latency to initiation of antiretroviral therapy in people living with HIV in Japan.「J Infect Chemother」2023 Oct. 29(10): 997-1000. Epub 2023 年 6 月 22 日

Watanabe D, Iida S, Hirota K, Ueji T, Matsumura T, Nishida Y, Uehira T, Katano H, Shirasaka T : Evaluation of human herpesvirus-8 viremia and antibody positivity in

patients with HIV infection with human herpesvirus-8-related diseases.「J Med Virol」95(12): e29324. 2023 年 11 月

Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, Imahashi M, Minami R, Koga M, Samukawa S, Watanabe D, Fujii T, Tateyama M, Nakamura H, Matsushita S, Yoshino Y, Endo T, Horiba M, Taniguchi T, Moro H, Igari H, Yoshida S, Teshima T, Nakajima H, Nishizawa M, Yokomaku Y, Iwatani Y, Hachiya A, Kato S, Hasegawa N, Yoshimura K, Sugiura W, Kikuchi T : Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study.「J Antimicrob Chemother」78(12) : 2859-2868、2023 年 12 月 1 日

Oka S, Holohan V, Shirasaka T, Choi J. Y, Kim Y, Chamya N, Patel P, Polli J, Ford S, Crauwels H, Garside L, D'Amico R, Latham C, Solingen-Ristea R, Baugh B : Asian participants' experience in phase 3/3b studies of long-acting cabotegravir and rilpivirine: Efficacy, safety, pharmacokinetic and virological outcomes through week 96.「HIV Med」25(3):381-390. 2024 Mar. Epub 2023 年 11 月 26 日

Nishiura H, Fujiwara S, Imamura A, Shirasaka T : HIV incidence before and during the COVID-19 pandemic in Japan.「Mathematical Biosciences and Engineering」21(4) : 4874-4885、2024 年 2 月

A-1
四本美保子、渡邊 大 : 抗 HIV 治療ガイドライン 2024 年 3 月、令和 5 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究」、2024 年 3 月 31 日

HIV 感染者のためのワクチンガイドライン ver.1、一般社団法人日本エイズ学会ワクチン接種勧奨のためのガイドライン作成委員会、2023 年 7 月

A-2
遠藤知之、西田恭治、上平朝子 : 手術前凝固「血友病・HIV/HCV 重複感染患者に対する外科診療ガイド」、令和 5 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究」班、2024 年 3 月

A-4
白阪琢磨 : 忍びよる性感染症の脅威とその対策 HIV 感染症/AIDS 現状と今後の課題「臨牀と研究」100(4):P.409-416、大道學舘出版部、2023 年 4 月 20 日

渡邊 大 : 日本における HIV 診療の現状と課題「保健医療科学」72(2) : P.90-97、国立保健医療科学院、2023 年 5 月

潟永博之、安達英輔、遠藤知之、渡邊 大：座談会 “Long-acting の注射薬の現状「HIV 感染症と AIDS の治療」14(1)：P.4-10、メディカルレビュー社、2023 年 11 月

白阪琢磨：ガイドライン改訂の Points “DHHS ガイドライン改訂のポイント”「HIV 感染症と AIDS の治療」14(1)：P.11-15、メディカルレビュー社、2023 年 11 月

満屋裕明、岡 慎一、白阪琢磨、南 留美、生島 嗣：座談会『HIV/AIDS 診療の過去・現在・未来－医学はどう戦ったか、教訓と残された課題』「別冊 医学のあゆみ HIV の発見から 40 年－医学はどう戦ったか、これからどう戦うのか」P.6-17、医歯薬出版株式会社、2024 年 1 月 15 日

白阪琢磨：HIV 感染症の治療の原則とその進展「別冊 医学のあゆみ HIV の発見から 40 年－医学はどう戦ったか、これからどう戦うのか」P.26-34、医歯薬出版株式会社、2024 年 1 月 15 日

A-5
白阪琢磨：エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究 令和 5 年度研究報告書」P.4-11、2024 年 3 月

白阪琢磨、山﨑厚司、辻 宏幸：高校生世代に向けた予防啓発の実践と教材開発の検討「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究 令和 5 年度研究報告書」P.50-52、2024 年 3 月

白阪琢磨：エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究 令和 3～5 年度総合研究報告書」P.4-12、2024 年 3 月

白阪琢磨、山﨑厚司、辻　宏幸：高校生世代に向けた予防啓発の実践と教材開発の検討「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究 令和 3～5 年度総合研究報告書」P.86-90、2024 年 3 月

上平朝子：大阪医療センターにおける HIV/HCV 重複感染凝固異常患者の検討。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究」令和 5 年度分担研究報告書、2024 年 3 月 31 日

渡邊 大：近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和 5 年度研究報告書、P.2-9、2024 年 3 月 31 日

B-2

Minami R, Watanabe D, Teruya K, Yokomaku Y, Endo T, Watanabe Y, A Marongiu, Tanikawa T, M Heinzkill, Shirasaka T, Oka S: Evaluation of efficacy, safety and tolerability of victegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in clinical practice: results of the second 12-month analysis of BICSTaR Japan. Asia Pacific AIDS and Co-Infections Conference (APACC) 2023. Sngapore, 2023 年 6 月 8 日

Tadashi Kikuchi, Mayumi Imahashi, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Lucky Ronald Runtuwene, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, on behalf of the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network: Trends in prevalence of pretreatment drug-resistance in Japan: a comparison between the pre- and post- second-generation INSTI era.　INTERNATIONAL WORKSHOP ON HIV DRUG RESISTANCE AND TREATMENT STRATEGIES. Cape Town, 2023 年 9 月 20 日

Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Brend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Dai Watanabe, Pro-Liang Lu, Alper Gündüz, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, Richard Haubrich, Stefan Scholten. Real-World Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. IDWeek 2023, Boston, 2023 年 10 月 13 日

Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Berend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Dai Watanabe, Po-Liang Lu, Alper Gündüz, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, MengJu Tsai, Richard Haubrich, Stefan Scholten: Real-World Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. Taiwan AIDS Society Annual Meeting, Taipei, 2024 年 2 月 24 日

B-3

渡邊 大：帯状疱疹ワクチン。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

西田恭治：薬害エイズの臨床現場を振り返る。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 4 日

渡邊 大：抗 HIV 作用注射剤と 2 剤療法の現状と課題。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 5 日

白阪琢磨：HIV 感染症：治療の手引き「What's New」。第 37 回日本エイズ学会学

術集会･総会、京都、2023 年 12 月 5 日

白阪琢磨：HIV 感染症：治療の手引き「ZERO transmission in Japan by 2030」。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 5 日

渡邊 大：3 剤療法の歴史と 2 剤療法の未来。第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会、横浜、2023 年 4 月 29 日

B-4
平賀紀行、白阪琢磨、原岡正志：エイズ予防指針の提唱する普及啓発・検査 相談体制下で認められている現状の課題と その課題克服のための方策についての検討。第 72 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2023 年 10 月 27 日

古賀道子、福田あかり、石坂 彩、田中貴大、保坂 隆、伊藤俊広、江口 晋、遠藤知之、柿沼章子、木内 英、後藤智巳、高橋俊二、武田飛呂城、照屋勝治、花井十五、藤井輝久、藤谷順子、三田英治、南 留美、茂呂 寛、横幕能行、渡邊 大、渡邉珠代、四柳 宏：非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者に合併する腫瘍に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

安達英輔、横幕能行、渡邊 大、潟永博之、岡 慎一、白阪琢磨、若田部るみ、Nadine Chamay、Kenneth Sutton、Denise Sutherland-Phillips、Rimagaile Urbaityte、Ronal D’Amico、Jean van Wyk：SOLAR 試験 12 か月の日本人参加者の結果：持効性カポテグラビル+リルピビリン(CAB+RPV LA)の BIC/TAF 経口療法に対する無作為化切り替え試験。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カポテグラビル・リルピビリンの特効性 注射製剤の血中濃度に関する検討 第 1 報。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

白阪琢磨、川戸美由紀、橋本修二、三重野牧子、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、岡 慎一：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報健康状態と生活状況の概要。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、潟永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邉珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岡﨑玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、 南 留美、松下修三、饒平名聖、 仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦 亙：2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者に

おける薬剤訂正 HIV-1 の動向。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

渡邊 大、Vasiliki Chounta、Cristina Mussini、Charles Cazanave、安達英輔、Beng Eu、Marta Montero Alonso、 Gordon Crofoot、Kenneth Sutton、Denise Sutherland-Phillips、Rimgaile Urbaityte、Alice Ehmann、Patricia de los Rios、Ronald D'Amico、William R. Spreen : 持効性カボテグラビル+リルピビリンの bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide に対する Patient-reported outcomes : SOLAR 後期第 III 相臨床試験 12 カ月の結果。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

Onyema Ogbuagu、Sorana Segal-Maure、Antonella Castagna、Edwin DeJesus、Anchalee Avihingsanon、 Christine Zurawski、Olayemi Osiyemi、Theo Hodge、Gordon E. Crofoot、白阪琢磨、Hui Wang、Hadas Dvory-Sobol、Martin S Rhee、Jared Baeten、Jean-Michel Molina : WEEK (W) 52 SUBGROUP EFFICACY OF LENACAPAVIR (LEN) IN HEAVILY TREATMENT-EXPERIENCED (THE) people with HIV (PWH)。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

四本美保子、大北全俊、柏崎正雄、貞升健志、高久陽介、日高庸晴、平賀紀行、白阪琢磨：エイズ予防指針改正に向けた検討。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 4 日

渡部健二、河盛 段、高橋 剛、佐田遼太、白阪琢磨：HIV 医学教育プログラムの開発と評価。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 4 日

神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、冨田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊 大：HIV 陽性者の受診行動とその心理的背景に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 4 日

西川歩美、安尾利彦、神野未佳、森田眞子、冨田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、白阪琢磨：HIV 陽性者の精神科受診およびカウンセリング利用に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 4 日

B-4
阪野文哉、川畑拓也、浜みなみ、渡邊 大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野 淳、森 治代、本村和嗣：クリニックにおける MSM 向け HIV･性感染症検査キャンペーン(2022 年度実績報告)。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 4 日

川戸美由紀、三重野牧子、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡　慎一、岡本　学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 2 報 日常生活の影響と主観的健康の検討。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 5 日

照屋勝治、横幕能行、渡邊 大、遠藤知之、南　留美、田口　直、Rebecca Harrison、Andrea Marongiu、白阪琢磨、岡 慎一：ビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド（B/F/TAF）の日本人 HIV 陽性者（PWH）に対する有効性と安全性：BICSTaR Japan 24 ヵ月解析結果。第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023 年 12 月 5 日

三重野牧子、川戸美由紀、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡　慎一、岡本　学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 3 報 こころの状態の関連要因の検討。第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023 年 12 月 5 日

中野理美、木原実香、田井 静、若崎真衣子、那須 紬、松村拓朗、渡邊 大、河合健、眞能正幸：Microbacterium oxydans によるカテーテル関連血流感染(CRBSI)の一症例。第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会、横浜、2024 年 2 月 9 日

B-5
白阪琢磨：新たな脅威に備えて新興感染症を振り返る。第 38 回日本病院歯科口腔外科協議会学術集会、大阪、2023 年 11 月 10 日

B-6
渡邊 大、西田恭治、矢田弘史、矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染者における rotational thromboelastometry を用いた凝固機能検査に関する検討。第 36 回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの特効性注射製剤の投与初期における血中濃度に関する調査。第 36 回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、渡邊 大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野 淳、森 治代、本村和嗣：クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン・2022 年度実績報告。第 36 回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

古賀道子、堤 武也、石坂 彩、水谷壮利、遠藤知之、田中聡司、渡邊 大、由雄祥代、三田英治、考藤達哉、藤谷順子、四柳 宏：HIV/HCV 共感染血友病患者の血中ケモカインの検討。第 31 回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会、横浜、2023 年 9 月 14 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：ABCG２の遺伝子多型がビクテグラビル投与症例の自覚症状およびトラフ濃度に及ぼす影響。第 31 回日本抗ウイルス療法学会学術

集会・総会、横浜、2023 年 9 月 15 日

B-7
渡邊 大：エビデンスをどう活かす？HIV感染症治療最前線。HIVインターネット講演会、WEB開催、2023年5月22日

渡邊 大：最新の臨床試験と実臨床のART。HIV感染症 UP to Date、WEB開催、2023年6月19日

上平朝子：最近のHIV診療における課題と展望。福岡HIV感染症治療研究会、福岡、2023年9月22日

渡邊 大：多剤耐性例に対する新たなる治療選択肢～国内におけるシュレンカ®の対象患者。Gilead Infectious Disease Symposium 2023～HIV治療、新時代の幕開け～、東京、2023年9月23日

渡邊 大：ドウベイト配合錠の位置づけ。E^2 HIV Expert Forum、大阪、2023年11月8日

渡邊 大：耐性バリアを考慮した治療選択～新規カプシド阻害剤シュンレンカも含めて。HIVセミナー in 京都滋賀、WEB開催、2023年12月21日

渡邊 大：長期治療成功を見据えた治療戦略とは～耐性獲得リスク・アドヒアランスを考える～。HIV/AIDS診療マネジメントセミナー、WEB開催、2024年3月21日

B-8
白阪琢磨：HIV/エイズの歴史と日本の HIV 医療体制。エイズ予防財団令和 5 年度 HIV/エイズ基礎研修会、大阪、2023 年 6 月 23 日

白阪琢磨：HIV 基礎知識、および診療方針（診断、治療）について。大阪大学医学部講義 臨床医学持論、大阪、2023 年 7 月 7 日

白阪琢磨：Covid-19 蔓延下の HIV 診療経験と似非 Science 下の医療の脅威等。感染予防対策アップトゥデート研修会長浜 2023、滋賀、2023 年 7 月 9 日

白阪琢磨:医学の進歩がどう感染症を克服してきたかーHIV 感染症を例にあげて。大阪大学医学部講義 医学序説、大阪、2023 年 7 月 21 日

白阪琢磨：HIV/エイズの基礎知識～医療と最新の治療について～。大阪府令和 5 年度 HIV/エイズ基礎研修、大阪、2023 年 7 月 25 日

松村拓朗：血液培養。令和 5 年度第 7 回研修医レクチャー、大阪、2023 年 8 月 9 日

白阪琢磨：HIV 陽性者の人権課題。大阪府人権総合講座（前期）人権問題科目、WEB 配信、2023 年 8 月 23 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の基礎知識と疫学。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 2 日

白阪琢磨：HIV 感染症の疫学。令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 6 日

廣田和之：症例で学ぶ抗菌薬の使い方。令和 5 年度第 11 回研修医レクチャー、大阪、2023 年 10 月 11 日

白阪琢磨：長期服薬者向けの最新の HIV 治療動向。北陸ブロック医療等相談会、福井、2023 年 10 月 14 日

上地隆史：HIV 感染症のアップデート。令和 5 年度近畿ブロックエイズ診療拠点病院ソーシャルワーク研修、大阪、2023 年 10 月 28 日

渡邊 大：HIV 診療の最新トピックス。大阪府医師会令和 5 年度 HIV 医療講習会、大阪、2023 年 11 月 1 日

白阪琢磨：現代的健康課題 2－性に関する指導～HIV/AIDS や性感染症等を通して～－。大阪府令和 5 年度新規採用養護教諭研修（第 10 回）、大阪、2023 年 11 月 2 日

白阪琢磨：症例検討：HIV 陽性者を診る。大阪大学医学部講義 臨床導入実習、大阪、2023 年 11 月 27 日

白阪琢磨：地域看護学支援論。大阪公立大学看護学部 2 年次講義、羽曳野、2023 年 12 月 8 日

白阪琢磨：HIV 感染症で期待される病診連携と新たな課題。令和 5 年度 HIV 地域医療連携研修会、大阪、2024 年 1 月 19 日

白阪琢磨：HIV/エイズの基礎知識～地域における HIV 陽性者支援のために～。令和 5 年度高齢者支援に関わる介護サービス事業者等向け HIV/エイズ研修会、大阪、2024 年 3 月 1 日

渡邊 大：併用療法は 2 剤、3 剤、4 剤？。第 21 回 HIV/AIDS 診療スキルアップセミナー～若手医師のための症例検討会、大阪、2024 年 3 月 9 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識：HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2023 年

度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2023 年 9 月 4 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景：薬害エイズについて。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2023 年 9 月 4 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の基礎知識と疫学。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 2 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 2 日

渡邊 大、矢倉裕輝：抗 HIV 療法の実際。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 2 日

上平朝子：日和見感染症診療－PCP を中心に－。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）/奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 3 日

西田恭治：血友病診療・凝固因子製剤の使い方。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 3 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診断。令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 4 日

上地隆史：日和見感染症。令和 5 年度/奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 4 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 5 日

上平朝子:HIV 感染症の基礎知識。令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 5 日

白阪琢磨：HIV 感染症の疫学。令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 6 日

渡邊 大:HIV 急性感染。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 11 日

渡邊 大:新規抗 HIV 薬。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 12 日

上平朝子：免疫再構築症候群（IRIS）。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3

週間コース)、大阪、2023 年 10 月 13 日

松村拓朗：入院症例の管理の実際。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース)、大阪、2023 年 10 月 18 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診療。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース)、大阪、2023 年 10 月 18 日

上地隆史:日和見感染症。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会(3 週間コース)、大阪、2023 年 10 月 19 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識：HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2023 年 11 月 6 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景：薬害エイズについて。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2023 年 11 月 6 日

廣田和之：インフルエンザの診断・治療・感染対策。2023 年度第 2 回定期講演会（感染管理)、大阪、2023 年 11 月 17 日

渡邊 大：HIV/AIDS 医療の現状と当院の役割。大阪医療センター令和 5 年度新採用職員研修計画、大阪、2023 年 4 月 5 日

渡邊 大：HIV 感染症とは。大阪医療センター令和 5 年度新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2023 年 4 月 12 日

渡邊 大：病理学各論IV HIV 感染症。大阪医療センター看護学校講義、2023 年 6 月 15 日

渡邊 大：病理学各論IV　7.自己免疫疾患 1) SLE 2) シェーグレン症候群 3) 膠原病 4) 敗血症。大阪医療センター看護学校講義、2023 年 9 月 26 日

B-9
白阪琢磨：厚生労働省主催「レッドリボントークライブ 2023、東京、2023 年 6 月 2 日

白阪琢磨:厚生労働省主催「世界エイズデーイベント RED RIBBON LIVE 2023 今起きている自分事～エイズと映画と Rock & Sports～、東京、2023 年 12 月 1 日

精神科

田宮裕子

当科は、コンサルテーション・リエゾン、専門外来などを中心に診療を行っている。コンサルテーション・リエゾンでは、一般診療科入院患者の不眠、気持ちの落ち込み、せん妄などの精神症状に対応している。高齢化に伴い、入院後せん妄を呈する患者は増えている。せん妄を発症することで合併症のリスクも高まり、臥床期間も長期化するため、認知機能や下肢の筋力も衰え ADL の低下を招くこととなる。特に高齢者では手術中の麻酔による睡眠覚醒リズムの障害が術後せん妄を惹起しやすいと考えられており、術後せん妄の予防は重要である。術前から精神科医が介入し、せん妄を予防し、早期回復につながるようにしている。救命センターに搬送されるケースの中には、自殺を目的とした自損も多く含まれており、自殺企図後の精神状態を適切に評価し再度危険な行為を行わないように援助することは精神科医の重要な役目となっている。日々多くの自殺企図患者に対応しており、自殺企図に至る要因を分析し再企図予防に有効な因子などについて調査研究を行い、積極的に学会で発表し論文化していきたいと考えている。

専門外来として、摂食障害の専門外来及び教育入院を開設しているが、今年度は地域からの紹介件数も増え、ニーズの高さを実感している。教育入院は、生理的に必要な栄養を摂取できるようになることを目的にした３週間のプログラムである。栄養士と協働で行う栄養療法に加え、認知の偏りを是正するための認知行動療法や適度な運動習慣を獲得するための運動療法などを組み合わせた多職種によるチーム医療を実践している。摂食障害は精神疾患の中でも特に死亡率が高く、慢性化することでさらに治療が奏功しにくくなるため、早期に治療介入し慢性化を防ぐ必要がある。当科で開設している教育入院にて早期に食行動異常を改善させることで、慢性化を防ぐための一助となっていると考える。

近年総合病院での精神科の役割は多岐にわたっており、コンサルテーション・リエゾン、専門外来をさらに充実させ、地域医療に貢献できるよう努めていきたいと考えている。

【2023 年度 研究発表業績】

A-6

サラ・バーギエラ（著）、ソフィー・スタンディング（絵）、田宮裕子、田宮聡（訳）：カモフラージュ自閉症女性の知られざる生活。明石書店、東京、2023 年 5 月 31 日

B-4

西原慎太郎、堤真也、田宮裕子：COVID-19 流行後における過量内服の増加について。第 36 回日本総合病院精神医学会総会、仙台、2023 年 11 月 17 日

B-5
田宮裕子：コミュニケーション。大阪医療センター緩和ケア研修会、大阪、2023年10月22日

田宮裕子：摂食障害の診療連携。大阪摂食障害カンファレンス、大阪、2024年3月23日

B-8
田宮裕子：摂食障害の理解と支援。救急認定ソーシャルワーカーオンラインセミナー2023、2023年9月17日

田宮裕子：精神医学総論。大阪医療センター附属看護学校講演、大阪、2023年9月29日

田宮裕子：統合失調症の症状・疫学・成因。大阪医療センター附属看護学校講演、大阪、2023年10月6日

田宮裕子：生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害。大阪医療センター附属看護学校講演、大阪、2023年10月13日

田宮裕子：睡眠薬の適正使用。医療安全定期講演会、大阪、2023年12月6日

田宮裕子：患者さんの意思決定支援に大切なこと、認知症ケアチーム研修会、大阪、2024年3月1日

堤 真也：気分障害。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2023年10月16日

堤 真也：神経症状障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、心身症。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2023年10月23日

西原慎太郎：器質性精神障害。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2023年10月30日

西原慎太郎：てんかん、神経発達障害群。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2023年11月6日

B-9
西原慎太郎：FM大阪、大阪、2023年6月1日

消化器内科

阪森亮太郎

消化器内科は、①肝疾患、②内視鏡治療、③消化器癌に対する薬物治療、④炎症性腸疾患、⑤胆膵疾患を中心に診療しており、論文発表や学会発表などもこれらの領域の Clinical Question を元にしたテーマを扱っています。

① 肝疾患：B 型肝炎や C 型肝炎などのウイルス性肝炎について、当科では長年蓄積された経験を踏まえ、積極的に新規薬剤を導入し、その成果を国内のみならず海外の学会・学術誌に情報発信しています。また国立病院機構ネットワーク共同研究の主任研究者として B 型肝炎に対する抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤）の治療成績や脂肪性肝疾患の臨床データをとりまとめています。肝癌に対する穿刺治療の困難症例にも対応し、若手医師の技術指導にも熱心に取り組んでいます。

② 内視鏡治療：早期胃癌、早期大腸癌、表在食道癌の内視鏡治療に力を入れ、診療レベルの向上を図ってきました。治療では ESD、Bipolar EMR などの技術を駆使し低侵襲でより安全な治療を探究し、診断では酢酸を用いた大腸腫瘍診断を開発し、国内外に発信しています。企業とも連携しハンズオンなど駆使し、若手医師の技術指導にも取り組んでいます。

③ 消化器癌に対する薬物治療：癌薬物療法は日々進歩しており、新規薬剤を積極的に取り入れています。また遺伝子解析を用いた個別化治療を目指し、エビデンスに基づいた診療を行うとともに、その成績の発信に取り組んでいます。

④ 炎症性腸疾患：潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対して生物学的製剤を含む新規薬剤の導入や臨床試験に参加し、適切な治療選択を追求し、その成果を報告しています。

⑤ 胆膵疾患：胆道癌や膵癌に対して薬物治療とともに内視鏡処置や超音波処置にも対応しており、実施件数は増加傾向です。また悪性疾患に限らず、緊急処置を積極的に受け入れています。

上記の他にも、臨床的に稀な症例や貴重な経験症例の報告をしています。特に症例報告は専修医/専攻医・研修医の初めての学会発表の場として、消化器内科をあげて指導に力を入れています。今後も、診療・教育とともに臨床研究の成果を国内外に発信してきたいと思います。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Yamamoto S, Ishida H, Mita E. Purple haze: a useful sign for detecting gastric intestinal metaplasia. *Gastrointest Endosc.*;97(5):987-989. 2023 年 5 月

Yamamoto S, Matsushima K, Sakakibara Y, Sakamori R, Mita E. Large recurrent lateral spreading tumor resected en bloc with soft bipolar snare. *Am J Gastroenterol.* ;118(7):1123. 2023 年 7 月

Yamamoto S, Parra-Blanco A. Underwater clipping in the colon. *Endoscopy*.;55(7):681-682. 2023 年 7 月

Yamamoto S, Kozuki M, Matsushima K, Sakakibara Y, Sakamori R, Mita E. Endoscopic mucosal resection with a dedicated bipolar soft snare for large flat colonic polyps. *Endoscopy*.;55(S 01):E1045-E1046. 2023 年 11 月

Kai M, Hikita H, Kazuki M, Tahata Y, Shinkai K, Doi A, Ohkawa K, Miyazaki M, Ishida H, Matsumoto K, Nozaki Y, Yakushijin T, Sakamori R, Kaneko A, Iio S, Nawa T, Kakita N, Morishita N, Hiramatsu N, Usui T, Imanaka K, Doi Y, Sakakibara M, Yoshida Y, Oze T, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T. Clinical factors associated with the therapeutic efficacy of atezolizumab plus bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter prospective observational study. *PLoS One*. 2;19(1):e0294590. 2024 年 1 月

Schöler J, Alavanja M, de Lange T, Yamamoto S, Hedenström P, Varkey J. Impact of AI-aided colonoscopy in clinical practice: a prospective randomised controlled trial. *BMJ Open Gastroenterol*. 30;11(1):e001247. 2024 年 1 月

Yoshioka T, Shigekawa M, Ikezawa K, Hirao M, Ishii S, Suda T, Kegasawa T, Matsumoto K, Iwahashi K, Murata J, Kaneko A, Nakazuru S, Yamamoto S, Matsumae T, Kozumi K, Sato Y, Okabe J, Sato K, Hikita H, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T. The relationship between observation interval and prognosis in pancreatic cancer concomitant with intraductal papillary mucinous neoplasia. *Pancreatology*. 24(1):73-77. 2024 年 2 月

Bando H, Tsukada Y, Kumagai S, Y. Miyashita Y, Taketomi A, Yuki S, Komatsu Y, Akiyoshi T, Shinozaki E, Kanemitsu Y, Takashima A, Shiozawa M, Shiomi A, Yamazaki K, Matsuhashi N, Hasegawa H, Kato T, Oki E, Fukui M, Wakabayashi M, Fuse N, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T. VOLTAGE-2: multicenter phase II study of nivolumab monotherapy in patients with mismatch repair-deficient resectable locally advanced rectal cancer. *ESMO Gastrointestinal Oncology*. Published online: 2024 年 2 月 2 日. Volume 3, 100031, 2024 年 3 月

A-3

高橋実佑、田中聡司、笠倉至言、渡邊和具、原田理史、宮崎愛理、上月美穂、川端将生、津室悠、西村佑子、松島健祐、阿部友太朗、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、山本司郎、石田永、山上宏、三田英治：肝細胞癌の多発肺転移に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法を導入し、ギラン・バレー症候群を来した一例「肝臓」64(5)：P243-252、2023 年

東浦玲意、榊原祐子、石田永、長谷川裕子、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、阪森亮太郎、森 清、三田英治：クローン病に合併した直腸癌術後 5 年で多発転移を認めた 1 例「日本消化器病学会雑誌」120(8)：P671-679、2023 年

A-4
阪森亮太郎：HBV による肝発癌機構の研究「日本臨牀」81 巻増刊号 7 別刷，ウイルス性肝炎学 P260-265、2023 年 7 月 31 日

B-2
Yamamoto S, Sakamori R, Mita E: En bloc resection of large colonic polyps with Bipolar snare; two video cases. Free Paper session, ESGE DAYS 2023, Dublin, Ireland, 2023 年 4 月 20 日

Yamamoto S, Sakamori R, Mita E: Aceto-electrical chromoendoscopy and Linked Color Imaging for determining treatment indication for colonic T1 suspected lesions, Poster, ESGE DAYS 2023, Dublin, Ireland, 2023 年 4 月 20 日

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Ido A, Kuroda H, Miki D, Kurosaki M, Hiasa Y, Sakamori R, Kawada N, Yamashita T, Suda G, Yatsuhashi H, Yoshiji H, Kato N, Takami T, Nakao K, Matsuura K, Asahina Y, Itoh Y, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Ueno Y, Akuta N, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T: Post-treatment liver function, but not baseline liver function, predicts survival in hepatitis C virus patients with decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral treatment. EASL2023, poster, Austria, 2023 年 6 月 22 日

Kato T, Kotani D, Takashima A, Satoh T, Masuishi T, Komatsu K, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H, Yamada S, Yoshino T: Clinical outcomes of encorafenib, binimetinib, and cetuximab for pretreated BRAF V600E-mutant metastatic colorectal cancer in the BEACON EAP follow-up study. ESMO Gastrointestinal Cancers Congress 2023, poster, Spain, EU, 2023 年 7 月 1 日

Sakamori R, Watanabe W, Nishimura Y, Miyazaki A, Harada S, Higashiura R, Kozuki M, Matsushima K, Abe Y, Tanaka S, Fukutake N, Hasegawa Y, Yamamoto S, Sakakibara Y, Mita E: Assessing risk of hepatic and non-hepatic events in fatty liver patients: a comparison of MAFLD and NAFLD criteria. JSH International Liver Conference 2023, 東京, 2023 年 9 月 8 日

Maesaka K, Hikita H, Kai M, Tahata Y, Shinkai K, Doi A, Ohkawa K, Miyazaki M, Ishida H, Matsumoto K, Nozaki Y, Yakushijin T, Sakamori R, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T: Clinical factors associated with the therapeutic efficacy of atezolizumab plus bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter prospective observational study. APASL oncology 2023，仙台, 2023 年 10 月 27 日

Yamamoto S, Matsushima K, Sakamori R: Bipolar endoscopic mucosal resection for large colonic polyps. JDDW International Poster Sessions IP-59_E 2，神戸、2023 年 11 月 3 日

Tahata Y, Hikita H, Nozaki Y, Ishida H, Hiramatsu N, Miyazaki M, Sakamori R, Morishita N, Ohkawa K, Kaneko A, Nakanishi F, Doi Y, Yakushijin T, Sakakibara M, Imanaka K, Kakita N, Doi A, Nishio A, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T: LONG-TERM RISK OF LIVERRELATED AND NON-LIVERRELATED DEATH AFTER DIRECTACTING ANTIVIRAL-MEDIATED SUSTAINED VIROLOGIC RESPONSE IN HEPATITIS C VIRUS PATIENTS. AASLD The Liver Meeting, Oral 54, Boston, MA, 2023 年 11 月 10 日-13 日

Phyo Z, Ko K, Sugiyama A, Akita T, Takahashi K, Tanaka S, Sakamori R, Tanaka J: EXPLORING HEPATITIS C VIRUS TRANSMISSION AMONG PEOPLE WHO INJECT DRUGS AND MEN WHO HAVE SEX WITH MEN: RARE AND LIMITED RISK GROUPS IN JAPAN. AASLD The Liver Meeting, Poster 1824, Boston, MA 2023 年 11 月 10 日-13 日

Tahata Y, Hikita H, Sakamori R, Takaki A, Kurosaki M, Matsuura K, Takikawa Y, Yatsuhashi H, Ueno Y, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T: LONG-TERM SURVIVAL AND HEPATOCELLULAR CARCINOMA DEVELOPMENT IN HEPATITIS C VIRUS PATIENTS WITH DECOMPENSATED CIRRHOSIS AFTER DIRECT-ACTING ANTIVIRAL TREATMENT: A LONG-TERM FOLLOW-UP STUDY OF JAPANESE PHASE 3 TRIAL COHORT. AASLD The Liver Meeting, Poster 1882, Boston, MA 2023 年 11 月 10 日-13 日

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Ido A, Kuroda H, Miki D, Kurosaki M, Hiasa Y, Sakamori R, Kawada N, Yamashita T, Suda G, Yatsuhashi H, Yoshiji H, Kato N, Takami T, Nakao K, Matsuura K, Asahina Y, Itoh Y, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Ueno Y, Akuta N, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T: POSTTREATMENT CHILD-PUGH CLASS STRATIFIES PATIENT SURVIVAL AFTER DIRECTACTING ANTIVIRAL TREATMENT IN HEPATITIS C VIRUS-ASSOCIATED DECOMPENSATED CIRRHOSIS. AASLD The Liver Meeting, Poster 1887, Boston, MA 2023 年 11 月 10 日-13 日

Maesaka K, Hikita H, Kai M, Tahata Y, Shinkai K, Doi A, Ohkawa K, Miyazaki M, Ishida H, Matsumoto K, Nozaki Y, Yakushijin T, Sakamori R, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T: CLINICAL FACTORS ASSOCIATED WITH THE THERAPEUTIC EFFICACY OF ATEZOLIZUMAB PLUS BEVACIZUMAB IN PATIENTS WITH UNRESECTABLE HEPATOCELLULAR CARCINOMA: A MULTICENTER PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY. AASLD The Liver Meeting, Poster 4019, Boston, MA 2023 年 11 月 10 日-13 日

Tsushima T, Hironaka S, Tsubosa T, Kato K, Nomura M, Hara H, Kitagawa Y, Koyanagi K, Kajiwara T, Takegawa N, Matsubara H, Baba H, Morita M, Masuzawa M, Hasegawa H, Kojima T, Machida R, Sasaki K, Takeuchi H, Kadowaki S: A randomized phase III study comparing 2-weekly docetaxel, cisplatin and 5-FU (bDCF) with cisplatin and 5-

FU (CF) in patients with metastatic or recurrent esophageal cancer: JCOG1314 (MIRACLE). 2024 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, poster, San Francisco, USA, 2024 年 1 月 18 日

Phyo Z, Ko K, Sugiyama A, Akita T, Takahashi K, Tanaka S, Sakamori R, Tanaka: Hepatitis C Virus (HCV) Transmission among Japan's Limited Risk Groups. APASL 2024 Kyoto, poster, Kyoto, 2024 年 3 月 28 日

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Miki D, Ido A, Enomoto N, Sakamori R, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T: Factors of aggravation of esophagogastric varix after DAA in HCV decompensated cirrhotic patients. APASL 2024 Kyoto, poster, Kyoto, 2024 年 3 月 28 日

B-3

田中聡司：SNS を利用したライフイベント経験者支援の取り組み。第 109 回日本消化器病学会総会、キャリア支援委員会特別企画 持続可能なキャリア支援の構築を目指して～働き方改革とともに考える～、CSP-3、長崎、2023 年 4 月 7 日

梅村武司、阪森亮太郎：第 59 回日本肝臓学会総会、ワークショップ 2、座長、奈良、2023 年 6 月 15 日

田中聡司、阿部友太朗、阪森亮太郎：脂肪肝症例における MAFLD と NAFLD の特徴とイベント発生リスク症例の囲い込みにおける意義の検討。第 59 回日本肝臓学会総会、ワークショップ 2、WS2-7、奈良、2023 年 6 月 15 日

田中聡司、八橋弘、阪森亮太郎：薬剤耐性が生じた B 型慢性肝炎に対するテノホビル・アラフェナミド単剤投与への切替におけるウイルス学的効果ならびに安全性についての検討。第 59 回日本肝臓学会総会、シンポジウム 3、SY3-3、奈良、2023 年 6 月 16 日

甲斐真知子、疋田隼人、前阪和城、田畑優貴、小玉尚宏、大川和良、宮崎昌典、石田 永、藥師神崇行、野崎泰俊、松本健吾、阪森亮太郎、金子晃、平松直樹、巽智秀、竹原徹郎：肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法の治療効果予測因子の検討。第 28 回日本肝がん分子標的治療研究会、プレナリーセッション 1、PL1-1、札幌、2023 年 6 月 23 日

前阪和城、疋田隼人、田畑優貴、小玉尚宏、大川和良、宮崎昌典、石田 永、藥師神崇行、野崎泰俊、松本健吾、阪森亮太郎、金子晃、平松直樹、巽智秀、竹原徹郎：切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ + ベバシズマブ併用療法後のコンバージョン治療。第 59 回日本肝癌研究会、パネルディスカッション 4 切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ + ベバシズマブ併用療法後のコンバージョン治療、大阪、2023 年 7 月 28 日

阿部友太朗、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、伊藤典明、川端将生、津室悠、西本奈穂、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：胆管に近接する肝細胞癌に対する焼灼療法における胆管損傷を予防するための画像支援の試み。第 59 回日本肝癌研究会、ワークショップ 7 肝腫瘍画像診断の新たな展開、大阪、2023 年 7 月 28 日

田中聡司、田中純子、阪森亮太郎：HCV 撲滅に向けた薬物使用者および MSM における HCV 感染の疫学的分子生物学的検討。第 27 回日本肝臓学会大会、シンポジウム 1、SY1-2、神戸、2023 年 11 月 2 日

阿部友太朗、田中聡司、阪森亮太郎：ラジオ波焼灼時の内視鏡的経鼻胆道ドレナージチューブからのペルフルブタン注入による胆管ナビゲーションの有用性。第 27 回日本肝臓学会大会、ワークショップ 16、WS16-14、神戸、2023 年 11 月 3 日

B-4
伊藤典明、榊原祐子、宮崎愛理、原田理史、高橋実佑、上月美穂、津室悠、川端将生、西本奈穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、飯島英樹、三田英治：当院における潰瘍性大腸炎に対するウステキヌマブの治療成績。第 109 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 大腸 IBD、MO-065、長崎、2023 年 4 月 6 日

上月美穂、榊原祐子、原田理史、宮崎愛理、伊藤典明、高橋実佑、津室 悠、川端将生、西本菜穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：当院における潰瘍性大腸炎に対するフィルゴチニブの治療成績。第 109 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 大腸 IBD 2、MO-072、長崎、2023 年 4 月 6 日

山本俊祐、原田理史、宮崎愛理、伊藤典明、上月美穂、高橋実佑、津室悠、川端将生、松島健祐、西本奈穂、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：Japan NBI Expert Team（JNET）2B 病変に対する酢酸併用 pit pattern 診断追加の有用性。第 109 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 大腸 1、MO-113、長崎、2023 年 4 月 6 日

天野孝広、良原丈夫、辻井悠里、朝倉亜希子、田代 拓、大竹由利子、谷 瑞季、山田拓哉、榊原祐子、大杉直人、村山洋子、日山智史、新﨑信一郎、林義人、竹原徹郎：高齢潰瘍性大腸炎患者における生物学的製剤の有効性と安全性。第 109 回日本消化器病学会総会、口演 大腸 IBD 5、O-273、長崎、2023 年 4 月 8 日

榊原祐子：一般演題 口演 3 上部：十二指腸 症例報告。第 105 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2023 年 5 月 25 日

山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：Acetoelectorical chromoendoscopy を用いた早期大腸癌の治療前診断。第 105 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2023 年 5 月

25 日

原田理史、榊原祐子、宮崎愛理、伊藤典明、上月美穂、高橋実佑、津室 悠、川端将生、西本奈穂、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：PPI 長期内服中の H.pylori 陰性患者に認めた過形成性ポリープ 4 症例の検討。第 105 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2023 年 5 月 27 日

阿部友太朗、宮﨑愛理、原田理史、上月美穂、高橋実佑、伊藤典明、川端将生、津室悠、西本奈穂、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：当院における肝硬変の成因別実態。第 59 回日本肝臓学会総会、奈良、2023 年 6 月 15 日

阿部友太朗、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、伊藤典明、高橋実佑、川端将生、津室悠、西本奈穂、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：切除不能肝細胞癌に対する二次薬物療法への移行可否に関与する因子の検討。第 28 回日本肝がん分子標的治療研究会、ポスターセッション 3、P3-1、札幌、2023 年 6 月 24 日

阪森亮太郎：一般演題ポスター 原発性肝癌（薬物療法）。第 27 回日本肝臓学会大会、神戸、2023 年 11 月 2 日

榊原祐子、良原丈夫、竹原徹郎：傾向スコアマッチングを用いた潰瘍性大腸炎寛解導入療法におけるタクロリムスと抗 TNF 製剤の有効性に関する検討。第 65 回日本消化器病学会大会、デジタルポスターセッション、消 P-144、神戸、2023 年 11 月 2 日

松島健祐、榊原祐子、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、西村佑子、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery を目的とした大腸ステント留置術の検討。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2023 年 11 月 10 日

渡辺和具、阿部友太朗、田中大地、原田理史、宮崎愛理、東浦玲意、上月美穂、西村佑子、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：ラジオ波焼灼術後の肝細胞癌多発再発に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法が著効した一例。第 29 回日本肝がん分子標的治療研究会、ポスターセッション 9、P9-1、埼玉、2024 年 1 月 27 日

前阪和城、疋田隼人、甲斐真知子、金子 晃、大川和良、野﨑泰俊、阪森亮太郎、垣田成庸、宮﨑昌典、新海数馬、田畑優貴、小玉尚宏、巽智 秀、竹原徹郎：切除不能肝細胞癌に対するデュルバルマブ + トレメリムマブ併用療法の初期治療成績。第 29 回日本肝がん分子標的治療研究会、ポスターセッション 6、P6-1、埼玉、2024 年 1 月 27 日

佐藤直也、原田理史、榊原祐子、田中大地、渡辺和具、宮崎愛理、上月美穂、東浦玲意、西村佑子、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：繰り返す発熱とともに著明な鼠径リンパ節の腫大を認め、治療に難渋したクローン病の一症例。第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会、一般演題、O11-5、神戸、2023 年 12 月 1 日

榊原祐子、山本俊祐、阪森亮太郎：当院におけるステロイド使用歴のある炎症性腸疾患患者での骨密度についての検討。第 20 回日本消化管学会総会学術集会、ポスター発表 18　大腸：IBD2 P18-4、沖縄、2024 年 2 月 9 日

山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎：大腸腫瘍に対する改良型バイポーラスネアを用いた内視鏡的粘膜切除の検討。第 20 回日本消化管学会総会学術集会、一般演題 19　大腸：内視鏡 2 O19-6、沖縄、2024 年 2 月 10 日

長谷川裕子、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治:高齢者 BRAF 変異陽性大腸癌に対する BRAF 阻害剤の治療成績。第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会、P50-7、名古屋、2024 年 2 月 23 日

廣中秀一、對馬隆浩、坪佐恭宏、加藤 健、門脇重憲、野村基雄、原 浩樹、北川雄光、小柳和夫、梶原猛史、武川直樹、松原久裕、馬場秀夫、森田勝、益澤 徹、長谷川裕子、小島隆嗣、町田龍之介、佐々木啓太、竹内裕也：A randomized phase III study comparing 2-weekly DCF with CF in patients with metastatic esophageal cancer: JCOG1314. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会、名古屋、2024 年 2 月 24 日

B-5
榊原祐子：炎症性消化管疾患に対する内視鏡診療の現状と課題。第 111 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2023 年 11 月 18 日

山本俊祐、松島健祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：大型大腸腫瘍に対する改良型バイポーラスネアを用いた内視鏡的粘膜切除。第 120 回日本消化器病学会近畿支部例会 シンポジウム、S-14、神戸、2024 年 1 月 27 日

B-6
東 俊樹、上月美穂、榊原祐子、田中大地、渡邉和具、宮崎愛理、原田理史、西村佑子、川端将生、津室悠、西本奈穂、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：長期における炎症を背景に認めた潰瘍性大腸炎関連大腸癌の 1 例。第 110 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2023 年 6 月 24 日

山下勇大、松島健祐、宮崎愛理、原田理史、伊藤典明、上月美穂、津室 悠、川端将生、西本奈穂、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊

原祐子、阪森亮太郎、三田英治：心拡大による食道圧排の影響が疑われたダビガトラン起因性食道粘膜障害の一例。第 110 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2023 年 6 月 24 日

山下勇大、松島健祐、田中大地、渡辺和具、原田理史、宮崎愛理、上月美穂、東浦玲意、西村佑子、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：内視鏡的整復術により保存的に軽快した上行結腸軸捻転の一例。第 119 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2023 年 9 月 30 日

宮崎愛理、山本俊祐、田中大地、渡辺和具、原田理史、上月美穂、東浦玲意、西村佑子、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：血便を契機に発見された肺癌大腸転移の一例。第 111 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、Young Endoscopist Session（YS）　下部消化管 2（大腸）YS-24、大阪、2023 年 11 月 18 日

西村佑子、田中聡司、渡辺和具、田中大地、原田理史、宮崎愛理、東浦玲意、上月美穂、松島健祐、阿部友太朗、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：感染性心内膜炎に続発した肝動脈瘤胆道穿破の一例。第 45 回日本肝臓学会西部会、若手セッション 22　症例・移植 OY22-1、京都、2023 年 12 月 7 日

阪森亮太郎：一般演題 19。第 45 回日本肝臓学会西部会、京都、2023 年 12 月 7 日

阿部友太朗、田中大地、西村佑子、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、東浦玲意、松島健祐、田中聡司、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：脂肪性肝疾患症例における MAFLD と NAFLD 基準を用いた肝疾患イベント・非肝疾患イベント発生リスクの検討。第 45 回日本肝臓学会西部会、一般演題 11 MAFLD O11-4、京都、2023 年 12 月 8 日

阪森亮太郎：一般演題 座長。日本内科学会第 243 回近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

藤平和秀、東浦玲意、長谷川裕子、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：CIC-DUX4 遺伝子再構成を伴った胃肉腫の 1 例。日本内科学会第 243 回近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

B-7
山本俊祐：第 484 回大阪胃研究会、司会、Web、2023 年 4 月 12 日

榊原祐子、万波智彦、桑井寿雄、豊川達也、江坂直樹、神田暁博、島田昌明、倉持みずき、藤井宏行、加賀谷尚史、渡邉典子、久保公利、佐々木善浩、原田直彦：小腸内視鏡におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有効性と安全性。

第 10 回内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会、東京、2023 年 5 月 27 日

阿部友太朗：肝硬変の現況～当院の検討から～。第 35 回 Osaka Liver Forum、大阪、2023 年 5 月 18 日

田中大地：画像検査だけでは確定診断が困難であった肝腫瘍の一例。第 52 回上町台リバーカンファレンス、大阪、2023 年 7 月 20 日

阿部友太朗：脂肪性肝疾患症例におけるイベント発生リスクの検討。第 36 回 Osaka Liver Forum、大阪、2023 年 11 月 30 日

阿部友太朗：胆管近接病変に対する肝穿刺局所療法の工夫。第 3 回 OLF Ablation Conference、大阪、2024 年 2 月 2 日

B-8
長谷川裕子：大腸がん薬物療法　エビデンスを活かした治療選択とは？。Lilly GI Oncologist Seminar、大阪＋Web、2023 年 4 月 12 日

榊原祐子：Special Situation Seminar 座長、Web、2023 年 4 月 21 日

阪森亮太郎：C 型肝炎診療の現況。大阪市中央区東医師会・法円坂地域連携フォーラム、大阪、2023 年 5 月 20 日

長谷川裕子：胃癌薬物療法　～OS 延長を目指した Best Sequence について考える～。Lilly GI Oncologist Seminar、大阪、2023 年 7 月 26 日

山本俊祐：大腸がん 診断と内視鏡治療。保険薬局 Oncology Seminar、大阪、2023 年 7 月 26 日

阪森亮太郎：肝炎ウイルスの理解と対策。大阪市中央区南医師会第 3 回学術講演会、大阪+Web、2023 年 9 月 30 日

榊原祐子：スキリージの使用経験、スキリージ適正使用講演会、大阪＋Web、2023 年 10 月 23 日

長谷川裕子：大腸がん切除不能大腸がん。保険薬局 Oncology Seminar、大阪、2023 年 10 月 25 日

山本俊祐：Digestive Medicine Related Web Seminar 座長、Web、2023 年 11 月 10 日

長谷川裕子：明日からの日常診療に役立つ大腸癌診療の Topics。関西若手腫瘍内科の会、大阪、2023 年 12 月 1 日

阪森亮太郎：かかりつけ医に必要な肝疾患の知識。かかりつけ医のための肝疾患オンラインセミナー、Web、2023 年 12 月 5 日

榊原祐子：UC 治療における最新の治療選択 ～抗 IL-23p19 抗体ミリキズマブへの期待～。IBD Forum ～女性の IBD を考える～、大阪、2024 年 1 月 24 日

長谷川裕子：胃癌、大腸癌化学療法 ～OS の延長を目指した治療戦略とは？。奈良県消化器癌講演会、奈良、2024 年 1 月 30 日

榊原祐子：若年者への潰瘍性大腸炎診療　～周産期への対応を含めて～。潰瘍性大腸炎 診療セミナー、大阪+Web、2024 年 2 月 15 日

榊原祐子：IBD 治療を語る会 座長、大阪+Web、2024 年 2 月 16 日

榊原祐子：潰瘍性大腸炎の治療を考える パネリスト。IBD Forum、大阪+Web、2024 年 2 月 22 日

三田英治：法円坂 GI カンファレンス 座長、大阪、2024 年 3 月 7 日

榊原祐子：当院での IBD 治療　～妊娠、出産も含めて～。法円坂 GI カンファレンス、大阪、2024 年 3 月 7 日

長谷川裕子：最新 Topics と FOLFIRI+RAM をうまく使うコツ。CRC Web Conference、大阪、2024 年 3 月 7 日

榊原祐子：第 31 回 Osaka Gut Forum (OGF) 座長、大阪、2024 年 3 月 22 日

榊原祐子：当院における UC 治療について。UC Conference Seminar in 関西、大阪、2024 年 3 月 23 日

B-9
三田英治：01 HCV 抗体が陽性と言われたら。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 2 月 5 日

阪森亮太郎：02 C 型肝炎に気づかないと。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 2 月 13 日

三田英治：03 C 型肝炎 Q&A。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 2 月 20 日

三田英治：04 肝臓の検査。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 2 月 27 日

三田英治：05 B 型肝炎は制御できる時代に。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 3 月 5 日

阪森亮太郎：06 脂肪肝に気をつけましょう。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 3 月 12 日

三田英治：07 ピロリ菌について教えてください。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 3 月 19 日

三田英治：08 女性でも増えている大腸癌。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 3 月 26 日

循環器内科

上田恭敬

エビデンスに基づいて治療方針が決まる現在において、よりよい治療方針を考えるためには臨床研究が非常に重要である。まずは後ろ向き研究によって日々の臨床経験の中から仮説を導きだし、前向き試験によって検証することになる。後ろ向き研究をおこなうためには、日常診療において研究標的とする疾患を多く治療して、解析に耐えるデータベースをもつことが不可欠である。まずは、急性心不全、急性冠症候群、院外心停止、心房細動についての良質なデータベースを作ることを目標としている。そのためには一貫した治療方針に従って日々の診療をおこない、十分な検査結果や診察結果、問診結果などをカルテに残すことが重要である。その一環として、心臓カテーテル検査においては、各種血管内画像診断（IVUS, OCT, 血管内視鏡, spectroscopy など）による病変評価を積極的におこない、新しく登場する診断技術は積極的に取り入れている。さらに、従来から存在する心エコーや冠動脈 CT、心筋シンチも積極的に活用することで、現時点で可能な最先端の診断・治療の実践を目指している。日々のカンファレンスにおける徹底的な病態・治療方針の検討、データベースとして利用可能なカルテの改良などに取り組んでいる。

現在、急性心不全および急性冠症候群について、病態解明、発症機序解明と新しい診断法・治療法・予防法の開発を第一の目標としている。急性心不全については心エコーを中心とした研究を、急性冠症候群については血管内視鏡および T-TAS による血液血栓形成能を中心とした研究を進めている。また、大動脈における動脈硬化が大動脈疾患や脳梗塞のみならず、腎障害や ASO さらには認知症の原因となる可能性が示唆されており、大動脈内視鏡を用いた研究も始めている。

さらに、より大きな臨床試験によるエビデンスの確立や、発見した内容の臨床応用を目指して、大阪大学循環器内科関連病院を中心とした共同研究や、日本循環器学会を中心とした活動への展開も進めている。具体的には、大阪大学循環器内科関連病院による HFpEF の共同研究や、日本循環器学会による STOP MI キャンペーンを進めている。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Okada M, Tanaka N, Tanaka K, Hirao Y, Inoue K：Catheter ablation of malignant atrial fibrillation as palliative therapy for end-stage heart failure：A case report.「Journal of Cardiology Case」28(3):95-99、2023 年 6 月 1 日

Masuda M, Inoue K, Tanaka N, Watanabe T, Makino N, Egami Y, Oka T, Minamiguchi H, Miyoshi M, Okada M, Kanda T, Mano T, Matsuda Y, Uematsu H, Sakio T, Kawasaki M, Sunaga A, Sotomi Y, Dohi T, Nakatani D, Hikoso S, Sakata Y：Osaka, Long-Term Impact of Additional Ablation After Pulmonary Vein Isolation: Results From EARNEST-PVI Trial. 「Journal of American Heart Association」12(17):e029651、2023 年 9 月 5 日

Yamane H, Ueda Y, Ikeoka K, Kosugi S, Abe H, Mishima T, Inoue K, Matsumura Y：The observation of below-the-knee artery by optical frequency domain image and angioscopy：a case series. 「European Heart Journal Case Reports」7(11):ytad518、Oxford University Press、2023 年 10 月 18 日

Ueda Y：Slow-Flow Phenomenon Caused by Distal Embolization Should Be Predicted and Prevented to Maximize the Efficacy of Coronary Intervention. 「Circulation Journal」doi: 10.1253/circj.CJ-23-0702、日本循環器学会、2023 年 10 月 20 日

Kusano K, Yamane T, Inoue K, Takegami M, Nakai M, Kanaoka K, Tonegawa-Kuji R, Miyamoto K, Iwasaki Y, Takatsuki S, Nakamura K, Iwanaga Y, Y Iwanaga, Shimizu W: J-AB registry investigators The Japanese Catheter Ablation Registry (J-AB). Annual report in 2021. 「Journal of Arrhythmia」39(6):853-859、2023 年 10 月 25 日

Kamase I, Zhong Y, Hara H, Inoue K, Yasaka M, Reddy VY, Holmes DRJ, Sakurai M, Gavaghan MB, Amorosi SL, McGovern AM, Priest V, Inoue S, Shibahara H：Akehurst RL Cost-effectiveness of Left Atrial Appendage Closure with Watchman for Non-Valvular Atrial Fibrillation Patients in Japan. 「Journal of Medical Economics」26(1):1357-1367、2023 年 10 月 31 日

Inoue K, Tanaka N, Watanabe T, Makino N, Egami Y, Oka T, Minamiguchi H, Miyoshi M, Okada M, Kanda T, Mano T, Matsuda Y, Uematsu H, Sakio T, Kawasaki M, Sunaga A, Sotomi Y, Dohi T, Nakatani D, Hikoso S, Sakata Y: Osaka, Pulsed-Field Ablation for Atrial Fibrillation - Achieving Excellence With a Simplified Technique.「Circulation Journal」87(12):1727-1729、2023 年 11 月 24 日

Onishi N, Kaitani K, Nakagawa Y, Kobori A, Inoue K, Kurotobi T, Morishima I, Matsui Y, Yamaji H, Nakazawa Y, Kusano K, Shimizu Y, Hanazawa K, Tamura T, Izumi C, Morimoto T, Ono K, Kimura T, Shizuta S: KPAF Investigators. Radiofrequency Catheter Ablation for Atrial Fibrillation Patients on Hemodialysis (From the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry) - Clinical Impact of Early Recurrence. 「Circulation Journal」doi:10.1253/circj.CJ-23-0671、2024 年 1 月 11 日

Takeuchi T, Kosugi S, Ueda Y, Ikeoka K, Yamane H, Takayasu K, Ohashi T, Fukushima T, Horiuchi k, Iehara T, Sakamoto M, Ukai K, Minami S, Mizumori Y, Muraoka N, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y: Impact of a Cancer History on Cardiovascular Events Among Patients with Myocardial Infarction Who Received Revascularization. 「Circulation Journal」88(2):207-214、日本循環器学会、2024 年 1 月 25 日

Ikeoka K, Nishi H, Ueda Y, Yamane H, Matsumura Y：Hybrid endovascular treatment for complicated aortic dissection concomitant with true lumen obliteration: a case report. 「European Heart Journal Case Reports」8(2):ytae068、Oxford University Press、2024 年 1 月 31 日

Matsunaga-Lee Y, Inoue K, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Makino N, Egami Y, Oka T, Minamiguchi H, Miyoshi M, Okada M, Kanda T, Matsuda Y, Kawasaki M, Kawanami S, Ukita K：Duration of atrial fibrillation persistence：implications for recurrence risk after catheter ablation and efficacy of additional substrate ablation. 「Heart Rhythm」S1547-5271(24)00107-3、2024 年 2 月 1

日

Sato T, Sotomi Y, Hikoso S, Kitamura T, Nakatani D, Okada K, Dohi T, Sunaga A, Kida H, Matsuoka Y, Tanaka N, Watanabe T, Makino N, Egami Y, Oka T, Minamiguchi H, Miyoshi M, Okada M, Kanda T, Matsuda Y, Kawasaki M, Masuda M, Inoue K, Sakata Y: OCVC-Arrhythmia Investigators. Uplift modeling to identify patients who require extensive catheter ablation procedures among patients with persistent atrial fibrillation. 「Scientific Report」14(1):2634、2024 年 2 月 1 日

A-2
山根治野 : CASE20　SFA ステントフラクチャーによる ALI！ストラット越しの追ステントを拡張させるためには？「EVT 合併症対策 ―40 の実症例から学ぶ治療戦略」104-108、中外医学社 、2023 年 6 月 20 日

A-3
大崎慧、家原卓史、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、鵜飼一穂、玉城勇樹、竹内太郎、越智公一、小畑理沙子、大里和樹、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：前立腺癌のホルモン治療中に発症したアビラテロン関連心不全の 1 例.「Osaka Heart Club」47(3):6-10、公益社団法人大阪ハートクラブ、2023 年 8 月 18 日

岩﨑雄樹、野田崇赤、尾昌治、井上耕一、草野研吾、中栗田隆志、里見和浩、篠原徹二、清水渉、鈴木信也、副島京子、外海洋平、夛田 浩、永井利幸、平野照之、藤野紀之、山根禎一：不整脈治療. 「2024 年 JCS/JHRS ガイドラインフォーカスアップデート版」https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2024/03/JCS2024_Iwasaki.pdf、日本循環器学会、2024 年 3 月 8 日

A-4
上田恭敬 : 冠動脈造影検査「日本臨床増刊号 臨床冠動脈疾患学」81(8):225-229、日本臨床社、2023 年 8 月 31 日

上田恭敬 : 血管内視鏡「日本臨床 増刊号 臨床冠動脈疾患」学 81(8):230-235、日本臨床社、2023 年 8 月 31 日

福島貴嗣 : Case Sharing 左冠尖洞起源の心室期外収縮に対するカテーテルアブレーション後に発症した急性左主幹部閉塞の 1 例「TCROSSNEWS」https://www.tcross.co.jp/special/case/5826 、2023 年 9 月 22 日

上田恭敬 : CCS 患者に対する PCI の適応を再考する（Over view）「Coronary Intervention」19:8-9 、株式会社メディアルファ 、2023 年 9 月 29 日

上田恭敬 : 内視鏡医学のすべて 循環器「週刊医学のあゆみ」286（14）:1236-1259、医歯薬出版株式会社 、2023 年 9 月 30 日

大橋拓也、井上耕一：不整脈～内科医として知っておきたい基本と実際～「Medical Practice」40（10）:1587-1592、文光堂、2023 年 10 月 1 日

尾崎立尚、井上耕一：右心房の形態によってカーブ形状を使い分けた右室中隔留置症例の報告「The Society for Protective Coatings」Case Report vol.2、Japan Lifeline、2023 年 10 月 31 日

井上耕一：特集 一般医家のための DOAC 時代の心房細動診療 どんな患者さんをアブレーションに紹介する？「medicina」60（13）:2329-2333、医学書院、2023 年 12 月 10 日

井上耕一：心房細動「今日の治療指針 2024」386-389、医学書院、2024 年 1 月 1 日

B-1

Inoue K：Catheter ablation for AF in very Elderly Patients. Asia Pacific Heart Rhythm Society　2023，Hong Kong，2023 年 9 月 1 日

B-3

中村雅之、安部晴彦、柳 善樹、近藤信吾、上田恭敬：運動負荷心エコー図検査では診断がつかず、運動負荷右心カテーテル検査で左室拡張機能障害の診断を得た一例。日本心エコー図学会第 34 回学術集会、岐阜市、2023 年 4 月 22 日

山根治野：末梢動脈疾患における逆行性内視鏡の有用性について。TCIF2023、WEB、2023 年 5 月 27 日

山根治野：末梢動脈疾患患者における逆行性内視鏡の有用性について。TCIF2023、WEB、2023 年 5 月 27 日

井上耕一：最多引用論文賞の紹介と表彰　Characterizing clinical outcomes and factors associated with conduction gaps in VISITAG SURPOINT-guided catheter ablation for atrial fibrillation. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 6 日

上田恭敬：CCS 患者の診断と管理の重要性。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

Murasato Y, Nakashima H, Sugino H, Arikawa M, Mori F, Ueda Y, Matsumura K, Abe M, Koizumi T, Shimomura M, Fujimoto K, Saeki T, Imagawa S, Takenaka T, Morita Y, Kashima K, Ono Y, Fukase A, Imai T：Imaging-guided Left Main Percutaneous Coronary Intervention in Japanese National Hospital Organization (LM-JANHO). 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

上田恭敬：循環器集中治療のための CCU の特徴。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

池岡邦泰、リージュン、シシボーメディ 飯田修 山根治野 上田恭敬、南都伸介：迫り来るコ

ロナ禍の中、米国末梢血管インターベンション留学で学んだもの。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

山根治野 : 血管内イメージングで広がる BK の世界 PART1。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 6 日

山根治野 : 血管内イメージングで広がる BK の世界 PART2。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会、福岡市、2023 年 8 月 6 日

井上耕一 :「出張カテーテルアブレーションを施行する際に求められる要件」に関するステートメント～解説～。カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023、福岡市、2023 年 11 月 18 日

井上耕一 : 高周波アブレーションカテーテル操作ハンズオンセミナー。カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023、福岡市、2023 年 11 月 18 日

井上耕一 : 心房細動治療におけるアブレーションの位置づけ。第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 10 日

井上耕一 : Let's Start the first PFA in Japan!: STEPs towards safety implementation of the VARIPULSE. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 10 日

B-4
柳善樹、安部晴彦、中村雅之、中川紗希、赤嶺和昭、近藤信吾、上田恭敬、西 宏之、河合 健、眞能正幸 : 左室心尖部への転移をきたした粘液線維肉腫の一例。日本心エコー図学会第 34 回学術集会、岐阜市、2023 年 4 月 21 日

近藤信吾、中村雅之、安部晴彦、柳 善樹 鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、堀内恒平、山根治野、大橋拓也、髙安幸太郎、小杉隼平、尾﨑立尚 三嶋剛 池岡邦泰、井上耕一、松村泰志、上田恭敬 : 植え込み型除細動器植え込み後慢性期に右室心筋にリード穿孔を認めた一例。日本心エコー図学会第 34 回学術集会、岐阜市、2023 年 4 月 22 日

Yamane H: Impact of Laser Atherectomy to Obtain Luminal Area in Endovascular Treatment of Femoropopliteal Artery In-Stent Restenosis. JET2023、東京都、2023 年 5 月 26 日

Ukai K, Yamane H, Ikeoka K, Ueda Y: A case of ablating the in-stent superficial femoral artery by various methods using an excimer laser atherectomy catheter. JET2023、東京都、2023 年 5 月 26 日

大里和樹 : 経皮的リード抜去時にアクセスルートを血流維持型汎用血管内視鏡にて観察しえた一例。TCIF2023、WEB、2023 年 5 月 27 日

山根治野 : 治療 1 か月後の膝下動脈を血管内視鏡で観察した一例。TCIF2023、WEB、2023 年 5 月 27 日

越智公一:PTRA を施行した若年性 FMD に対し血管内視鏡を施行した一例。TCIF2023、WEB、2023 年 5 月 27 日

Matsunaga Y, Egami Y, Ukita K, Kawamura K, Nakamura H, Yasumoto K, Tsuda M, Okamoto N, Yano M, Tanaka N, Masuda M Watanabe T, Inoue K, Sunaga A, Hikoso S, Sakata Y, Nishino M, Tanouchi J: WHAT IS THE OPTIMAL CUTOFFDURATION OF ATRIAL FIBRILLATION HISTORY OR PERSISTENCE TOCHANGE THE TREATMENTSTRATEGY FOR LONGSTANDING ATRIALFIBRILLATION? 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 6 日

Sunaga A, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Inoue K, Matsuoka Y, Kida H, Sotomi Y, Dohi T, Okada K, Nakatani D, Hikoso S, Sakata Y: PREDICTORS OF LEFT VENTRICULAR REVERSE REMODELING AFTER CATHETER ABLATION FOR ATRIAL FIBRILLATION: SUBANALYSIS OF A RANDOMIZEDCONTROLLED EARNEST-PVI TRIAL. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 6 日

Okada M, Tanaka N, Tanaka K, Hirao Y, Harada S, Miyazaki N, Iwasa K, Simon T, Kayser T, Inoue K, Sakata Y, Aonumra K: IMPACT OF CHRONOTROPIC INCOMPETENCE ON CARDIOVASCULAR PROGNOSIS IN JAPANESE PATIENTSWITH LEFT VENTRICULARSYSTOLIC DYSFUNCTION: INSIGHTS FROM THEHINODE STUDY. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 6 日

Oka T, Koyama Y, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Inoue K, Sunaga A, Hikoso S, Sakata Y: EXTENSIVE ABLATION STRATEGY FOR PERSISTENT ATRIAL FIBRILLATION REDUCES LEFT ATRIAL FUNCTION BUT IMPROVE SUCCESS RATE: POST-HOC SUB-ANALYSIS OF THE EARNEST-PVI TRIAL. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 6 日

Okada M, Tanaka N, Tanaka K, Hiroa Y, Harada S, Miyazaki N, Iwasa K, Egami Y, Masuda M, Watanabe T, Makino N, Sunaga A, Hikoso S, Inoue K, Sakata Y: THE IMPACT OF BLEEDING EVENTS ON MORTALITY IN PATIENTS WITH ATRIAL FIBRILLATION AND SILENT LEFT ATRIAL THROMBI: INSIGHT FROM THE LAT TRIAL. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 6 日

Mishima T, Ohashi T, Ozaki T, Ikeoka K, Inoue K: FEASIBILITY AND SAFETY OFTHE SUTURE-MEDIATED CLOSURE DEVICE AFTER PERCUTANEOUSINTERVENTION FROM THE FEMORAL VEIN. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 7 日

Ozaki T, Inoue K, Mishima T, Ohashi T, Ukai K, Iehara T, Fukushima T, Nakamura M, Yamane H, Ikeoka K, Abe H, Ueda Y: ACCURACY AND CLINICAL USEFULNESS OF LEFT ATRIAL 3D IMAGE CONSTRUCTION MODULE USING INTRACARDIAC ECHOCARDIOGRAPHY. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 8 日

福島貴嗣、池岡邦泰、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之 山根治野、尾﨑立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : 左冠尖洞起源の心室期外収縮に対するカテーテルアブレ

ーション後に発症した急性左主幹部閉塞の一例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

Ikeoka K, Mizumori Y, Muraoka N, Minami S, Ukai K, Iehara T, Horiuchi K, Fukushima T, Nakamura M, Yamane H, Ohashi T, Takayasu K, Ozaki T, Kosugi S, Mishima T, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: Protected Percutaneous Coronary Intervention Associated with Stent Under expansion of Left Main Trunk. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

南慎哉、家原卓史、小杉隼平、水森祐樹、村岡直哉、鵜飼一穂、堀内恒平、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、髙安幸太郎、尾﨑立尚 池岡邦泰、上田恭敬：弾性線維性仮性黄色腫患者におけるバルーンカテーテルおよびマイクロカテーテル不通過の右冠動脈高度石灰化病変の PCI。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

水森祐樹、池岡邦泰、中村雅之、村岡直哉、南 慎哉、鵜飼一穂、家原卓史、堀内恒平、福島貴嗣、山根治野、髙安幸太郎、尾﨑立尚 小杉隼平、上田恭敬：生体弁患者に Impella を挿入し重度の大動脈弁閉鎖不全症となった一例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

Muraoka N, Ikeoka K, Kosugi S, Ozaki T, Yamane H, Nakamura M, Fukushima T, Horiuchi K, Iehara T, Ukai K, Minami S, Mizumori Y, Ueda Y: Effective Endovascular Therapy with Directional Laser Atherectomy for Acute Limb Ischemia Complicated by Massive Pulmonary Embolism. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Ikeoka K, Iehara T, Kosugi S, Muraoka N, Mizumori Y, Muraoka N, Minami S, Ukai K, Fukushima T, Horiuchi K, Yamane H, Ohashi T, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: The Change of Lipid Core Burden after Angioplasty is a Novel Predictor of Periprocedural Myocardial Infarction. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Iehara T, Ikeoka K, Kosugi S, Muraoka N, Mizumori Y, Ukai K, Fukushima T, Horiuchi K, Yamane H, Ohashi T, Takayasu K, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: The Lipid Core Plaque Area Index (LAI) Obtained by Near Infrared Spectroscopy Serves as a Predictor of Periprocedural Myocardial Infarction. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Yamane H, Muraoka N, Mizumori Y, Minami S, Sakamoto M, Ukai K, Iehara T, Horiuchi K, Fukushima T, Nakamura M, Ohashi T, Takayasu K, Ozaki T, Kosugi S, Mishima T, Ikeoka K, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: Impact of Laser Atherectomy to Obtain Luminal Area in Endovascular Treatment of Femoropopliteal Artery In-Stent Restenosis. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Ukai K, Yamane H, Mizumori Y, Muraoka N, Minami S, Sakamoto M, Iehara T, Horiuchi K, Fukushima

T, Nakamura M, Ohashi T, Takayasu K, Ozaki T, Kosugi S, Mishima T, Ikeoka K, Abe H, Inoue K, Matsumura Y: Isolated below-the-knee stenosis/ occlusion is a risk factor of wound healing in patients with chronic limb-threatening ischemia. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Ukai K, Yamane H, Ikeoka K, Ueda Y, Takeuchi T: Isolated below -the knee stenosis /occlusion is a risk factor of wound healing in patients with chronic limb-threatening ischemia. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

大﨑 慧、志波幹夫、林 隆治、辻 洋美、佐多 弘、神田貴史、森 直己、市堀泰裕、南口 仁、牧野信彦、平山篤志、 樋口義治：腫瘍による右心房占拠により右心不全を引き起こした悪性リンパ腫の検討。第 71 回日本心臓病学会学術集会、東京都、2023 年 9 月 9 日

越智公一、家原卓史、池岡邦泰、安部晴彦 鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井隆、三嶋 剛、井上耕一、上田恭敬、 松村泰志：留置後 3 ヶ月で石灰化結節によるステント内再狭窄を認めた弾性線維性仮性黄色腫の 1 例。第 71 回日本心臓病学会学術集会、東京都、2023 年 9 月 10 日

小畑理沙子、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、家原卓史 鵜飼一穂、大橋拓也 山根治野、尾﨑立尚、向井隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：HFpEF の早期診断と SGLT2 阻害薬導入に運動負荷心エコー検査が有用であった一例。第 71 回日本心臓病学会学術集会、東京都、2023 年 9 月 10 日

Kobata R, Yamane H, Abe H, Nakamura M, Mukai T, Mishima T, Ikeoka K, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: A Case of Breast Cancer Patients with Drug Induced Chronic Lymphocytic Myocarditis Successfully Treated with Steroid Therapy. 第 27 回日本心不全学会学術集会、横浜市、2023 年 10 月 7 日

尾﨑立尚：CARTOSOUND FAM® を用いた左房 3 次元画像の正確性と臨床的有用性の検討。カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023、福岡市、2023 年 11 月 19 日

竹内太郎、向井 隆、上田恭敬、池岡邦泰、山根治野、鵜飼一穂、家原卓史、 福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、尾﨑立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、松村泰志：急性心筋梗塞患者における、Door to balloon time と退院後の心血管イベントの関連。第 36 回日本冠疾患学会学術集会、金沢市、2023 年 11 月 25 日

福島貴嗣、安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：Factors Influencing Hospital Length of Stay Comparison Between Heart Failure with Preserved and Reduced Ejection Fraction. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 8 日

大橋拓也、井上耕一、家原卓史、池岡邦泰、安部晴彦、鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、上田恭敬、松村泰志：Pulmonary Vein Isolation Using QDOT

MICRO: A Comparison of vHPSD and Ablation Index-Guided Approaches. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 8 日

Matsunaga Y, Egami Y, Ukita K, Kawamura A, Yasumoto K, Tsuda. M, Okamoto N, Yano M, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Inoue K, Hikoso S, Asunaga A, Nakatani D, Sotomi Y, Sakata Y, Nishino M：Who should be Followed Long after Ablation for Persistent Atrial Fibrillation without Recurrence at 1year? Insight from the EARNEST-PVI Trial. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 8 日

三嶋 剛、井上耕一、尾崎立尚、大橋拓也、大﨑 慧、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大里和樹、越智公一、鵜飼一穂、坂本麻衣、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、向井 隆、池岡邦泰、安部晴彦、上田恭敬：縫合糸媒介閉鎖装置を使用した止血患者における大腿静脈狭窄症。 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 8 日

Kanda T, Minamiguchi H, Iida O, Higuchi Y, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Inoue K, Hikoso S, Sunaga A, Nakatani D, Sotomi Y, Sakata Y: Optimized Catheter Ablation Strategy for Treating Atrial Fibrillation with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction; Insights from the EARNEST-PVI Trial. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 9 日

Okumura K, Inoue K, Goya M, Yamazaki M, Horikoshi Y, Nogami A: Predictors of Outcome of Visiting Surprint-Guided Ablation for Atrial Fibrillation: The Japanese MIYABI Registry Sub analysis. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 9 日

Okada M, Tanaka N, Tanaka K, Hirao Y, Egami Y, Masuda M, Inoue K, Hikoso S, Sunaga A, Nakatani D, Sotomi Y, Sakata Y: The Impact of Thromboembolism and Major Bleeding on Subsequent Deaths in Patients with Atrial Fibrillation and Silent Left Atrial Thrombi. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 9 日

大橋拓也、井上耕一、家原卓史、池岡邦泰、安部晴彦、鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、上田恭敬、松村泰志：Suboptimal Acute Outcome of Right Pulmonary Vein Isolation Utilizing Very High-Power Short-Duration Ablation: Possible Attribution of Epicardial Conduction. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 10 日

岡 崇史、田中宣暁、増田正晴、渡部徹也、井上耕一、彦惣俊吾、須永晃弘、中谷大作、外海洋平、坂田泰史：Extensive Ablation Strategy for Persistent Atrial Fibrillation Impaired Left Atrial Function but Did not Increase Cardiovascular Events. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 10 日

中野智明、岡崇史、岡山慶太、田中宣暁、増田正晴、渡部徹也、井上耕一、須永晃弘、中谷大作、外海洋平、彦惣俊、坂田泰史 : Should We Discontinue the Anticoagulation Therapy after Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation in LowCHADS2Score Patients? 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 10 日

B-5

安部晴彦 ：循環器スペシャリストが教える診療エッセンス。第 12 回阪神心血管セミナー、WEB、2023 年 10 月 20 日

井上耕一 : Conference ＆ Lecture On Arrhythmia (CLOA)。第 39 回岐阜不整脈研究会、WEB、2023 年 11 月 2 日

井上耕一 : 近畿支部地方会スポンサードセミナー5。第 3 回日本不整脈心電学会近畿支部地方会、大阪市、2023 年 11 月 3 日

井上耕一 : ANAFIE 研究からみた高齢心房細動患者における最適な抗凝固療法。第３回日本不整脈心電学会近畿支部地方会、大阪市、2023 年 11 月 3 日

井上耕一 : Durable PVI 時代の心房細動アブレーションの治療戦略。第 65 回神奈川不整脈研究会、横浜市、2024 年 2 月 4 日

井上耕一 : Durable PVI 時代の心房細動アブレーションの治療戦略。第 62 回湯島不整脈カンファレンス、東京都、2024 年 2 月 10 日

安部晴彦 : 循環器内科医と心不全緩和ケア：現状と今後の課題。第 47 回なにわ緩和ケアカンファレンス、WEB、2024 年 2 月 15 日

池岡邦泰 ：AGENT　薬剤コーティングバルーンによるステントレス PCI.。Integrated Imaging Center Live 2024、WEB、2024 年 3 月 16 日

B-6

大橋拓也、井上耕一、安部晴彦、池岡邦泰、三嶋 剛、尾﨑立尚、小杉隼平、髙安幸太郎、山根治野、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、家原卓史、 鵜飼一穂、南 慎哉、水森祐樹、村岡直哉、上田恭敬：当院における QDOT MICRO カテーテルと QMODE+を用いた心房細動アブレーションの初期使用経験。第 135 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 7 月 15 日

越智公一、南口 仁、松村未紀子、寺尾颯一郎、富永拓矢、中渡瀬智、筒井悠美、安永元樹、濱中佑馬、志波幹夫、神田貴史、森直己市、堀 泰裕、樋口義治：徐脈性心房細動に対しリードレスペースメーカ植込み術（Aveir)を施行した 1 症例。第 135 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 7 月 15 日

家原卓史 : 血栓病変の ACS に対する long inflation balloon angioplasty が有効であった 2 症例。ACS Conference in 関西、WEB、2023 年 7 月 20 日

山根治野 : 血管内視鏡と他血管内イメージングを併用し膝下動脈の病変性状を考察した一例。第 18 回近畿血管内視鏡研究会、WEB、2023 年 7 月 22 日

玉城勇樹、池岡邦泰、 家原卓史、 竹内太郎、 小畑理沙子、 越智公一、 大里和樹、 大﨑

慧、上田恭敬、松村泰志：ELCA 後の slow flow、残存血栓に対して long inflation balloon angioplasty が有効であった plaque erosion の心筋梗塞の一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、玉城勇樹、竹内太郎、越智公一、小畑理沙子、大里和樹、大﨑 慧、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、大橋拓也、 尾﨑立尚、向井 隆、 三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：原発性鎖骨下静脈血栓症(Paget-Schroetter 症候群) に経カテーテル的血 栓吸引術を行った一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

越智公一、池岡邦泰、家原卓史、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：左主幹部の多量血栓を伴う心筋梗塞に対して ELCA が有効であった 1 例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

竹内太郎、池岡邦泰、玉城勇樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、向井隆、小畑理沙子、越智公一、大﨑 慧、大里和樹、大橋拓也 尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：院外心停止に対し Impella を導入した症例 に関するケースシリーズ研究。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

池岡邦泰、家原卓史、竹内太郎、玉城勇樹、越智公一、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、福島貴嗣、大橋拓也、山根治野、中村雅之、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：脂質コアプラークを有する左主幹部病変を合 併した急性心筋梗塞に対し補助循環サポート下に DCA による治療を行なった 1 例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

福島貴嗣、池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、越智公一、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：経皮的大動脈弁拡張術を施行したことで Rot ablator を用いた経皮的冠動脈形成術 を安定した血行動態下に完遂できた一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

山根治野、玉城勇樹、竹内太郎、小畑理沙子、越智公一、大里和樹、大﨑 慧、鵜飼一穂 家原卓史、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、尾﨑立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、 安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：膝下動脈の再狭窄の形態を Optical Frequency Domain Imaging にて観察 した一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

大﨑 慧、池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大里和樹、越智公一 、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬 松村泰志一：左室流出路起源心室期外収縮に対するカ テーテルアブレーション直後に発症した急性左主幹部閉塞の一例。第 41 回日本心血管インターベンション治

療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

大里和樹、家原卓志、池岡邦泰氏、玉城勇樹、竹内太郎、小畑梨沙子、越智紘一、大崎 慧、鵜飼一穂、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、山根治野 尾﨑立尚 向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : 近赤外線分光法を用いて脂質コアプラークを評価した慢性冠症候群における糖尿病と周術期心筋梗塞の関連の検討。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

池岡邦泰、山根治野、竹内太郎、玉城勇樹、越智公一、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣 大橋拓也、中村雅之、尾﨑立尚、向井隆、 三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : Primary Tibial Artery Approach における血管内治療の安全性について。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

池岡邦泰、西宏之、山根治野、上田恭敬、松村泰志 : 解剖学的に複雑な解離性大動脈瘤に対し 2 期的血管内治療を施行し血行再建に成功した一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

鵜飼一穂、中村雅之、安部晴彦、柳　善樹、家原卓史、福島貴嗣、山根治野、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : 経皮的左心耳閉鎖術前の経食道心エコー図検査にて左心耳内に加速血流を認めた一例。日本超音波医学会第 50 回関西地方会学術集会、神戸市、2023 年 10 月 21 日

大﨑 慧 : S-ICD でショックゾーンにかかる AF tachycardia の対応に苦慮した 1 例。第３回日本不整脈心電学会近畿支部地方会、大阪市、2023 年 11 月 3 日

尾﨑立尚 : 右房内リエントリー性頻拍様の activation map を呈した左房起源心房頻拍の 1 例。第３回日本不整脈心電学会近畿支部地方会、大阪市、2023 年 11 月 3 日

竹内太郎、家原卓史、安部晴彦、中村雅之 向井 隆 三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : 心破裂をきたした、COVID-19 合併たこつぼ型心筋症の 1 例。第 242 回日本内科学会近畿地方会、豊中市、2023 年 12 月 9 日

羽白 亮、山本司郎、福島貴嗣、森山拓也、小川拓也、永野恵子、中村雅之、上田恭敬、山上宏 : 心臓腫瘤・完全房室ブロックを合併しステロイドが著効した IgG4 関連大動脈周囲炎疑診の一例。第 242 回日本内科学会近畿地方会、豊中市、2023 年 12 月 9 日

竹内太郎、向井 隆、上田恭敬、池岡邦泰、山根治野、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之 尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一 松村泰志 : AMI にて ECPR・PCI を施行された院外心停止患者での来院から PCPS 駆動までの時間と予後の関連。第 136 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 12 月 16 日

余田拓海、大崎 慧、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : 静脈へエタ

ノールアブレーションが奏効した僧帽弁輪旋回型心房頻拍の一例。第 136 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 12 月 16 日

竹内太郎、向井 隆、上田恭敬、池岡邦泰、山根治野、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之 尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、松村泰志 : 血行再建を施行された夏型・冬型心筋梗塞の背景因子・予後比較。第 136 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 12 月 16 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、玉城勇樹、竹内太郎、越智公一、小畑理沙子、大里和樹、大崎 慧、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志、高度蛇行 : 屈曲の右冠動脈末梢慢性閉塞性病変に対して、ダブルガイドエクステンション法が有効であった 1 例。SPIRIT Video Live Demonstration 2024、大阪市、2024 年 2 月 17 日

B-8
上田恭敬 : CCS における積極的脂質低下療法の意義： JCS GL フォーカスアップデート版 安定冠動脈疾患の診断と治療。第 3 回桜橋ハートカンファレンス、大阪市、2023 年 4 月 6 日

上田恭敬 : 冠動脈疾患における最適な脂質低下療法とは？ PCSK 9 Premium Forum 2023、WEB、2023 年 4 月 18 日

池岡邦泰：心臓カテーテル検査・経皮的冠動脈形成術について。国立病院機構大阪医療センター第 13 回 WEB 公開講座、WEB、2023 年 4 月 19 日

山根治野：俺の Iliac。 BD EVT Online Conference、WEB、2023 年 4 月 26 日

山根治野 : BK 石灰化病変のバルーンスタックのベイルアウトに苦慮した一例。Medtronic web Conference for Outstanding Generation、WEB、2023 年 4 月 27 日

池岡邦泰:TAVI 術前 PCI への BAV の活用､エキスパートに聞く｡循環器診療セミナー､WEB、2023 年 5 月 10 日

井上耕一 : ”プライマリケア医に知ってほしい” 心房細動治療の新しい考え方。地域で心房細動治療を考える会、WEB、2023 年 5 月 17 日

井上耕一 : ”プライマリーケア医に知ってほしい”心房細動治療の新しい考え方。エリキュース発売１０周年記念講演会 in 徳島、徳島市、2023 年 5 月 22 日。

中村雅之：合併症を考えた降圧薬選択。Hypertension update conference、WEB、2023 年 5 月 30 日

井上耕一：To Do or Not to Do; 高齢者に対する心房細動アブレーション。第 58 回法円坂地域医療フォーラム、大阪市、2023 年 6 月 3 日

安部晴彦 : 心不全診療のパラダイムシフト ～運動負荷心エコーによる早期診断への新たな試み～。第 58 回法円坂地域医療フォーラム、大阪市、2023 年 6 月 3 日

中村雅之 : 運動負荷で HFpEF の診断に迫る。Innovations Heart failure & Diabetes 、WEB、2023 年 6 月 13 日

井上耕一 : 超高齢化社会における心房細動アブレーション後遠隔期の抗凝固療法。AF 患者さんの Lifelong Support、WEB、2023 年 6 月 14 日

上田恭敬 : 狭心症と心筋梗塞についてくわしく説明します。国立病院機構大阪医療センター第 14 回 WEB 公開講座、WEB、2023 年 6 月 20 日

山根治野 : 皮膚科とコラボしてキズを治す。第 3 回よろず相談説明会、WEB、2023 年 7 月 18 日

池岡邦泰 : 冠動脈疾患二次予防に向けた生活習慣病へのアプローチ。大阪市中央区南医師会第 2 回学術講演会、WEB、2023 年 7 月 22 日

中村雅之 : 不全早期診断への挑戦 ～急性心不全になる前に～。第 45 回循環器病談話会、大阪市、2023 年 7 月 29 日

向井隆 : Mitra Clip の現状と治療の実際 ～当院での初期症例報告～。第 45 回循環器病談話会、大阪市、2023 年 7 月 29 日

大橋拓也 : 当院での現在の心房細動アブレーションと周術期マネージメント。第 45 回循環器病談話会、大阪市、2023 年 7 月 29 日

井上耕一 : カテーテル治療と抗血栓療法。Thrombosis Expert Meeting for Cardiologist、東京都、2023 年 7 月 30 日

Yamane H : A directional ablating method for femoropopliteal in-stent occlusion using an excimer laser atherectomy catheter. SFA 治療の最前線～若きインターベンショナリストの挑戦、福岡市、2023 年 8 月 4 日

井上耕一 : Non-PV foci. Interventional EP Curriculum AF Module、東京都、2023 年 8 月 20 日

井上耕一 : プライマリケア医に知ってほしい心房細動治療の新しい考え方。第 25 回北大阪病診連携懇話会、守口市、2023 年 8 月 26 日

井上耕一 : QdotMicro の使用経験。第 3 回近畿 R QDOT Clinical Lecture、吹田市、2023 年 9 月 16 日

家原卓史 : 血栓病変の ACS に対する long inflation balloon angioplasty が有効であった 2 症例。

Ryusei Conference2023、WEB、2023 年 9 月 21 日

井上耕一：AF 患者のマネージメント。AF Learning Course 2023、大阪市、2023 年 9 月 30 日

井上耕一：AF 治療における Clinical evidence。AF Learning Course 2023、大阪市、2023 年 9 月 30 日

向井 隆 : redo PTSMA を要した症例の検討。大阪城循環器ネットワークセミナー、WEB、2023 年 9 月 28 日

井上耕一：Qdot Workflow. 第 4 回近畿 R QDOT Clinical Lecture、京都市、2023 年 10 月 7 日

中村雅之：運動負荷心エコー図検査では診断がつかず運動負荷右心カテーテル検査で左室拡張機能障害の診断を得た一例。echo boys 負荷イイ話、WEB、2023 年 10 月 24 日

山根治野：OFDI から見える、BK 再狭窄の世界。EVT Case Conference、WEB、2023 年 10 月 26 日

大橋拓也：心臓リハビリテーションについて。国立病院機構大阪医療センター 第 15 回 WEB 公開講座、WEB、2023 年 10 月 26 日

竹内太郎：症例検討。大阪心臓読影講演会、WEB、2023 年 10 月 27 日

上田恭敬：慢性冠症候群におけるリスク管理の重要性について。Cardiovascular Conference in JCHO 大阪病院、大阪市、2023 年 11 月 16 日

井上耕一：高齢者心房細動治療の問題点と対応策：安全で効果的な道を探る。エリキュース錠発売 10 周年記念講演会、WEB、2023 年 11 月 29 日

山根治野：舐めたらあかん！石灰化 BK バルーンスタックを生じた一例。Heated Discussion: My Success or Failure Procedure、WEB、2023 年 12 月 5 日

山根治野 : balloon stuck case in calcified BTK lesion. Heated Discussion Success or Failure Procedure、WEB、2023 年 12 月 5 日

山根治野 : 造影検査を行うためにユリスで腎機能を守る。高尿酸血症ラウンドミーティング、大阪市、2023 年 12 月 7 日

尾崎立尚：SSPC を用いた心室リード留置の経験。国立病院機構大阪医療センターWEB 公開講座、WEB、2023 年 12 月 8 日

山根治野：No Turbo、No ISO-EVT.　EVT×Turbo Webinar、WEB、2023 年 12 月 19 日

井上耕一：Sound Merge の Tips ＆Tricks。AF Learning Course 2023、大阪市、2023 年 12 月 23 日

井上耕一：SURPOINT の活用。AF Learning Course 2023、大阪市、2023 年 12 月 23 日

山根治野：OFDI から見えてくる BK の Optimal balloon angioplasty。行列のできる EVT 相談所、WEB、2024 年 1 月 17 日

安部晴彦:前心不全とは？心不全を早期診断し治療介入する。第 46 回循環器病談話会、WEB、2024 年 1 月 27 日

尾崎立尚：ONH 不整脈診療の最新 Topics。第 46 回循環器病談話会、WEB、2024 年 1 月 27 日

家原卓史：石炭化も恐くない！当院の最新 PCI 治療。第 46 回循環器病談話会、WEB、2024 年 1 月 27 日

井上耕一：”プライマリケア医に知ってほしい”心房細動治療の新しい考え方。脳梗塞予防の新たな世界 in 高知、WEB、2024 年 1 月 29 日

向井隆　：大動脈弁のカテーテル治療（TAVI）。第 60 回法円坂地域医療フォーラム、WEB、2024 年 2 月 3 日

安部晴彦：「心臓の音に異常がありますね」って言われたことはありませんか？もしかしたら弁膜症かもしれません！でも安心してください。最新の治療法があります。第 72 回おおさか健康セミナー、大阪市、2024 年 2 月 10 日

安部晴彦：循環器内科医と心不全緩和ケア現状と今後の課題。なにわ緩和ケアカンファレンス、WEB、2024 年 2 月 15 日

井上耕一：”プライマリケア医に知ってほしい”心房細動治療の新しい考え方。心房細動週間に向けて検脈の重症性を再考する会、WEB、2024 年 3 月 6 日

小児科

岡田陽子

小児科では国立国際医療研究センターの共同研究機関として
「ヒト免疫不全ウイルス陽性女性と出生した児の長期予後に関する多施設コホート研究」　「HIV 感染妊婦から出生した児の実態調査」に参加しております。
感染症内科のご協力の下、HIV 感染母体からの出生児の母児感染予防を行っており、出生児の予後などを報告しています。その他の活動としては、内分泌、小児発達、小児循環という専門分野の臨床に関わる報告を行っています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-1
岡田陽子：心室中隔欠損 「周産期マニュアル　胎児疾患の診断から管理まで」佐村修、宗田聡　編集、P284-289、南山堂、東京、2023 年 6 月 1 日

A-3
山本景子、虎谷昌保、前川加奈美、岡田陽子：左腹膜垂炎と診断された左右両側の下腹部痛の小児例「小児科」65（3）：p286-290、金原出版、2024 年 3 月

B-6
前川加奈美、西村洋、水木薫、宮本哲雄：多様な身体症状をきたし心理カウンセリングの中で家族内葛藤が明らかになった心因性難聴の 12 歳女児例。第 21 回日本小児心身医学会関西地方会、大阪、2024 年 1 月 21 日

B-9
前川加奈美：神経発達症、FM 大阪『LOVE FLAP』、大阪、2023 年 7 月 20 日

外科
（肝胆膵外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・乳腺外科）

平尾素宏

外科は、外科治療およびがん治療における標準治療の確立と先進医療の開発をめざして、以下の方針に基づいて臨床および研究を行ってきました。

1) 専門性および先進性の高い医療
2) 医療の質の向上とチーム医療の推進
3) 標準治療の確立と臨床共同研究の推進
4) 各種がんに対する集学的治療の推進
5) 外科手術の改善と向上
6) 周術期管理の改善と向上

毎年、多くの学会発表、論文発表、司会および講演を行っています。若手医師も積極的に研究発表と論文発表を行ってくれました。熱心に若手指導を行ってくれたスタッフ各位の努力のおかげです。今後もより一層皆で精進していこうと思います。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Shitara K, Hirao M, Iwasa S, Oshima T, Komatsu Y, Kawazoe A, Sato Y, Hamakawa T, Yonemori K, Machida N, Yuki S, Suzuki T, Okumura S, Takase T, Semba T, Zimmermann B, Teng A, Yamaguchi K : Phase I Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF): Results from the Advanced Gastric Cancer Expansion Cohort . 「Clin Cancer Res」 29(8):P 1460-1467、2023 年 4 月 14 日

Aoyama S, Motoori M, Yamasaki M, Shiraishi O, Miyata H, Hirao M, Takeno A, Sugimura K, Makino T,Tanaka K, Hamakawa T, Yamashita K, Kimura Y,Fujitani K, Yasuda T, Yano M, Dok Y : The impact of weight loss during neoadjuvant chemotherapy on postoperative infectious complications and prognosis in patients with esophageal cancer: exploratory analysis of OGSG1003 .「Esophagus」20(2):P 225 - 233、2023 年 4 月 20 日

Kubo Y, Makino T, Yamasaki M, Tanaka K, Yamashita K, Shiraishi O, Sugimura K, Miyata H, Motoori M, Fujitani K, Takeno A, Hirao M, Kimura Y, Satoh T, Yano M, Eguchi H, Yasuda T, Doki Y : Three-Course Neoadjuvant Chemotherapy Associated with Unfavorable Survival of Non-responders to the First Two Courses for Locally Advanced Esophageal Cancer .「Ann Surg Oncol」 30(9):P 5899-5907、2023 年 9 月

Katada C, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Furue Y, Yamamoto K, Doyama H, Koike T, Tamaoki M, Kawata N, Hirao M, Kawahara Y, Ogata T, Katagiri A, Yamanouchi T,Kiyokawa H, Kawakubo H, Konno M, Yokoyama A, Ohashi S, Kondo Y,Kishimoto Y, Kano K, Mure K, Hayashi R, Ishikawa H, Yokoyama A, Muto M : Alcohol consumption, multiple Lugol-voiding lesions, and field cancerization .「Den Open」4(1):P e261、2023 年 7 月 3 日

Yamasaki M, Miyata H, Yamashita K, Hamakawa T, Tanaka K, Sugimura K, Makino T, Takeno A, Shiraishi O, Motoori M, Kimura Y, Hirao M, Fujitani K, Yasuda T, YanoM, Eguchi H, Doki Y : Chemoradiotherapy versus triplet chemotherapy as initial therapy for T4b esophageal cancer: survival results from a multicenter randomized Phase 2 trial .「British Journal of Cancer」129(1):P 54-60、2023 年 7 月

Hirao M, Katada C, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Furue Y, Yamamoto K, Doyama H, Koike T, Tamaoki M, Kawata N, Kawahara Y, Katagiri A, Ogata T, Yamanouchi T, Kiyokawa H, Kawakubo H, Konno M Ishikawa H, Yokoyama A, Muto M : Metachronous primary gastric cancer after endoscopic resection in patients with esophageal squamous cell carcinoma .「Gastric Cancer」26(6):P 988-1001、2023 年 11 月

Hori K, Katada C, Okada H, Katagiri A, Matsuo Y, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Shimizu Y, Furue Y, Nakanishi H, Koike T, Takizawa K, Hirao M, Yoshii T, Yamanouchi T, Kawakubo H, Kobayashi N, Shimoda T, Ochiai A, Ishikawa H,Yokoyama A, Muto M : Association between continuous cessation or reduction of drinking alcohol and improvement of multiple dysplastic lesions in patients with esophageal squamous cell carcinoma after endoscopic resection. 「Esophagus」21(1):P 31-40、2024 年 1 月

Kanai M, Kawaguchi T, Kotaka M, Manaka D, Hasegawa J, Takagane A, Munemoto Y, Kato T, Eto T, Touyama T, Matsui T, Shinozaki K, Matsumoto S, Mizushima T, Mori M, Sakamoto J, Ohtsu A, Yoshino T, Saji S, Matsuda F : Poor association between dihydropyrimidine dehydrogenase (DPYD) genotype and fluoropyrimidine-inducedtoxicity in an Asian population .「Cancer Medicine」12(7):P 7808-7814、2023 年 4 月

Kato T, Kudo T, Kagawa Y, Murata K, Ota H, Noura S, Hasegawa J,Tamagawa H, Ohta K, Ikenaga M, Miyazaki S, Komori T, Uemura M, Nishimura J, Hata T, Matsuda C, Satoh T, Mizushima T, Ohno Y, Yamamoto H, Doki Y, Eguchi H : Phase II dose titration study of regorafenib in progressive unresectable metastatic colorectal cancer . 「Sci.rep」13(1):P 2331、2023 年 2 月 9 日

Nakamura Y, Yamashita R,Okamoto W, Komatsu Y, Yuki S, Ueno M, Kato K, Taniguchi H, Kagawa Y, Denda T,Hara H, Esaki T, Moriwaki T, Sunakawa Y, Oki E, Nagashima F, Nishina T, Satoh T, Kawakami H, Yamaguchi K, Ohtsubo K, Kato T, Horita Y, Tsuji A, Yasui H, Goto M, Hamamoto Y, Wakabayashi M, Ikeno T, Shitara K, Bando H,

Tsuchihara K, Miki I, Ichiki H, Ohtsu A, Yoshino T : Efficacy of Targeted Trials and Signaling Pathway Landscape in Advanced Gastrointestinal Cancers From SCRUM-Japan GI-SCREEN: A Nationwide Genomic Profiling Program .「JCO Precis Oncol」7(e2200653):2023 年 3 月

Watanabe J, Muro K, Shitara K, Yamazaki K, Shiozawa M, Ohori H, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Misumi T,Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Panitumumab vs Bevacizumab Added to Standard First-line Chemotherapy and Overall Survival Among Patients With RAS Wild-type,Left-Sided Metastatic Colorectal Cancer A Randomized Clinical Trial .「JAMA」329(15):P1271-1282、2023 年 4 月 18 日

Aoki Y, Nakamura Y, Denda T, Ohta T, Esaki T, Shiozawa M, Yamaguchi K, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Okano N, Taniguchi H, Sato T, Oki E, Nishina T, Komatsu Y, Matsuhashi N, Goto M, Yasui H, Ohtsubo K, Moriwaki T, Takahashi N, Horita Y, Boku S, Wakabayashi M, Ikeno T, Mitani R, Yuasa M, Yoshino T : Clinical Validation of Plasma-Based Genotyping for RAS and BRAF V600E Mutation in Metastatic Colorectal Cancer: SCRUM-Japan GOZILA Substudy .「JCO Precis Oncol」( ): P e2200688 - 、2023 年 6 月 7 日

Oki E, Nakanishi R, Ando K, Nambara S, Takemasa I, Watanabe J, Matsubayashi N, Kato T, Kagawa Y, Kotaka M, Hirata K,Sugiyama M, Kusumoto T, Miyamoto Y, Toyosaki K, Kishimoto J, Kimura Y, Yoshizumi T, Nakamura Y : Recurrence monitoring using ctDNA in patients with metastasis of colorectal cancer: COSMOS- oligo study .「Research Square」2023 年 5 月

Kobayashi S, Bando H,Taketomi A, Takamoto T, Shinozaki E, Shiozawa M, Hara H, Yamazaki K, Komori K, Matsuhashi N, Kato T, Kagawa Y, Yokota M, Oki E, Komine K, Takahashi S, Wakabayashi M, Yoshino T : NEXUS trial: a multicenter phase II clinical study evaluating the efficacy and safety of the perioperative use of encorafenib, binimetinib, and cetuximab in patients with previously untreated surgically resectable BRAF V600E mutant colorectal oligometastases .「BMC Cancer」23(1):P 779、2023 年 8 月 21 日

Yuki S, Yamazaki K, Sunakawa Y, Taniguchi H, Bando H, Shiozawa M, Nishina T, Yasui H, Kagawa Y, Takahashi N, Denda T, Esaki T, Kawakami H, Satake H, Takashima A, Matsuhashi N, Kato T, Asano C, Abe Y, Nomura S, Yoshino T : Role of plasma angiogenesis factors in the efficacy of first-line chemotherapy combined with biologics in RAS wild-type metastatic colorectal cancer: Results from the GI-SCREEN CRC-Ukit study .「Cancer Medicine」12(18):P 18702-18716、2023 年 9 月

Watanabe J,Takemasa I,　Kotake M, Noura S, Kimura K, Suwa H, Tei M, Takano Y, Munakata K, Matoba S, Yamagishi S, Yasui M, Kato T, Ishibe A, Shiozawa M, Ishii Y, Yabuno T, Nitta T, Saito S, Saigusa Y, Watanabe M : Blood Perfusion Assessment by Indocyanine Green Fluorescence Imaging for Minimally Invasive Rectal Cancer Surgery (EssentiAL trial): A Randomized Clinical Trial .「Ann Surg」278(4):P e688-e694、2023 年 10 月

Ando K,Nakamura Y, Kitao H, Shimokawa M, Kotani D, BandoH, Nishina T, Yamada T,Yuki S, Narita Y, Hara H, Ohta T, Esaki T, Hamamoto Y, Kato K, Yamamoto Y, Minashi K, Ohtsubo K, Izawa N, Kawakami H, Kato T, Satoh T, Okano N, Tsuji A, Yamazaki K, Yoshino T, Maehara Y, Oki E : Mutational spectrum of TP53 gene correlates with nivolumab treatment efficacy in advanced gastric cancer (TP53MUT study) .「British Journal of cancer」129(6):P1032-1039、2023 年 10 月

Eric Van Cutsem, Julien Taieb,　Rona Yaeger,　Yoshino T, Axel Grothey, Evaristo Maiello, Elena Elez,　Jeroen Dekervel, Paul Ross,　Ana Ruiz-Casado, Janet Graham, Kato T, Jose C. Ruffinelli,　Thierry Andre,　Edith Carriere Roussel, Isabelle Klauck, Melanie Groc,　Jean-Claude Vedovato,　Josep Tabernero : ANCHOR CRC: Results From a Single-Arm, Phase II Study of Encorafenib Plus Binimetinib and Cetuximab in Previously Untreated BRAFV600E-Mutant Metastatic Colorectal Cancer .「J Clin Oncol」41(14):P2628-2637、2023 年 5 月

Nakamura Y, Sawada K, Yamashita R, Sakai S, Horasawa S, Yoshikawa A, Fujisawa T, Kadowaki S, Kato K, Ueno M, Oki E, Komatsu Y, Chiyoda T, Horita Y, Yasui H, Denda T, Satake H, Esaki　T, Satoh T, Takahashi N, Yamazaki　K,,Matsuhashi N, Nishina T, Takeda H, Ohtsubo K, Ohta T, Tsuji　A, Goto M, Kato T, Bando H, Tsuchihara　K, Nakamura Y, Yoshino T : Microbiome landscape and association with response to immune checkpoint inhibitors in advanced solid tumors: SCRUM-Japan MONSTARSCREEN .「Research Square」2023 年 8 月

Shitara K, Muro K, Watanabe J, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Mori I,i Yamanaka K, Hihara M,i Soeda J, Misumi T,i Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Baseline ctDNA gene alterations as a biomarker of survival after panitumumab and chemotherapy in metastatic colorectal cancer .「nature medicine」30(3):P730-739, 2024 年 3 月

Marukawa D, Gotoh K, Kobayashi S, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Akita H, Asaoka T, Noda T, Takahashi H, Tanemura M, Doki Y, Eguchi H : Rubiconcan predict prognosis in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma after neoadjuvant chemoradiotherapy.「Int J Clin Oncol.」28(4):P 576-586、2023 年 4 月

Higashiguchi M, Murakami H, Akita H, Kobayashi S, Takahama S, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Noda T, Gotoh K, Doki Y, Yamamoto T, Eguchi H : The impact of cellular senescence and senescence-associated secretory phenotype in cancer-associated fibroblasts on the malignancy of pancreatic cancer. .「Oncol Rep.」49(5):P 98、2023 年 5 月

Mizuno N, Ioka T, Ogawa G, Nakamura S, Hiraoka N, Ito Y, Katayama H, Takada R, Kobayashi S, Ikeda M, Miwa H, Okano N, Kuramochi H, Sekimoto M, Okusaka T, Ozaka M, Todaka A, Gotoh K, Tobimatsu K, Yamaguchi H, Nakagohri T, Kajiura S, Sudo K, Okamura K, Shimizu S, Shirakawa H, Kato N, Sano K, Iwai T, Fujimori N,Ueno M, Ishii H, Furuse J; Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group (HBPOG) of Japan Clinical Oncology Group (JCOG). : Effect of systemic inflammatory response on induction chemotherapy followed by chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer: an exploratory subgroup analysis on systemic inflammatory response in JCOG1106.「Jpn J Clin Oncol.」53(8):P704-713、2023 年 7 月

Takayama H, Kobayashi S, Gotoh K, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Akita H, Asaoka T, Noda T, Wada H, Takahashi H, Tanemura M, Doki Y, Eguchi H : SPARC accelerates biliary tract cancer progression through CTGF-mediated tumor-stroma interactions: SPARC as a prognostic marker of survival after neoadjuvant therapy. 「J Cancer Res Clin Oncol.」149(12):P 10935-10950、2023 年 9 月

Kubo M, Tomimaru Y, Gotoh K, Kobayashi S, Marukawa D, Sasaki K, Iwagami Y,Yamada D, Akita H, Noda T, Takahashi H, Asaoka T, Tanemura M, Marubashi S,Nagano H, Dono K, Doki Y, Eguchi H. : Long-Term Feasibility of Rescue Reconstruction for Isolated Bile Ducts With Using Cystic Duct in Living Donor Liver Transplantation . 「Transplant Proc.」55(7):P 1611-1617、2023 年 9 月

Nishi H, Gotoh K, Tomimaru Y, Kobayashi S, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Akita H, Asaoka T, Noda T, Takahashi H, Tanemura M, Doki Y, Eguchi H. : Anti-tumor effect of avadomide in gemcitabine-resistant pancreatic ductal adenocarcinoma. .「Cancer Chemother Pharmacol.」92(4):P 303-314、2023 年 10 月

Sasaki K, Asaoka T, Kobayashi S, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Noda T,Wada H, Gotoh K, Takahashi H, Maeda N, Kimura Y, Ono Y, Doki Y, Eguchi H. : Successful endovascular embolization of the common hepatic artery for pseudoaneurysm associated with pancreatic fistula after liver transplantation: a case report.「Surg Case Rep.」9(1):P 143、2023 年 8 月

Imaoka H, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Okusaka T, Ozaka M, Shimizu S, Yamazaki K, Okano N, Sugimori K, Shirakawa H, Mizuno N, Satoi S, Yamaguchi H, Sugimoto R, Gotoh K, Sano K, Asagi A, Nakamura K, Ueno M : Development of a nomogram to

predict survival in advanced biliary tract cancer. 「Sci Rep.」13(1):P 21548、2023 年 12 月

Kawabata R, Takahashi T, Saito Y, Nakatsuka R, Imamura H, Motoori M, Makari Y, Takeno A, Kishi K, Adachi S, Miyagaki H, Kurokawa Y, Yamasaki M, Eguchi H, Doki Y : Analysis of the risk factors for osteoporosis and its prevalence after gastrectomy for gastric cancer in older patients: a prospective study. 「Surg Today」53(4):P 435-442、2023 年 4 月

Kurokawa Y, Kawase T, Takeno A, Furukawa H, Yoshioka R, Saito T, Takahashi T, Shimokawa T, Eguchi H, Doki Y: Phase 2 trial of neoadjuvant docetaxel, oxaliplatin, and S-1 for clinical stage Ill gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma .「Ann Gastroenterol Surg.」7(23):P 247-254、2023 年 3 月

Yamamoto K、Omori T, Kurokawa Y, Takeno A, Akamaru Y, Demura K, Okada K, Kishi K, Saito T, Takahashi T, Eguchi H, Doki Y. : Laparoscopic Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer .「Am Surg.」89(12):P 5660-5668、2023 年 11 月

Kubo Y, Makino T, Yamasaki M, Tanaka K, Yamashita K, Shiraishi O, Sugimura K, Miyata H, Motoori M, Fujitani K, Takeno A, Hirao M, Kimura Y, Satoh T, Yano M, Eguchi H, Yasuda T, Doki Y. : Three-Course Neoadjuvant Chemotherapy Associated with Unfavorable Survival of Non-responders to the First Two Courses for Locally Advanced Esophageal Cancer.「Ann Surg Oncol.」30(9):P 5899-5907、2023 年 8 月

Kawada J, Saito T, Kurokawa Y, Kawabata R, Takeno A, Takeoka T, Nose Y, Wada H, Eguchi H, Doki Y: Serum NY-ES0-1 and p53 antibodies as useful tumor markers in gastric cancer. 「Ann Gastroenterol Surg」8(2):P 243-250、2023 年 11 月

Hattori M, Masuda N, Takano T, Tsugawa K, Inoue K, Matsumoto K, Ishikawa T, Itoh M, Yasojima H, Tanabe Y, Yamamoto K, SuzukiM,Wilbur Pan, Javier Cortes, Iwata H : Pembrolizumab plus chemotherapy in Japanese patients with triple-negative breast cancer: Results from KEYNOTE-355 .「Cancer Medicine」12(9):P 10280-10293、2023 年 5 月

Masuda J, Sakai H, Tsurutani J, Tanabe Y, Masuda N, Iwasa T, Takahashi M, Futamura M, Matsumoto K, Aogi K, Iwata H, Hosonaga M, Mukohara T, Yoshimura K, Imamura CK, Miura S, Yamochi T, Kawabata H, Yasojima H, Tomioka N, Yoshimura K, Takano T : Efficacy, safety, and biomarker analysis of nivolumab in combination with abemaciclib plus endocrine therapy in patients with HR-positive HER2-negative metastatic breast cancer: a phase II study (WJOG11418B NEWFLAME trial).「Journal for ImmunoYherapy of Cancer」11(9):P e007126、2023 年 9 月

Manabu F, Nakayama T, Yoshinami T, Oshiro C, Ishihara M, Morita M, Watanabe A, Tanigichi A, Tsukabe M, Shimoda M, Nitta K, Chihara Y, Yasojima H, Ouchi Y, Tokumaru Y, Masuda N : Detection of high-risk patients resistant to CDK4/6 inhibitors with hormone receptor-positive HER2-negative advanced and metastatic breast cancer in Japan (KBCSG-TR-1316) .「Breast Cancer」30(6):P 943-951、2023 年 11 月

Takahashi M, Osako T, Yasojima H, Inoue K, Kawashima M, Maeda H, Ichikawa A, Muramatsu Y, Masuda N: Overall survival in Japanese patients with ER+/HER2- advanced breast cancer treated with first-line palbociclib plus letrozole.「Breast Cancer」31(1):P 53-62、2024 年 1 月

Matsui Y, Kanou T, Fukui E, Kimura T, Ose N, Funaki S, Shintani Y: Association of the psoas muscle index with the survival of patients on a waiting list for lung transplantation: a Japanese single-institution study.「Surgery Today」、2023 年 11 月

A-3
平尾素宏、竹野淳、山本昌明、浜川卓也、西川和宏：急性腹膜炎の治療戦略と手術　II原因疾患別の治療戦略 2）胃癌による穿孔性腹膜炎に対する手術「手術」78(3)：P. 297-304、2024 年 3 月

加藤健志：術後補助化学療法として FOLFOX/CapeOX 療法施行後の再発症例の治療「ガイドラインに沿った大腸癌薬物療法の要点と盲点」2：P. 43-44、2023 年 10 月 29 日

竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、山本昌明、松井優紀、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二： 腎機能低下食道癌症例に対する白金製剤使用についての検討「癌と化学療法」50(13）：P.1783-1785、2023 年 12 月

八十島宏行：腫瘍マーカーの意義「乳癌薬物療法の要点と盲点」：P. 22-23、2023 年 6 月 27 日

浜川卓也、西田謙太郎、赤丸祐介、竹野 淳、平尾素宏：手術手技　困難症例（肥満症例、進行胃癌）に対する腹腔鏡下胃切除術におけるガーゼテーピング法「手術」78(3）：P.371-375、2024 年 3 月

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏： 肝内胆管癌術後局所再発に対して集学的治療にて長期生存を得られている一例「癌と化学療法」50(13）：P. 1795-1797、2023 年 12 月

大崎真央、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：骨盤内

膿瘍を伴う直腸癌に対し術前化学療法後に根治切除を施行した 1 例「癌と化学療法」50(13）：P. 1615-1617、2023 年 12 月

林 千恵、赤澤 香、岡田公美子、森 清、眞能正幸、八十島宏行： 乳癌再発治療中の胃転移にて HER2 陽転化をきたした 1 例「乳癌の臨床」39(1）：P.99-103、2024 年 1 月

梅津匡宏、後藤邦仁、徳山信嗣、酒井健司、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：切除不能の直腸癌肝転移に対して化学療法が奏効し根治切除を施行し得た 1 例「癌と化学療法」50(13）：P. 1789-1791、2023 年 12 月

阿部 優、俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、寺川航基、柳澤公紀、三代雅明、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：放射線治療後に横行結腸浸潤を伴う臍転移（Sister Mary Joseph’s Nodule）を来した子宮頸癌の 1 例「癌と化学療法」50(4）：P. 535-537、2023 年 4 月

今西涼華、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：腎癌術後 16 年目の転移性膵癌に対してロボット支援下膵体尾部切除術を施行した 1 例「癌と化学療法」50(13）：P. 1771-1773、2023 年 12 月

今西涼華、高橋佑典、加藤健志、森 清、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏：骨盤内に進展した臀部表皮嚢胞に対して腹腔鏡アプローチを併用し経仙骨的に切除した 1 例「日本消化器外科学会雑誌」56(12）：P. 670-676、2023 年 12 月

豊後雅史、竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、山本昌明、松井優紀、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：胃癌腹膜播種再発に対して二度の切除と nivolumab の集学的治療により長期病勢制御が得られた 1 例「癌と化学療法」50(13）：P.1715-1717、2023 年 12 月

豊後雅史、酒井健司、後藤邦仁、大崎真央、加藤健志、平尾素宏 ：保存的加療で軽快した広範囲に及ぶ腸管嚢胞様気腫症の 3 例「日本臨床外科学会雑誌」84(11）：P.1771-1775、2023 年 11 月

萩原佳菜、河合賢二、徳山信嗣、山本昌明、酒井健司、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：下行結腸穿孔をきたした血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例「日本腹部救急医学会雑誌」44(1）：P.61-64、2024 年 1 月

本持知子、平尾素宏：診療看護師（NP)へのタスク・シフト/シェア「Current Therapy」41(12）：P.36-38、2023 年 12 月 1 日

A-4
後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：【ラパコレを再考する-腹腔鏡下胆嚢摘出術をマスターするために】胆嚢癌疑診例に対する腹腔鏡手術と胆嚢癌と判明した場合の対応「手術」77(10）：P.1513-1517、2023 年 9 月

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、加藤健志：大腸がんにおける周術期薬物療法「腫瘍内科」32(3）：P.1-7、2023 年 9 月

B-2
Yamazaki K, Muro K, Watanabe J, Shitara K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naito T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Efficacy of panitumumab in patients with left-sided disease, MSS/MSI-L, and RAS/BRAF WT: A biomarker study of the phase III PARADIGM trial. ASCO2023 , Chicago,USA , 2023 年 6 月 2 日

Oki E, Kotani D, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Miyo M,Watanabe J, Hirata K, Akazawa N,Kun-Huei Yeh, George Laliotis, Shruti Sharma, Minetta Liu, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T : Circulating tumor DNA dynamics as an early predictor of recurrence in patients with radically resected colorectal cancer: Updated results from GALAXY study in the CIRCULATE-Japan. ASCO2023 , Chicago,USA ,2023 年 6 月 2 日

Osumi H, Shinozaki E, Nakamura Y, Esaki T, Yasui H,Taniguchi H, Satake H, Sunakawa Y, Komatsu Y, Kagawa Y, Denda T, Shiozawa M, Satoh T, Nishina T, Goto M, Takahashi N, Kato T, Bando H, Yamaguchi K, Yoshino T : NeoRAS wild-type metastatic colorectal cancer in the SCRUM-Japan GOZILA study.ASCO2023, Chicago,USA , 2023 年 6 月 2 日

Imai M, Bando H, Tsukada Y, Kato T, Komatsu Y, Uemura M, Yuki S, Taketomi A, Fujisawa T, Nakamura Y, Kojima M, Koyama S,Chiyoon Oum, Seunghwan Shin, Chan-Young Ock, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T : Predictive value of tumor-infiltrating lymphocyte (TIL) dynamics in the tumor microenvironment (TME) during preoperative chemoradiotherapy (CRT) on pathologic complete response (pCR) in microsatellite-stable (MSS) locally advanced rectal cancer (LARC). ASCO2023 ,Chicago,USA ,2023 年 6 月 2 日

Bando H, Satake H, Kotani D, Hamaguchi T, Shiozawa M, Ikumoto T, Okita Y, Masuishi T, Kagawa Y, Yasui H,Oki E, Komatsu Y, Taniguchi H, Muro K, Kotaka M, Yamazaki K, Misumi T, Yoshino T, Kato T, Tsuji A : A multicenter randomized phase II trial comparing CAPOXIRI + bevacizumab with FOLFOXIRI + bevacizumab as first-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer: Primary results of the QUATTRO-II study . ASCO2023 ,Chicago,USA ,2023 年 6 月 2 日

JogoT, Shinozaki E, Masuishi T, Kato T, Nishina T, Esaki T, Komatsu Y, Kato K, Suzuki M, Fuse N, Sato A, Ikeno T, Nomura S, Bando H,Justin Iver Odegaard, Fujii S, Ebi H, Yoshino T, Nakamura Y : Efficacy and safety of futibatinib for refractory advanced solid malignancies with FGFR alterations identified in circulating tumor DNA: TiFFANY, A GOZILA-affiliated Trial. .ASCO2023 ,Chicago,USA ,2023 年 6 月 28 日

Kato T, Kotani D, Takashima A, Satoh T, Masuishi T, Komatsu Y, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H, Yamada S, Yoshino T: Clinical outcomes of encorafenib, binimetinib, and cetuximab for pretreated BRAF V600E-mutant metastatic colorectal cancer in the BEACON EAP follow-up study. ESMOGI2023 ,Barcelona,Spain ,2023 年 6 月 3 日

Oki E, Muro K, Watanabe J, Shitara K, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Sato T, Naito T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : First-line (1L) panitumumab (PAN) vs bevacizumab (BEV) in patients (pts) with HER2 amplification (HER2amp+), RAS wild type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC) according to tumor sidedness . ASCO Breakthrough ,Yokohama ,2023 年 8 月 3 日

Watanabe J, Oki E, Kotani D, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Miyo M, Hirata K, Akazawa N,Kun-Huei Yeh, George Laliotis, Adham A Jurdi, Minetta Liu, Taniguchi H,Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T : Postoperative circulating tumor DNA-based molecular residual disease in patients with BRAF V600E and MSI-H colorectal cancer: Updated results from GALAXY study in the CIRCULATE-Japan . ASCO Breakthrough ,Yokohama ,2023 年 8 月 3 日

Imai M, Nakamura Y, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Sato A, Kuwata T, Yamashita R, Fujisawa T, Bando H, Jongchan Park, Seunghwan Shin, Chan-Young Ock, Fujii S, Yoshino T : Artificial intelligence (AI)-powered HER2 quantification continuous score (QCS) and tumor microenvironment (TME) analysis in HER2-amplified metastatic colorectal cancer (mCRC) treated with pertuzumab plus trastuzumab . ASCO Breakthrough , Yokohama , 2023 年 8 月 10 日

Kato T, Muro K, Watanabe J, Shitara K,Yamazaki K, Ohori H,Shiozawa M, Yasui H,Oki E, Sato t, Naitoh T, Komatsu Y, Soeda J, Yamamoto K,Yamashita R, Akagi K,Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Panitumumab (PAN) vs bevacizumab (BEV) in metastatic colorectal cancer (mCRC) by microsatellite stable (MSS), RAS/BRAF, and HER2 amplification (HER2amp) status: Phase III PARADIGM biomarker study . ESMO ASsia2023 , Singapore , 2023 年 12 月 2 日

Yukami H, Nakamura Y, Mishima S, Ando K, Bando H, Watanabe J, Hirata K, Akazawa N, Ikeda M, Yokota M, Kato K, George Laliotis, Vasily N. Aushev, Adham A Jurdi, Minetta Liu, Kotani D, Oki E, Takemasa I, Kato T, Yoshino T : Circulating

tumor DNA (ctDNA) dynamics in patients with colorectal cancer (CRC) with molecular residual disease: Updated analysis from GALAXY study in the CIRCULATE-JAPAN. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Murano T Ikematsu H, Matsuhashi N, Shiozawa M, Kato T, Oki E, Goto M, Kagawa Y Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Notake C,Elmira Forouzmand, Yupeng He, Victoria M. Raymond, Sven Duenwald, Yoshino T, Nakamura Y : Circulating tumor DNA (ctDNA) positivity and its association with clinicopathological characteristics by novel blood-based test for colorectal cancer (CRC) screening from a multi-center large cohort: COSMOS-CRC-01. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Nakamura Y, Tsukada Y, Matsuhashi N, Murano T, Shiozawa M, Kato T, Oki E, Goto M, Kagawa Y, Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Notake C, Mingyang Cai, Shile Zhang, Thereasa A. Rich, Kimberly Banks, Yoshino T: Multiomic analysis for minimal residual disease detection: Addressing challenges in stage II-III colon cancer from COSMOS-CRC-01. ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Miyo M, Kato T, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Watanabe J, Akazawa N, Yokota M, Kagawa Y,Adaham A Jurdi, Minetta C. Liu, Oba K, Taniguchi H, Kotani D, Oki E, Takemasa I, Mori M, Yoshino T : Association of circulating tumor DNA (ctDNA) molecular disease (MRD) detection with lymph node metastasis after local excision of pathological T1 colorectal cancer: First results from DENEB, a CIRCULATE-Japan GALAXY substudy . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Bando H, Tsukada Y, Taketomi A, Yuki S, Komatsu Y, Akiyoshi T, Shinozaki E, Kanemitsu Y, Takashima A, Shiozawa M, Shiomi A, Yamazaki K, Matsuhashi N,Hasegawa H, Kato T, Oki E, Wakabayashi M, Fuse N, Ito M, Yoshino T : Neoadjuvant anti-programmed death 1 (PD-1) therapy in patients (pts) with resectable mismatch repair–deficient (dMMR) locally advanced rectal cancer (LARC): EPOC2201. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Nakamura Y, Kaneva K, Christine Lo, Daniel Neems, Jonathan Freaney, Hala Boulos, Seung Won Hyun, Oki E, Kotani D, Wantanabe J, Kotaka M, Bando H, Yamazaki K, Takemasa I, Kato T, Chithra Sangli, Richard Blidner, Kate Sasser, Halla Nimeiri, Yoshino T : Predicting recurrence using a tumor-uninformed ctDNA assay detecting MRD in patients with resected stage II or III colorectal cancer: Subset analysis from the GALAXY study in CIRCULATE-Japan. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Oyoshi H, Bando H, Yamashita R, Kageyama S, Horasawa S, Nakamura M, Fujisawa T, Tomizawa K, Motegi A, Mishima S, Kotani D, Taniguchi H, Oki E, Takemasa I, Kato T,

Nakamura Y, Mori M, Adham A Jurdi, Minetta C. Liu, Yoshino T : Prediction of postoperative recurrence by integrating preoperative ctDNA levels and tumor metastasis volume in patients (pts) with colorectal cancer (CRC) with resectable lung or liver metastasis . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Hashimoto T, Fujisawa T, Machida N, Makiyama A, Boku S, Kadowaki S, Takahashi N, Oki E, Morizane C, Sunakawa Y, Komatsu Y, Okano N, Esaki T, Ohta T, Kato T, Ozaki H, Iida N, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T: Efficacy of biomarker-matched therapy in clinical trials for advanced gastrointestinal cancers: A pooled analysis of SCRUM-Japan studies . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Nakamura Y, Esaki T, Nishina T, Komatsu Y, Yuki S, Shinozaki E, Taniguchi H, Kato T, Kato K, Nomura S, Ikeno T, Ishiguro Y, Takahashi K, Higuchi T, Sato A,Justin Iver Odegaard, Kuwata T, Matsushima K, Nakatsura T, Yoshino T : Nivolumab in patients (pts) with advanced gastrointestinal (GI) cancers with high plasma tumor mutational burden (pTMB): Results from a SCRUM-Japan GOZILA phase II trial. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Takeno A, Omori T, Shinno N, Katsuyama S, Motoori M, Akamaru Y, Kishi K, Murakami K, Kurokawa Y, Doki Y: Feasibility of staging laparoscopy for detecting peritoneal recurrence for gastric cancer after gastrectomy: multi-institutional prospective study. IGCC2023 , Yokohama , 2023 年 6 月 16 日

Yamamoto K, Motoori M, Kurokawa Y, Fujitani K, Omori T, Hara H, Kishi K, Takeno A, Hamakawa T, Masuzawa T, Sugimura K, Takahashi T, Saito T, Makino T, Tanaka K, Yamashita K, Momose K, Nakajima K, Eguchi H, Doki Y : Impact of remnant positive cytology (CY1) at comversion surgery following chemotherapy for stage IV gastric cancer IGCC2023 , Yokohama , 2023 年 6 月 16 日

Motoori M, Yamamoto K, Kishi K, Takeno A, Masuzaa T, Hara H, Hamakawa T, Nakahara Y, Sugimura K, Omori T, Kurokawa Y, Fujitani K,Doki Y : Prognostic factors and significance of postoperative adjuvant chemotherapy in patients with gastric cancer undergoing neoadjuvant chemotherapy followed by gastrectom . IGCC2023 , Yokohama , 2023 年 6 月 15 日

Fatima Cardoso, Joyce O'Shaughnessy, Heather McArthur, Peter Schmid, JavierCortes, Nadia Harbeck, Melinda L Telli , David W. Cescon, Peter A. Fasching, Zhimin Shao, Delphine Loirat, Yeon Hee Park , Manuel Gonzalez Fernandez, Gabor Rubovszky, Seock-Ah Im, Rina Hui, Toshimi Takano, Fabrice Andr, Yasojima H, Zhenzhen Liu, Yu Ding, Liyi Jia, Vassiliki Karantza, Konstantinos Tryfonidis, Aditya Bardia : Phase 3 study of neoadjuvant pembrolizumab or placebo plus chemotherapy, followed by adjuvant pembrolizumab or placebo plus endocrine therapy for early-stage high-risk

ER+/HER2 breast cancer: KEYNOTE-756 . SABCS , San Antonio,USA , 2023 年 12 月 5 日

Takahashi Y, Kato T, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Wakabayashi M, Kumagai S, Koyama S, Kotani D, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Taketomi A, Uemura M, Fukui M, Kojima M, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T: VOLTAGE cohort D: Preoperative chemoradiotherapy followed by consolidation nivolumab plus ipilimumab in patients with locally advanced rectal cancer. ESMOGI2023 , Barcelona,Spain , 2023 年 6 月 28 日

Shingai T, Takahashi Y, lmasato M, Ueda M, Nishizawa Y, Naito A, Sueda T, Munakata K, Tanida T, Hayashi　N, Okamura S, Mokutani　Y, Fujii M, Miyoshi N, Takahashi H, Uemura M, Yamamoto H, Murata K, Doki Y, Eguchi H : Effectiveness of Triclosan-Coated Sutures Compared with Uncoated Sutures in Preventing Surgical Site Infection After Abdominal Wall Closure in Open/Laparoscopic Colorectal Surgery: A Multicenter Prospective Trial in Japan　. APFCR ASSR ASPOA2023 , Singapore , 2023 年 10 月 19 日

B-3
平尾素宏、下司有加、渋谷博美、西村健作、山本司郎、宇都本理夫：医療安全の文化醸成のための当院の取り組み。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

Gotoh K, Sakai K, Imanishi S, Toshiyama R :　Short-term outcomes of laparoscopic repeat partial hepatectomy。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 6 月 30 日

後藤邦仁：ICG 蛍光法を用いた局所進行膵体部癌に対する動門脈合併膵切除術。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 16 日

八十島宏行、赤澤 香、萩原佳菜、岡田公美子：　NAC 後腋窩リンパ節転移に対する縮小手術へ向けたエビデンスと当院の現状。第 25 回 SNNS 研究会学術集会、東京、2023 年 10 月 28 日

阿部 優、山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：術前に診断困難であったバイク事故による外傷性小腸穿孔に対して腹腔鏡下手術で治療し得た 1 例。第 60 回日本腹部救急医学会総会、北九州、2024 年 3 月 22 日

B-4
高見康二、土井貴司、徳永拓也：HIV 感染者に発症した気胸 11 例の検討。第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会、新潟、2023 年 7 月 13 日

本告正明、山崎 誠、牧野知記、平尾素宏、宮田博志、白石治、杉村啓二郎、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎：切除可能進行食道癌の治療成績向上を目指した多施設共同ランダム化比較試験。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

藤谷和正、黒川幸典、竹野 淳、川端良平、大森 健、今村博司、平尾素宏、遠藤俊治、川田純司、文 正浩、和田遼平、瀧口修司、森 正樹、江口英利、土岐祐一郎：胃癌肝転移に対する外科切除に関する前向き多施設臨床試験：3 年全生存割合と無再発生存割合。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：リンパ節転移を伴う胆道癌に対する治療戦略の構築。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、福武伸康、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：後腹膜先行アプローチを併用したロボット支援下膵体尾部切除術の 1 例。第 54 回日本膵臓学会大会、福岡、2023 年 7 月 22 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志：pT2 以浅胆嚢癌に対する腹腔鏡下手術の適応に関する検討。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 14 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：膵癌オリゴ遠隔転移に対する外科的切除の有用性の検討。JDDW2023、神戸、2023 年 11 月 4 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：導入初期におけるロボット支援下膵体尾部切除術の安全性の検討。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

竹野 淳、浜川卓也、平尾素宏、河合賢二、俊山礼志、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：食道浸潤長にもとづいた食道胃接合部腺癌に対する治療成績。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

岸健太郎、文 正浩、中原裕次郎、山本和義、大森 健、原 尚志、益澤 徹、杉村啓二郎、本告正明、竹野 淳、浜川卓也、黒川幸典、藤谷和正、土岐祐一郎：ypT0 胃癌の予後因子に関する検討　多施設後向き研究。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

西塔拓郎、黒川幸典、川瀬朋乃、竹野 淳、古川陽菜、吉岡 亮、高橋 剛、江口英利、土岐祐一郎：胃癌および食道胃接合部癌に対する術前化学療法の治療成績

胃・食道胃接合部腺癌に対する DOS 術前化学療法の第 2 相臨床試験。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、長谷川裕子、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：腎機能低下食道癌症例に対する白金製剤使用についての検討。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

竹野 淳、浜川卓也、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：80 才以上の高齢者に対する食道癌手術の治療成績の検討。第 66 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 9 日

竹野 淳、浜川卓也、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志：ロボット支援下食道切除導入期の短期治療成績～胸腔鏡手術との比較～。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

川端良平、西川和宏、今村博司、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野 淳、下村一景：悪液質を伴う進行再発胃癌の化学療法に対するプロシェアの有用性に関する第 II 相試験。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

山本和義、本告正明、黒川幸典、大森 健、竹野 淳、高橋 剛、西塔拓郎、牧野知紀、江口英利、土岐祐一郎：化学療法後胃切除時における CY1 の臨床的意義。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

竹野 淳、山本昌明、浜川卓也、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：残胃癌に対するロボット支援手術の経験。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

竹野 淳、山本昌明：食道亜全摘術後体重減少に関与する因子の検討。第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、横浜、2024 年 2 月 15 日

川端良平、西川和宏、竹野 淳、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、今村博司：悪液質を伴う進行胃癌の化学療法に対する EPA 強化経口栄養補助食品の有用性に関する第 II 相試。第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、横浜、2024 年 2 月 15 日

竹野 淳、山本昌明、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志：残胃癌における術後合併症と予後の関係。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

松山 仁、木村 豊、杉本直俊、遠藤俊治、川端良平、竹野 淳、今野元博、田村茂行、中村将人、竹下宏樹、坂井大介、川上尚人、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎：高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する周術期カペシタビン＋オキサリプラチン療法の第 II 相試験（OGSG1701）。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

八十島宏行、Miyoshi Y, Yonemori K, Wtanabe J, Takano T, Shimoura A, Tokunaga E, Mukohara T, Naoi Y,Matsuoka D, Okumura S, Suzuki T, Otake Y, Ichikawa Y,Takase T,Semba T, lshiguro H： E7389-LF as lL chemotherapy for advanced/metastatic HER2-negative breast cancer (HER2- BC): Phase 1 dose-expansion study。第 21 回日本臨床腫瘍学会 2024、名古屋、2024 年 2 月 22 日

浜川卓也、竹野 淳、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二、平尾素宏：胃癌術後 1 年目サルコペニアに関する検討。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 27 日

浜川卓也、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：T4 食道癌、胃前庭部出血性 GIST、早期胃癌の 3 重複がん患者に対する治療方針の検討。第 77 回日本食道学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 29 日

浜川卓也、竹野 淳、本告正明、岸健太郎、大森 健、益澤 徹、山本和義、黒川幸典、藤谷和正、土岐祐一郎：StageIV 胃癌に対する conversion surgery の治療成績(多施設共同後方視的解析)。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、今西涼華、大崎真央、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：腹腔鏡下再肝切除術の安全性に関する検討。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、大崎真央、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、土井貴司、加藤健志、高見康二、平尾素宏：肝内胆管癌術後局所再発に対して集学的治療にて長期生存を得られている一例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

Sakai K, Gotoh K, Imanishi S, Toshiyama R：Surgical resection for anaplastlc carcinoma of the pancreas: Two cases report。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 6 月 30 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：腹腔鏡下再肝切除術の安全性に関する検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

酒井健司、後藤邦仁、今西涼華、俊山礼志、福武伸康：膵腺扁平上皮癌の 4 切除例。第 54 回日本膵臓学会大会、福岡、2023 年 7 月 22 日

酒井健司、後藤邦仁、今西涼華、俊山礼志、福武伸康：切除不能肝内胆管癌に対して化学療法後二期的肝切除（ALPPS）を施行した一例。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 14 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：若手教育にも配慮した手術の質を落とさない私の腹腔鏡下胆嚢摘出術。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 18 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、今西涼華、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：胆石性慢性胆嚢炎の急性増悪症例における Bail out surgery の先に待ち受ける胆嚢管壊死をどうする？。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 9 日

高橋佑典、加藤健志、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、酒井健司、浜川卓也、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏：若手医師に対するエネルギーデバイスの安全使用に関するハンズオントレーニングの成果。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

高橋佑典、宮崎道彦、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：直腸脱に対する TANKO+1 port による直腸固定術。10th Reduced Port Surgery Forum in Kitakyushu、北九州、2023 年 8 月 19 日

高橋佑典、徳山信、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援直腸癌手術における安全性に留意したエネルギーデバイスの使用。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 11 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：当院における局所進行直腸癌に対する術前治療後の手術療法の短期成績と工夫。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

岡田公美子、萩原佳菜、赤澤 香、八十島宏行：当院における AYA 世代乳がん患者の現状と課題。第 61 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2023 年 10 月 20 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、酒井健司、浜川卓也、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：術前化学・化学放射線療法後のロボット支援下直腸癌手術の工夫。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：当院におけるロボット支援腹腔鏡下回盲部切除術の定型化と短期成績。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 10 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援下結腸癌手術における脾弯曲部授動。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

山本昌明、大森 健、新野直樹、原 尚志、菅生貴仁、武岡奉均、金村剛志、藤井義章、向井洋介、三賀森学、長谷川慎一郎、秋田裕史、原口直紹、西村潤一、和田浩志、松田 宙、安井昌義、大植雅之、宮田博志：胃癌における術後補助化学療法についての検討。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 29 日

山本昌明、大森 健、新野直樹、原 尚志、菅生貴仁、武岡奉均、金村剛志、松田宙、安井昌義、宮田博志：胃癌 pStageIII 術後補助化学療法における DS 療法と SOX 療法のプロペンシティスコアマッチンングによる比較検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

山本昌明、大森 健、新野直樹、原尚志、菅生貴仁、武岡奉均、金村剛志、長谷川慎一郎、原口直紹、秋田裕史、西村潤一、松田浩志、松田 宙、安井昌義：胃癌術後補助化学療法における DS と SOX 療法の比較検討。第 32 回日本がん転移学会学術集会・総会、仙台、2023 年 7 月 20 日

山本昌明、大森 健、新野直樹、原 尚志、菅生貴仁、武岡奉均、金村剛志、向井洋介、三賀森学、長谷川慎一郎、秋田裕史、原口直紹、西村潤一、松田宙、安井昌義、大植雅之、宮田博志：胃癌の術後パラメーターと予後についての検討。JDDW2023、神戸、2023 年 11 月 4 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：噴門側胃切除における食道残胃吻合再建とダブルトラクト再建の短期成績比較。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：胃癌に対する噴門側胃切除における開腹 vs 腹腔鏡の短期成績の比較。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

山本昌明、木場瑞貴、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏：閉鎖孔ヘルニア小腸嵌頓に対して水圧法にて嵌頓解除し、腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した一例。第 60 回日本腹部救急医学会総会、北九州、2024 年 3 月 22 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、豊後雅史、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、土井貴司、加藤健志、高見康二、平尾素宏：抗血小板・抗凝固薬服用症例に対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の安全性の検討。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 27 日

Toshiyama R, Gotoh K, Sakai K：A case of suspected acinic cell carcinoma diagnosed as serous cystic neoplasm by postoperative pathological examination。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 7 月 1 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：当院における閉鎖孔ヘルニア嵌頓手術例の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、加藤健志、平尾素宏、竹野 淳、土井貴司、高見康二：多臓器転移を認めたものの長期生存を得た膵頭部癌の 1 例。第 54 回日本膵臓学会大会 福岡、2023 年 7 月 22 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司：胆嚢捻転手術例の検討。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 14 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、松井優紀、竹野 淳、平尾素宏、高見康二、加藤健志：膵頭十二指腸切除術後の通過障害に対して胃空腸バイパス術を施行した 2 例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 17 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、山本昌明、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：化学療法中に発症した壊疽性胆嚢炎の 1 例。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 9 日

松井優紀、高見康二、森 清：肺カルチノイド切除 7 症例の臨床的検討。第 64 回日本肺癌学会学術集会、幕張、2023 年 11 月 3 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、浜川卓也、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：当院における限局性腹膜炎を合併した大腸憩室炎に対する治療法の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：当院における閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery の治療成績。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 11 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：汎発性腹膜炎を合併した下部消化管穿孔に対する鏡視下手術の短期成績の検討。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：pT1b 大腸癌におけるリンパ節転移リスクの検討。第 100 回大腸癌研究会学術集会、東京、2024 年 1 月 26 日

赤澤 香、三宅智博、瀧内 剛、白神美智恵、佐藤友紀、橋本香映、増永奈苗、阿部かおり、塚部昌美、吉波哲大、草田義昭、多根井智紀、下田雅史、島津研三：リプロダクティブ・ライツを尊重した周術期・再発乳癌診療を行った HBOC 乳癌既発症の 1 例。第 29 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会、高知、2023 年 6 月 16 日

赤澤 香、森 清、清水幸生、林 千恵、岡田公美子、八十島宏行：当院におけるセンチネルリンパ節生検:術中迅速捺印細胞診の妥当性の再検証。第 31 回日本乳癌学会学術集会、横浜、2023 年 6 月 30 日

赤澤 香、森 清、萩原佳菜、岡田公美子、八十島宏行：当院におけるセンチネルリンパ節生検：術中迅速捺印細胞診の妥当性の再検証。第 25 回 SNNS 研究会学術集会、東京、2023 年 10 月 28 日

大崎真央、高橋佑典、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、酒井健司、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：骨盤内膿瘍を伴う直腸癌に対し術前化学療法後に根治切除を施行した 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

大崎真央、高橋佑典、宮崎道彦、徳山信嗣、河合賢二、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：直腸脱に対する TANKO+1 port による直腸固定術。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 14 日

松井雅貴、浜川卓也、平尾素宏：虫垂穿孔，骨盤内膿瘍を来した虫垂子宮内膜症の 1 例。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 22 日

梅津匡宏、後藤邦仁、徳山信嗣、酒井健司、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：切除不能の直腸癌肝転移に対して化学療法が奏功し根治切除を施行し得た一例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

梅津匡宏、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏 ：当院における壊疽性胆嚢炎に対する緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

梅津匡宏、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術における PNI を用いた手術困難性についての検討。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

阿部優、河合賢二、加藤健志、高橋佑典、徳山信嗣、俊山礼志、酒井健司、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、後藤邦仁、高見康二、平尾素宏：肛門外脱出嵌頓で見つかった S 状結腸癌重積症の 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

阿部 優、竹野 淳：食道癌術後の再建胃管癌発生におけるリスク因子の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

阿部 優、酒井健司、松井優紀、後藤邦仁、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏、高見康二：肝細胞癌の孤立性縦隔転移の 1 例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 16 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：虫垂が絞扼帯となった絞扼性腸閉塞の 1 例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2024 年 2 月 3 日

今西涼華、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、大崎真央、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：腎癌術後 16 年目の転移性膵癌に対してロボット支援下膵体尾部切除術を施行した 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

Imanishi S, Sakai K, Toshiyama R, Gotoh K : A case of primary mixed adenoneuroendocrine carcinoma of the ampulla of Vater。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 7 月 1 日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁：抗血栓薬内服症例に対する腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 14 日

今西涼華、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣 、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、福武伸康、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：腎癌術後長期間経過した後の転移性膵癌に対して膵体尾部切除術を施行した 2 例。第 54 回日本膵臓学会大会、福岡、2023 年 7 月 21 日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、福武伸康：当院での ERCP 施行例における腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績について。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 15 日

今西涼華、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、山本昌明、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏：膵頭部癌術後 16 年目に肺転移を来し、肺転移切除後 4 ヶ月で死亡した 1 例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 17 日

今西涼華、浜川卓也、酒井健司、竹野 淳、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：幽門側胃切除 Roux-en Y 再建後の十二指腸憩室内魚骨穿通に対し腹腔鏡下魚骨摘出を行った 1 例。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 9 日

豊後雅史、竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：再発胃癌に対して 2 度の切除と nivolumab の集学的治療により長期病勢制御が得られた 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

豊後雅史、高橋佑典、加藤健志：非代償性肝硬変を合併する大腸癌症例に対して腹腔鏡下大腸癌手術を行った 2 例。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

豊後雅史、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野淳、後藤邦仁、高見康二、平尾素宏、加藤健志：肝硬変合併症例に対する腹腔鏡下大腸手術時に注意すべき腹膜下筋膜の構造変化。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

豊後雅史、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野淳、加藤健志、平尾素宏：胃に穿破し出血コントロール不良であった膵管内乳頭粘液性腺癌残膵再発に対して残膵全摘を施行した 1 例。第 60 回日本腹部救急医学会総会、北九州、2024 年 3 月 21 日

木場瑞貴、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：虫垂子宮内膜症に対し腹腔鏡下回盲部切除術を施行した 2 例。第 99 回大腸癌研究会学術集会、尼崎、2023 年 7 月 7 日

木場瑞貴、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、加藤健志：腹腔鏡下回盲部切除術にて確定診断に至った虫垂子宮内膜症の 2 例。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

木場瑞貴、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：異時性遠隔リンパ節転移を伴った pT1b 横行結腸癌の一例。第 100 回大腸癌研究会学術集会、東京、2024 年 1 月 26 日

木場瑞貴、高橋佑典、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、酒井健司、竹野淳、後藤邦仁、高見康二、平尾素宏、加藤健志：直腸静脈瘤を伴う直腸癌に対しロボット支援腹腔鏡下に根治切除した一例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2023 年 2 月 3 日

木場瑞貴、竹野淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二、廣瀬由美子、森清：急速に増大した胃腫瘍に対して左上腹部内臓全摘術にて摘出し得た一例。第 96 回日本胃癌学会総会、 京都、2024 年 2 月 29 日

萩原佳菜、赤澤香、岡田公美子、八十島宏行： T-DXd 治療中に薬剤性間質性肺炎と鑑別困難なニューモシスチス肺炎を併発し救命困難となった De-novo StagelV 乳癌の一例。第 21 回日本乳癌学会近畿地方会、京都、2023 年 11 月 25 日

櫻井義正、高見康二、松井優紀：自然気胸の肺嚢胞切除検体に tumorlet を認めた一例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 16 日

櫻井義正、竹野淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏、高見康二：高度リンパ節転移を伴う同時性胃癌および胃びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対して集学的治療を行った 1 例。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

上村廉、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、加藤健志：血便により発見された肺癌結腸転移の一切除例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2024 年 2 月 3 日

長谷川健太、井関康仁、西村潤也、西居孝文、長谷川 毅、櫻井克宣、久保尚士、田嶋哲三、村田哲洋、高台真太郎、清水貞利、金沢景繁、井上 透、西口幸雄：T1b 大腸癌内視鏡的切除後の経過観察中にリンパ節再発をきたし外科的追加切除を施行した２例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 18 日

佐藤直也、酒井健司、後藤邦仁、豊後雅史、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏: FOLFIRINOX 療法が奏効し根治切除を施行し得た原発性肺癌と膵腺扁平上皮癌の重複癌の一例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2024 年 2 月 3 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、河合賢二、高橋佑典、徳山信嗣、平尾素宏： How I Do It 嵌頓痔核。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 10 日

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、加藤健志、河合賢二、高橋佑典、徳山信嗣、平尾素宏：拡張率に注目した SSG 法の治療成績－アンケートによる術後 QOL の調査-。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 WS、熊本、2023 年 11 月 10 日

B-5
加藤健志：進行・再発大腸がん薬物療法 Update。第 10 回平成大腸癌カンファレンス、 神戸、2023 年 5 月 25 日

加藤健志：直腸癌治療　過去、現在、未来。大阪南部エリア NST 講演会、WEB、2023 年 6 月 9 日

加藤健志：大腸癌個別化医療の新たな展開。第 48 回北海道消化器癌化学療法研究会学術講演会、札幌、2023 年 6 月 16 日

加藤健志：BRAF 変異型大腸癌の最新の話題。BRAFTOVI ＋MEKTOVI Expert Meeting、Barcelona,Spain、2023 年 6 月 30 日

加藤健志：進行・再発大腸がん薬物療法 Update。第 18 回本郷大腸セミナー、東京、2023 年 11 月 13 日

加藤健志：PARADIGM 試験　Update。大腸癌薬物療法 Webinar、三島、2023 年 11 月 22 日

加藤健志：局所進行直腸癌治療 Update。消化器癌カンファレンス in 香川、高松、2023 年 12 月 15 日

B-6
後藤邦仁：肝臓がん・胆道がん・膵臓がん治療における最近の知見。大阪市中央区東医師会・法円坂地域医療フォーラム、大阪、2023 年 5 月 20 日

後藤邦仁：治癒切除不能胆道癌治療を考える会 in Osaka、大阪、2023 年 7 月 7 日

八十島宏行：プロジェクト Breast Cancer～One team for Patient～、大阪 2023 年 8 月 31 日

八十島宏行：納得の治療選択のための基礎知識：乳がん治療の今。がんの治療と暮らしフェア 2023、WEB、2023 年 11 月 26 日

八十島宏行：HER2 陽性乳癌周術期レジメンとフェスゴの役割。和歌山乳がん治療ネットワーク 2023、和歌山、2023 年 12 月 1 日

八十島宏行：HR 陽性 HER2 陰性進行再発乳癌の治療戦略。イブランス 6 周年講演会～最新情報と使用経験から考える mBC 患者への貢献～、大阪、2023 年 12 月 15 日

高橋佑典：人工肛門を回避する！～直腸癌に対する術前治療とロボット手術～。WEB シンポジウム「最も身近ながんは大腸癌～他人事ではありません、まずは知ることから～、大阪、2023 年 5 月 21 日

山本昌明、浜川卓也、竹野 淳、平尾素宏：食道胃接合部癌縦隔内吻合術後の逆流性食道炎に難渋した 1 例。第 40 回近畿過大侵襲研究会、大阪、2023 年 10 月 13 日

山本昌明、竹野淳、平尾素宏：当施設における胃癌術後補助化学療法の現状 。OSAKA Gaastric Cancer Weblecture、大阪、2023 年 11 月 30 日

山本昌明：進行胃がん手術のノウハウ。Gastrointestinal Cancer Meeting in Osaka 2024 、 大阪、2024 年 3 月 6 日

赤澤香、萩原佳菜、岡田公美子、八十島宏行：cN+乳癌における腋窩リンパ節のマネジメントと課題。第 150 回阪神乳腺疾患談話会、大阪、2024 年 3 月 1 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：虫垂が絞扼帯となり生じた絞扼性腸閉塞の 1 例。第 651 回大阪外科集談会、大阪、2023 年 12 月 2 日

木場瑞貴、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、 後藤邦仁、加藤健志、高見康二、平尾素宏：急速に増大した胃腫瘍に対して左上腹部内臓全摘術にて摘出し得た一例。第 650 回大阪外科集談会、大阪、2023 年 9 月 9 日

酒井康平、阿部 優、酒井健司、松井優紀、後藤邦仁、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野淳、加藤健志、平尾素宏、高見康二：肝細胞癌の孤立性縦隔転移の 1 例。第 649 回大阪外科集談会、大阪、2023 年 7 月 22 日

佐々木礼央、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、豊後雅史、徳山信嗣、松井優紀、赤澤香、山本昌明、河合賢二、岡田公美子、高橋佑典、八十島宏行、竹野淳、加藤健志、髙見康二、平尾素宏：胃に穿破し出血コントロール不良であった膵管内乳頭粘液性腺癌残膵再発に対して残膵全摘を施行した 1 例。第 653 回大阪外科集談会、大阪、2024 年 3 月 16 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、河合賢二、高橋佑典、徳山信嗣、平尾素宏：抗血栓剤を服用中の症例に対する肛門手術の検討。第 124 回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2023 年 6 月 10 日

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、平尾素宏：ALTA 施行後に発症した肛門周囲膿瘍、痔瘻の検討。第 125 回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2023 年 11 月 18 日

B-8

高橋佑典：大腸癌シリーズ第 5 回進行・再発大腸癌。第 5 回保険薬局 Oncology Seminar・大腸がんシリーズ研修、大阪、2023 年 11 月 22 日

高橋佑典：明日から実践！電気メスの基礎と安全使用のためのハンズオン。第 36 回日本内視鏡外科学会総会ハンズオンセミナー、横浜、2023 年 12 月 9 日

高橋佑典：右側結腸癌に対する腹腔鏡下手術部門。第 59 回専門医を目指す消化器外科セミナー、大阪、2023 年 12 月 15 日

河合賢二：大腸がん外科手術と術後補助化学療法。第 3 回保険薬局 Oncology Seminar・大腸がんシリーズ研修、大阪、2023 年 9 月 27 日

B-9

河合賢二：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2023 年 9 月 21 日

山本昌明：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLA 、大阪、2023 年 6 月 15 日

俊山礼志：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2023 年 12 月 7 日

松井優紀：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2023 年 5 月 18 日

形成外科

吉龍澄子

1999 年 7 月に形成外科の常勤医 1 名が赴任してスタートし、2000 年 4 月 1 日より診療科として形成外科を標榜しました。 2007 年 4 月より外科の中で診療を行ってきましたが、2009 年 7 月より形成外科は外科から独立した診療科となりました。

当院は形成外科学会の教育認定施設に認定され、形成外科専門医取得のための卒後教育にも当っています。新専門医制度では、大阪大学形成外科の中でのカリキュラムとなっています。現在形成外科医が 3 人の体制で診療を行っています。

当科は、自科で行う診療および複数の科とのチーム医療における再建外科を 2 本の柱として行ってきました。

自科としての診療では、主に顔面の皮膚悪性腫瘍、眼瞼悪性腫瘍、眼瞼形成術、皮膚皮下腫瘍、ケロイド、瘢痕拘縮などの皮膚外科手術を扱っています。
顔面の皮膚癌について、当科ではできるだけ整容的にそして侵襲を少なく治療するために、原則二期再建とし、切除後人工真皮で一時被覆し、永久標本で完全切除を確認後に再建する方針としています。こうすることで不必要に大きく正常組織を切除しないですむというメリットがあります。部位により 2 種類の人工真皮の使い分けも行っています。また整容的な結果になるように植皮方法や皮弁の切開線の工夫も行ってきました。顔面の腫瘍の中でも特に眼瞼の腫瘍は、腫瘍の治療という点からだけでなく、眼瞼の機能、および整容的にも満足のいく治療を行うのが重要と考えて治療方針を決め、再建術式も眼輪筋双茎皮弁や minimal cheek 皮弁、二期再建での眼輪筋皮弁 redraping 法などの術式を考案して、機能や外観をできるだけ左右対称に元通りになるように努めています。

腫瘍以外では、眼瞼下垂やなどのご紹介が近隣クリニック様より多くあり、こうした手術を多数行っています。特に眼瞼下垂の手術では整容面にも配慮し、眼瞼の陥凹を改善するために眼窩脂肪の固定術の追加などいくつか工夫を行い、整容的な結果を心がけています。また術後のドライアイの評価も定期的に行い、ドライアイなどの機能にも注意して手術をするようにしています。

その他、治療困難な真性のケロイドに対して、切除後の放射線照射療法を含む治療に取り組んでいます。当科は、全国で唯一ケロイドに対して組織内照射を行っていますので、症例や部位に応じて、切除後放射線外照射（電子線照射）あるいは組織内照射を使い分けて治療しています。ケロイドの他にも術後の創部の瘢痕拘縮の修正術も行っています。

もう 1 つの診療の柱として当科では、院内の外科系各科の癌の切除後の再建に取りくんできました。頭頚部再建、乳癌再建が主なものですが、その他、四肢、体幹の再建も増加しています。頭頚部再建症例は形成外科開設以来 300 例を超え、大部分がマイクロサージェリーによる遊離皮弁の症例です。外科、耳鼻科、口腔外科、形成外科、放射線科、脳外科などによるチーム医療体制が良好なため、安定した再建成績を維持できております。特に下顎再建では、顔面神経下顎縁枝麻

痺による術後の口唇の変形予防のための手術（筋膜移植）も行っています。
乳房再建は、主に自家組織の皮弁による再建を行ってきました。現在は自家組織の皮弁による乳房再建とインプラントによる再建のどちらも行っています。また他院で以前切除された乳癌術後の二期的な乳房再建も行っております。
今後も顔面や眼瞼の悪性腫瘍、頭頚部や乳房の再建外科、眼瞼の形成外科、皮膚外科を中心に診療する方針です。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Kudawara I, Yoshitatsu S : Limb Salvage Surgery using Autogenous Irradiated Bone Graft for Low-grade Central Osteosarcoma of the Distal Tibia:A Case Report Journal of Foot and Ankle Surgery (Asia-Pacific), 10(3): 140-144, 2023

A-2

吉龍澄子、久保盾貴：顔面悪性腫瘍「顔の外科」小川令　編集　金芳堂出版株式会社、p 46-70、2024 年 2 月

B-3

吉龍澄子 : 皮膚腫瘍専門医教育セミナー　～悪性軟部腫瘍の診断と治療～。第 66 回日本形成外科学会総会学術集会、2023 年 04 月 26 日～04 月 28 日(長崎）

吉龍澄子：人工真皮による顔面悪性腫瘍の二期的再建－人工真皮の比較、当院における人工真皮の選択と術式の考案ー。第 15 回日本創傷外科学会総会・学術集会、ランチョンセミナー共催　アルケア株式会社、2023 年 7 月 13 日　（東京）

吉龍澄子：最良の再建を目指して眼瞼皮膚・結膜悪性腫瘍における腫瘍完全切除と機能と整容を兼ね備えた最良の再建を目指して。第 39 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、2023 年 8 月 5 日（名古屋市）

B-４

吉龍澄子、田中弘之、名和沙織：人工真皮による顔面悪性腫瘍の二期的再建　ー人工真皮の使い分けー。第 66 回日本形成外科学会総会学術集会、2023 年 04 月 26 日～04 月 28 日(長崎）

B-5

吉龍澄子：眼瞼の再建方法の工夫　ー機能と整容の再建ー。第 3 回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、2023 年 8 月 26 日　（大阪市）

B-6

植田彩音、吉龍澄子、名和沙織、広瀬由美子：診断に苦慮した大腿部中間悪性軟部腫瘍の一例。第 134 回関西形成外科学会学術集会、2023 年 7 月 9 日（大阪市天

王寺区）

整形外科

三木秀宣

当科では、股・膝関節に対する人工関節手術、脊椎疾患に対する脊椎外科手術、手の外科手術に関する高度な専門診療と上下肢の外傷手術をメインに行っております。

1. 末期変形性関節症に対する人工関節置換術
   - 術前3D-CT画像データを用いた術中ナビゲーション支援及びロボットアーム支援手術による再現性の高い正確な人工関節手術や最小侵襲手術法(MIS; Minimally Invasive Surgery)を施行しています。
   - 人工股関節手術においては、前方系アプローチと後方系アプローチを病状に応じて使い分け、上記の技術と併用することにより、術後下肢機能のさらなる向上および術後人工股関節脱臼の発生頻度減少を実現し、術後動作制限のない手術を行っています。
   - 人工膝関節においては、全人工膝関節置換術(TKA)、片側置換型の人工膝関節手術(UKA)も施行しており、ロボット手術による安心安全な手術、入院期間の短縮とともに早期社会復帰を目指し良好な治療成績を挙げている。

2. 各種脊椎疾患に対する脊椎外科手術
   - 腰部脊柱管狭窄症や頸椎症性脊髄症に代表される各種脊椎変性疾患に対する外科的治療（脊椎除圧・固定術）を中心に治療を行っている。85歳を超えるような超高齢者であっても、外科的治療の対象となる病態を有する症例に対しては、その合併症を管理しながら積極的に外科治療を行い、QOLを維持・改善できるよう努めている。
   - さらに上記の脊椎変性疾患以外に脊椎外傷や転移性脊椎腫瘍、化膿性脊椎炎など種々の難治性脊椎疾患に対しても、外科的治療の適応があれば積極的に治療を行っている。

3. 手外科および上肢外傷手術
   - 絞扼性神経障害、母指CM 関節症をはじめとする変形性関節症、良性腫瘍、拘縮指や変形矯正、デュピュイトラン拘縮、TFCC 損傷といった専門的加療が必要な疾患に対応している。
   - 上肢外傷全般（鎖骨骨折、前腕骨骨折、肘関節周囲骨折、上腕骨骨折、指節骨骨折のほか、腱断裂や神経断裂など）の外傷についても積極的に手術加療を行い、懇切丁寧な診療を心掛けている。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Arimitsu S, Masatomi T, Shigi A, Yukioka M, Moritomo H: Ligamentoplasty using the ulnotriquetral ligament with wafer procedure for chronic triangular fibrocartilage complex foveal tear: Short-tem outcome. J Orthop Sci. 29(1): P141-145, 2024 年 1 月 1 日

Iwasa M, Hamada H, Uemura K, Ando W, Takao M, Sugano N: Errors in the radiographic measurement of pelvic incidence. J Orthop Res. 41(6): P1266-1272, 2023 年 6 月 4 日

Iwasa M, Ando W, Uemura K, Hamada H, Takao M, Sugano N: Reply to the Letter to the Editor: Is There an Association Between Femoral Head Collapse and Acetabular Coverage in Patients With Osteonecrosis? Clin Orthop Relat Re. 481(7): P1453-1454, 2023 年 7 月 1 日

Kunugiza Y, Tamaki M, Miyamoto T, Tsuji S, Takahi K, Nishikawa M, Yoshida A, Nomura K, Iwamoto K, Fujito T, Toge K, Ishibashi T, Okada S, Tomita T. Gram staining of the preoperative joint aspiration for the diagnosis of infection after total knee arthroplasty. J Joint Surgery and Res. 1(1): P175-178, 2023 年 7 月 27 日

Kudawara I, Yoshitatsu S. Limb Salvage Surgery Using Autogenous Irradiated Bone Graft for Low-grade Central Osteosarcoma of the Distal Tibia: A case report. J Foot Ankle Surg. (Asia Pacific)10(3): P140-144, 2023 年 7 月 1 日

Kudawara I: Enchondral ossification of an intramuscular hemangioma in the thigh: A case report. J Orthopaedic Report 2(3): P100182, 2023 年 9 月 1 日

A-2

有光小百合、森友寿夫：舟状月状骨不安定性の Stage 分類およびその病態「Monthly Orthopaedics」37(1): P.1-7、全日本病院出版会、2024 年 1 月 15 日

A-3

有光小百合、森友寿夫 : Kienböck 病に対する有頭骨部分短縮骨切り術「関節外科」42(8): P.31-37、メディカルビュー社、2023 年 8 月 19 日

B-2

Aono H, Okuda A, Kiuchi T, Takeshita H, Nagata K, Takenaka S, Ito Y: Risk factor for Insufficient Reduction of Intracanal Fragment after Short-segment Posterior Fixation for Thoracolumbar Burst Fractures -Multicenter Study-.　23th Annual Conference of International Society for the Advancement of Spine Surgery, San Francisco, 2023 年 6 月 3 日

Aono H, Okuda A, Kiuchi T, Takeshita H, Nagata K, Takenaka S, Ito Y: Risk factor for Insufficient Reduction of Intracanal Fragment after Short-segment Posterior Fixation for Thoracolumbar Burst Fractures -Multicenter Study-. Annual Meeting of Eurospine 2023, Frankfurt, 2023 年 10 月 5 日

Ishiguro H, Takenaka S, Hamamoto S, Hoshiyama M, Tsukazaki H, Hayashi J, Sakai Y, Kamatani T, Fujimori T, Kanie Y, Kaito T: Comparison of postoperative recovery of upper limb motor deficit between anterior spinal fusion and posterior cervical foraminotomy for cervical spondylotic radiculopathy. 23th Annual Conference of International Society for the Advancement of Spine Surgery, San Francisco, 2023 年 6 月 3 日

Ishiguro H, Takenaka S, Hamamoto S, Hoshiyama M, Tsukazaki H, Hayashi J, Sakai Y, Kamatani T, Fujimori T, Kanie Y, Kaito T: Comparison of postoperative recovery of upper limb motor deficit between anterior spinal fusion and posterior cervical foraminotomy for cervical spondylotic radiculopathy. Annual Meeting of Eurospine 2023, Frankfurt, 2023 年 10 月 5 日

Kono K, D'Lima D, Yamazaki T, Tamaki M, Iwamoto K, Konda S, Ishibashi T, Taketomi S, Yamagami R, Kawaguchi K, Murakami R, Kage T, Arakawa T, Inui H, Tanaka S, Tomita T：Can Cadaver Testing Replicate In Vivo Kinematics of Total Knee Arthroplasty? 70th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, California, 2024 年 2 月 2 日

Endo M, Kojima Y, Arakaki M, Nishikawa T, Hoshina Y, Anjo K, Machida R, Hirakawa A, Ichimura M, Okuma H, Nakamura K, Kudawara I, Takahashi M, Yonemori K：Atezolizumab in Japanese patients with advanced alveolar soft part sarcoma: a multi-center, single-arm, investigator-initiated phase 2 trial (NCCH1907). Annual Meeting of the Connective Tissue Oncology Society 2023, Dublin, 2023 年 11 月 1 日

B-3
三木秀宣：ロボティックアーム支援システム MAKO の導入。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

青野博之：胸腰椎破裂骨折に対する temporary short-segment Fixation。第 26 回日本低侵襲脊椎外科学会、博多、2023 年 11 月 16 日

岩佐 諦：当院における Mainstay の使用状況。Mainstay Conference、大阪、2023 年 9 月 16 日

岩佐 諦：Artificial intelligence を用いた変形性股関節症患者の股関節周囲筋評価。第 32 回日本コンピューター外科学会大会、鹿児島、2023 年 12 月 2 日

B-4
青野博之、奥田哲教、菊地 剛、竹下博志、長田圭司、武中章太、伊藤康夫：胸腰椎破裂骨折に対する Short-segment Fixation における骨折脊柱管占拠率　改善因子の検討―近畿 5 府県での多施設研究―。第 52 回日本脊椎脊髄病学会、札幌、2023 年 4 月 13 日

青野博之：椎間への骨移植にこだわった PLIF。第 30 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会、東京、2023 年 11 月 16 日

青野博之、武中章太、飛松秀和、長本行隆、古家雅之、山下智也、石黒博之、大西厚範、岩﨑幹季：PLIF 後ケージ後方脱転の予防対策。第 32 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、米子、2023 年 11 月 24 日
有光小百合、森友寿夫、信貴厚生、正富 隆、行岡正雄：CM 関節症に対する swive lock を用いた一皮切完結型トンプソン変法の治療成績。第 66 回日本手の外科学会学術集会、東京、2023 年 4 月 20 日

岩佐諦、三木秀宣、橋本佳周、北田 誠：人工股関節全置換術後晩期脱臼に対する Computed Tomography-Based Navigation system 使用の有効性。第 50 回日本股関節学会、福岡、2023 年 10 月 27 日

岩本圭史、宮本隆司、三木秀宣：Constrained Posterior Stabilized (CPS)型 TKA の短期成績。第 1 回日本膝関節学会、横浜、2023 年 12 月 8 日

岩本圭史、宮本隆司、三木秀宣：Constrained Posterior Stabilized (CPS)型 TKA の短期成績。第 54 回日人工関節学会、京都、2024 年 2 月 23 日

石黒博之、武中章太、釜谷崇志、星山政輝、藤森孝人、蟹江祐哉、海渡貴司：頚椎症性神経根症による上肢麻痺に対する前方固定術と椎間孔拡大術の術後成績の比較。第 52 回日本脊椎脊髄病学会、札幌、2023 年 4 月 13 日

石黒博之、安田直弘、大西厚範、青野博之、久田原郁夫：頚椎脊柱管内に発生した遺伝性多発性骨軟骨腫に対する腫瘍切除術の 1 例。第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2023 年 7 月 13 日

岩佐 諦、三木秀宣、橋本佳周、北田 誠：Mako Robotic system を用いた cup 設置に関する臨床設置成績。第 18 回日本 CAOS 研究会、山口、2024 年 3 月 7 日

岩佐 諦、三木秀宣、橋本佳周、北田誠：人工股関節全置換術後晩期脱臼に対する Computed Tomography-Based Navigation system 使用の有効性。第 54 回日本人工関節学会、京都、2024 年 2 月 24 日

久田原郁夫、安田直弘：四肢長管骨発生の軟骨肉腫(grade 1)に対する掻爬術の長期成績。第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、京都、2023 年 7 月 13 日

B-5
久田原郁夫：胸壁軟部腫瘍。関西骨軟部放射線勉強会、Web、2023 年 9 月 7 日

久田原郁夫：仙腸関節炎。関西骨軟部放射線勉強会、Web、2023 年 11 月 9 日

B-6
久田原郁夫：第 1 中足骨骨腫瘍の 1 例。第 158 回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2023 年 9 月 16 日

B-9

石黒博之: 第 41 回 DOCTOR’s FLAP、FM 大阪　LOVE FLAP、大阪、2024 年 1 月 18 日

脳神経外科

藤中俊之

脳神経外科は脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、不随意運動などの機能的疾患、脊椎脊髄疾患や末梢神経疾患も担当する大変領域の広い診療科ですが、当科では脳神経外科の各領域のうち、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷に特に注力し高度な診療を行っています。手術件数は年間500件以上（2023年1月-12月：518件）であり地域の中核施設の役割を担っています。

脳血管障害に対しては、脳神経内科と協力して脳卒中センターとして365日24時間体制で対応しています。急性期脳卒中患者に対しては、病態に応じて、開頭手術や脳血管内治療などの適切な治療を速やかに行い、発症からできるだけ早期にリハビリテーションを開始するとともに、地域連携パスを利用して後方病院でのスムーズな治療の継続を図っています。また、未破裂脳動脈瘤や慢性期脳血管障害に対しても十分な検討とインフォームドコンセントを行ったうえで積極的に治療を行っています。脳血管内治療に関しては、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医が複数在籍しており、高度な治療、最新のデバイスを用いた治療が可能です。実施医や実施施設が限定されている脳動脈瘤に対するフローダイバーターステントや脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する液体塞栓物質（Onyx）を用いた治療も数多く行っています。他施設での技術指導や全国からの見学者の受け入れも多く行っており、脳血管内治療分野での指導的施設になっています。新規血管内治療機器の治験や市販後調査、多施設共同研究にも積極的に参加しています。

脳腫瘍については、術前に詳細な画像評価を行い、術中はナビゲーションシステムや脳波・筋電図等によるモニタリングを駆使し安全・確実な手術を行っています。なかでも、中枢神経原発腫瘍の代表である神経膠腫に対しては、術中ナビゲーションやモニタリングに加え、5-アミノレブリン酸による蛍光反応ガイド下に手術を行うことで、機能温存を図りながら最大限の摘出を行うように努めています。特に機能的に重要な部位に発生した腫瘍においては、言語や高次機能を損なうことなく安全に手術を行うため麻酔科、リハビリテーション科の協力のもと覚醒下手術も行っています。また、化学療法、分子標的薬、放射線治療の進歩により癌種ごとの治療方針が必要となっている転移性脳腫瘍や、希少がんである神経膠種や悪性リンパ腫などに対して、疾患ごとに遺伝子診断など先進的な手法も用いて最適な治療方法を検討し集学的な治療を行っています。

頭部外傷については救命救急センターと連携し重症頭部外傷にも対応しています。個々の外傷患者の背景や病態は様々ですが、それぞれに最善と考えられる治療方針をとるように検討を行っています。

研修医、レジデント教育にも力を入れています。毎週の症例検討会の他に脳神経内科医、救急医との合同症例検討会、抄読会などを行っています。また、顕微鏡手術については手術室外でもトレーニングが行えるよう、実体顕微鏡を購入し人工血管モデル等を用いた卓上での組織剥離・血管吻合の練習を奨励しています。当科は日本脳神経外科学会、日本脳神経血管内治療学会、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会の研修施設に認定されており各領域の専門医育成にも注力しています。学会発表についても活発に行っており、順次、論文化して国内外の医学雑誌に発表しています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Fukusumi H, Togo K, Beck G, Shofuda T, Kanematsu D, Yamamoto A, Sumida M, Baba K, Mochizuki H, Kanemura Y: Human induced pluripotent stem cell line (ONHi001-A) generated from a patient with infantile neuroaxonal dystrophy having PLA2G6 c.517C > T (p.Q173X) and c.1634A > G (p.K545R) compound heterozygous mutations. 「Stem Cell Res」 69:103122、2023 年 6 月

Nishimoto K, Ozaki T, Kidani T, Nakajima S, Kanemura Y, Yamazaki H, Fujinaka T: Flow Diverter Stenting for Symptomatic Intracranial Internal Carotid Artery Aneurysms: Clinical Outcomes and Factors for Symptom Improvement. 「Neurol Med Chir (Tokyo)」 63(8):343-349、2023 年 6 月 8 日

Mizushima M, Okamoto M, Yamaguchi S, Oki S, Motegi H, Sugiyama M, Manabe A, Shimizu A, Nishioka K, Hashimoto T, Hirato J, Kanemura Y, Fujimura M: Slow-growing WNT medulloblastoma with atypical magnetic resonance imaging findings: illustrative case. 「J Neurosurg Case Lessons」 6(7): CASE23277、2023 年 8 月

Hiramatsu M, Ozaki T, Tanoue S, Mizutani K, Nakamura H, Tokuyama K, Sakata H, Matsumaru Y, Nakahara I, Niimi Y, Fujinaka T, Kiyosue H: Detailed Anatomy of Bridging Veins Around the Foramen Magnum: a Multicenter Study Using Three-dimensional Angiography. 「Clin Neuroradiol」 34(1): P67-74、2023 年 8 月 8 日

Fukuoka K, Kurihara J, Shofuda T, Kagawa N, Yamasaki K, Ando R, Ishida J, Kanamori M, Kawamura A, Park YS, Kiyotani C, Akai T, Keino D, Miyairi Y, Sasaki A, Hirato J, Inoue T, Nakazawa A, Koh K, Nishikawa R, Date I, Nagane M, Ichimura K, Kanemura Y: Subtyping of Group 3/4 medulloblastoma as a potential prognostic biomarker among patients treated with reduced dose of craniospinal irradiation: a Japanese Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group study. 「Acta Neuropathol Commun」 11(1):153、2023 年 9 月

Kidani T, Ozaki T, Nakajima S, Kanemura Y, Izutsu N, Kawamoto S, Taki K, Murakami K, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T: Predictors of Middle Meningeal Artery-Related Vascular Diseases Associated with Blunt Head Trauma. 「World Neurosurg」 180:e667-e675、2023 年 10 月 7 日

Fujimi Y, Ozaki T, Izutsu N, Nakajima S, Kanemura Y, Kidani T, Kawamoto S, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujinaka T: Fungal symptomatic intracranial aneurysm treated with a flow diverting stent: A case report. 「Surgical Neurology International」 vol.15,18、2024 年 2 月 23 日

Takenaka T, Nakamura H, Yamada S, Kidani T, Tateishi A, Toyota S, Fujinaka T, Taki T, Wakayama A, Kishima H: A novel predictor of ischemic complications in the treatment of ruptured middle cerebral artery aneurysms: Neck-branching angle. 「World Neurosurg X」 23: 100370、2024 年 3 月 25 日

A-2

福角勇人、金村米博：神経幹細胞の培養と分化「細胞培養・組織培養の技術 第 4 版」 日本組織培養学会 編、P.249-253、株式会社朝倉書店、東京、2023 年 7 月 1 日

浅井克則、藤中俊之 : 大阪医療センターのチーム運営「二刀流術者のための脳血管障害手術」豊田真吾 編集、p.150-152 メディカ出版、2023 年 10 月 1 日

井筒伸之 : 側脳室、第三脳室「BRIAN NURSING 第 39 巻 6 号」木下学 編集、P.72−81、メディカ出版、2023 年 11 月 1 日

藤中俊之 : くも膜下出血（SAH）の病態と診断「必携 脳卒中ハンドブック 改訂第 4 版」高嶋修太郎、伊藤義彰 編集、P336-346、診断と治療社、2024 年 3 月 22 日

藤中俊之 : くも膜下出血（SAH）の治療「必携 脳卒中ハンドブック 改訂第 4 版」高嶋修太郎、伊藤義彰 編集、P347-353、診断と治療社、2024 年 3 月 22 日

A-3
園田順彦、松田憲一朗、伊藤美以子、齋藤竜太、金森政之、金村米博、冨永悌二 : 再発小児悪性脳腫瘍に対する手術療法「小児の脳神経」48(1):33-38、2023 年 4 月 12 日

藤中俊之 : Y-stent technique を用いた脳動脈瘤塞栓術「脳神経外科速報」34(1) : P89-95、メディカ出版、2024 年 1 月 10 日

A-4
中島 伸 : 検査結果は異常なのに症状がない！「レジデントノート」25(1):p.153-154、羊土社、2023 年 4 月 1 日

中島 伸 : うまくいく秘訣は直前の打合せ「レジデントノート」25(3):p.535-537、羊土社、2023 年 5 月 1 日

中島 伸 : ChatGPT を使ってみた「レジデントノート」25(4):p.681-683、羊土社、2023 年 6 月 1 日

中島 伸 : 続・ChatGPT を使ってみた「レジデントノート」25(6):p.1141-1143、羊土社、2023 年 7 月 1 日

中島 伸 :「俺、ヤバい！」「レジデントノート」25(7):p.1295-1297、羊土社、2023 年 8 月 1 日

中島 伸 : 自損事故の原因「レジデントノート」25(9):p.1705-1707、羊土社、2023 年 9 月 1 日

中島 伸 : 軽症頭部外傷あれこれ（その 1）「レジデントノート」25(10):p.1861-1863、羊土社、2023 年 10 月 1 日

中島 伸 : 軽症頭部外傷あれこれ（その 2）「レジデントノート」25(12):p.2253-2255、羊土社、2023 年 11 月 1 日

中島 伸 : 軽症頭部外傷あれこれ（その 3）「レジデントノート」25(13):p.2401-2403、羊土社、

2023年12月1日

中島 伸：軽症頭部外傷あれこれ（その 4）「レジデントノート」25(15):p.2825-2827、羊土社、2024年1月1日

中島 伸：勉強は道楽、受験はゲームだ「レジデントノート」25(16):p.2983-2985、羊土社、2024年2月1日

中島 伸：連載の終了にあたって「レジデントノート」25(18):p.3414-3415、羊土社、2024年3月1日

金村米博：Medulloblastoma「Clinical Neuroscience」41(4):518-522、2023年4月1日

金村米博：小児脳腫瘍の分類・診断「脳神経外科」51(5)778-788、2023年9月10日

金村米博：脳梗塞の再生医療「再生医療」22(3):150-155、2023年10月31日

B-1

Fujinaka T, Ozaki T, Nakamura H: Endovascular Treatment for Unusual Cerebral Aneurysms. The 66th Anniversary Commemorative Meeting of The Yonsei Neurosurgery, Kyu Chang Lee Memorial Cerbrovascular Symposium, Seoul, Korea、2023年5月19日

Fujinaka T: Endovascular treatment for traumatic cerebrovascular injury. The 7th BNS Bi-Neurovascular Symposium, Busan, Korea、2023年9月22日

B-2

Izutsu N, Nishizawa N, Nakajima S, Kanemura Y, Ozaki T, Asai K, Kidani T, Kawamoto S, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T: Cervical internal carotid artery dissecting aneurysm with high-flow false lumen causing lower cranial nerve palsies treated by flow diverter stenting: A case report. The 16th Korea-Japan Joint Conference on Surgery for Cerebral Stroke, Gifu, 2023年9月14日

Matsuyama Y, Kanemura Y, Yasojima H, Matsunaga T, Nishimura H: A case of multiple clinical manifestations leading to the diagnosis of Alstrom syndrome. Human Genetics Asia 2023、Tokyo, Japan、2023年10月14日

Asai K, Izutsu N, Kidani T, Fujinaka T：Endovascular treatment for ruptured dissecting aneurysms. 2nd Toronto Osaka Neurointerventional Conference, Osaka (Web), 2023年12月6日

B-3

荒川芳輝、山崎夏維、前林勝也、副島俊典、加藤実穂、瀧本哲也、市村幸一、金村米博、信澤純人、平戸純子、義岡孝子、山本哲哉、坂本博昭、原 純一、西川 亮、隈部俊宏：小児脳腫瘍に対する治療の進歩と今後。第126回日本小児科学会学術集会、東京都港区、2023年4月15日

川路博史、中戸川裕一、佐藤史崇、稲永親憲、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：Private hospital での WHO 第 5 版に準じた脳腫瘍診断:中央分子診断システムを利用することによる効果の検証。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

金村米博、黒瀬 顕：病理中央診断 vs. 施設診断。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 27 日

藤中俊之、尾崎友彦、浅井克則、木谷知樹、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、村上慶次朗、小林弘治、藤見洋佑、野本未佳子、木田将義、金村米博、中島 伸：症候性内頚動脈瘤に対する Flow Diverter 治療成績と症状改善に関わる因子。第 29 回日本血管内治療学会学術総会、東京、2023 年 7 月 1 日

藤中俊之：Pipeline™ Technical Tips。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 27 日

金村米博：全医療職が参加する医療機器開発拠点（Bi-AMPS）の取り組み。第 77 回国立病院総合医学会、広島市、2023 年 10 月 20 日

中戸川裕一、川路博史、林 宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：半球性の H3F3A 遺伝子変異の glioma の臨床的特徴について。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 27 日

藤中俊之、井筒伸之、浅井克則、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、藤見洋佑、野本未佳子、木田将義、金村米博、中島 伸：破裂広頚脳動脈に対する staged treatment：急性期意図的部分塞栓術＋早期根治的追加治療の成績。第 66 回日本脳循環代謝学会学術集会、福岡、2023 年 11 月 10 日

藤中俊之、浅井克則、木谷知樹、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、小林弘治、藤見洋佑、野本未佳子、木田将義、金村米博、中島 伸：未破裂前交通動脈瘤に対する血管内治療。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 23 日

藤中俊之：MPC-Polymer がもたらす今後の Flow Diverter 治療の未来。Stroke2024（第 53 回日本脳卒中の外科学会学術集会、第 49 回日本脳卒中学会学術集会）、横浜、2024 年 3 月 7 日

藤中俊之：Target Tetra™ を用いた脳動脈瘤塞栓術。Stroke2024（第 53 回日本脳卒中の外科学会学術集会、第 49 回日本脳卒中学会学術集会）、横浜、2024 年 3 月 7 日

藤中俊之：小型・中型 side wall aneurysm に対する治療選択～coil or FD～。第 53 回日本脳卒中の外科学会学術集会、横浜、2024 年 3 月 8 日

B-4

井筒伸之、小林弘治、中島 伸、金村米博、尾崎友彦、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、村上慶次朗、藤見洋佑、藤中俊之：症候性部分血栓化巨大椎骨動脈瘤に対するフローダイバーター留置術後に脳幹症状が増悪した 1 例。第 10 回日本心血管脳卒中学会学術集会、東京、2023 年 4 月 15 日

小林弘治、木谷知樹、中島 伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：側脳室前角穿刺における シリンジ法の有用性の検討。第 32 回脳神経外科手術と機器学会(CNTT2023)、富山、2023 年 4 月 21 日

井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：救命救急科と脳神経外科による外傷診療協力体制における頭蓋内圧モニタリングの活用。第 29 回日本脳神経モニタリング学会、大阪、2023 年 7 月 1 日

小林弘治、木谷知樹、中島 伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：外傷性内頚動脈海綿静脈洞瘻に対して血管内治療を行った 4 例の検討。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 24 日

荒川芳輝、川内 豪、牧野恭秀、吉岡絵麻、正札智子、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、宮本亨、金村米博：BRAF V600E 変異型神経膠腫の後方視的解析。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

中村和貴、菊地善彰、松田憲一朗、金村米博、園田順彦：高齢者膠芽腫の予後因子に関する検討。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

中島 伸：医療従事者の心理的安全を確保するための工夫。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日

浅井克則、木谷知樹、井筒伸之、木田将義、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、西澤尚起、川本早希、金村米博、中島 伸、藤中俊之：BA-SCA 動脈瘤に対する血管内治療における SCA ステント留置の有効性と安全性。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 82 回学術総会、横浜、2023 年 10 月 25 日

真田隆広、木下 学、佐々木貴浩、林 宣秀、深井順也、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、有田英之、森 鑑二、石橋謙一、西田南海子、谷野美智枝、児玉良典、眞能正幸、金村米博：膠芽腫の造影 T1 強調画像による MGMT 遺伝子プロモーター領域のメチル化の予測。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

平井健太郎、萩岡起也、高野浩司、金村米博、有田英之：Gyriform Infiltration は IDH 野生型グリオーマの浸潤領域を示唆する。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

呉 浩一、川内 豪、牧野恭秀、勝間亜沙子、吉岡絵麻、正札智子、寺田行範、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、荒川芳輝、金村米博：BRAF V600E 変異型神経膠腫の後方視的解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、木嶋教行、沖田典子、森 鑑二、金村米博、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

大谷理浩、藤井謙太郎、石田穣治、佐々木達也、水田 亮、井上陽平、鷲尾佳奈、遠西大輔、柳井広之、松下博和、里見介史、金村米博、義岡孝子、平戸純子、市村幸一、伊達 勲：マルチモダリティを用いた WHO 新分類への対応と現状。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

藤見洋佑、井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、宇野貴宏、小林弘治、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：コラーゲン使用吸収性人工硬膜と癒着防止吸収性バリアを使用した減圧開頭術後の頭蓋形成術に関する検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

沖田典子、千田大樹、宇津木玲奈、村上皓紀、館 哲郎、黒田秀樹、平山龍一、木嶋教行、有田英之、有澤亜津子、木下 学、藤本康倫、香川尚己、金村米博、貴島晴彦：膠芽腫での MRI perfusion による MGMT プロモーターメチル化と予後予測について。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 26 日

木谷知樹、木田将義、野本未佳子、藤見洋佑、小林弘治、西澤尚起、川本早希、井筒伸之、浅井克則、尾崎友彦、金村米博、中島 伸、藤中俊之：Aneurysmal SAH 術後脳血管攣縮管理のクラゾセンタン投与による体液貯留の現状と対策。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜、2023 年 10 月 27 日

井筒伸之、尾﨑友彦、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：破裂脳動脈瘤に対する急性期意図的部分塞栓術の治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜、2023 年 10 月 27 日

中村和貴、松田憲一朗、大江倫太郎、二口 充、金村米博、園田順彦：脊髄神経膠腫の臨床像についての検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日～11 月 30 日（ポスターオンデマンド配信）

川路博史、中戸川裕一、仲村友博、佐藤史崇、荒川朋弥、林 正孝、山添知宏、稲永親憲、正

札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：Private hospital での WHO 第 5 版に準じた Glioma 診断：中央分子診断システムを利用することの意義。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日～11 月 30 日（ポスターオンデマンド配信）

呉 浩一、勝間亜沙子、牧野恭秀、山本悦子、吉岡絵麻、正札智子、寺田行範、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、市村幸一、平戸純子、佐々木惇、西川 亮、伊達 勲、永根基雄、荒川芳輝、金村米博：髄芽腫の分子診断：国内症例の特徴と WNT の診断方法。第 11 回 Neuro-Oncology WEST、大阪市淀川区、2023 年 11 月 11 日

浅井克則、木谷知樹、井筒伸之、木田将義、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、西澤尚起、川本早希、金村米博、中島 伸、藤中俊之：BA-SCA 動脈瘤に対する血管内治療における SCA ステント留置の有効性と安全性。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 23 日

木谷知樹、木田将義、野本未佳子、藤見洋佑、小林弘治、西澤尚起、川本早希、井筒伸之、浅井克則、金村米博、中島 伸、藤中俊之：当院における未破裂中大脳動脈瘤治療の変遷と成績。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 23 日

藤見洋佑、井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、宇野貴宏、小林弘治、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：脊髄くも膜下出血後の脳血管攣縮により脳梗塞を発症した一例。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 23 日

西澤尚起、木谷知樹、中島 伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、川本早希、小林弘治、藤見洋佑、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：血管内治療後再発脳動脈瘤に対するフローダイバーターステント留置術の治療成績。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 23 日

野本未佳子、木谷知樹、浅井克則、井筒伸之、木田将義、小林弘治、藤見洋佑、西澤尚起、川本早希、金村米博、中島 伸、藤中俊之：未破裂内頚動脈-前脈絡叢動脈分岐部脳動脈瘤の当院における治療成績。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 23 日

木谷知樹、木田将義、野本未佳子、藤見洋佑、小林弘治、西澤尚起、川本早希、井筒伸之、浅井克則、尾崎友彦、藤中俊之：Aneurysmal SAH 術後脳血管攣縮管理のクラゾセンタン投与による体液貯留の現状と対策。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 24 日

木谷知樹、尾崎友彦、木田将義、野本未佳子、藤見洋佑、小林弘治、西澤尚起、川本早希、井筒伸之、浅井克則、藤中俊之：外傷性中硬膜動脈損傷の診断と血管内治療。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 25 日

井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：脳動脈瘤破裂急性期における意図的部分塞栓術の

治療成績。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 25 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、木嶋教行、沖田典子、森 鑑二、金村米博：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

真田隆広、木下 学、佐々木貴浩、山本祥太、藤川征也、福山秀青、林 宣秀、深井順也、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、有田英之、森 鑑二、石橋謙一、高野浩司、西田南海子、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、谷野美智枝、児玉良典、眞能正幸、金村米博：膠芽腫の造影 T1 強調画像による MGMT 遺伝子プロモーター領域のメチル化の予測。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

有田英之、平井健太郎、萩岡起也、高野浩司、金村米博：MRI における皮質限局の脳回腫大所見は IDH 野生型グリオーマの浸潤領域を示唆する。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

沖田典子、千田大樹、宇津木玲奈、川本有輝、中河寛治、村上皓紀、館 哲郎、黒田秀樹、平山龍一、木嶋数行、有田英之、有澤亜津子、木下 学、藤本康倫、香川尚己、金村米博、貴島晴彦：膠芽腫での MRl perfusion による MGMT プロモーターメチル化と予後予測について。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

林 宣秀、深井順也、中戸川裕一、川路博史、沖田典子、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、中尾直之、森 鑑二、金村米博：H3 K27M 変異視床グリオーマの臨床･画像学的特徴．第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

中村和貴、松田憲一朗、大江倫太郎、二口 充、金村米博、園田順彦：脊髄神経膠腫の臨床像についての検討。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

西川真弘、井上明宏、大西丘倫、金村米博、尾崎沙耶、松本 調、末廣 諭、山下大介、重川誠二、渡邉英昭、國枝武治：膠芽腫再発の鍵となる腫瘍幹細胞における低酸素環境下の形質転換。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 4 日

中戸川裕一、川路博史、林 宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：半球性の H3F3A 遺伝子の変異をもつ non-midline glioma の臨床的特徴について。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 4 日

藤見洋佑、尾崎友彦、木谷知樹、中島 伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、宇野貴宏、小林弘治、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：慢性硬膜下血腫の血腫被膜の造影効果と再発率の関係性について。第 47 回日本脳神経外傷学会、東京、2024 年 3 月 1 日

木田将義、木谷知樹、中島伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、宇野貴弘、野本未佳子、藤見洋祐、小林弘治、藤中俊之：当院における頭蓋形成術 41 例の検討。一般社団法人 日本脳神経外傷学会、第 47 回日本脳神経外傷学会、東京、2024 年 3 月 1 日

小林弘治、木谷知樹、中島 伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：外傷性内頚動脈海綿静脈洞瘻に対して血管内治療を行った 4 例の検討。第 47 回日本脳神経外傷学会、東京、2024 年 3 月 2 日

西澤尚起、木谷知樹、中島 伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、川本早希、小林弘治、藤見洋佑、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：脳内出血で発症した外傷性偽性中硬膜動脈瘤破裂に対してコイル塞栓術を行った 1 例。第 47 回日本脳神経外傷学会、東京、2024 年 3 月 2 日

井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、宇野貴宏、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：視神経管骨折を伴う外傷性視神経障害に対する治療成績。第 47 回日本脳神経外傷学会、東京、2024 年 3 月 2 日

藤中俊之、浅井克則、木谷知樹、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、小林弘治、藤見洋佑 野本未佳子、木田将義、金村米博、中島 伸：Hybrid Neurosurgeon による脳動脈瘤治療 ～利点と課題～、第 53 回日本脳卒中の外科学会学術集会、横浜、2024 年 3 月 7 日

浅井克則、井筒伸之、木谷知樹、木田将義、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、西澤尚起、川本早希、金村米博、中島 伸、藤中俊之：後方循環非分岐部動脈瘤に対するフローダイバーター留置術の治療成績。第 53 回日本脳卒中の外科学会学術集会、横浜、2024 年 3 月 7 日

木谷知樹、木田将義、野本未佳子、藤見洋佑、小林弘治、西澤尚起、川本早希、井筒伸之、浅井克則、金村米博、中島 伸、藤中俊之：未破裂中大脳動脈瘤に対する当院の治療方針とその成績。第 53 回日本脳卒中の外科学会学術集会、横浜、2024 年 3 月 7 日

井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：ステント留置を回避した部分的コイル塞栓術による脳動脈瘤破裂急性期の治療成績。第 53 回日本脳卒中の外科学会学術集会、横浜、2024 年 3 月 8 日

野本未佳子、木谷知樹、浅井克則、井筒伸之、木田将義、小林弘治、藤見洋佑、西澤尚起、川本早希、金村米博、中島 伸、藤中俊之：未破裂内頚動脈-前脈絡叢動脈分岐部脳動脈瘤の当院における治療成績。第 49 回日本脳卒中学会学術集会、横浜、2024 年 3 月 9 日

勝間亜沙子、山本篤世、兼松大介、隅田美穂、福角勇人、吉岡絵麻、正札智子、金村米博：バーチャルスライドシステムによる免疫染色画像の定量評価法の検討。第 23 回日本再生医療学会総会、新潟市、2024 年 3 月 21 日

兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、福角勇人、吉岡絵麻、山本篤世、半田有佳子、正札智子、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞の画像解析による細胞収量の非破壊予測方法の検

討。第 23 回日本再生医療学会総会、新潟市、2024 年 3 月 21 日

B-5
藤中俊之：自施設におけるくも膜下出血術後管理～くも膜下出血に関するアンケート調査を踏まえて～。第 83 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 4 月 8 日

藤中俊之：Hybrid Neurosurgeon による脳動脈瘤治療～利点と課題～。第 14 回 Hybrid Neurosurgery 研究会、横浜市、2023 年 9 月 16 日

藤中俊之：私の ICONO 活用法。Alice Tokyo 2023、横浜市、2023 年 9 月 17 日

B-6
井筒伸之、小林弘治、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、宇野貴宏、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：Neuroform Atlas を展開中に滑落させ、回収に難渋した 1 例。第 65 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ、尼崎、2024 年 1 月 27 日

小林弘治、尾崎友彦、木谷知樹、井筒伸之、中島伸、金村米博、川本早希、西澤尚起、村上慶次朗、藤見洋佑、藤中俊之：未破裂椎骨動脈瘤に対する フローダイバーターステント 留置後に視野障害を呈した 造影剤脳症の 1 例。第 83 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 4 月 8 日

西澤尚起、尾崎友彦、中島 伸、金村米博、木谷知樹、井筒伸之、川本早希、村上慶次朗、小林弘治、藤見洋佑、藤中俊之：破裂内頚動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤に対して血小板凝集能モニタリング下の DAPT ローディングを行い急性期にステント併用コイル塞栓術を施行した 1 例。第 83 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 4 月 8 日

小林弘治、木谷知樹、中島伸、金村米博、尾崎友彦、浅井克則、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：側脳室前角穿刺における シリンジ法の有用性の検討。大阪大学脳神経外科 関連施設臨床懇話会、吹田、2023 年 7 月 1 日

藤見洋佑、山上 宏、井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：血栓回収術時に動脈解離をきたし、頭蓋内ステント留置術を必要とした一例。第 65 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ、田辺、2023 年 7 月 14 日

藤見洋佑、井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木 知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：脊髄くも膜下出血後の脳血管攣縮により脳梗塞を発症した一例。第 84 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 9 月 2 日

西澤尚起、木谷知樹、中島 伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、川本早希、小林弘治、藤見洋佑、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：脳内出血で発症した外傷性偽性中硬膜動脈瘤破裂に対してコイル塞栓術を行った 1 例。第 84 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 9 月 2 日

野本未佳子、木谷知樹、浅井克則、井筒伸之、木田将義、小林弘治、藤見洋佑、西澤尚起、川本早希、金村米博、中島 伸、藤中俊之：未破裂内頚動脈-前脈絡叢動脈分岐部脳動脈瘤の当院における治療成績。第 84 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 9 月 2 日

木田将義、木谷知樹、中島伸、金村米博、浅井克則、井筒伸之、川本早希、西澤尚起、野本未佳子、藤見洋祐、小林弘治、藤中俊之：当院における自家骨を用いた頭蓋形成術 18 例の検討。一般社団法人 日本脳神経外科学会、第 84 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 9 月 2 日

西嶋吉継、井筒伸之、藤見洋佑、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、川本早希、西澤尚起、小林弘治、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：脳病変の生検により中枢神経ゴム腫と診断し得た梅毒と HIV 重複感染の 1 例。第 84 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中、2023 年 9 月 2 日

藤見洋佑、井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、宇野貴宏、小林弘治、野本未佳子、木田将義、藤中俊之：後大脳動脈瘤に対する血管内治療。第 35 回大阪血管内治療研究会、大阪、2023 年 10 月 6 日

B-8
藤中俊之：Pipeline 治療の実際～Technical Tips と PREMIRE 適応について～。The 3rd Kyushu Pipeline User's Seminar、福岡、2023 年 4 月 14 日

藤中俊之：CAS のプロテクションを更に考えてみる～distal balloon protection の有用性～。e-casebook live、名古屋、2023 年 6 月 21 日

中島 伸：頭部外傷後高次脳機能障害について～医療機関及び職場における対応～。令和 5 年度 第 1 回労災医療研修会、大阪、2023 年 6 月 30 日

藤中俊之、木谷知樹：ピヴラッツ®投与による体液貯留の現状と対策。第３回関西 SPASM 治療カンファレンス、大阪、2023 年 7 月 20 日

藤中俊之：Pipeline™ における MPC ポリマーの可能性。Pipeline follow-up meeting～Premier 適応拡大後の FD 治療～、東京、2023 年 8 月 31 日

金村米博：大阪医療センター臨床研究センター概要とユーザー評価事業紹介。『京 MED』交流会兼「医療のパズルを解く！医療機関との連携で創出する製品開発」セミナー、京都市、2023 年 8 月 25 日

藤中俊之、木谷知樹：ピヴラッツ治療の Up-to-Date～重症例や高齢者での治療戦略～。第 2 回福井 SAH ネットワーク Expert Meeting、福井、2023 年 10 月 5 日

中島 伸：フレイルとは何ぞや？。おおさか健康セミナー「いつまでも家で過ごしたい」～フレイル予防と介護のあれこれ～、大阪、2023 年 11 月 18 日

藤中俊之 : Pipeline における MPC ポリマーの可能性と PREMIER 適応拡大。室蘭脳血管内治療講演会、室蘭、2023 年 12 月 21 日

藤中俊之：Pipeline™ Technical Tips. PIPELINE Educational seminar @ Sapporo、札幌、2024 年 1 月 19 日

藤中俊之：Pipeline™ Technical Tips. PipelineTM User's Meeting @ Okayama、岡山、2024 年 1 月 25 日

藤中俊之：感染性脳動脈瘤に対する血管内治療。第 9 回岩手ウィンターセミナー、盛岡市、2024 年 2 月 10 日

藤中俊之 : 特殊な脳動脈瘤に対する血管内治療。第 9 回広島脳血管内手術研究会、広島、2024 年 3 月 21 日

B-9
藤中俊之：DOCTOR'S FLAP、FM 大阪「LOVE FLAP」、2024 年 1 月 6 日

心臓血管外科

西 宏之

当院では“低侵襲化と生活の質（QOL）向上を目指した心臓血管外科治療”を診療基本方針とし、エビデンスに基づきながら個々の症例の病態や背景に則した最善の治療を提供しています。低侵襲手術をはじめとした最先端の技術・手術手技を駆使し、一人一人の患者さんに適した治療を選択し、総合病院である強みを生かしたあらゆる状況に対応可能な心臓血管外科治療を心がけております。通常の心臓血管外科手術はもちろんのこと、MICS(低侵襲心臓手術・小切開心臓手術)やステントグラフト等の心・大血管治療に積極的に取り組み、通常の手術が困難と考えられる高齢の患者様や、様々な合併症を有するハイリスクの患者様に対し、出来るだけ負担が少なく、QOL(生活の質)を損なわない、安全かつ確実な治療を提供しています。また、循環器内科や救命救急センターとの緊密な連携下での緊急手術や迅速かつ開かれた病診連携、病々連携により、地域の循環器診療に貢献しています。

冠動脈疾患に対しては、低侵襲心拍動下冠動脈バイパス術（±人工心肺）を第一選択とし、症例に応じて左小開胸のMICS-CABGを施行しております。また、循環器内科によるPCI治療と組み合わせたhybrid 手術も行っています。

弁膜症手術では、僧帽弁閉鎖不全症では弁形成術を積極的に行うことにより、術後の抗凝固療法の回避および心機能の回復を目指したQOL を考慮した術式選択をしています。また、当院の特徴として再弁手術症例が多く、臨床研究にて再手術術式の妥当性および安全性を確認しています。また更に、早期社会復帰が可能である、右小切開のMICS(低侵襲心臓手術・小切開心臓手術)を積極的に行っており、僧帽弁疾患だけでなく、大動脈弁手術、不整脈手術にも行っています。僧帽弁形成術に対する手術ロボットda Vinciを用いたロボット手術も開始しました。新しい三尖弁形成術に関する多施設共同研究にも参画しており、MICSの様々な局面への応用等の取り組みを行っております。

大動脈疾患では、胸部大動脈瘤および腹部大動脈瘤では積極的にステントグラフト治療を適応することにより、高齢者、脳梗塞、腎不全、慢性閉塞性肺疾患等のハイリスク症例や破裂等の緊急症例に対しても飛躍的な低侵襲化が得られています。更に腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療に関しては、国立病院機構のネットワーク研究に参加することにより長期成績を検討しています。また、積極的な緊急症例の受け入れのもと、急性大動脈解離治療を積極的に行っており、術後の残存解離に対しては大動脈内視鏡を用いた病態解明や必要に応じて2 期的ステントグラフト治療を行っています。慢性B型大動脈解離に関しては、大動脈内視鏡を用いたステントグラフトを積極的に行っており、この世界でも類をみない術式の症例を重ねて新しい知見の蓄積を行っております。

多施設のデータベース事業にも参画し、心臓血管外科領域からの様々なエビデンスの発信にも勤めております。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Yoshitatsu M, Kakizawa Y, Misumi Y, Shirasaki Y, Kitahara M, Nishi H：An operative case of pseudocoarctation with chronic dissection. Asian Cardiovasc Thorac Ann. 31(9):805-808、2023年10月16日

Abe K, Nishi H, Okamoto K, Yokoyama H, Arai H, Yaku H, Takanashi S, Takemura H, Asai T, Park YK：A Novel Method of Real-Time Assessment for Coronary Artery Anastomosis Skill.2023; Ann Thorac Cardiovasc Surg,: doi: 10.5761/atcs.oa.23-00089、2024年1月

Sakakibara S, Nishi H, Kitahara M, Goto T, Nakazato T, : Successful "PETTICOAT" procedure assisted by aortic angioscopy for complicated type B aortic dissection: Case report. Int J Surg Case Rep ; 109: doi: 10.1016/j.ijscr.2023.108475、2023年8月

A-2

西　宏之：心臓血管外科手術の落とし穴「第16章MICSの落とし穴」徳永滋彦 編集：P134-142、南江堂、東京、2024年3月1日

A-3

村上貴志、吉龍正雄、齋藤哲也、榊 雅之：義歯誤飲後の消化管損傷が原因と考えられた感染性胸腹部大動脈瘤の 1 例「日本血管外科学会雑誌」32：p19-23、2023年

B-2

Nishi H, Kithara M, Shirasaki Y, Yoshitatsu M.：Right mini-thoracotomy approach for prosthetic mitral valve perivalvular leakage repair in a patient with three previous open heart surgery procedures, Mitral Conclave 2023　New York　2023　5 月 4-5 日

Nishi H ：MIMVS in 2024, current state and future trends, 2nd OPCAB and MICS seminars at Lampang Hospital　Lampang　2023 年 10 月 31 日

Nishi H ：MICS-AVR via direct vision through right lateral mini-thoracotomy　19th International Congress of Update in Cardology and Cardiovascular Surgery　Istanbul　2023 年 11 月 5 日

B-3

西 宏之、北原睦識、白﨑幸枝、吉龍正雄：右側開胸 MICS-AVR の更なる普及に向けて～EPIC の有用性～。第 7 回日本低侵襲心臓手術学会学術集会、大阪、2023 年 7 月 1 日

西 宏之、北原睦識、白﨑幸枝、吉龍正雄：冠動脈バイパス術後体液管理におけるトルバプタン。第 50 回日本冠動脈外科学会学術大会、名古屋、2023 年 7 月 13 日

西　宏之、北原睦識、白﨑幸枝、中川敬也、吉龍正雄：大動脈内視鏡を用いた Preemptive TEVAR の有用性ー適切なステント留置範囲についてー。第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会、浜松、2024 年 2 月 22 日

西　宏之、北原睦識、白﨑幸枝、中川敬也、吉龍正雄：Massive TR に対する 至適術後管理とは？ ー術後肝機能障害からの検討ー。第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会、浜松、2024 年 2 月 24 日

B-4
西　宏之、北原睦識、白﨑幸枝、吉龍正雄：MICS 僧帽弁手術における直視下から Endoscopic に移行する際の Tips and Pitfalls。第 7 回 Japan MICS Summit 2023(日本低侵襲心臓手術学会)、大阪、2023 年 7 月 1 日

西　宏之、北原睦識、白﨑幸枝、吉龍正雄：画像解析ソフトが有用であった成人期 II 型 VSD に対する右小開胸鏡視下 MICS-VSD 閉鎖術。第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会、仙台、2023 年 10 月 21 日

西　宏之、北原睦識、白﨑幸枝、吉龍正雄：冠動脈バイパス術後体液管理におけるトルバプタンリン酸エステルナトリウムの有用性。第 36 回日本冠疾患学会学術集会、金沢、2023 年 11 月 24 日

白﨑幸枝、北原睦識、吉龍正雄、西　宏之：多発粘液線維肉腫左室内転移に対して右小開胸 MICS アプローチにて左室内腫瘍切除を施行した 1 例。第 7 回 Japan MICS Summit 2023　(日本低侵襲心臓手術学会)、大阪、2023 年 7 月 1 日

B-5
北原睦識、白﨑幸枝、吉龍正雄、西　宏之：血管性状不良な弓部大動脈瘤に対する debranching TEVAR における閉鎖式人工心肺の有用性。第 66 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 8 日

西　宏之：市中病院で MICS-AVR を安全に導入するためには。第 66 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 8 日

西　宏之：血管内視鏡で得られた知見を慢性大動脈解離にどう生かすか？。第 10 回ＴＣＩＦ（トランスカテーテル　イメージングフォーラム)、Web、2023 年 5 月 26 日

西　宏之：心臓血管外科術後心不全にサムタスをどう使うか。第 2 回サムタス e 講演会(東京)、Web、2023 年 7 月 19 日

西　宏之：MICS-AVR の現状と今後の展望。E MASTER CLASS(大阪)、Web、2023 年 7 月 21 日

西 宏之、北原睦識、白﨑幸枝、吉龍正雄：最新の弁膜症外科治療。第 45 回独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 循環器病談話会、大阪、2023 年 7 月 29 日

西 宏之：指導医の立場から見たインフォームドコンセント。世界手術教育フォーラム、福島、2023 年 9 月 30 日

西 宏之、中川敬也、白﨑幸枝、吉龍正雄：ここまで来た僧帽弁外科治療～MICS, ロボット手術～。第 60 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2024 年 2 月 3 日

西 宏之、中川敬也、白﨑幸枝、吉龍正雄：TAVI 時代の大動脈弁置換術とは？。第 60 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2024 年 2 月 3 日

西 宏之、中川敬也、白﨑幸枝、吉龍正雄：ここまで来た僧帽弁手術～小さな傷でロボットも使って～。第 72 回おおさか健康セミナー、大阪、2024 年 2 月 10 日

西 宏之、中川敬也、白﨑幸枝、吉龍正雄：外科的手術とカテーテル的手術はどういう違いがあるの？。第 72 回おおさか健康セミナー、大阪、2024 年 2 月 10 日

西 宏之：当院におけるストラクチャルハート治療～MICS の役割～。アボット Web セミナー低侵襲心臓手術の最前線(大阪)、Web、2024 年 3 月 8 日

B-6
白﨑幸枝、北原睦識、吉龍正雄、西 宏之：多発粘液線維肉腫左室内転移に対して右小開胸 MICS アプローチにて左室内腫瘍切除を施行した 1 例。第 66 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 9 日

皮膚科

小澤健太郎

当科では、国立病院機構が担うべき医療のなかでも皮膚がんを含めた皮膚腫瘍に重点を置いており、その他にも難治性炎症性皮膚疾患や下肢静脈瘤など幅広い領域の皮膚疾患の診断と治療に取り組んでいます。

皮膚腫瘍に関しては良性、悪性を問わずに診療しています。当院は皮膚がんに対する手術療法ならびに化学療法、放射線療法などの集学的な治療を行うことが可能な施設であり、複数の日本皮膚科学会認定皮膚科専門医をはじめ優れたスタッフと恵まれた医療設備のもと、正確な診断と十分な説明、事実に裏付けられた治療を実践し、皮膚がん患者の社会的な生活の質を第一とした診療を行っています。皮膚良性腫瘍に対しては主に手術療法を行いますが、適応があれば凍結療法など侵襲性の低い治療を積極的に行っています。皮膚腫瘍の診断は容易ではないものも多いため、ダーモスコピーによる非侵襲的検査や皮膚生検を積極的に行い、臨床検査科病理部門との合同カンファレンスを行うことで診断精度を高めています。

また、金属アレルギーや接触皮膚炎、薬疹、自己免疫性水疱症などのアレルギー性疾患、帯状疱疹や蜂窩織炎、壊死性筋膜炎などの皮膚感染症、皮膚潰瘍など専門性の高い疾患の診療にも対応し、難治性皮膚疾患に関しても、地域の医療施設や近隣の総合病院から患者を積極的に受け入れています。

下肢表在静脈の弁不全によって発生する下肢静脈瘤に対する専門外来を継続し、保存的治療で症状制御が困難な症例に対して、短期入院の血管内レーザー治療を含めた外科的手術を数多く経験し、良好な治療成績を残しています。

臨床研究としては悪性黒色腫や化膿性汗腺炎に関する臨床試験やメルケル細胞癌の疫学調査についての多施設共同研究に参加しています。

教育面では当院は大学病院以外では数少ない日本皮膚科学会認定専門医主研修施設で、新専門医制度においても研修基幹施設に認定されており、多様な皮膚疾患の診療を経験できる体制を整えて、皮膚科専門医育成のための医師教育にも取り組んでいます。

【2023 年度 研究発表業績】

A-3

文 省太、来田英伸、菊澤千秋、出野りか子、池田 彩、小澤健太郎：HIV 感染者の足底に生じた化膿性肉芽腫様カポジ肉腫の 1 例「皮膚の科学」22(3)：P.192-197、日本皮膚科学会大阪地方会・京滋地方会、2023 年 9 月

藤本 雷、来田英伸、文 省太、菊澤千秋、池田 彩、日野上はるな、後藤啓介、小澤健太郎：多発する脂腺系腫瘍を契機に診断した Muir-Torre 症候群の 1 例「皮膚の科学」22(3) P.217-223、2023 年 9 月

宮脇佳代、中嶋千紗、臼居駿也、小澤健太郎、調 裕次、大塚篤司：古典的 Kaposi 肉腫の 1 例「皮膚の科学」22(4) P.292-297、2023 年 12 月

B-4

武田 学、藤森なぎさ、藤本 雷、小林佑佳、小澤健太郎、乾 重樹：Granular C3 dermatosis に増殖性壊疽性膿皮症を合併した 1 例。第 122 回日本皮膚科学会総会、横浜、Web、2023 年 6 月 1-4 日

B-6

藤森なぎさ、小林佑佳、池田 彩、小澤健太郎、吉龍澄子：交通外傷部位に生じた単発皮膚サルコイドから診断に至ったサルコイドーシスの 1 例。第 497 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、Web、2023 年 5 月 20 日

吉村亜希、冨尾颯生、藤本 萌、藤本 雷、藤森なぎさ、小澤健太郎、後藤啓介：BRAF/MEK 阻害剤開始後に多発した Pyogenic granuloma の 1 例。第 116 回近畿皮膚科集談会、大阪、2023 年 7 月 30 日

藤本 萌、益田知可子、小林佑佳、原田 潤、藤森なぎさ、小澤健太郎：後爪郭に生じた色素性ボーエン病の 1 例。第 74 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、京都、2023 年 10 月 28 日

冨尾颯生、池田 彩、藤本 萌、吉村亜紀、藤森なぎさ、小澤健太郎：認知症の高齢女性に生じた左頬部 Merkel 細胞癌の 1 例。第 500 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2023 年 12 月 3 日

冨尾颯生、藤本 雷、藤森なぎさ、藤本 萌、吉村亜紀、川喜田遥香、小澤健太郎：尋常性疣贅との鑑別が困難であった有棘細胞癌の 1 例。第 502 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2024 年 3 月 2 日

B-8

藤森なぎさ：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚疾患フォーラム、大阪、2023 年 4 月 20 日

藤森なぎさ：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚 Joint Meeting、大阪、2023 年 11 月 2 日

泌尿器科

西村健作

泌尿器科では悪性腫瘍・尿路結石症や前立腺肥大症など良性疾患までよる多岐にわたる疾患に対する診療を行っています。

2021 年 1 月ダヴィンチ Xi システムが導入され、前立腺癌に対するロボット支援下前立腺全摘除術や腎癌に対するロボット支援下腎部分切除術を標準治療として開始しています。その後副腎腫瘍・腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌などにも適応拡大となり、2022 年から腎摘除術、腎盂形成術、2023 年から膀胱全摘除術もロボット支援下手術を行なっています。従来行ってきた 3D モニターを用いた腹腔鏡手術も継続し、泌尿器科疾患の低侵襲手術を全て行う体制となっています。今後は症例を集積し、より高い水準の治療成績を目指しています。

また良性疾患において尿路結石症ではレーザーを用いた経尿道的腎尿管砕石術（f-TUL）や経皮的腎砕石術を併用した ECIRS を積極的に行っています。前立腺肥大症では出血を最小限とした経尿道的前立腺核出術（TUEB）など短期入院でより有効性の高い手術療法も行っています。また、2023 年から併存症を有する超高齢者に対して、低侵襲手術の経尿道的前立腺吊り上げ術（ウロリフト）を導入しています。

密接に地域連携を行いながら、正確な診断と高い水準の治療を提供できることを基本方針としています。これらの診療内容や治療成績を学会や地域連携フォーラムなどで発表を行い、臨床研究や治験などは悪性腫瘍を中心に積極的に取り組んでいます。

【2023 年度 研究業績発表】

A-0

Kato T, Yumiba S, Nakata W, Nakano K, Nagahara A, Matsuzaki K, Hayashi Y, Hatano K, Kawashima A, Takao T, Nishimura K, Nakai Y, Nakayama M, Nishimura K, Takada S, Tsujihata M, Uemura M, Nonomura N, Imamura R. A comparative study on nivolumab and axitinib as secondary treatment in patients with metastatic renal cell carcinoma: A multi-institutional retrospective study in Japan. Int J Urol. 30(9): 723-729.2023 年 9 月

B-4

中田 渡、波多野浩士、永原 啓、佐藤元孝、高尾徹也、松村聡一、西村健作、高田晋吾、岩西利親、小林泰之、辻畑正雄、植村元秀、野々村祝夫 : 去勢抵抗性前立腺癌患者におけるエンザルタミドの治療効果と安全性の検討　他施設共同前向き試験.（Enzalutamide efficacy and safety for castration-resistant prostate cancer patients: a real-world multi-institutional prospective study）。第 110 回日本泌尿器科学会総会、神戸、2023 年 4 月 21 日

佐藤元孝、波多野浩士、永原 啓、中田 渡、高尾徹也、松村聡一、西村健作、高田晋吾、岩西利親、小林泰之、石津谷 祐、高田 剛、植村元秀、三宅 修、野々村祝夫 : 去勢抵抗性前立腺癌患者におけるエンザルタミドの有効性と安全性 ; DELC study. 第 61 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2023 年 10 月 20 日

假屋真帆、大西淳子、野々村大地：当院の排尿ケアチームの課題への取り組み。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日

野々村大地、西村裕貴、隠岐雄太、松崎恭、西村健作：完全サンゴ状結石に対して、LithoClast TRILOGY を使用して ECIRS を施行した 1 例。第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会、米子、20233 年 11 月 10 日

西村裕貴、隠岐雄太、野々村大地、松崎恭介、西村健作：膀胱全摘除術後 11 年に発症した二次性乳房外 Paget 病の 1 例。第 255 回日本泌尿器科学会関西地方会、奈良、2024 年 2 月 3 日

B-8
西村裕貴：突然の激痛と血尿　その正体は。第 70 回おおさか健康セミナー、大阪、2023 年 7 月 22 日

隠岐雄太：血尿を見逃すな～膀胱がん徹底解説～。第 70 回おおさか健康セミナー、大阪、2023 年 7 月 22 日

野々村大地：排尿トラブルで困っていませんか？。第 70 回おおさか健康セミナー、大阪、2023 年 7 月 22 日

松崎恭介：急増する前立腺がんを知る～早期発見の第一歩「PSA 検査」とは？。第 70 回おおさか健康セミナー、大阪、2023 年 7 月 22 日

隠岐雄太：当院におけるレンバチニブ＋ペンブロリズマブ併用療法の初期投与経験と考察。Renal cell carcinoma Web Seminar in 大阪、大阪、2023 年 11 月 15 日

産科･婦人科

巽 啓司

当院は大阪府の産婦人科診療相互援助システム（OGCS）加盟施設として、産婦人科救急受け入れ施設となっています。

産科では正常分娩はもとより母体疾患を中心に合併症妊娠も積極的に受け入れています。近年ハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっており、当院でもこの傾向は顕著ですが、院内各診療科と緊密に連携して管理し、できるだけ自然な分娩を目指しています。NICUの併設がないため早産や胎児疾患には対応できませんが、最新の知識や技術を駆使して一人一人の妊婦に応じた個別で適切なリスク管理を行うことが当科の基本目標であります。またAIDS診療拠点病院としてHIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいます。

婦人科は大阪における子宮癌治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科がん治療施設です。手術療法をはじめ、化学療法、放射線治療等の高度ながん治療が診療の中心ですが、子宮筋腫や卵巣嚢腫等の良性疾患も多数取り扱っており、可能な限り婦人科救急にも対応しています。腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術を積極的に取り入れ、術後後遺症の最少化、生殖機能や妊孕性温存を考慮しながら、年齢や生活環境なども含めた個々の症例に応じた適切な治療法を提案し実施しています。腹腔鏡下手術では良性腫瘍だけでなく悪性腫瘍手術の認定施設であり、ロボット補助下手術も良性腫瘍から悪性腫瘍にも適応を拡大して実施しており、NCD登録を行っています。またがん遺伝子パネル検査の実施施設であり、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の未発症者に対するリスク低減卵巣卵管摘出手術 (RRSO)も実施しています。

新専門医制度において、京都大学、近畿大学と連携した産婦人科専門医指導施設です。また日本婦人科腫瘍学会、日本周産期新生児医学会、日本女性医学会等のサブスペシャリティ専門医研修施設として、若手医師の指導・育成を行っており、全国の医療施設で中心となって活躍している多数の専門医を輩出してきました。

臨床研究として、日本産科婦人科学会の周産期登録、婦人科腫瘍登録を行うとともに、産婦人科領域の学会や婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)と連携した臨床試験にも積極的に参加しており、わが国における周産期、婦人科腫瘍診療の発展に貢献しています。また治験を実施して新たな治療法の創出に貢献しています。国立病院機構共同臨床研究NHOネットワーク共同研究にも参加しています。さらに京都大学婦人科学産科学教室及び関係病院と連携した多施設協働の臨床研究（KAMOGAWA study）に参加・協力しており、新たな知見を得た成果はすでに公表されています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Okamoto Y, Ishida K, Matsumura Y, Yoshikawa Y, Sogabe T, Fujikami Y, Ban K, Tatsumi K, Ohnishi M : Uterine rupture successfully treated with a damage-control strategy of hysterectomy and resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta-assisted cardiopulmonary resuscitation.「Acute Medicine &

Surgery」10(e881)：P1-4，2023 年 8 月 3 日

A-3
藤上友輔、松本久宣、矢﨑基紘、三木麻紗与、川道彩夏、小椋恵利、赤木佳奈、伴 建二、飛梅孝子、岡垣篤彦、巽 啓司：産婦人科の進歩「産婦人科の進歩」75(4)：P436-438、2023 年 10 月 1 日

A-3
寺井悠朔、橋本阿実、佐伯綾香、牧尾 悟、黒田亮介、原 理恵、西村智樹、田中 優、伊藤拓馬、清川 晶、楠本知行、福原 健、中堀 隆、長谷川雅明、本田徹郎：巨大子宮筋腫を伴う子宮捻転が閉塞性大腸炎を生じた一例「現代産婦人科」72(1)：P67-72、2023 年 12 月 1 日

B-3
飛梅孝子：臨床研究以外のすゝめ。第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、大津、2023 年 9 月 14 日～9 月 16 日

B-3
寺井悠朔、堀川直城、手塚 聡、橋本阿実、佐伯綾香、黒田亮介、原 理恵、西村智樹、田中 優、伊藤拓馬、清川 晶、楠本知行、福原 健、中堀 隆、本田徹郎：ロボット支援手術における吸引操作の工夫。第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、大津、2023 年 9 月 14 日～9 月 16 日

B-5
寺井悠朔、松本久宣、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 建二、飛梅孝子、岡垣篤彦、巽 啓司：当院における子宮頸癌に対する組織内照射の現状。第 38 回大阪温知会総会、大阪、2024 年 2 月 17 日

眼科

大鳥安正

大阪の中心に位置していることからも、近畿圏における主要な基幹病院として病診連携・病病連携の重要性を認識し、紹介元と緊密に連絡を取るようにしており、特に緑内障・網膜硝子体疾患においては多くの難治性疾患を受け入れ、最終病院として機能しています。各医員は白内障以外に専門分野を標榜しており、情報収集も怠らず、最新で質の高い医療を提供することを心がけています。また、厚生労働省の政策医療感覚器ネットワーク機関としても全国の多施設共同研究に参加しています。

2023 年 4 月から 2024 年 3 月の眼科における総手術件数は総計 2,122 件でした。**白内障：**白内障手術件数は最も多く、2023 年度の白内障関連手術件数は 1,418 件でした。入院は両眼 3 泊 4 日、片眼 1 泊 2 日、日帰りなどから選択可能です。白内障手術の待ち期間は平均 1 か月程度です。**緑内障：**原発開放隅角緑内障は薬物療法で眼圧下降が十分でない場合には外科的治療（2023 年度の緑内障手術件数は 399 件）を行っています。低侵襲緑内障手術（Minimally Invasive Glaucoma Surgery, MIGS）や従来型の濾過手術に加えて、プリザフロマイクロシャントというデバイスを用いた濾過手術も行っています。**網膜・硝子体手術：**増殖糖尿病網膜症、増殖硝子体網膜症、網膜剥離、黄斑部手術などを中心に積極的に行っています。2023 年度には硝子体手術 270 件が行われ、網膜剥離症例では症例に応じて初診当日入院・当日手術も行っています。硝子体手術は 25 ゲージシステムによる低侵襲硝子体手術を実施し良好な成績を得ています。手術加療だけでなく、加齢黄斑変性、網膜静脈分枝閉塞症や糖尿病黄斑浮腫などに対する抗 Vascular Endothelial Growth Factor（VEGF）抗体の硝子体内注射も積極的に行っています。**その他（眼形成・翼状片など）：**翼状片手術、眼瞼内反症手術など 35 件の手術が行われました。眼部悪性腫瘍は当院の形成外科と連携しております。当院は HIV/AIDS 先端医療開発センターであるため、免疫・感染症内科との連携によりサイトメガロウイルス網膜炎などの HIV 眼合併症の治療も多数行っています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-1

大鳥安正：緑内障の診断、隅角、最新緑内障診療パーフェクトガイドー患者教育から最新の治療手術までー「眼科診療エクレール」相原一編集、p16-24、中山書店、2023 年 9 月 1 日

大鳥安正：Glaucoma Q & A 外来での隅角の見方を教えてください「Frontiers in Glaucoma」67：P51-57、メディカルレビュー社、2024 年 2 月 27 日

A-3

雲井美帆、三木篤也：トリガーフィッシュシステム「眼圧変動測定コンタクトレ

ンズ」78（1）：P98-104、臨床眼科、2024 年 1 月 15 日

B-4
大萩麻衣、原 千佳子、浅尾和伸、西田幸二：ブロルシズマブにより広範囲の血管閉塞をきたした透析中の糖尿病黄斑浮腫の一例。第 39 回日本眼循環学会、奈良、2023 年 7 月 22 日

松岡孝典、大鳥安正：線維柱帯切除術後に生じた anterior corneal striae が視機能に与える影響。第 34 回日本緑内障学会、東京、2023 年 9 月 8 日

B-5
大鳥安正：緑内障のよりよい病診連携を目指して。第 5 回生駒眼科研究会、Web 開催、大阪、2023 年 4 月 12 日

大鳥安正：OCT を用いた緑内障鑑別診断。第 78 回愛媛県眼科集談会、愛媛、2023 年 4 月 23 日

大鳥安正:緑内障で視機能を維持するための病診連携。第 3 回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2023 年 8 月 26 日

大鳥安正：OCT を用いた緑内障鑑別診断。第 3 回近畿アイ Next、大阪、2024 年 1 月 27 日

B-6
西垣誠士、大萩麻衣、杉本一輝、部坂優子、三浦聡子、雲井美帆、辻野知栄子、松田 理、大鳥安正：水晶体再建術および非計画的流出路再建術眼外法が著効した慢性閉塞隅角緑内障の 1 例。拡大医局会、大阪、2023 年 7 月 12 日

西垣誠士、松本麻衣、杉本一輝、部坂優子、雲井美帆、三浦聡子、辻野知栄子、松田 理、大鳥安正：緑内障に Reticular pseudodrusen を併発し視野障害が進行した 1 例。第 3 回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2023 年 8 月 26 日

杉本一輝：前眼部光干渉断層計（CASIA2）を用いた眼科診療の実際。第 3 回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2023 年 8 月 26 日

部坂優子：fluid について。第 3 回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2023 年 8 月 26 日

大萩麻衣、原 千佳子、浅尾和伸、西田幸二：ブロルシズマブにより広範囲の血管閉塞をきたした透析中の糖尿病黄斑浮腫の一例。第 457 回大阪眼科集談会、大阪、2023 年 10 月 14 日

雲井美帆、松田 理、松本麻衣、杉本一輝、部坂優子、三浦聡子、辻野知栄子、大

鳥安正：黄斑円孔へのマキュエイド充填。第 253 回 OCC、大阪、2023 年 10 月 21 日

B-8

大鳥安正：インストラクションコース 23、緑内障での OCT 読影～どうする？チョロ赤～。第 77 回日本臨床眼科学会、東京、ハイブリッド開催、2023 年 10 月 6 日

大鳥安正：Introduction～傍中心視野障害の重要性について～。Keep the Visual Field 2023、大阪、2023 年 10 月 28 日

杉本一輝：当院での血管新生緑内障治療について。眼科病診連携ミーティング、大阪、2023 年 11 月 30 日

大鳥安正：インストラクションコース 1、関西・中四国緑内障道場：続発緑内障に対する手術治療戦略。第 47 回日本眼科手術学会、京都、2024 年 2 月 2 日

大鳥安正：血管新生緑内障とその治療について。第 22 回眼科診療アップデートセミナー2024 in Kyoto、京都、ハイブリッド開催、2024 年 3 月 3 日

B-9

辻野知栄子：DOCTOR’S FLAP。LOVE FLAP、FM 大阪、2024 年 3 月 21 日

耳鼻咽喉科

西村 洋

2015 年 4 月 1 日より、前任科長の堀井の新潟大学教授就任に伴い、交代で私（西村）が大阪府立母子保健総合医療センターより着任しました。

私の専門分野は中内耳手術や難聴などの耳科学で、博士課程（大阪大学大学院耳鼻咽喉科）での研究内容は人工内耳装用者の聴覚の中枢機構を脳血流 PET を用いて解明することでした。この研究の内容は英文科学雑誌 Nature に発表させていただきました。

基本的に耳科を中心とした日常診療を行っており、基礎的な研究をおこなうところではございませんが、患者さんの診療の役に立つような研究をやっていきます。例えば、遺伝子と関係する難聴患者さんの原因遺伝子を検査する上で、東京医療センターの松永先生と共同研究し、保険診療で精査できる範囲を超えた遺伝子を検査してもらっています。また難聴の診療におきましては、患者さんは耳鼻咽喉科を受診して聴力検査を行う必要があるのですが、それを自分のスマホで可能にするようなシステムの開発を東京医療センターの南先生が行っているのですがそれに協力しております。また高齢化社会において大きな問題となっている認知症の最も大きなリスクファクターとして難聴が挙げられることがイギリスの研究グループによって LANCET に報告されました。これをうけて、難聴患者の認知症の進行をなるべく抑えるべく、補聴器を貸し出して認知症の予防に役立てていただけるような研究を東京医療センターの神崎先生が計画しており、これに参画する予定です。このように診療において直接役に立つような研究に参加し、患者さんのために役立てていくようにしております。

【2023 年度 研究発表業績】

B-4

赤間俊之、太田有美、西村 洋：迷路内神経鞘腫の 2 例。第 33 回日本耳科学会総会・学術講演会、高崎、2023 年 11 月 4 日

西村 洋、赤間俊之、米井辰一：鼓室型グロームス腫瘍の一例。第 33 回日本耳科学会総会・学術講演会、高崎、2023 年 11 月 4 日

B-6

吉田 翼、西村 洋、赤間俊之、米井辰一、寺田理沙：少年期から進行性に盲聾となった Alström（アルストレム）症候群の 1 例。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方連合会第 364 回例会、大阪、2023 年 6 月 10 日

放射線診断科・放射線治療科

東 将浩　田中英一

放射線診断科では全ての領域の臨床画像診断と、緊急止血や CT ガイド下ドレナージ・生検および肝細胞癌の肝動脈化学塞栓療法（TACE）などを行う IVR(Interventional Radiology)の 2 つの部門があり、これらの研究をおこなっている。

当院は５台の CT（64 列 CT３台。IVR-CT１台、治療計画用 CT１台)、２台の MRI（３テスラ１台、1.5 テスラ 1 台)、３台の血管撮影装置を有し、放射線科では、主にこれらを用いた基礎研究、臨床研究を行っている。2023 年度は常勤医師 5 名、非常勤医師 2 名、および診療放射線技師 37 名が連携して研究をおこなった。医師はそれぞれの得意な診断領域を有していること、技師は得意なモダリティーを有していることが特徴である。

CT 領域では主に dual energy を撮影できる 64 列 CT を用いた研究を行った。dual energy 撮影では再構成画像が増えることにより、再構成やその後の処理にかかる時間が増加する。限られた時間での効率的な運用方法の模索を行っている。また同装置は従来の CT よりも高分解能撮影が可能であるため、空間分解能の改善により診断能向上が期待できるステント留置後の患者に対して、その撮影の有用性を検討した。

血管撮影では、被ばく低減に向けて透視方法による被ばく線量の違い、金属アーチファクト軽減機能の有用性を検討した。放射線診断科で実施している IVR については全国調査に参加している。

核医学では、心筋血流 SPEVT において、新たに考案された処理方法の影響を検討した。

疾患別の研究として、中性脂肪蓄積心血管症（triglyceride deposit cardiomyovasculopathy, TGCV）の診断法の確立、糖尿病患者の心筋への脂肪沈着について、大阪大学と共同研究を行っている。感染症内科、近畿大学と共同で高齢 HIV 陽性者の認知機能研究の準備を行っている。

放射線治療科では外部放射線治療装置（リニアック）を 1 台、高線量率小線源治療装置（remote after loading system : RALS）を 1 台保有しており、これらを用いた臨床研究をおこなっている。

特に、小線源治療の研究に関しては、国内のみならず世界をリードできるよう積極的に学会報告や論文発表をおこなっている。近年、特に画像誘導小線源治療（image-guided brachytherapy）の婦人科腫瘍、前立腺癌、頭頚部腫瘍等への臨床応用拡大の研究をすすめている。2023 年度は、常勤医師 2 名、非常勤医師 3 名、研究医員（歯科医師）1 名で研究をおこなった。小線源治療の対象疾患としては、

新鮮子宮頸癌、再発婦人科腫瘍、前立腺癌、口腔癌などである。

2023 年度に継続中の研究として、「子宮頸部癌新鮮例における画像誘導を用いた小線源治療の最適化」がある。本研究は 2023 年 10 月に終了し、研究代表施設が論文作成中の段階である。また、2022 年度末までに終了した研究「乳癌における乳房温存術後の組織内照射の治療成績の遡及的研究」、「局所限局口唇癌に対する３次元画像誘導高線量率組織内照射単独療法の治療成績および線量一体積評価」、「局所限局可動部舌癌に対する高線量率組織内照射単独療法（54Gy/9 回，1 日 2 回照射）の妥当性に関する急性期粘膜反応の観点からの研究」、「舌癌高線量率組織内照射における病期別治療成績と線量-体積評価：TNM 悪性腫瘍の分類 第 7 版と第 8 版の比較」については論文公表、論文投稿中ないし作成中である。また、特定臨床研究「前立腺がんに対する高線量率組織内照射単独放射線療法の安全性と有効性を評価する多施設共同検証試験」も研究継続中であるが、残念ながら当院で扱う疾患の変更などの影響で患者登録ができていない。

外部照射は IMRT などの高精度放射線治療の適応拡大に関する研究をすすめており、前立腺癌根治照射以外に、転移性脳腫瘍、脊椎転移、頭頸部癌術後照射、婦人科腫瘍、オリゴ転移などの臨床例に順次適応拡大をおこなっている。

2022 年 9 月より新リニアックシステムが稼働しており、本装置での治療も軌道に乗ってきた。小線源治療のみならず、外部照射でも、医師・診療放射線技師・医学物理士で臨床研究・物理研究を進めている。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Ikushima H, Ii N, Noda SE, Masui K, Murakami N, Yoshida K, Watanabe M, Kawamura S, Kojima T, Nomoto Y, Toita T, Ohno T, Sakurai H, Onishi H. Patterns of care for brachytherapy in Japan. J Radiat Res 65(2) P168-176. 2024 年 3 月 22 日

Shimbo T, Yoshida K, Nakata M, Kobata K, Ogawa T, Kihara A, Sato C, Hori A, Takeno S, Yoshioka H, Akiyama H, Nihei K. KORTUC, a novel hydrogen peroxide-based radiosensitizer for the enhancement of brachytherapy in patients with unresectable recurrent uterine cervical cancer. Oncol Lett 26(3):378. 2023 年 7 月 20 日

Takenaka T, Yamazaki H, Suzuki G, Masui K, Shimizu D, Kotsuma T, Tanaka E, Yoshida K, Yamada K. Initial tumor volume as an important predictor for indication of intra-cavitary brachytherapy, intra-cavitary/interstitial brachytherapy, and multi-catheter sole interstitial brachytherapy in cervical cancer patients treated with chemoradiotherapy. J Contemp Brachytherapy15(3)P191-197. 2023 年 6 月 23 日

Murakami N, Masui K, Yoshida K, Noda SE, Watanabe M, Takenaka T, Ii N, Atsumi K, Umezawa R, Inaba K, Iijima K, Kubo A, Igaki H, Shikama N, Ikushima H. Hands-on seminar for image-guided adaptive brachytherapy and intracavitary/interstitial

brachytherapy for uterine cervical cancer. Jpn J Clin Oncol 53(6)P508-513　2023 年 6 月 1 日

Murakami N, Watanabe M, Uno T, Sekii S, Tsujino K, Kasamatsu T, Machitori Y, Aoshika T, Kato S, Hirowatari H, Kaneyasu Y, Nakagawa T, Ikushima H, Ando K, Murata M, Yoshida K, Yoshioka H, Murata K, Ohno T, Okonogi N, Saito AI, Ichikawa M, Okuda T, Tsuchida K, Sakurai H, Yoshimura R, Yoshioka Y, Yorozu A, Kunitake N, Okamoto H, Inaba K, Kato T, Igaki H, Itami J. Phase I/II prospective clinical trial for the hybrid of intracavitary and interstitial brachytherapy for locally advanced uterine cervical cancer. J Gynecol Oncol　34(3):e24　2023 年 5 月

Hirano KI, Higashi M, Nakajima K.Remarkable regression of diffuse coronary atherosclerosis in patients with triglyceride deposit cardiomyovasculopathy. Eur Heart J. 1;44(13):1191. 2023 年 4 月 1 日

Kashiwagi-Takayama R, Kozawa J, Hosokawa Y, Kato S, Kawata S, Ozawa H, Mineo R, Ishibashi C, Baden MY, Iwamoto R, Saisho K, Fujita Y, Tamba S, Sugiyama T, Nishizawa H, Maeda N, Yamamoto K, Higashi M, Yamada Y, Sakata Y, Matsuzawa Y, Shimomura I. Myocardial fat accumulation is associated with cardiac dysfunction in patients with type 2 diabetes, especially in elderly or female patients: a retrospective observational study. Cardiovasc Diabetol.;22(1):48-60. 2023 年 5 月 7 日

A-6
東野谷光弘、水野雄貴、辻本 豊、中尾 弘、八木雅史：痛みと被ばくを抑える新素材を用いた固定具の開発と放射線治療への応用「医療の広場」63（11）2023 年 11 月 10 日

新井知大、石原敏裕、渡邉雄一、武田聡司、深水良哉、石田隆人、飯島 颯、稲葉護、小西英一郎、金子貴之、吉田淳一、北川智彦、茄子川 集、灘 尊則、高橋大樹、大山隼生、小池貴久、村田 渉、江端清和、金子順一：放射線災害分野に関する e-learning 研修システムの開発とその教育効果「日本保健物理学会、Jpn. J. Health Phys」58(4)p203～208、2024 年 1 月 15 日

B-3
吉田 謙：次世代の小線源治療の普及のために。第 36 回日本放射線腫瘍学会学術大会、横浜、2023 年 11 月 30 日～12 月 2 日

上川紗菜、東野谷光弘、辻本 豊,伴春奈,中尾弘,八木雅史,田中英一：HyperArc 治療における MV-2D 照合と CBCT/ExacTrac Dynamic の kV-3D 照合の比較、日本放射線腫瘍学会 第 36 回学術大会、横浜、2023 年 11 月 30 日～12 月 2 日

B-4
吉田佳弘：夜勤帯に Dual Energy CT を用いて腸管虚血部位を指摘できた一例。第

26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 27 日～7 月 29 日

中野淳史：Measurement of T2 star values by method of Pointwise Encoding Time Reduction with Radial Acquisition。第 51 回磁気共鳴医学会大会、軽井沢、2023 年 9 月 21 日～9 月 24 日

伴 春奈、東野谷光弘、辻本 豊、上川紗菜、中尾 弘、八木雅史、田中英一：SRS 症例治療計画検証における小照射野用二次元測定機器の違いによる結果の比較。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日～2023 年 10 月 21 日

水野雄貴、吉本篤史、北川智彦、中尾 弘：放射線科における次世代医療機器開発の取り組みについて。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日～10 月 21 日

上川紗菜、東野谷光弘、辻本 豊、伴 春奈、中尾 弘、八木雅史、田中英一：HyperArc 治療における MV-2D 照合と CBCT/ExacTrac Dynamic の kV-3D 照合の比較。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日～2023 年 10 月 21 日

上田沙希、土井祥平、青山伸彦、吉田武尊：ロードマップにおける透視モードの違いによる透視線量率の比較。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日～10 月 21 日

近藤智美、上田道夫、中尾 弘：99ｍTc 心筋血流 SPECT に 99mTc 心筋血流 SPECT における MUS 法を用いた画像処理が各種指標へ与える影響の検討。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日～2023 年 10 月 21 日

三好未唯、西川峰生、狭間 竜、中尾 弘：High-resolution scan を用いた頸部 CT Angiography における頚動脈ステント内腔評価の検討。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日～2023 年 10 月 21 日

吉田佳弘、西川峰生、狭間 竜、中尾 弘：Dual Energy CT で作成される Quality Check 画像における有効利用の検討。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日～2023 年 10 月 21 日

伴 春奈、東野谷光弘、辻本 豊、上川紗菜、中尾 弘、八木雅史、田中英一：SRS 症例治療計画検証における小照射野用二次元測定機器の違いによる結果の比較。第 36 回日本放射線腫瘍学会学術大会、横浜、2023 年 11 月 30 日～12 月 2 日

上田沙希、土井祥平、青山伸彦、吉田武尊：ロードマップにおける透視モードの違いによる透視線量率の比較。第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023 年 11 月 23 日～11 月 25 日

青山伸彦、土井祥平、上田沙希、中尾 弘：CBCT における金属アーチファクト低

減機能がコイルとステントの位置関係によってステントの視認性に与える影。第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会、京都、2023年11月23日～11月25日

B-6
上川紗菜、東野谷光弘、辻本 豊、伴 春奈、中尾 弘、八木雅史、田中英一：HyperArc治療におけるMV-2D照合とCBCT/ExacTrac Dynamicのk V-3D照合の比較。第31回国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2023年10月14日

伴 春奈、東野谷光弘、辻本 豊、上川紗菜、中尾 弘、八木雅史、田中英一：SRS症例治療計画検証における小照射野用二次元測定機器の違いによる結果の比較。第31回国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2023年10月14日

井上綾乃、黒田大貴、名取晃大、小林正佳、中尾 弘：被写体厚における適切なグリッド比の検討。第31回国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2023年10月14日

黒田大貴、井上綾乃、名取晃大、小林正佳、中尾 弘：低格子比の散乱X線除去用グリッドの適応および有用性に関する検討。第 31 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2023年10月14日

三好未唯、西川峰生、狭間 竜、中尾 弘：High-resolution scan を用いた頸部 CT Angiographyにおける頚動脈ステント内腔評価の検討。第31回国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2023年10月14日

三好未唯、西川峰生、狭間 竜、中尾 弘：High-resolution scan を用いた頸部 CT Angiographyにおける頚動脈ステント内腔評価の検討。日本放射線技術学会 第67回近畿支部学術大会、京都、2023年12月9日～12月10日

近藤智美、上田道夫、中尾 弘：99mTc心筋血流SPECTに99mTc心筋血流SPECTにおけるMUS法を用いた画像処理が各種指標へ与える影響の検討。日本放射線技術学会 第67回近畿支部学術大会、京都、2023年12月9日～12月10日

B-8
土井祥平：放射線業務に必要な医療情報システムとセキュリティ。国立病院機構近畿グループ令和5年度新採用職員（コ・メディカル等・事務）研修、大阪、2023年4月21日

北川智彦：感染標準予防策（スタンダードプリコーション)。国立病院機構近畿グループ令和5年度新採用職員（コ・メディカル等・事務）研修、大阪、2023年4月21日

吉本篤史：計算問題。国立病院機構 近畿グループ放射線治療研修、Web、2023年6月9日

東野谷光弘:放射線安全管理。国立病院機構 近畿グループ放射線治療研修、Web、2023 年 6 月 9 日

伴 春奈:放射線測定技術。国立病院機構 近畿グループ放射線治療研修、Web、2023 年 6 月 9 日

熊給 淳:静磁場・磁性。国立病院機構 近畿グループ MRI 研修、Web、2023 年 8 月 7 日

岡田敦彦:k 空間と画像構成・パルスシーケンス。国立病院機構 近畿グループ MRI 研修、Web、2023 年 8 月 7 日

岡田敦彦:安全性。国立病院機構 近畿グループ MRI 研修、Web、2023 年 8 月 7 日

満元あゆみ:磁気モーメント・磁気緩和・MR 信号。国立病院機構 近畿グループ MRI 研修、Web、2023 年 8 月 7 日

水野雄貴:放射線技師としての日常業務とオリジナル業務。京都産業 21 主催・京 MED、京都、2023 年 8 月 25 日

水野雄貴:Bi-AMPS メディカルカンファレンス・重症救急初期診療における放射線科の役割について。大阪医療センター・大阪商工会議所共同開催、大阪、2023 年 10 月 25 日

北川智彦:アフターコロナ 5 類に移行して,変わったこと・変わらなかったこと。令和 5 年度 診療放射線部門における新型コロナウイルス感染症対応セミナー、東京、2023 年 12 月 14 日

中尾 弘:専門基礎分野「診断治療論」。令和 5 年度 大阪医療センター附属看護学校講義、大阪、2024 年 1 月 10 日、2024 年 1 月 17 日

井上敦夫:はじめての胸部 X 線知識袋。第 43 回大阪画像診断 IVR セミナー、Web、2024 年 1 月 25 日

北川智彦:放射線の基礎知識、放射線測定実習、医療機関の対応。令和 5 年度福岡県　原子力災害医療に関する研修（被ばく傷病者受入れ研修)、福岡、2024 年 1 月 27 日

北川智彦:放射線の基礎知識と人体への影響、放射線測定実習、医療機関の対応。令和 5 年度鹿児島県原子力災害時医療研修（原子力災害時の医療）（被ばく傷病者等の搬送)、鹿児島、2024 年 3 月 9 日

口腔外科

吉本 仁

当科では口腔、顎、顔面領域に生じる疾患を治療対象としています。すなわち 1) 歯および歯周組織疾患 2) 口腔粘膜疾患 3) 顎骨疾患 4) 唾液腺疾患 5) 顎関節疾患 6) 神経疾患 7) 血液疾患（診断と口腔粘膜出血の処置）8) リンパ系疾患などの口腔外科疾患を扱っています。特に悪性腫瘍の治療においては頭頸部カンファランスと病理カンファランスを行い、関連科の協力を得て集学的な治療を積極的に行っています。一方総合病院の口腔外科として、一般開業歯科医院では治療困難な全身管理（全身麻酔下治療および周術期管理を含む）を要する患者の歯科治療や、入院患者の口腔管理も行っています。なかでも口腔環境は、放射線治療、化学療法、骨髄移植、全身麻酔の術前（上部消化管疾患、肺がん等)、人工呼吸器装着および各種感染症などの患者における治療の遂行および入院期間に影響を与える大きな要因として認識され、十分な対応が求められています。

教育面では当科は歯学部学生の早期臨床体験を受け入れ、歯科医師卒後研修の研修指定病院としてマッチングに参加し、1 名の歯科医師臨床研修医を教育しています。また日本口腔外科学会および日本顎関節学会の研修指定機関に指定され、専門医取得のための卒後教育も積極的に行っています。

臨床研究としては口腔顎顔面悪性腫瘍術後における顎骨再建と口腔機能再建、非関節性開口障害の診断と治療をそのテーマとしています。

【2023 年度 研究業績発表】

A-0

Kubo H, Motohashi T, Kubota R, Fujii T, Watanbe M, Hase K, Hamada S, Ioku Y, Ueda M, Takenobu T, Shirao K, Kano M, Yoshimoto H : A clinico-statistical study of temporomandibular disorders in patients with rheumatoid arthritis J Osaka Dent Univ: 57(2):283-287、2023 年 10 月

Fukuda T, Tominaga T, Tominaga Y, Kanayama H, Kato N, Yoshimura H : Alternative strategy for driving voltage-oscillator in neocortex of rats. J Neurosci 191: 28-37, 2023 年 6 月

A-3

白尾浩太郎、鹿野 学、金山宏幸、矢谷実英、森 清、中嶋正博：上顎に生じた脂腺癌の 1 例「日本口腔外科学会雑誌」69（8） p 371-377、2023 年 8 月 20 日

B-4

金山宏幸、有家 巧： 当院における咀嚼筋腱・腱膜過形成症に対する治療の過去と現在。第 36 回日本顎関節学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 8 日

金山宏幸、白尾浩太郎：粉砕性鼻篩骨眼窩（NOE）骨折を伴う中顔面多発骨折の1例。第24回日本口腔顎顔面外傷学会、福岡、2023年7月22日

Kanayama H, Yoshimura H： Action of GABA-B receptor for local network oscillation in somatosensory cortex of oral part: focusing on oral function and NMDA receptor. 第65回歯科基礎医学会総会学術集会、東京、2023年9月16日

鹿野 学、吉本 仁、白尾浩太郎、金山宏幸、矢谷実英、北村有理子、有家 巧：COVID-19陽性患者の顔面骨折に対して観血的整復固定術を行った一例。第77回国立病院総合医学会、広島、2023年10月21日

白尾浩太郎, 吉本 仁、鹿野 学、金山宏幸、矢谷実英、北村有理子：当科における舌骨傍リンパ節郭清の実際。第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会、大阪、2023年11月8日

B-6
北村有理子、矢谷実英、白尾浩太郎、金山宏幸、鹿野学、吉本仁：搬送時にCOVID-19陽性が判明した下顎骨骨折の一例。第54回口腔外科学会近畿支部学術集会、大阪、2023年7月1日

B-8
吉本 仁：口腔外科疾患の新たな治療法についてーMRONJを含め、領域別の基本と新たな治療法ー。大阪市東歯科医師会学術講演会、大阪市、2023年2月2日

B-9
吉本 仁：顎関節症に関して。FM 大阪　LOVE FLAP THURSDAY「DOCTOER`s FLAP」2023年7月6日

救命救急センター

大西光雄

救命救急センターでは臨床医学的、社会医学的、基礎医学的な視点、それぞれを活かしリサーチマインドを常に互いに刺激し続けることを意識している。昨年度に続き本年度も COVID-19 への対応が診療の中心となったが、診療における工夫や病態の解析、事業継続（BCP）を念頭においた診療体制、日本外傷データバンクの解析、多職種連携に関する学会発表を行なった。

専攻医や研修医の教育に関しては、ディープラーニング・アクティブラーニングとなるよう心がけている。症例発表が中心となるが、“根拠”や“理論”を常に確認しながら、多角的な視点で深く事象を分析できるように指導している。

臨床研究に関しては、侵襲時、とくに敗血症の便中エンドトキシンや腸内細菌叢の変化（腸管免疫）、急性呼吸促迫症候群といった急性呼吸不全での白血球機能に関する研究を行ない、病態解明を目指している。

病院前の研究に関して、大阪大学や京都大学、大阪府下の救急医療に携わる研究者らによる心停止患者搬送時の救急隊の蘇生記録や搬送後の病院での診療を対象とした心肺蘇生研究に参加している。また、2013 年から大阪市消防と大阪大学が臨床研究を開始した、当センター直近の中央消防から開始し他の救急隊へ拡大させ研究を続けてきた。2021 年度は当センターが競争的研究資金を獲得したため、当センターも加わり傷病発生現場から病院到着までの病態を解明していく予定であったが、救急隊も当センターも COVID-19 への対応のため研究開始に至っていないが研究期間を延長し、蘇生のガイドラインに影響を与える研究を目標としている。

日本外傷データバンクのデータを用いた研究に参加し、外傷診療の重症度や治療内容と予後に関する疫学的解析を行なっている。当センター医師が筆頭研究者の英文論文も前年に引き続き掲載された。

社会医学に関する研究も行なっている。救急搬送患者は、様々な社会的問題を抱えていることが多い。大阪医療センターでは 3 名の救急認定ソーシャルワーカーを有し、救急医療における社会的側面へのアプローチに関し全国的なリーダーシップを発揮している。当センターの取り組みを元にした“社会的救命”が認知されてきたため、ソーシャルワーカーに対する講演が複数回開催された。次年度はさらに発展させる予定である。

災害医療に関して、高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）を行なっている。感染増大に伴い危機的状況を経験した沖縄の高齢者施設における COVID-19 への対応、沖縄県庁の取り組みを調査した。また、大阪市消防の各職員への抱える不安の調査をもとにした感染制御講演を行った。

基礎医学の研究では、爆発外傷の研究を行なっている。研究に必要な装置が大阪大学にあるため研究の場は大阪大学となるが、臨床的に未解明な部分の多い爆発外傷、特に衝撃波に伴う脳損傷の研究を行なっている。文部科学省科研

（21K09019）では衝撃波によって長期的に問題となる軽微な脳損傷による行動変容を分析し、病態解明、治療・予防法の開発へとさらに研究が進むことを期待している。

今後とも、救急・災害医療研究を通して地域医療をはじめとして医療に貢献しつつ、リサーチマインドを涵養すべく人材育成に注力していきたい。

災害医療における研究

今年度も昨年度に引き続き、COVID-19 への対応をもとにした災害医療の研究を行った。感染症への対応における人的・物的・空間的な不足（需要と供給のアンバランス）がもたらす事態という意味においては“災害”と捉えることができる。しかし、一般的な自然災害とは違い、いつから災害と認識できるのか？、ライフラインは全く影響を受けていない、といった災害をイメージしにくい状況があることから、当院では事業継続計画（BCP）を軸にした対応をおこなってきた。この取り組みは当初よりユニークであり、学会発表では注目されたと言える。

また、他の災害医療における研究としては、高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）があるが、今年度はあまり進展させることができなかった。さまざまな高齢者施設、あるいは在宅医療を行う医療機関と連携し災害時に“災害時要配慮者”に分類される、これらの医療・介護の利用者をいかにしてアセスメントし、医療への負荷を軽減させ、生命を守るかといった課題に取り組んでいく。

また、「CBRNE テロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に関わる研究：厚生労働科研　健康安全・危機管理対策総合研究事業　研究代表者：近藤久禎」および「オールハザード・アプローチによる公衆衛生リスクアセスメント及びインテリジェンス機能の確立に資する研究：厚生労働行政推進調査事業　健康安全・危機管理対策総合研究事業　研究代表者　冨尾淳」の分担研究（ともに主として化学災害への対応を分担）を開始した。大西が世界安全保障イニシアティブ（Global Health Security Initiative：GHSI）における化学イベントワーキンググループ（Chemical Event Working Group：CEWG）に所属していることもあり、この WG で得た知見を活かしながら日本における災害対応に取り組んでいきたい。

大阪医療センターは以前より大阪市消防の有志とともに運営されている大阪 EMS（Emergency Medical Service）研究会を通じて消防との連携のあり方など、15 年以上にわたり取り組んできた。COVID-19 の影響もあり、WEB 開催が主体となったことが幸いし、非常に広域、かつさまざまな職種からの参加者が得られるようになった。今年度は米国で救命士として活躍している人物や、米国の戦傷救護を学んだ自衛隊員を講師に招き、警察官、刑務官など救護を行う可能性のある多職種での研究会を多数開催できた。また、これら取り組みを研究発表している。当院の院内救命士も参加しており、医療の質の向上、各組織の視点を理解した上での連携を図るべく活動していきたい。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Nishioka N, Kobayashi D, Izawa J, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Kobata H, Kiguchi T, Kishimoto M, Kim SH, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Onoe A, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T. : Association between blood urea nitrogen to creatinine ratio and neurologically favourable outcomes in out-of-hospital cardiac arrest in adults : A multicentre cohort study. J Cardiol. 2023 Apr;81(4) : 397-403、2023 年 4 月

Mitsuhara C, Togami Y, Hirose T, Nakao S, Ito H, Matsumoto H, Ogura H, Okuzaki D, Oda J : Whole-blood ribonucleic acid sequencing analysis in methemoglobinemia : A case report.「Journal of Medical Case Reports」17(1) : 238、2023 年 6 月

Tachino J, Nonomiya Y, Taniuchi S, Shintani A, Nakao S, Takegawa R, Hirose T, Sakai T, Ohnishi M, Shimazu T, Shiozaki T.Association between time-dependent changes in cerebrovascular autoregulation after cardiac arrest and outcomes : A prospective cohort study.「J Cereb Blood Flow Metab.」 2023 Nov;43(11) : 1942-1950、2023 年 6 月

Kanki H, Matsumoto H, Togami Y, Okuzaki D, Ogura H, Sasaki T, Mochizuki H : Importance of microRNAs by mRNA-microRNA integration analysis in acute ischemic stroke patients.「Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases」32(9) : 107277、2023 年 7 月

Okamoto Y, Ishida K, Matsumura Y, Yoshikawa Y, Sogabe T, Fujikami Y, Ban K, Tatsumi K, Ohnishi M : Uterine rupture successfully treated with a damage-control strategy of hysterectomy and resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta-assisted cardiopulmonary resuscitation.「Acute Medicine & Surgery」10(1) : e881、2023 年 8 月

Yoshimura S, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Kobata H, Kishimoto M, Kim SH, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Onoe A, Matsuyama T, Matsui S, Nishioka N, Okada Y, Makino Y, Kimata S, Kawai S, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T. : Intra-Aortic Balloon Pump among Shockable Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients : A Propensity-Weighted Analysis in a Multicenter, Nationwide Observational Study in Japan (The JAAM-OHCA Registry). J Clin Med. 2023 Sep 13;12(18) : 5945、2023 年 9 月

Kawakami E, Saiki N, Yoneyama Y, Moriya C, Maezawa M, Kawamura S, Kinebuchi A, Kono T, Funata M, Sakoda A, Kondo S, Ebihara T, Matsumoto H, Togami Y, Ogura H, Sugihara F, Okuzaki D, Kojima T, Deguchi S, Takebe T : Complement factor D targeting protects endotheliopathy in organoid and monkey models of COVID-19.「Cell Stem Cell」30(10) : 1315-1330.e10、2023 年 10 月

Nakao S, Katayama Y, Kitamura T, Hirose T, Tachino J, Ishida K, Ojima M, Kiguchi T, Umemura Y, Kiyohara K, Oda J. Trends and characteristics of severe road traffic injuries in children： a nationwide cohort study in Japan. 「Eur J Trauma Emerg Surg.」 2023 Oct 17. doi： 10.1007/s00068-023-02372-z、2023 年 10 月

Okada Y, Komukai S, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Kobata H, Kiguchi T, Kishimoto M, Kim SH, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Onoe A, Matsuyama T, Nishioka N, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Kiyohara K, Zha L, Ong MEH, Iwami T, Kitamura T.： In-hospital extracorporeal cardiopulmonary resuscitation for patients with out-of-hospital cardiac arrest： an analysis by time-dependent propensity score matching using a nationwide database in Japan. Crit Care. 2023 Nov 15;27(1)：442、2023 年 11 月

Kiguchi T, Kitamura T, Katayama Y, Hirose T, Matsuyama T, Kiyohara K, Umemura Y, Tachino J, Nakao S, Ishida K, Ojima M, Noda T, Fujimi S. Timing of computed tomography imaging in adult patients with severe trauma： A nationwide cohort study in Japan.「Am J Emerg Med.」 2023 Nov;73：109-115. doi： 10.1016/j.ajem.2023.08.004. Epub 2023 Aug 7、2023 年 8 月

Kihara K, Kajiyama Y, Kimura Y, Okazaki S, Esa N, Nobe R, Shimizu K, Ohno K, Motooka D, Matsumura T, Shimazu T, Nakamura S, Fujinaga Y, Mochizuki H. Adult-onset botulism in a Japanese woman with prolonged spore excretion. Journal of Infection and Chemotherapy (JIC). 29 (12)： P1172-1176、2023 年 12 月

Yoshimura J, Togami Y, Ebihara T, Matsumoto H, Mitsuyama Y, Sugihara F, Hirata H, Okuzaki D, Ogura H：Classification of patients with COVID-19 by blood RNA endotype： A prospective cohort study.「Microbiology Spectrum」11(6)：e0264523、2023 年 12 月

Ito H, Nakamura Y, Togami Y, Onishi S, Nakao S, Ogura H, Oda J：Relationship between extravascular leakage and clinical outcome on computed tomography of isolated traumatic brain injury.「Acute Medicine & Surgery」11(1)：e931、2024 年 2 月

Mitsuyama Y, Matsumoto H, Togami Y, Oda S, Onishi S, Yoshimura J, Murtatsu A, Ito H, Ogura H, Okuzaki D, Oda J：T cell dysfunction in elderly ARDS patients based on miRNA and mRNA integration analysis.「Frontiers in Immunology」15：1368446、2024 年 3 月

Tajiri M, Gentsu T, Yamaguchi M, Sasaki K, Ueshima E, Okada T, Sugimoto K, Murakami T： A Case of Life-threatening Rupture of Small Renal Angiomyolipoma with an Unidentified Intratumoral Aneurysm during Follow-up. 「Interventional

Radiology」9(1)：20–25、2024 年 3 月

Nobe R, Nakao S, Nakagawa Y, Ogura H, Shimazu T, Oda J. Association between lung contusion volume and acute changes in fibrinogen levels: A single-center observational study. 「Acute Medicine and Surgery」. 11 (1): e945、2024 年 3 月

A-2
小島将裕、清水健太郎：【徹底ガイド　栄養療法-研修医からの質問 380-】特殊栄養素・ビタミン・微量元素・食物繊維など　選択的消化管除菌(SDD)および選択的口腔咽頭除菌(SOD)は有用か?「救急・集中治療」35（3）P822-830、2023 年 10 月

小島将裕、清水健太郎：【徹底ガイド　栄養療法-研修医からの質問 380-】特殊栄養素・ビタミン・微量元素・食物繊維など　プロバイオティクス/シンバイオティクス療法は有用か? 「救急・集中治療」35（3）P813-821、2023 年 10 月

小島将裕、清水健太郎：【徹底ガイド　栄養療法-研修医からの質問 380-】特殊栄養素・ビタミン・微量元素・食物繊維など　食物繊維 「救急・集中治療」35（3）P805-812、2023 年 10 月

A-3
戸上由貴：【トキシドローム真実はいつもひとつ!!か!?】トキシドロームを使う抗コリン性トキシドローム「救急医学」47(4)：P 429-434、へるす出版、2023 年 4 月

大西光雄：【トキシドローム真実はいつもひとつ!!か!?】トキシドロームの応用 ICT を利用したトキシドロームの活用「救急医学」47(4)：：P 465-471、へるす出版、2023 年 4 月

森寛泰、山口壽美枝、竹本雪子、福田貴史、松本謙太郎、和田 晃、大西光雄、平尾素宏、中島伸：診療看護師(NP)が一次・二次救急患者に対応するための包括的指示書の作成「日本 NP 学会誌」7（1）：P36-46、2023 年 5 月

石田健一郎、寺尾紀昭、飯沼公英、草深 進、山本幸伸、黒田愛実、大西光雄：【必要性が高まる災害・パンデミック対応とその見直し】BCP の見直しとワークショップを通じた職員の理解の促進「病院経営羅針盤」14（234）:P19-24、2023 年 6 月

伊藤弘、中村洋平、戸上由貴、大西伸也、中尾俊一郎、小倉裕司、織田順：頭部外傷患者における頭部造影 CT 検査での造影剤血管外漏出像と予後との関係 (Relationship between extravascular leakage and clinical outcome on computed tomography of traumatic brain injury)。「日本救急医学会雑誌」34(10)：P 402–410、2023 年 7 月

石田健一郎、松村洋輔、岡本雄太郎、小島将裕、吉川吉暁、小川晴香、木村 裕、中尾 弘、上尾光弘、大西光雄：REBOA、DCS、DCIR によるダメージコントロール戦略で救命した腹部・骨盤外傷の一例。「日本外傷学会雑誌」37（4）：P363-370、2023 年 10 月

小島将裕、吉川吉暁、石田健一郎、下野圭一郎、上尾光弘、大西光雄：固有肝動脈に遅発性仮性動脈瘤を形成した肝損傷を伴わない鈍的外傷の一症例「日本外傷学会雑誌」38（1）：P 14-19、2023 年 11 月

上野由貴、石田健一郎、飯沼公英、小島将裕、竹川良介、吉野宗宏、大西光雄：バルプロ酸中毒に対してメロペネムを用いて治療した 1 例「中毒研究」36（4）：P385-388、2023 年 12 月

大西光雄：【細菌だけじゃないクリニックで注意すべき食中毒】化学物質・薬品化学物質の添加・混入による食中毒「小児科」64（12）：P1284-1291、金原出版、2023 年 12 月

小島将裕：重症患者における腸内細菌叢の変化と病態との関連「ICU と CCU」48（2）：P 83-90、2024 年 2 月

B-2
Nobe R, Nakao S, Nakagawa Y, Ogura H, Shimazu T, Oda J. Association Between Lung Contusion Volume and Acute Changes in Fibrinogen Levels : A single center Observational Study. The 22nd International Conference on Emergency Medicine. Amsterdam, Netherlands, 2023 年 6 月 13 日

B-3
石田健一郎、片山祐介、北村哲久、小島将裕、廣瀬智也、中尾俊一郎、舘野丈太郎、木口雄之、清原康介、織田 順、大西光雄：高齢者外傷 (1) JTDB データを用いた高齢者外傷による併存症と院内死亡の関連。第 37 回日本外傷学会総会・学術集会、名古屋、2023 年 6 月 1 日

森 寛泰、山口壽美枝、竹本雪子、中村泉美、勝田充重、小谷聡司、中島 伸、大西光雄：どうする? 救急医療体制におけるタスクシフト・タスクシェア診療看護師(NP)による Advanced Triage 医師の役割解放に対応し看護の視点を有する救急医療体制。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 28 日

和田広大、浦井健、大西光雄、吉川吉暁、大里幸暉：事例に学ぶ：多職種連携のノウハウ病院救命士の病院間搬送における技術向上への取り組み消防救急車同乗実習から学ぶ。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 28 日

大西光雄、上尾光弘、岡垣篤彦：事例に学ぶ：急変の前の気づき、急変時対応の

ノウハウ Rapid Response への気付き、急変時の正確な記録を意識した電子カルテの工夫。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 28 日

浦井健、大西光雄、大里幸暉、和田広大、吉川吉暁：どうする? ドクターカー・ドクターヘリ：救急現場急行と病院間搬送救急搬送逼迫時における院内救命士による当院への救急搬送出動した事案から見えてきた課題。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 29 日

上野由貴、飯沼公英、井後星哉、竹本雪子、森 寛泰、山口壽美枝、小島将裕、石田健一郎、吉野宗宏、大西光雄：救急対応する医師・診療看護師への中毒担当薬剤師による薬物情報提供への取り組み。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 29 日

大西光雄、浦井健、大里幸暉、和田広大、吉川吉暁：どうする? 救急救命士の医療機関内での役割院内救命士のアイデンティティー確立のための当院の取り組み。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 29 日

廣瀬智也、戸上由貴、薬師寺泰匡、友田吉則、井上拓保、立野淳子：日本版敗血症診療ガイドラインアプリ開発よもやま話。第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会、徳島、2023 年 9 月 17 日

蛯原健、松本寿健、戸上由貴、松浦裕司、小倉裕司、織田順：COVID-19 と細菌性敗血症における補体活性化の比較。第 51 回日本集中治療医学会学術集会、札幌、2024 年 3 月 15 日

小島将裕：24 時間連続で間接熱量測定をすることで新たに可能となったことと今後の展望。第 51 回集中治療医学会学術集会、札幌、2024 年 3 月 15 日

小川晴香、石田健一郎：REBOA を実施する上でのチームアプローチの重要性。第 60 回日本腹部救急医学会総会、小倉、2024 年 3 月 21 日

B-4
小島将裕、下野圭一郎、大西光雄：重度神経性食欲不振症患者での生体情報モニターと一体型の間接熱量計を用いた栄養管理の可能性。第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、神戸、2023 年 5 月 9 日

米田和弘、清水健太郎、井田和美、大西伸也、戸上由貴、廣瀬智也、酒井智彦、島崎淳也、小倉裕司、織田 順：広範囲熱傷患者の低体温症に対する体温調節装置(サーモガードシステム)の使用経験。第 49 回日本熱傷学会総会・学術集会、東京、2023 年 5 月 26 日

石田健一郎、小島将裕、松村洋輔、吉川吉暁、上尾光弘、大西光雄：REBOA、DCS、DCIR による止血戦略で救命した腹部・骨盤外傷の一例。第 37 回日本外傷学会総

会・学術集会、名古屋、2023 年 6 月 2 日

米田和弘、磯部美緒、戸上由貴、廣瀬智也、島崎淳也、入澤太郎、丸川征四郎、小倉裕司、織田 順：ジアフェニルスルホンの内服によりメトヘモグロビン血症を呈した 1 例。第 45 回日本中毒学会総会・学術集会、さいたま、2023 年 7 月 14 日

藪内裕貴、廣瀬智也、清水健太郎、與猶由美香、片山祐介、戸上由貴、織田 順：トイレ用酸性洗浄剤の経口摂取に対し胃洗浄が有効と考えられた一例～非洗浄例一例との比較検討。第 45 回 日本中毒学会総会・学術集会、さいたま、2023 年 7 月 15 日

大西光雄、曽我部拓、石田健一郎、吉川吉暁、下野圭一郎、小島将裕、田中太助、小川晴香：化学物質汚染傷病者対応を目的とした強制排気システムを有する初療空間の構築。第 45 回 日本中毒学会総会・学術集会、さいたま、2023 年 7 月 15 日

上野由貴、井後星哉、平井優実、祝 洸太朗、飯沼公英、小島将裕、曽我部 拓、石田健一郎、大西光雄、吉野宗宏：中毒診療における多職種連携を更に進めるには救急初療で薬物情報提供を行う中毒担当薬剤師の導入。第 45 回日本中毒学会総会・学術集会、さいたま、2023 年 7 月 15 日

平島園子、大西光雄、太田裕子：入院時重症患者対応メディエーターの役割について臓器提供の意思決定支援の経験からの考察。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 29 日

海谷雄一、三木大輔、大西光雄、島崎淳也、竹川良介、中島清一：プレホスピタルにおける負傷者対応能力向上と医療機器開発を視野に入れた wet lab trainingb の開発。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 7 月 29 日

島崎淳也、中村洋平、竹川良介、蛯原健、中島清一、本間 宙、佐藤格夫、高松純平、大西光雄、織田 順：「Acute care surgeon の育成と拡充/Training of acute care surgeon」救急科専攻医に対する生体豚およびカダバーを用いた手術トレーニングコース　Acute Care Surgeon 育成を目指して。第 15 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会、千葉、2023 年 10 月 6 日

山口壽美枝、森 寛泰、竹本雪子、福田寿代、近藤信吾、中村泉美、大西光雄、平尾素宏：診療看護師(NP)の特定行為及び診療補助行為の検証システムの構築。第 9 回日本 NP 学会学術集会、札幌、2023 年 10 月 21 日

四井田英樹、中村貴行、宮川幸恵、藤井順也、丸宮和也、上田憲一、戸上由貴、上野由貴、大西光雄、吉龍正雄：有毒ガス吸入による急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に対する V-VECMO 管理。第 48 回日本体外循環技術医学会大会、仙台、2023 年 10 月 20 日

石田健一郎、吉川吉暁、寺尾紀昭、飯沼公英、草深 進、山本幸伸、黒田愛美、大西光雄：従来型」BCP から「オールハザード型」BCP への進化の提言-コロナ禍での BCP の改訂や災害訓練を経て-。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

浦井健、大西光雄、吉川吉暁、大里幸輝：病院救急救命士の教育体制について-他機関との連携を通して-。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

三木大輔、大西光雄、竹川良介、島崎淳也、中島清一：(救急救命士の教育)救急救命士に必要な教育とは　プレホスピタルにおける負傷者対応能力向上と医療機器開発を視野に入れた Wet Lab training の開発。第 9 回日本救急救命学会学術集会、弘前、2023 年 10 月 28 日

上田憲一、戸上由貴、野邊亮丞、田中太助、吉川吉暁、下野圭一郎、石田健一郎、四井田英樹、中村貴行、大西光雄：塩素ガス吸入による急性呼吸窮迫症候群の一救命例。第 51 回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 11 月 28 日

田尻昌士、戸上由貴、石田健一郎、小島将裕、吉川吉暁、井筒伸之、小林弘治、木谷知樹、藤中俊之、大西光雄：骨折や出血を伴わない頭部打撲後、けいれんを契機に診断した外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻の 1 例。第 51 回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 11 月 29 日

下野圭一郎、石田健一郎、田中太助、平島園子、八田美穂、太田裕子、大西光雄：救命センター加療後に自宅での看取りを可能にするための ACP の実践訪問診療医師を含む他職種連携で対応した一例。第 51 回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 11 月 29 日

曽我部 拓、石田健一郎、大西光雄：細菌性髄膜炎に合併した感染性心内膜炎後に僧帽弁穿孔を来した一例。第 51 回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 11 月 29 日

舘野丈太郎、松本寿健、戸上由貴、松原庸博、瀬尾茂人、小倉裕司、織田 順：血漿プロテオミクスプロファイルによる体幹部外傷と外傷性脳損傷の比較；前向きコホート研究。第 51 回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 11 月 29 日

小島将裕、下野圭一郎、大西光雄：プロバイオティクス療法中に腸管ガス壊疽および Clostridium butyricum 菌血症が生じて死亡した一例。第 51 回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2023 年 11 月 29 日

石田健一郎、太田裕子、平井亜里砂、草深 進、若井聡智、大西光雄：都市部の地域ヘルスケアシステム(医療・介護・福祉)を対象とした防災計画への取り組み。

第 29 回日本災害医学会総会学術集会、京都、2024 年 2 月 23 日

若井聡智、小谷聡司、矢嶋祐一、大西光雄：我々が実施している事態対処医療の現状と展望。第 29 回日本災害医学会総会学術集会、京都、2024 年 2 月 22 日

布施明、宮内雅人、大西光雄、落合秀信：南海トラフ地震における外部支援には限界がある。第 29 回日本災害医学会総会学術集会、京都、2024 年 2 月 23 日

大西光雄、石田健一郎：災害医学教育を参考にした医療機器開発のニーズ・シーズマッチングにおける共通認識構築への取り組み。第 29 回日本災害医学会総会学術集会、京都、2024 年 2 月 24 日

野邊亮丞、石田健一郎、田尻昌士、戸上由貴、小川晴香、田中太助、小島将裕、下野圭一郎、曽我部 拓、大西光雄：血管内体温管理カテーテル使用後に血栓塞栓症を認めた 6 例の症例検討。第 51 回日本集中治療学術集会、札幌、2024 年 3 月 14 日

戸上由貴、松本寿健、島崎淳也、小倉裕司、織田順：重症熱中症患者の白血球 RNA では小胞体ストレス応答が活性化されている。第 51 回日本集中治療医学会学術集会、札幌、2024 年 3 月 16 日

小島将裕：職種間の共通認識を重視した重度摂食障害患者に対する代謝量測定に基づく栄養サポートプロトコール。第 51 回集中治療医学会学術集会、札幌、2024 年 3 月 15 日

B-5
大西光雄：”爆傷など特殊事案を知る・・・新しい連携、深化した連携で対応するために”。第 172 回近畿救急医学研究会救急隊部会、奈良、2023 年 5 月 26 日

小島将裕、大西光雄：代謝量をモニタリングし患者の病態に応じた栄養評価を行う-リアルタイムに評価する時代の到来-。第 126 回近畿救急医学研究会、大阪、2023 年 6 月 24 日

B-6
山野敏基、石田健一郎、小島将裕、曽我部 拓、田中太助、吉川吉暁、下野圭一郎、小川晴香、大西光雄：尿路感染症による敗血症を契機に痙攣重積を来した敗血症性脳症の一例。第 126 回近畿救急医学研究会、大阪、2023 年 6 月 24 日

上野由貴、戸上由貴、平井優実、井後星哉、野邊亮丞、田尻昌士、石田健一郎、大西光雄、吉野宗宏：注意欠陥・多動性障害治療薬とベンゾジアゼピン系薬剤の相互作用により房室ブロックが出現したと考えられた 1 例。第 44 回日本中毒学会西日本地方会、大阪、2024 年 1 月 17 日

東 俊樹、野邊亮丞、石田健一郎、北林 快、田尻昌士、戸上由貴、小川晴香、田中太助、小島将裕、下野圭一郎、吉川吉暁、曽我部 拓、大西光雄：頭部 MRI で異常信号を呈し、意識障害が遷延したIII度熱中症の 1 例。第 127 回近畿救急医学研究会、神戸、2024 年 3 月 2 日

岡 晃平、曽我部 拓、石田健一郎、北林 快、野邊亮丞、田尻昌士、戸上由貴、小川晴香、田中太助、小島将裕、下野圭一郎、吉川吉暁、大西光雄：ラモトリギンを内服中の患者がデキストロメトルファンの大量内服によりセロトニン症候群を来したと考えられた一例。第 127 回近畿救急医学研究会、神戸、2024 年 3 月 2 日

B-8
石田健一郎:第 14 回 DIRECT-REBOA オンラインセミナー、DIRECT 研究会主催 当番世話人、2023 年 4 月 22 日

大西光雄：第 126 回近畿救急医学研究会会長　大阪国際会議場、大阪、2023 年 6 月 24 日

大西光雄：”院内急変対応 -アセスメントと記録-これまでとこれから”。第 126 回近畿救急医学研究会、2023 年 6 月 24 日

吉川吉暁：令和 5 年度救急救命技術研修会。講師参加、大阪、2023 年 7 月 7 日

小島将裕：重度栄養障害患者に生じるリフィーディング症候群の病態と対策。第 2 回大阪急性期栄養管理カンファレンス、Web、2023 年 7 月 11 日

田尻昌士、石田健一郎、小島将裕：第 51 回大阪医療センターICLS コースインストラクター、大阪、2023 年 9 月 2 日

小島将裕：重症病態時の腸内細菌叢の変化。第 411 回大阪大学臨床栄養研究会、大阪、2023 年 10 月 16 日

石田健一郎：中毒環境障害「中毒各論(自然中毒～覚醒剤中毒)溺水・熱中症」。大阪医専　講義、2023 年 10 月 16 日

田中太助：中毒環境障害「中毒総論」、大阪医専　講義、2023 年 10 月 12 日

小島将裕:中毒環境障害「偶発性低体温・その他の環境障害」、大阪医専　講義、2023 年 11 月 13 日

田尻昌士：第 52 回大阪医療センターICLS コースインストラクター、大阪、2023 年 11 月 18 日

石田健一郎：第 4 回周産期救急 REBOA & IVR ワークショップ。DIRECT 研究会

主催、当番世話人、2023 年 12 月 3 日

石田健一郎：「縊頸・絞頸」。大阪市消防局　高度専門教育訓練センター　講義、2023 年 12 月 5 日

小島将裕：「異物」。大阪市消防局　高度専門教育訓練センター　講義、2023 年 12 月 7 日

小川晴香：「刺咬傷」。大阪市消防局　高度専門教育訓練センター　講義、2023 年 12 月 11 日

野邊亮丞：「血液・免疫系」。大阪市消防局　高度専門教育訓練センター　講義、2023 年 12 月 12 日

野邊亮丞：「血液・免疫系疾患」。大阪市消防局　高度専門教育訓練センター　講義、2023 年 12 月 18 日

小川晴香：，中毒環境障害「中毒各論(医薬品中毒～アルコール中毒)」。大阪医専　講義、2023 年 12 月 21 日

石田健一郎、北林 快、小島将裕：第 52 回大阪医療センターICLS コースインストラクター、大阪、2024 年 2 月 3 日

北林快：医学生のための救急セミナー2024、講師参加、主催：大阪府健康医療部、2024 年 2 月 23 日

大西光雄：”プレホスピタルにおける負傷者対応能力向上に資する動物実習”講師　神戸医療機器開発センター　兵庫県神戸市　2023 年 5 月 13 日、9 月 16 日、12 月 16 日、2024 年 2 月 10 日

大西光雄：”生体豚を用いた外傷手術トレーニングコース"講師 神戸医療機器開発センター　兵庫県神戸市　2023 年 5 月 13 日、9 月 16 日、12 月 16 日、2024 年 2 月 10 日

大西光雄：”災害時要配慮者”、”災害時に留意すべき疾病”、”感染制御”。全日本病院医療救護班（AMAT）研修　講師全日本病院協会、東京、2023 年 8 月 26 日

大西光雄：”救命救急医療の現状と課題解決が急がれる機器開発” 講演および未来の課題解決 ブレストセッションモデレーター。【救命救急医療】現代の課題解決セッション「いのち輝く未来社会」実現にむけた共創カンファレンス、大阪商工会議所、大阪、2023 年 9 月 11 日

大西光雄：医療機器開発連携推進ネットワーク合同シンポジウム、パネリスト。

メディカルクリエーションふくしま、郡山、2023 年 11 月 1 日

大西光雄：”救命救急センターにおけるチーム医療の考え方”。大阪医専スペシャルゼミ 大阪医専、大阪、2023 年 12 月 8 日

大西光雄：事態対処救護コース（試行） ”止血” 講師 及び 開催責任者 海上保安大学校、広島、2023 年 12 月 23 日

大西光雄：”救急医療”、ファシリテーター、海外医療市場展開検討ワークショップ、大阪商工会議所・JICA 関西、大阪、2024 年 2 月 16 日

B-9
石田健一郎：72 時間経過。届かぬ救助、産経新聞 (取材)、2024 年 1 月 5 日

麻酔科

渋谷博美

麻酔科は、常勤医 13 名（全員麻酔専門医）と麻酔専門医になるための研修を受けている専攻医 3 名そして医科麻酔研修の歯科医が 1 名の合計 17 名が臨床麻酔に携わっています。

全 12 の手術室において、各種がん疾患、脳・循環器・呼吸器疾患、消化器疾患､整形外科疾患､その他手術関連全診療科の手術や救命救急関連手術など様々な手術麻酔を施行しています。年間総数として約 6500 例、麻酔管理として約 3200 例の手術麻酔を行っています。

医学の進歩は目まぐるしく､「手術は大きく開けてしっかり見る」から「小さく開けてしっかり見る」に変わり、麻酔薬も手術侵襲や手術時間に合わせて調整しやすいものに変わっています。ロボット支援下手術を施行する診療科も増え、それに伴い手術件数も増えました。全身麻酔は手術室だけではなく、血造造影室での脳動脈瘤血管内治療やカテ室での左心耳閉鎖や経皮的僧帽弁クリップ術など、手術室フロア外で麻酔を施行する機会も多くなっています。安全な麻酔管理と快適な覚醒のために、麻酔器の周囲には多くのモニターが並び、モニターに表示される数値を見て麻酔深度を調整する麻酔法に変化しています。

術中・術後の疼痛に対しは、硬膜外麻酔や抹消神経ブロックを施行し、必要に応じて PCA（patient controlled analgesia:自己調節鎮痛法）を施行しています。今年度は、術後疼痛管理チームが携わった件数も増えました。

術後疼痛管理チームは、麻酔科医・手術室看護師・薬剤師により構成された医療チ　ームで、術後患者の鎮痛、離床の程度などを評価し、術後疼痛を軽減するための活動を行っています。

教育面では、大学からクリニカルクラークシップの学生を受け入れ、麻酔科は勿論ですが大阪医療センターの良さをアピールしています。

日本麻酔科学会認定病院として、初期研修医の麻酔科研修では、指導医と 2 人体制で麻酔を担当し、術前評価を行い、麻酔法を決定し、気管挿管や血管確保などの手技だけでなく、循環動態を安定させるための麻酔薬の調整や循環作動薬の投与などの術中管理、そして術後は悪心嘔吐や疼痛の評価まで行う研修をしています。毎年、当院の初期研修医から麻酔科専攻医になっており、麻酔科医の育成にも力を入れています。

【2023 年度 研究業績発表】

B-1

本堂方人、中西裕貴子、天野栄三、渋谷博美：セボフルランからの全身麻酔覚醒において閉塞性換気障害が及ぼす影響について。日本麻酔科学会第 70 回学術集会、神戸、2023 年 6 月 2 日

B-2
中西裕貴子、本堂方人、天野栄三、渋谷博美：術前外来で早期肺癌を発見し患者予後に役立った２症例。日本麻酔科学会第 70 回学術集会、神戸、2023 年 6 月 2 日

B-3
小野田智明、中西裕貴子、春原真理、天野栄三、渋谷博美：重度の開口障害を呈する顎関節強直症患者に対し、局所麻酔下気管切開にて気道確保し全身麻酔下手術を行った 1 例。日本麻酔科学会関西支部学術集会、大阪、2023 年 9 月 2 日

B-４
野田純希、天野栄三、中西裕貴子、上田祥弘、山路寛人、島川宜子、渋谷博美：プロテイン S 欠乏患者に対する腹腔鏡下肝切除術の周術期管理経験。日本臨床麻酔学会第 43 回大会、宮﨑、2023 年 12 月 7 日

臨床検査診断部

眞能正幸



【概況】

臨床検査診断部は以下の 3 部門で構成されており、それぞれの管理責任医師の指導のもと業務を遂行している。

臨床検査診断部（臨床検査診断部長：眞能 正幸）

（1）臨床検査科（臨床検査科科長：眞能 正幸）

（2）病理診断科（臨床検査科医長：森 清）

（3）エコーセンター（臨床検査科科長：眞能 正幸）

臨床検査診断部としては、ISO15189 認定（RML00860）の他、日本臨床細胞学会（No.466）、日本病理学会研修認定施設 (No.5011)などの施設認定を取得している。スタッフは医師 4 名と臨床検査技師 45 名、検査助手 4 名で運営している。また、認定病理検査技師（2 名）、細胞検査士（8 名）、超音波検査士（5 名）、認定輸血検査技師（2 名）、糖尿病療養指導士（2 名）、認定血液検査技師（2 名）、認定臨床微生物検査技師（2 名）、認定一般検査技師（1 名）の認定技師が在籍している。

（1）臨床検査科

病院基本方針の 1 つである「質の高い医療を維持・発展」の一旦を担うため『精度保証されたデータを迅速に提供すること』を使命としている。当科はいち早く臨床検査室の国際規格である ISO15189 認定を平成 26 年 11 月 13 日 国内第 86 番目の施設として取得した。令和 5 年度 7 月には生理検査部門を含む第 5 回のサーベイランスを受審した。また、二交替勤務, 輸血管理当直を早期より導入し休日・夜間を含む 24 時間体制で緊急検査、輸血管理・検査に対応している。近年は SARS-CoV-2 の感染拡大を受けて、24 時間体制で迅速かつ効果的に PCR 検査を実施し病院機能の維持に尽力している。

（2）病理診断科

当科は、日本病理学会認定施設（認定番号：第 5011 号）、日本臨床細胞学会認定施設（第 0466 号）、同教育研修認定施設（第 0220 号）であり、日本専門医機構・日本病理学会の認定する病理専門医の教育と、日本臨床細胞学会の認定する細胞診専門医並びに細胞診検査士の教育と研修の場として機能し、これまで多数の病理専門医、細胞診専門医と細胞診検査士を輩出してきた。令和 5 年度は、病理診断医は、専任医師は 3 名（森 清、廣瀬 由美子、藤原理恵子）と併任医師は 1 名（眞能 正幸）が常勤として在籍している（いずれも病理専門医および細胞診専門医である事に加え、3 名が日本病理学会認定の分子病理専門医を取得済）。また非常勤医師は 6 名、研修生として招聘の医師 1 名を擁し、骨軟部、脳腫瘍といった希少がん領域や、循環器、肝胆膵、婦人科、皮膚、顎口腔の各領域の診断病理専門家の指導を仰ぎ、診断精度の向上に努めている。また血液疾患・リンパ腫、腎生検の難解症例については専門家へのコンサルトを定期的に行う体制も整えている。当科業務に携わる臨床検査技師は 11 名で、この内で認定病理検査技師 2 名、細胞検査士 8 名（専任 4 名）が従事している。

令和 5 年度の当科における診断実績は、組織診 6068 件、術中迅速組織診 199 件、細胞診 6028 件、病理解剖 13 件であった。

近年、急激に臨床応用が進む分子病理学的検査の拡大が著しいが、我が国のがんゲノム医療体制において、当院の「がん診療連携拠点病院」としての機能の一翼を担うべく、当科は病理標本を用いた種々のがん遺伝子パネル検査や多数のコンパニオン診断などで貢献している。また、分子病理専門医が、当院がん病理診断業務の質の担保に貢献している。

また ISO 15189 認定（RML00860）の他、特定非営利活動法人日本病理精度保証機構の外部精度評価（施設番号 5009）に定期的に参加し、病理検査の質の向上、精度管理に努め、臨床各科と協力の上で、質の保たれた検体の提供を通して多数の国内外の治験・臨床試験に大きく貢献している。

(3) エコーセンター

エコー委員会は平成 19 年 7 月、超音波検査装置の購入・管理・整備に関することをはじめとして、装置の配置や利用時間帯に関して弾力的かつ効率的な運用を図る目的で設置された。それ以来、エコーセンターでは計画的に高機能装置の充実を図るとともに、各科協議のもと、装置を有効に活用して順調に検査件数を伸ばしている。

・エコー委員会構成員

委員長　　眞能正幸
副委員長　河合 健
委　員　　エコーセンターおよびエコー機器を利用する関係診療科医師

【各部門について】

外来検査部門：7 つのブース中に車椅子用ブース 2 つを設け、また安静後採血のためのベッドを 2 台配置し外来患者の採血を実施している。患者待ち時間短縮と外来結果報告を早く行うために採血開始時間を 15 分早めて 8 時 15 分とし、待ち時間短縮等効果を継続している。採血は検査業務の入口であり、その 8 割以上を臨床検査技師が実施している。また、入院患者の翌日採血予定分の採血管を前日に準備している。併設の一般検査室では検尿、便潜血、穿刺液（髄液、胸腹水等）の検査、原虫や虫卵検出等を中心に検査している。

総合検査部門：血液を中心とした体液中の成分を様々な分析機で検査している。緊急検査は 30～40 分以内、至急検査や診察前検査は約 60 分以内を目途に診療科に報告している。更に多くの治験にも協力しており、検体の処理や保管を実施している。この他、輸血用血液製剤の管理を行い、安全かつ効率的な血液製剤の利用に努めている。

微生物検査部門：臨床検体からの細菌分離、同定検査、薬剤感受性検査の他にインフルエンザウイルスなどの迅速抗原検査や結核菌などの微生物を対象とした検査を行っている。HCV、HBV および HIV のリアルタイム PCR 法による高感度測定や、MRSA の遺伝子型（POT 法）の検出も行っている。これらの情報

は耐性菌週報として院内に発信するとともに、ICT 会議や ICT ラウンド資料、院内抗菌薬適正使用（AST）として院内感染管理に貢献している。

病理検査部門：術中の迅速病理診断や迅速細胞診、100 種以上の抗体を備えた免疫染色により症例に応じた治療法の選択に貢献している。高度な専門的病理診断に対応するため 3 大学より病理専門医を招聘している。

生理検査部門：心電図、脳波、呼吸機能、超音波など実際の患者を対象とした部門である。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系や聴覚系等の分野の検査を実施し、特に超音波検査についてはエコーセンターとして、各診療科の超音波検査の受付を一括して行っている。

【活動報告】

各種の外部精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、大阪府臨床衛生検査技師会）に参加している。一例として日本医師会主催の臨床検査精度管理調査の成績（過去 6 年間）を示す。

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
評価項目修正点	98.8	98.0	98.9	98.6	98.1	99.2

【今後の課題と目標】

当科でも世代交代の波は急激に押し寄せている。特に当院は、近畿グループの中においても人材育成を担う中心的な施設の 1 つであり、臨床検査技師の人材育成に力を入れている。特に入職後 3 年目までの技師を対象に、複数部門(総合検査は必須)を積極的に経験させてジェネラリストとしての基礎を育てると共に、自身の適性や今後の方向性を自覚することにより将来認定資格取得を含めた専門性を高める起点となるよう努めている。

チーム医療の推進にも積極的に関わり、糖尿病教室、NST（栄養サポートチーム)、肝臓病教室、ICT（感染対策チーム）での患者指導・情報提供・ラウンド等に参加、さらに ISO15189 認定施設としてスタッフへの教育を行ない、診療機能や治験業務の質向上に貢献していく。

現在実施している各種臨床病理カンファレンス（乳腺腫瘍、皮膚科疾患、婦人科疾患、上部消化管疾患、呼吸器腫瘍等）を継続し、病理診断や臨床診断・治療の質の向上に今後も努めていく。これに加えて、初期研修医のローテート受け入れ可能な科としてのアピールを行い、次世代病理医人材の育成や、臨床医志向の若手医師への病理学的教育（検体の扱いの重要性や、標本作製・診断過程の理解、病理学的に判断できることとできないことがあることを学び、病理検査を有効に活用できる臨床医を育成する）を進めていく。また、職員研修部との共催で月 1 回（1 月、5 月、8 月を除く）の CPC を充実させていく。

エコーセンターにおいては装置の稼働率をより高めるために、各科と連携しさらに効率のよい運用形態を探っていきたい。それと同時に、超音波検査を実施で

きる人材の育成が急務である。このため、当センターでは臨床研修医や臨床検査技師を対象に実地研修を実施している。また、部内では判読勉強会を開催して、検査技能の向上と超音波検査担当技師の育成を図っている。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Nagao D, Ozeki M, Nozawa A, Yasue S, Sasai H, Endo S, Kato T, Hori Y, Ohnishi H：A Case of Multifocal Lymphangioendotheliomatosis With Thrombocytopenia and Changes in Coagulopathy. 「Journal of Pediatric Hematololy/ Oncology」 45(3)：e384-e388.doi:10.1097/MPH.0000000000002597、2023 年 4 月 1 日

Nonaka T, Kawashiro S, Ishikawa H, Ito Y, Nemoto K, Ishihara R, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Booka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, Yoshida M, Kitagawa Y：Esophageal Cancer Practice Guidelines Preparation Committee. Concurrent chemoradiotherapy using proton beams can reduce cardiopulmonary morbidity in esophageal cancer patients: a systematic review. 「Esophagus」20(4)：P605-616、doi: 10.1007/s10388-023-01015-x. 2023 年 6 月 17 日

Nagate Y, Nakaya A, Kamimura R, Hirose Y, Nojima S, Fujita J, Kiyohara E, Shibayama H：Venetoclax Combined with Azacitidine Can Be a First-line Treatment Option for Elderly Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm.「Internal Medicine」 62(17)：P2547-2551、2023 年 9 月 1 日

Hirose K, Shibahara T, Teramoto A, Usami Y, Ono S, Iwamoto Y, Murakami S, Oya K, Uzawa N, Motooka D, Hori Y, Morii E, Toyosawa S：Clear Cell Squamous Cell Carcinoma of the Maxillary Gingiva Associated with PIK3CA and HRAS Mutations: Report of a Case and Literature Review.「Head and Neck Pathology」17(4)：P1026-1033. doi: 10.1007/s12105-023-01580-8、2023 年 9 月 21 日

Sanada T, Kinoshita M, Sasaki T, Yamamoto S, Fujikawa S, Fukuyama S, Hayashi N, Fukai J, Okita Y, Nonaka M, Uda T, Arita H, Mori K, Ishibashi K, Takano K, Nishida N, Shofuda T, Yoshioka E, Kanematsu D, Tanino M, Kodama Y, Mano M, Kanemura Y：Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image. 「Neuro-oncology Advances」 6(1)：vdae016. doi: 10.1093/noajnl/vdae016. eCollection 2024 Jan-Dec、2024 年 2 月 1 日;

Hirose K, Hori Y (corresponding author), Ozeki M, Motooka D, Hata K, Tahara S, Matsui T, Kohara M, Maruyama K, Imanaka-Yoshida K, Toyosawa S, Morii E：Comprehensive phenotypic and genomic characterization of venous malformations.「Human Pathology」

145：48-55. doi: 10.1016/j.humpath.2024.02.004. Online ahead of print、2024 年 2 月 15 日

Masashi Amano, Chisato Izumi, Misako Toki, Yoshiki Yanagi, Akihiro Hayashida, Takahiro Kawamoto, Arudo Hiraoka, Satsuki Fukushima, Taichi Sakaguchi, Nozomi Watanabe, Kiyoshi Yoshida, Mitral valve：Mitral valve early systolic billowing induces following annular expansion and leaflet augmentation in Barlow's disease: sequential analysis using 3D echocardiography.「European Heart Journal - Cardiovascular Imaging」2024;, jeae031, https://doi.org/10.1093/ehjci/jeae031

A-1

柳 善樹：特集 スーパーソノグラファーが教える検査の極意 きれいな画像の出し方とエコー診断の進め方　心臓内異常構造物を見つけたら？「心エコー」泉知里 編集、24（7）：P.671-679、文光堂、東京、2023 年 7 月

A-3

阿部 優、俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、寺川航基、柳澤公紀、三代雅明、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、森 清、平尾素宏：放射線治療後に横行結腸浸潤を伴う臍転移(Sister Mary Joseph's Nodule)を来した子宮頸癌の 1 例「癌と化学療法」50(4)：P.535-537、癌と化学療法社、2023 年 4 月 15 日

中谷 綾、長手泰宏、戸田 淳、山下勇大、廣瀬由美子、森 清、柴山浩彦：形質芽球性骨髄腫と類似した臨床像を呈した形質芽球性リンパ腫「臨床血液」64(4)：P.260-264、一般社団法人日本血液学会、2023 年 4 月 28 日

濱口恭子、坪山尚寛、森 清、井上敦夫、岸本健太郎、藤原拓也、虎谷昌保、中山明子、東 将浩：乳癌の子宮筋腫内転移の 1 例「日本放射線科専門医会・医会学術雑誌」3：P.57-62、日本放射線専門医会・医会、2023 年 5 月 2 日

東浦玲意、榊原祐子、石田 永、長谷川裕子、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、阪森亮太郎、森 清、三田英治：クローン病に合併した直腸癌術後 5 年で多発転移を認めた 1 例「日本消化器病学会雑誌」120(8)：P.671-679、一般社団法人日本消化器病学会、2023 年 8 月 10 日

白尾浩太郎、鹿野 学、金山宏幸、矢谷実英、森 清、中嶋正博：上顎に生じた脂腺癌の 1 例「日本口腔外科学会雑誌」69(8)：P.371-377、公益社団法人日本口腔外科学会、2023 年 8 月 20 日

A-4

森 清：【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 13 章)乳腺　葉状腫瘍「病理と臨床」41(臨時増刊号)：P.206、文光堂、2023 年 4 月 6 日

森 清：【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 13 章)乳腺　Paget 病「病理

と臨床」41(臨時増刊号)：P.199、文光堂、2023 年 4 月 6 日

森 清：【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 13 章)乳腺　硬化性腺症「病理と臨床」41(臨時増刊号)：P.193、文光堂、2023 年 4 月 6 日

堀 由美子、森井英一、大須賀慶悟、廣瀬勝俊：血管腫・血管奇形の病理「脈管学」63(5)：P.85-90、一般社団法人日本脈管学会、2023 年 8 月 10 日

森 清：稀に遭遇する乳腺疾患の病理と臨床　血管肉腫　血管肉腫の病理「乳癌の臨床」38(5)：P.385-391、篠原出版新社、2023 年 10 月 30 日

B-3

眞能正幸（座長）：要望演題 8 食道 NEC。第 77 回日本食道学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 30 日

大森昌子（座長）、森 清（座長）、有馬信之（講師）、鹿股直樹（症例解説講師）：病理セミナー：適切な治療のための病理標本の取扱い方。第 31 回日本乳癌学会学術総会、横浜、2023 年 7 月 1 日

堀 由美子（講師）：講義 1　血管腫・血管奇形の病態診断。第 14 回血管腫・血管奇形講習会/ 第 19 回日本血管腫血管奇形学会学術集会、名古屋、2023 年 9 月 7 日

森 清：ランチョンセミナー５　進歩する HR 陽性 HER2 陰性早期乳がんを考える～病理と薬物療法の観点から～；Histological grade の予後（再発リスク）因子としての意義。第 33 回日本乳癌検診学会学術総会、福岡、2023 年 11 月 24 日

柳 善樹：先天性心疾患の撮り方　初級編（PDA)。第 48 回日本超音波検査学会、大阪、2023 年 6 月 11 日

柳 善樹：3D TTE エコーで弁膜症を診る　大動脈弁の 3D エコー。第 28 回日本心エコー図学会冬期講習会、大阪、2024 年 1 月 22 日

B-4

堀 由美子、廣瀬勝俊、松井崇浩、豊澤 悟、森井英一：静脈奇形における TEK 遺伝子変異の臨床病理学意義。第 112 回日本病理学会総会、下関、2023 年 4 月 13 日

津田絹恵、若崎真衣子、今井伸弥、吉川千鶴、大西浩代、弓場和可苗、竹中明美、廣瀬由美子、森 清、眞能正幸:組織型推定に苦慮した膵転移した腎細胞癌の 3 例。第 64 回日本臨床細胞学会総会（春期大会)、名古屋、2023 年 6 月 10 日

赤嶺和昭、柳 善樹、中川紗希、糸口耕平、小元真生、谷口久美、石田有里菜、松浦夕葵乃、鳥飼真依、河合 健、眞能正幸 : 右側臥位アプローチが有用であった静脈洞 ASD の一例。第 48 回日本超音波検査学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 11 日

今村沙弓、森 清、八十島宏行、水谷麻紀子、岡田公美子、林 千恵、眞能正幸、増田慎三 : MammaPrint/Blueprint を用いた HER2 陽性乳癌に対する術前薬物療法の効果予測。第 31 回日本乳癌学会学術総会、横浜、2023 年 6 月 29 日

赤澤 香、森 清、清水幸生、林 千恵、岡田公美子、八十島宏行 : 当院におけるセンチネルリンパ節生検　術中迅速捺印細胞診の妥当性の再検証。第 31 回日本乳癌学会学術総会、横浜、2023 年 6 月 30 日

木原実香、中野理美、田井 静、若崎真衣子、大西浩代、福田 修、河合 健、眞能正幸 : X 連鎖無ガンマグロブリン血症治療中にマクロライド耐性の Campylobacter coliによる敗血症を反復した一症例。第35回日本臨床微生物学会総会･学術集会、横浜、2024 年 2 月 10 日

木原実香、中野理美、田井 静、若崎真衣子、那須 紬、松村拓朗、渡邊 大、河合健、眞能正幸 : Microbacterium oxydans によるカテーテル関連血流感染（CRBSI）の一症例。第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会、横浜、2024 年 2 月 9 日

B-6

柳 善樹、安部晴彦、中村雅之、中川紗希、赤嶺和昭、上田恭敬、西 宏之、河合健、眞能正幸 : 左室心尖部への転移をきたした粘液線維肉腫の一例。日本心エコー図学会第 34 回学術集会、岐阜、2023 年 4 月 21 日

小元真生、柳 善樹、中川紗希、赤嶺和昭、谷口久美、鳥飼真依、糸口耕平、石田有里菜、松浦夕葵乃、福田 修、河合 健、眞能正幸 : COVID-19 ワクチン関連心筋炎が疑われた一例。国立病院機構臨床検査技師会近畿支部総会、大阪、2023 年 6

月 24 日

赤嶺和昭、柳 善樹、中川紗希、鳥飼真依、小元真生、糸口耕平、谷口久美、河合健、眞能正幸：右側臥位胸骨右縁アプローチが有用であった静脈洞型 ASD の一例。第 48 回日本超音波検査学会、大阪、2023 年 6 月 11 日

B-8

森 清：Histological grading (Nottingham grading system) の予後（再発リスク）因子としての意義。Lilly Breast Cancer Web Conference、名古屋、2023 年 8 月 21 日

森 清：Histological grading の予後（再発リスク）因子としての意義。Lilly Breast Cancer Web Conference in Osaka、大阪、2023 年 10 月 23 日

森 清：Histological grade の予後（再発リスク）因子としての意義。大分県乳癌セミナー、大分、2023 年 11 月 27 日

リハビリテーション科

三木秀宣

高度急性期大規模病院におけるリハビリテーション科として、急性発症後の早期機能回復を目的にリハビリテーション料専従医師による障害診断および処方に従って理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が超早期から積極的に介入している。また、機能回復に経過を要する疾患については最善の状態で後継病院へ引き継げるように、外科手術後では早期の自宅退院を目指して最大の機能回復を図るために質の高いリハビリテーションを提供することを目標としている。

１．施設基準

①心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
②脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
③廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
④運動器リハビリテーション料Ⅰ
⑤呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
⑥がん患者リハビリテーション料

２．依頼診療科

リハビリテーション科へ依頼される診療科は整形外科、循環器内科、脳神経外科、脳卒中内科、救命救急科、消化器内科、外科、心臓血管外科、泌尿器科など多岐に渡っている。また、令和４年度の処方件数は、理学療法 3,687 件、作業療法 1,371 件、言語聴覚療法 892 件で、それぞれ前年度比 116.6％、113.9％、152.5％となり大幅な増加傾向にある。

①整形外科

人工関節（股・膝関節）や脊椎術後患者においてクリティカルパスに基づいて術後 3 週間で退院できるように良質で均質なリハビリテーションを実施し、在院日数短縮と QOL 向上を両立している。

②循環器内科、心臓血管外科

心疾患の急性期に対して離床から 200m 歩行までのプロトコルによる個別療法と、集団療法による心臓リハビリテーションを実施している。

③脳卒中内科、脳神経外科

脳梗塞、脳内出血、脳腫瘍、頭部外傷術後など幅広い脳疾患に対応している。両科とも脳卒中ケアユニット（SCU）から一般病棟まで超早期から関わり、最良な状態で後継病院に円滑に連携できるようリハビリテーションを実施している。

３．休日診療体制

急性期リハビリテーション領域における体制強化を図るため、令和５年度か

ら理学療法士および作業療法士による３６５日診療体制を導入している。

４．チーム医療

①呼吸ケアチーム

医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士が対象患者の呼吸状態を評価し、早期の人工呼吸器離脱および二次的合併症予防のための離床プログラムを検討している。また、呼吸努力を軽減する体位および排痰を援助する体位の提案を行っている。ラウンド終了後は、多職種から得られた情報を担当理学療法士へ提供し、安全な早期離床を行えるようにサポートをしている。

②排尿ケアチーム

医師、看護師、作業療法士がバルーンの抜去等に向けたトイレ動作等を評価している。また、前立腺がん術後の排泄機能障害に対して、骨盤底筋体操や自己導尿等の動作獲得に向けた評価、訓練を実施している。

③摂食嚥下支援チーム

医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士が、加齢や脳血管障害、各種神経疾患、廃用等により摂食・嚥下機能が低下した患者を対象として摂食・嚥下機能を評価し、嚥下訓練および指導を行っている。また、必要に応じて VF や VE を実施して安全かつ適切な食形態の提供を行っている。更に、栄養サポートチームと連携し、適切な栄養管理を実施している。

５．血友病性関節症

血友病性関節症患者に対して、外来において理学療法士による運動機能評価および継続的な運動指導を実施している。

６．臨床実習受託施設

診療参加型実習（Clinical clerkship）を導入し、診療業務を通じて医療従事者として必要な思考・判断力を養えるよう指導を行っている。また、複数人の実習生を同時に受け入れることで、実習生同士での協同学習や実技練習を行えるよう環境を整えており、指導体制についても複数人で指導にあたることで、指導者個人への負担を軽減すると共に業務効率の改善に努めている。

７．業務実績

令和５年度の総実施単位数は 131,784 単位で前年比 122.4%、診療報酬では 36,431,705 点で前年度比 124.0%となった。また、急性発症および外科手術後の早期介入に重点を置いた結果として、疾患別リハビリテーション料の初期加算は 65,139 単位で前年比 134.6%となり大幅に増加した。

【2023 年度研究発表業績】

B-4

宮城佳幸、尾谷寛隆、竹中悠司、寺尾貴史、黒川遥、山﨑浩：継続的なリハビリテーションが長期的な運動機能維持をもたらした脊髄小脳変性症症例。第 64 回日本神経学会学術大会、千葉、2023 年 6 月 2 日

島野克朗、鎌田将星、堂田大嗣、西薗博章、横田千晶：急性期レンズ核線条体動脈領域梗塞における lateropulsion 合併頻度と早期改善例の臨床的特徴。第 21 回日本神経理学療法学術大会、神奈川、2023 年 9 月 9 日

上野俊之、岡田直秀、三木秀宜：急性期病院における 365 日リハビリ体制の導入。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日

山尾なつみ、岡田直秀、上野俊之：リハビリテーション科における手指衛生向上のための取り組みについて。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日

上西悠仁、小浦正貴、宮城佳幸、天野文貴、山尾なつみ、岡田直秀、上野俊之：当院 SCU の急性期脳卒中患者における転帰に及ぼす因子の検討。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日

岡田直秀、伊藤浩一、上野俊之、三木秀宜：急性期病院におけるリハビリテーション医療の質向上に向けた取り組み。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

橋本明希子：学生の学習効率と療法士の業務効率を高める実習。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

末次正弥、天野文貴、上西悠仁、岡崎将人、岡田直秀、上野俊之：外傷性くも膜下出血による目眩に対して Epley 法を実施し、日常生活への影響を評価した一症例。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

小浦正貴、松原一樹、山尾なつみ、加賀谷将之、岡田直秀、上野俊之：自律神経障害による起立性低血圧を併発した頚髄損傷患者に対する離床訓練。第 77 回 国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

臨床腫瘍科

久田原郁夫

臨床腫瘍科は、平成 11 年に腫瘍内科、腫瘍外科、緩和ケア内科の３科からなる総合科として設立されました。その後の組織改変に伴い緩和ケア内科は、がん以外の疾患も対象とするため独立科となりました。
現在のところ腫瘍内科・腫瘍外科に所属する医師は、全て兼任で各々の専門領域（呼吸器、消化器、骨軟部）のがん診療をおこなっています。
毎週開催している臨床腫瘍科カンファレンスでは、新規症例や治療経過中の症例検討をおこなっています。また定期的行事として、全職員対象の Cancer Board を開催しております。がんの診断、治療に関して総合的かつ横断的に討論し知識を深めるよい機会となっています。
がんの種類は多彩でその臨床像も個人によって一様ではありません。したがって症例ごとにがんの特性を検討した上での個別的治療を行うのが理想と言えます。近年、広範囲に遺伝子解析を行う Foundation 1 が実臨床に導入されエキスパートパネルを経て治療薬を選択することが可能になりました。また肺がんでは、Oncomine DX Target Test マルチ CD システムや Amoy DX 肺癌マルチ遺伝子 PCR パネルが保険適用され早期からの個別治療薬の選択が可能となっています。新規の抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤が続々と開発され国内外で多くの臨床試験がおこなわれ治療方法の選択肢が広がってきています。放射線治療も粒子線の適応疾患の拡大、体幹部定位照射の普及、Ra223,BNCT など新規の治療法も出てきています。当科では 3 名のがん薬物療法専門医を中心に様々な症例に対して質の高い薬物療法を提供しています。各種の画像診断、病理診断および分子生物学的診断も日々進歩をとげています。このような環境で、診断、治療において主科のみならず個別的でかつ総合的な判断が求められる機会が増えてきています。またがんに特化した看護師、薬剤師、心理士およびソーシャルワーカーが積極的に介入し幅広い情報を収集し治療にフィードバックしています。
このように今や、がん治療はチーム医療が基本となっておりますが、臨床腫瘍科はその司令塔の役目を担っていきたいと考えています。

【2023 年度 研究発表業績】
A-0
Kudawara I, Yasuda N, Okagaki A.：Solitary fibrous tumor in the vulva.*J Clin Gynecol Obstet.*12(1) 19-23、2023 年

Kudawara I, Yoshitatsu S： Limb Salvage Surgery Using Autogenous Irradiated Bone Graft for Low-grade Central Osteosarcoma of the Distal Tibia: A Case Report. *Journal of Foot and Ankle Surgery (Asia Pacific)* 10.3 140-144. 2023 年

Kudawara I. : Enchondral ossification of an intramuscular hemangioma in the thigh: A case report. *Journal of Orthopaedic Reports* 100182. 2023 年

Bando H, Tsukada Y, Kumagai S, Y. Miyashita Y, Taketomi A, Yuki S, Komatsu Y, Akiyoshi T, Shinozaki E, Kanemitsu Y, Takashima A, Shiozawa M, Shiomi A, Yamazaki K, Matsuhashi N, Hasegawa H, Kato

T, Oki E, Fukui M, Wakabayashi M, Fuse N, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T. “VOLTAGE-2: multicenter phase II study of nivolumab monotherapy in patients with mismatch repair-deficient resectable locally advanced rectal cancer.” *ESMO Gastrointestinal Oncology* Volume 3,2024,100031.

A-2
南 誠剛 : II急性循環器“症候群”を呈する疾患への実践的対応　8 急性呼吸窮迫症候群（ARDS）「秒で判断・分で理解！循環器疾患“かもしれない”症候の救急・急変対応ノート」p166-172 編集：樋口義治、著者：樋口義治、中村大輔、外海洋平、山田知輝、南口 仁、市堀泰裕、石原隆行、倉谷 徹、岡本直高、森 直己、仲谷健史、南 誠剛、明田秀太、南江堂、東京、2024 年 3 月 15 日

A-3
前倉俊也、相木佐代、田宮裕子、久田原郁夫、櫻井真知子、吉金鮎美 : 進行がん患者のせん妄に対するアセナピン舌下錠の有用性に関する後方視的研究。Palliat Care Res 2023: 18(3)177-182

B-2
Endo M, Kojima Y, Arakaki M, Nishikawa T, Hoshina Y, Anjo K, Machida R, Hirakawa A, Ichimura M, Okuma H S., Nakamura K, Kudawara I, Takahashi M, Yonemori K CTOS：Atezolizumab in Japanese patients with advanced alveolar soft part sarcoma: a multi-center, single-arm, investigator-initiated phase 2 trial (NCCH1907)Dublin, Ireland、2023 年 11 月 1 日～4 日

B-2
Kato T, Kotani D, Takashima A, Satoh T, Masuishi T, Komatsu K, Shiozawa M, Esaki T,　Izawa N, Takeuchi S,　Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T,Taniguchi H, Yamada S, Yoshino T Clinical outcomes of encorafenib, binimetinib, and cetuximab for pretreated BRAF V600E-mutant metastatic colorectal cancer in the BEACON EAP follow-up study ESMO Gastrointestinal Cancers Congress 2023, poster, Spain, EU, 2023 年 7 月 1 日

B-4
久田原郁夫、安田直弘 : 四肢長管骨発生の軟骨肉腫(grade 1)に対する掻爬術の長期成績。第 56 回日本整形外科学会　骨・軟部腫瘍学術集会　2023 年 7 月 13 日−14 日　東京

二見真史、東 浩志、安藤性實、南 誠剛 : 胃癌に投与した FOLFOX＋Nivo 肺障害の改善後に FOLFOX 単独投与により器質化肺炎を呈した 1 例。第 102 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 7 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会、大阪、2024 年 1 月 20 日

渡邉久遠、東 浩志、二見真史、安藤性實、南 誠剛 : メサラジンによる薬剤性好酸球性肺炎に起因したと考えられる肺胞出血の 1 例。第 243 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

長谷川裕子、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治 : 高齢者 BRAF 変異陽性大腸癌に対する BRAF 阻害剤の治療成績。第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会、P50-7、名古屋、2024 年 2 月 23 日

廣中秀一、對馬隆浩、坪佐恭宏、加藤 健、門脇重憲、野村基雄、原 浩樹:、北川雄光、小柳和夫、梶原猛史、武川直樹、松原久裕、馬場秀夫、森田 勝、益澤 徹、長谷川裕子、小島隆嗣、町田龍之介、佐々木啓太、竹内裕也：A randomized phase III study comparing 2-weekly DCF with CF in patients with metastatic esophageal cancer: JCOG1314。第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会、名古屋、2024 年 2 月 23 日

B-5
藤平和秀、東浦玲意、長谷川裕子、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治 : CIC-DUX4 遺伝子再構成を伴った胃肉腫の 1 例。日本内科学会第 243 回近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

B-6
久田原郁夫 : 第 1 中足骨骨腫瘍の 1 例。第 158 回　関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2023 年 9 月 16 日

久田原郁夫 : 胸壁軟部腫瘍。関西 SKR 勉強会、Web、2023 年 9 月 7 日

久田原郁夫 : 仙腸関節炎。関西 SKR 勉強会。Web、2023 年 11 月 9 日

久田原郁夫 : 小児大腿骨骨髄病変。関西 SKR 勉強会、Web、2024 年 3 月 7 日

B-8
南 誠剛 : 気管支喘息治療の Up-To-Date　～吸入とバイオの２段構え～。大阪市中央区東医師会 法円坂地域連携フォーラム、大阪、2023 年 5 月 20 日

南 誠剛 : マイナーなメジャー疾患（COPD）を見直す。第 59 回 法円坂フォーラム、大阪、2023 年 10 月 7 日

長谷川裕子 : 大腸がん薬物療法　エビデンスを活かした治療選択とは？。Lilly GI Oncologist Seminar、大阪＋Web、2023 年 4 月 12 日

長谷川裕子 : 胃癌薬物療法　～OS 延長を目指した Best Sequence について考える～。Lilly GI Oncologist Seminar、大阪、2023 年 7 月 26 日

長谷川裕子 : 大腸がん切除不能大腸がん。保険薬局 Oncology Seminar、大阪、2023 年 10 月 25 日

長谷川裕子 : 関西若手腫瘍内科の会、「明日からの日常診療に役立つ大腸癌診療の Topics」、大阪、 2023 年 12 月 1 日

長谷川裕子 : 胃癌、大腸癌化学療法 ～OS の延長を目指した治療戦略とは？。奈良県消化器癌講演会、奈良、2024 年 1 月 30 日

長谷川裕子 : CRC Web Conference。「最新 Topics と FOLFIRI+RAM をうまく使うコツ」、大阪、2024 年 3 月 7 日

B-9
南 誠剛：DOCTOR’s FLAP。FM 大阪、 2023 年 05 月 04 日放送

薬剤部

吉野宗宏

大阪医療センターの運営方針に基づき、医薬品の適正使用の推進、医薬品の安全管理、薬物療法の有効性・安全性の向上に資する業務、薬剤管理指導業務、チーム医療への主体的関与（HIV 感染症患者への服薬支援、緩和ケアチーム、術後疼痛管理チーム、NST、ICT、AST、外来化学療法室でのがん薬物療法支援等）を実践し､良質かつ適正な医療の提供に貢献することを薬剤部の基本方針としている。

1.病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師を専任化し、薬物療法の質の向上と医療安全の確保を主な目的として次の業務を行っている。

1) 無菌調製業務

注射処方の投与量、投与速度、配合変化等の確認を行い、クリーンベンチ内で注射薬の無菌調製を行っている（43,915 件/年)。

抗がん剤の調製はレジメンと処方内容を確認し、薬剤部無菌室の安全キャビネット内で調製している（17,833 件/年)。

2) 入院センター業務

入院予定患者を対象に薬剤師による面談を行い、持参薬や副作用・アレルギーの確認を行っている。手術・侵襲的検査がある場合は、中止薬の確認を行い、患者へ服薬遵守させている（6,973 件/年)。

3) 処方提案・支援

主治医に対する主な処方提案・支援として、持参薬の代替薬の提案、処方設計支援、支持療法薬の提案、薬物血中濃度に基づいた処方設計等を行っている。

4) 医薬品情報の提供・相談応需

採用医薬品情報の提供や医療スタッフからの照会や相談に対して情報提供に努めている。今年度は医薬品の適応外使用手順書を見直し、医薬品の安全使用についての取り組みを行った。

5) 薬剤管理指導業務

薬物療法に係る様々な情報を収集・分析し、その内容から効果の評価、副作用モニタリングを実施し、薬学的アプローチを積極的に実施している。また、病棟業務の延長として高齢者のポリファーマシー対策を実践している。薬剤管理指導算定件数は 22,882 件/年であった。

2．外来服薬支援指導

HIV 感染症専門薬剤師が「お薬の相談室」に常駐し長期的な支援体制を構築しており、外来における指導件数は 1,812 件/年であった。また外来化学療法室では治療計画、副作用等について指導を実施し、がん薬物療法の安全と質の向上に努めている。薬剤師による外来がん薬物療法患者の指導件数は 720 件/年であった。

3．医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、医療スタッフからの相談応需や医薬品情報の発信を行っている。厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告は 4 件/年の報告を、また、プレアボイド報告としては 242 件/年の報告を行っている。

4．治験薬管理業務

治験薬管理者（薬剤部長）の管理責任の下、GCP を遵守した治験薬の適切な保管、管理、調剤を行い、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。

5．専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤師会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師研修施設・がん薬物療法認定薬剤師研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設・薬物療法専門薬剤師研修施設、日本薬剤師研修センター小児薬物療法認定薬剤師研修施設等の認定を受けており、今年度は、1 名の研修生を受け入れた。また、薬学部実務実習生は 28 名を受け入れ薬学教育にも寄与している。

6．臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

【2023 年度 研究業績発表】

A-3

水津智樹、田路章博、長谷川英利、畑 裕基、吉野宗宏、粉川俊則：がん化学療法の投与ルート変更における医療安全管理と医療材料費の削減、医療 77(4):P.262-266、2023 年 8 月 20 日

上野由貴、石田健一郎、飯沼公英、小島将裕、竹川良介、吉野宗宏、大西光雄：バルプロ酸中毒に対してメロペネムを用いて治療した 1 例、中毒研究 36(4)、P.385-388、2023 年 7 月 1 日

A-4

矢倉裕輝：薬物代謝からみた抗 HIV 薬の特徴「HIV 感染症と AIDS の治療」14(1): P.88-93、メディカルレビュー社、2023 年 11 月 30 日

矢倉裕輝：Evidence Update 2024 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する「抗ウイルス薬」P.118-122、南山堂、2024 年 1 月 1 日

A-5

矢倉裕輝：適正な抗 HIV 療法の実施と HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成等を通じた人材育成に関する研究－　厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和 5 年度研究報

告書、P.2-8、2024 年 3 月 31 日

B-3
上野由貴、井後星哉、平井優実、祝洸太朗、飯沼公英、小島将裕、曽我部拓、石田健一郎、大西光雄、吉野宗宏：救急初療で薬物情報提供を行う中毒担当薬剤師の導入。第 45 回日本中毒学会学術集会、埼玉、2023 年 7 月 15 日

上野由貴、飯沼公英、井後星哉、竹本雪子、森 寛泰、山口壽美枝、小島将裕、石田健一郎、吉野宗弘、大西光雄：救急対応する医師・診療看護師への中毒担当薬剤師による薬物情報提供への取り組み。第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2024 年 7 月 29 日

長谷川英利：周術期におけるシームレスな薬学的管理の実践　～ 当院での薬剤師の取り組み ～（シンポジウム）。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日

矢倉裕輝：HIV 感染症に対する持効性注射薬の展望と課題―薬剤師の立場から―。第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会、第 71 回日本化学療法学会学術集会 合同学会、横浜、2023 年 4 月 29 日

矢倉裕輝：HIV 感染症 UpToDate～最新の TOPICS～。第 6 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum、WEB、2023 年 7 月 15 日

矢倉裕輝：薬剤師参画の重要性が高まりつつある血友病～治療の現状と関わりの実際～。医療薬学フォーラム 2023、山形、2023 年 7 月 15 日

B-4
名畑優保、小林恭子、松尾友香、福岡利恵、信谷宗平、森下典子、金村米博：治験業務で苦慮した事例からみえること。第 23 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山、岡山、2023 年 9 月 16-17 日

櫛田宏幸、祝 洸太朗、溝口捺美、岸田啓太郎、矢倉裕輝、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：抗 HIV 薬のトレーシングレポート運用による効果。第 33 回日本医療薬学会年会、仙台、2023 年 11 月 5 日

矢倉裕輝、石田奈々、西田恭治、矢田弘史： 出血性疾患緊急時患者カードの所持状況に関する調査。第 45 回日本血栓止血学会学術集会、小倉、2023 年 6 月 15-17 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：ABCG2 の遺伝子多型がビクテグラビル投与症例の自覚症状および血漿中薬物濃度に及ぼす影響。第 31 回日本抗ウイルス療法学会学術集会、横浜、2023 年 9 月 15 日

平野 淳、矢倉裕輝、増田純一、國本雄介、田澤佑基、井上正朝、佐藤萌、安井淳子、三枝祐美、田川尚行、成田綾香、田中和行、西 勇治、大東敏和、合原嘉寿、吉田知由：抗 HIV 薬を含む院外処方箋の受け入れ状況と問題点に関する検討。第 33 回日本医療薬学会年会、仙台、2023 年 11 月 5 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射製剤の血中濃度に関する検討　第 1 報。第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都、2023 年 12 月 3 日

B-6
池田 絢、長谷川英利、海家亜希子、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：入院センターにおける PBPM の有用性について～薬剤師の未来への挑戦～。第 15 回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会、大阪、2023 年 5 月 13 日

上野由貴、戸上由貴、平井優実、井後星哉、野邊亮丞、田尻昌士、石田健一郎、大西光雄、吉野宗宏：注意欠陥・多動性障害治療薬とベンゾジアゼピン系薬剤の相互作用により房室ブロックが出現したと考えられた 1 例。第 44 回日本中毒学会西日本地方会、大阪、2024 年 2 月 17 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射製剤の投与初期における血中濃度に関する調査。第 36 回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

吉金鮎美、田中 綾、清水彩加、長谷川英利、畑 裕基、相木佐代、前倉俊也、櫻井真知子、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：緩和ケアチーム介入患者における抗 HIV 薬と緩和治療薬の相互作用表の作成と運用。日本緩和医療学会第 5 回関西支部学術大会、大阪、2023 年 9 月 2 日

B-8
矢倉裕輝：HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。神戸薬科大学講義　先端医療論、神戸、2023 年 5 月 24 日

矢倉裕輝：血友病外来診療における薬薬連携を含めた病院薬剤師の役割。Clinical Web Seminar in Haemophilia　～薬剤師さんのための血友病勉強会～、WEB、2023 年 7 月 19 日

矢倉裕輝：みんなで支える HIV 感染者の長期療養～チーム医療の一員として薬剤師が知っておくべきこと～。札幌病院薬剤師会 2023 年度第 1 回「HIV 感染症専門薬剤師セミナー」、WEB、2023 年 7 月 28 日

矢倉裕輝：症例検討。第 42 回薬剤師のための抗 HIV 薬服薬指導研修会、広島、

2023 年 7 月 29 日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2023 年 9 月 4 日

矢倉裕輝:「慢性疾患の薬物治療に対する薬剤師の関わり～血友病治療薬と抗 HIV 薬を中心に～」。令和 5 年度第 2 回愛知県病院薬剤師会 HIV 部会学術講演会、WEB、2023 年 9 月 12 日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 薬の特徴と薬剤師の役割。令和 5 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2023 年 10 月 3 日

渡邊 大、矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法の実際。令和 5 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2023 年 10 月 3 日

矢倉裕輝 : 長期療養、高齢 HIV 感染者の薬物治療で遭遇する諸問題～薬剤師として考えるべきこと～。HIV Pharmacist Forum 2023 ～Part2～、WEB、2023 年 10 月 20 日

矢倉裕輝 : PK を利用した投与設計と患者さんとのコミュニケーション。バイエルヘモフィリアセミナー2023、東京、2023 年 10 月 21 日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2023 年 11 月 7 日

矢倉裕輝 : HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。兵庫医科大学薬学部講義 感染制御学、神戸、2023 年 11 月 25 日

矢倉裕輝 : 結核菌・非結核性抗酸菌について。兵庫医科大学薬学部講義 感染制御学、神戸、2023 年 12 月 2 日

矢倉裕輝:最近の処方動向と長期療養を見据えた薬剤選択。薬剤師のための！HIV 感染症長期療養マネジメントセミナー第 1 部、WEB、2023 年 12 月 13 日

矢倉裕輝 : 日本人 HIV 陽性者におけるボカブリア・リカムビスの薬物動態。HIV UP TO DATE seminar、WEB、2023 年 12 月 16 日

矢倉裕輝:服薬支援の実際～服薬スケジュールの組み方･服薬継続への関わり～。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2024 年 1 月 22 日

矢倉裕輝 : 血友病診療における薬剤師の役割～日常診療と緊急時に備えた関わりの重要性～。令和 5 年第 1 回熊本県病院薬剤師会血液疾患関連感染症等診療ワーキンググループ研修会・学術講演会、」WEB、2024 年 1 月 25 日

矢倉裕輝：長期療養時代に突入したHIV感染症治療の現状～薬剤師の役割と薬薬連携の重要性。第9回石川県立中央病院薬薬連携セミナー、WEB、2024年3月10日

矢倉裕輝：最近遭遇することから考える薬剤選択。薬剤師のための！HIV感染症長期療養マネジメントセミナー第2部、WEB、2024年3月10日

看護部

西本京子

今年度看護部は“笑顔”のある看護に「丁寧かつ効率的な看護」を加えたスローガンで活動してきました。令和5年5月に新型コロナウィルス感染症が感染症法5類に位置付けられましたが、まだまだ油断はできず、これからもWithコロナでいく必要があり、医療従事者には感染対策が問われる日々が続いています。そのような中、看護部ニュースの一つが、面会制限の緩和です。患者や家族からの強い希望を、日々現場で聞いている中で、何とか緩和できないかと看護師長会でいろいろな方法を検討しました。まだまだ制限のある面会ではありますが、患者や家族の喜ぶ顔を見ることができることは、大きな満足につながっています。今後は、感染対策に関しても医療従事者や患者家族の行動変容につながるような関わりについて研究的視点をもって取り組んでいく必要があると考えます。また、看護部ニュースの一つが看護師特定行為研修の開始です。第一期生８名が受講しました。医師やJNPの指導の下、約1年間をかけて研修に取り組みました。次年度からは院外の研修生も交えての研修となります。研修修了生たちは今後も日々自己研鑽を重ね、より安全で質の高い看護の提供を探求する姿勢を養いながら今後の活躍が期待されます。

5類に移行後、各地で対面での学会が再開され、今年度は近畿地区国立病院看護学会や広島で開催された国立病院総合医学会をはじめ、多くの学会で、多くの仲間と出会え、看護の質の向上につながる学びの場となりました。また、広島での国立総合医学会は通常の開催とは少し気分が違い、各自が来年は自分たちが主催者となるのだという緊張感をもって参加してきました。院内の看護研究発表会においても、次年度の大阪での開催に向けて看護研究以外にQC活動についても発表しました。

今後も、看護部は専門職業人として主体的に学び自己研鑽できるような看護師を育成できるよう教育を行っていきます。また、新たなチャレンジに向って前進していきます。

【2023年度 研究業績発表】

B-3

櫻井真知子：シンポジウム4「CRC経験を生かし、夢と誇りを持ったキャリアパスとは」～がん看護実践に役立っているCRC経験～。第23回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2023、岡山、2023年9月16日

B-4

堀田亜州美：CKD集団指導は、半年後の体重に抑制的に関連し高食塩摂取者で有意で、尿酸にも抑制的である。第66回日本腎臓学会学術総会、横浜、2023年6月10日

假屋真帆：当院における排尿ケアチームの現状と課題。第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会、仙台、2023 年 7 月 8 日

假屋真帆：A 病院における排尿ケアチームの課題への取り組み。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 20 日

大西晴香：当院の循環器疾患における循環器看護師のアドバンス・ケア・プランニングに対する実態調査。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

森本郁美：急性期病院の看護師の退院前カンファレンスに関する意識調査。　第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

下司有加：副看護師長のキャリア形成で影響を及ぼしたメンターの関わりについての調査。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

下司有加：Good job レポートの導入による効果と課題。第 21 回国立病院看護研究学会学術集会、大阪、2023 年 12 月 2 日

B-5
松井紀世美：周手術期医療の質向上に繋がる各職種の専門性を発揮したタスクシフト/シェア。第 10 回日本手術看護学会近畿地区大会、Web 開催、2023 年 6 月 24 日～7 月 31 日

B-6
木村まゆみ：副看護師長のキャリア形成で影響を及ぼしたメンターの関わりについての調査。第 15 回日本医療マネジメント学会近畿支部学術集会、大阪、2023 年 5 月 13 日

大東幸子：COVID－19 対応が看護師に与える影響についての考察（第二報）～通常対応患者と混在する環境下での影響について～。第 126 回近畿救急医学研究会、大阪、2023 年 6 月 24 日

合田良平：ICU に従事する経験の浅い看護師と支援看護師の身体的・精神的ストレスについての調査。第 65 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2023 年 9 月 9 日

河村省吾:当救命救急センターにおける医療関連機器圧迫創傷の発生要因の調査。第 65 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2023 年 9 月 9 日

米田奈津子：当院に通院する HIV 陽性者の大規模災害に対する備えの現状と課題の検討－災害への備えと避難行動についてー。第 65 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2023 年 9 月 9 日

山本幸伸：当院での災害訓練の取り組みと今後の課題～LINEWORKS の活用と地域医療との連携～。第 127 回近畿救急医学研究会、神戸、2024 年 3 月 2 日

栄養管理部

内藤　裕子

栄養管理室では、管理栄養士がチーム医療の一員として専門性を発揮すると共に、各科カンファレンスへの積極的な参加と管理栄養士の病棟担当制の推進によりメディカルスタッフとの連携強化を図り、入院患者の栄養状態維持改善、免疫力低下防止、治療効果及びＱＯＬ向上に向け継続的に努めている。

栄養食事指導では、個人指導と各種教室である集団指導を実施し、糖尿病や腎臓病、循環器疾患等の慢性疾患や術前術後等についても積極的に取り組み、臨床研究にも繋がっている。

食事提供では、術前術後の栄養管理、化学療法での食欲低下患者、摂食嚥下障害患者、食物アレルギー患者等への個々に対応した食事、摂食嚥下に配慮した食事の提供を行っている。

今年度の栄養管理室で行った主な取り組みについて下記に示す。

１．栄養サポートチーム

平成 25 年 6 月より栄養サポートチームを嚥下障害・内科系疾患とがん・外科系疾患の２チーム体制により専門性に特化した細やかな対応を実施し、COVID-19 入院患者のすべてを NST 介入とし、栄養管理の観点から診療支援を継続して行った。管理栄養士の病棟担当制により、医師、看護師との連携やアセスメントの充実をはかると共に、スタッフ間の栄養管理についての理解も深まり、より重点的な活動を行うことができた。また、令和 4 年度より摂食嚥下チームが傘下に入り、週 1 回のカンファレンス及びラウンドにて摂食嚥下の評価を行った。年間依頼件数は 585 件(内、COVID-19　310 件)、年間算定件数は 1017 件(内、COVID-19　12 件)であった。歯科医師連携加算は 207 件であった。また、摂食嚥下回復体制加算 2 は 120 件であった。

２．栄養食事指導

術前術後患者、糖尿病教育入院、循環器疾患、腎臓病、摂食嚥下障害やサルコペニア等の栄養食事指導を積極的に実施している。平成 29 年 2 月からの栄養指導室増設により充実が図られた。指導病名別では、糖尿病、循環器疾患、腎臓病、がんが多くを占めている状況に大きな変化はなかった。COVID-19 感染対策を徹底し、外来の糖尿病教室・肝臓病教室・母親教室が再開となった。年間指導件数は、3,766 件であった。

３．１型糖尿病専門外来指導

１型糖尿病患者を対象に、平成 25 年 7 月より食事や活動、インスリン量などについての外来栄養指導を開始、インスリンポンプ導入患者に対するカーボカウント、ポンプ機能等の説明、患者自身による食事に合わせたインスリン調整など内容的も充実したものとなっている。年間指導件数は、365 件であった。

４．糖尿病透析予防指導管理料

平成 24 年度から新設され、現在糖尿病内科医師、専任看護師、専任管理栄養士のチームにより月 3 回実施、年間 23 件であった。

５.特定集中治療室管理料　早期栄養介入管理加算

特定集中治療室において、早期離床・在宅復帰を推進する観点から、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・専任管理栄養士等と共にチーム体制を整備し、令和 2 年 4 月より ICU・7 月より CCU の早期栄養介入管理を実施し、令和 3 年 7 月より救急救命センターICU、今年度 4 月より救急救命センターHCU・SCU へ拡大を行い、栄養管理の充実を図った。年間算定件数は 7,858 件となった。

６.緩和ケア個別栄養管理加算

緩和ケアを要する患者に、体力を維持し免疫力を高め、治療を支えられるよう栄養管理を行っている。年間算定件数は、279 件であった。

７.周術期栄養管理実施加算

令和 4 年 7 月より、全身麻酔を実施した患者に対し周術期における術前・術後の適切な栄養管理を行い、周術期の栄養管理の充実を図った。年間算定件数は 2,071 件であった。

８．Nutrition　Week

今年度もニュートリションウィークとして、栄養管理の最新・高度の知識・技術を修得させ、サービスの質と提供体制の均質化及び向上を図ることを目的に、日本病態栄養学会「ＮＳＴ実習技能研修」を 7 月 31 日～8 月 7 日(平日 6 日間)に開催した。当院と機構病院、民間病院より 21 名を受け入れた。

【2023 年度研究発表業績】

B-4

源藤真由、伊藤明彦、太田裕之、村上翔子、東里映、白石智順、西井和信、山根あゆみ、井上美咲、畠中真由、鈴木翔太：医学的評価に基づいた栄養管理法の選択が著名な予後改善につながった一例。第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、神戸、2023 年 5 月 10 日

B-6

石田みどり、山本真弓、宮城正和、石井陽菜、内藤裕子、竹野淳、小椋紫芳、松廣有紀、秦誠倫、加藤研：１型糖尿病患者の食事に対するイメージ改善を図る取り組み。第 60 回日本糖尿病学会近畿地方会、神戸、2023 年 10 月 14 日

B-6

山本真弓、井上裕美子、荒川和子、堂上実花、岸田花奈、髙松愛梨、和田紋佳、

源藤真由、大野宏枝、宮城正和、秦誠倫：膵全摘後に先進糖尿病デバイスを用いた血糖管理での抗癌剤治療とカーボカウントに関する 1 症例。第 33 回日本がんチーム医療研究会、大阪、2024 年 3 月 16 日

ケアサポートチーム （緩和ケアチーム）

当院の緩和ケアチームは 2004 年に、院内のがん緩和ケアを目的として多業種からなる「がんサポートチーム」という名称で発足しました。当初はがん告知の補助やオピオイドの使用方法などの依頼がありましたが、がん医療従事者の緩和ケア研修会終了者の増加や疼痛緩和に対する認識が上昇してくるにつれ、チームが受けるコンサルテーションの内容も多岐で複雑になってきています。最近の緩和ケアはがんのみならず苦痛を伴う全ての患者を対象にするという趨勢になってきており、それに伴い当チームはがん以外の疾患も対応するため名称を「ケアサポートチーム」に改めました。また心不全など循環器疾患に対する緩和ケアが保険で認められるようになり、実際当院でも循環器疾患患者にも介入しています。

チームでは他業種カンファレンスを毎週行い症例ごとの問題点を取り上げ、回診や診察を通じて改善策を検討し主治医や病棟看護師へと提案しています。病状の変化や新たな問題点に前線の実動メンバーは迅速に行動し対応策の構築に努めています。

月 1 回の運営会議では、介入件数や症例インシデントの解析、緩和に関連する学会、研究会、セミナーの開催計画について討論しています。

近年、がん患者における身体および精神の活動性低下を防止するための運動器管理の重要性が唱えられています。具体的には骨転移、臓器の障害など原疾患に由来するもの、治療に関連する諸症状、さらに老化に伴う非がん性変性疾患、これらを総合的に対応する必要性があります。当院ではすでに多くのがん入院患者において理学療法士を含むチームが介入し、適切な移動方法や機能維持と改善に努めています。これらは、維持的、緩和的がんリハビリテーショに該当するものですが、本年度よりがんの術前および回復期リハビリーテーションを、各種臓器別にパスに組み入れより拡大したがんリハビリテーションシステムを構築していく予定にしています。

また当院はがん診療連携拠点病院として年 1 回、厚生労働省委託事業 PEACE プロジェクトの緩和ケア研修会を当チームが中心になって開催しています。ここ数年がん治療には従事していない診療科や若手の医師が多く受講し、緩和ケアの基本を習得できる良い機会となっています。

構成メンバー

医師、看護師、薬剤師、MSW、栄養士、心理士、 理学療法士

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Kudawara I, Yasuda N, Okagaki A : Solitary fibrous tumor in the vulva.、*J Clin Gynecol Obstet.* 12(1) 19-23、2023 年

Kudawara I, Yoshitatsu S：Limb Salvage Surgery Using Autogenous Irradiated Bone Graft for Low-grade Central Osteosarcoma of the Distal Tibia: A Case Report. *Journal of Foot and Ankle Surgery (Asia Pacific)* 10.3：140-144、2023 年

Kudawara I：Enchondral ossification of an intramuscular hemangioma in the thigh: A case report. *Journal of Orthopaedic Reports* : 100182.2023 年

A-2

相木佐代：がん性腹水へのトリアムシノロンアセトニドの腹腔内投与の効果「緩和ケア」森田達也、青山真帆、34（1）：P55-57、青海社、東京、2024 年 1 月 15 日

A-3

前倉俊也、相木佐代、田宮裕子、久田原郁夫、櫻井真知子、吉金鮎美：進行がん患者のせん妄に対するアセナピン舌下錠の有用性に関する後方視的研究「Palliative Care Research」18(3)：P177-182、2023 年

B-2

Endo M, Kojima Y, Arakaki M, Nishikawa T, Hoshina Y, Anjo K, Machida R, Hirakawa A, Ichimura M, Okuma H S.,Nakamura K, Kudawara I,Takahashi M, Yonemori K : Atezolizumab in Japanese patients with advanced alveolar soft part sarcoma: a multi-center, single-arm, investigator-initiated phase 2 trial (NCCH1907) CTOS Dublin, Ireland、2023 年 11 月 1 日～4 日

B-3

相木佐代：入院中のオピオイド自己管理へ向けた取り組み。第 28 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2023 年 7 月 1 日

相木佐代：日本緩和医療学会の広報活動を考える：集まれアンバサダー。第 28 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2023 年 6 月 30 日

櫻井真知子：シンポジウム 4「CRC 経験を生かし、夢と誇りを持ったキャリアパスとは」～がん看護実践に役立っている CRC 経験～。第 23 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2023、岡山、2023 年 9 月 16 日

B-4

久田原郁夫、安田直弘：四肢長管骨発生の軟骨肉腫(grade 1)に対する掻爬術の長期成績。第 56 回日本整形外科学会　骨・軟部腫瘍学術集会、東京、2023 年 7 月 13 日−14 日

B-6

吉金鮎美、田中綾、清水彩加、長谷川英利、畑　裕、村津　圭、山下大輔、吉野宗宏、

相木佐代、前倉俊也、櫻井真知子：抗 HIV 薬と・緩 和治療薬の相互作用の表の作成とを用いた薬剤師の運用介入。第 5 回緩和医療学会関西支部会、大阪、2023 年 9 月 2 日

久田原郁夫：第 1 中足骨骨腫瘍の 1 例。第 158 回関西骨軟部腫瘍研究会、大阪、2023 年 9 月 16 日

久田原郁夫：胸壁軟部腫瘍。関西 SKR 勉強会、Web、2023 年 9 月 7 日

久田原郁夫：仙腸関節炎。関西 SKR 勉強会、Web、2023 年 11 月 9 日

久田原郁夫：小児大腿骨骨髄病変。関西 SKR 勉強会、Web、2024 年 3 月 7 日

B-8

相木佐代：心不全患者の終末期ケアと意思決定支援のポイント、東京、2023 年 10 月 15 日

相木佐代：心不全患者の終末期ケアと意思決定支援のポイント、大阪、2023 年 10 月 28 日

相木佐代：がん患者の痛み・倦怠感・呼吸困難/鎮静の看護ケア、名古屋、2023 年 7 月 15 日

相木佐代：がん患者の痛み・倦怠感・呼吸困難/鎮静の看護ケア、大阪、2023 年 8 月 5 日

相木佐代：がん患者の痛み・倦怠感・呼吸困難/鎮静の看護ケア、東京、2023 年 7 月 29 日

相木佐代:此花区医師会在宅医療勉強会「『最期まで自宅で』を叶える疼痛治療戦略」、大阪、2023 年 9 月 30 日

相木佐代：にしはらクリニック・訪問看護ステーション合同講演会「在宅における緩和ケア」、大阪、2023 年 9 月 12 日、9 月 26 日、10 月 10 日、10 月 24 日、11 月 7 日、11 月 21 日、12 月 12 日、2024 年 1 月 9 日、1 月 23 日、2 月 6 日、2 月 20 日、3 月 5 日、3 月 19 日の全 13 回

櫻井真知子:終末期看護の考え方。成人経過別看護、大阪医療センター附属看護学校、202３年 11 月 20 日

櫻井真知子：終末期にある人の特徴と理解。成人経過別看護、大阪医療センター附属看護学校、2023 年 12 月 1 日

櫻井真知子：終末期にある人への看護援助。成人経過別看護、大阪医療センター附属

看護学校、2023 年 12 月 18 日、2024 年 1 月 5 日

櫻井真知子：看取りの看護。成人経過別看護、大阪医療センター附属看護学校、2024 年 1 月 12 日、2024 年 1 月 15 日

櫻井真知子：終末期にある人の特徴と理解。成人経過別看護、大阪医療センター附属看護学校、2024 年 1 月 25 日、2024 年 2 月 1 日

櫻井真知子：終末期における倫理的課題。成人経過別看護、大阪医療センター附属看護学校、2024 年 2 月 8 日

B-9

相木佐代： FM 大阪『LOVE FLAP』、2023 年 10 月 5 日

臨床心理室

田宮裕子

平成 19 年 7 月より臨床心理室は、①病院の理念に基づく事業であること、②質の高い医療の提供に貢献すること、③疾患と心理状態の関連が研究されていること、④医療者-患者関係と保健行動との関連が医療の効果を左右すること、⑤診療科間のサービスの格差をなくすこと、以上 5 点の目的や理由により、全診療科の患者やその家族等に対応可能な臨床心理室として再編された。今年度は常勤心理療法士 6 名、非常勤心理療法士 2 名、薬害 AIDS 遺族専門家相談員 1 名、合計 9 名体制である。

現在臨床心理室は、臨床心理室運営委員会で審議した活動目標や計画をもとに、患者や家族等の心理相談、心理検査、各診療科・チームとのリエゾン・コンサルテーションといった心理臨床活動に加え、臨床心理室内のカンファレンス、臨床心理学専攻の大学院生の実習受け入れ、近畿グループ管内のメンタルヘルス相談、心理に関する研修の企画・運営・講義・講演、そして、研修を主に行っている。

当臨床心理室では従来日々の臨床に加えて、厚生労働行政推進調査事業費補助金による HIV 関連の研究班に分担研究者や協力者として参与し、HIV 陽性者の心理学的問題や、HIV 医療における心理臨床に関する研究を積み重ねている。また、各種セミナーや研修会において積極的に事例発表を行い、自己研鑽に務めている。調査研究や事例研究を心理臨床学会や日本エイズ学会などの学会において発表することにより、総合病院における臨床心理室の役割を他施設に伝え、医療の総合的な充実に資することも、当臨床心理室にとって重要な任務であると認識している。

【2023 年度 研究業績発表】

A-2

西田恭治、矢田弘史、矢倉裕輝、石田奈々、中田貴士、光黒真菜、岡本 学、西川歩美:行動科学から血友病診療を考える:大阪医療センターにおけるチーム医療。New Stage of Hemophilia、中外製薬、2023 年 5 月 1 日

B-3

木村宏之、安尾利彦：HIV 診療における心理士と精神科医の医療連携。シンポジウム 4　HIV 診療におけるメンタルヘルス～HIV 診療と精神科の連携、第 37 回日本エイズ学会学術集会総会、京都、2023 年 12 月 3 日

森田眞子：心理師がまとまり（チーム）になることでもたらされる新しい価値－貢献と育成－：総合病院における全科対応の臨床心理室の立場から。第 3 回日本公認心理師学会学術集会、オンライン（静岡）、2023 年 12 月 10 日

B-4

高田清式、森田眞子：一般演題「HAND・心理」座長。第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都、2023 年 12 月 3 日

安尾利彦、木村宏之：HIV 領域の心理職と精神科医の連携の現状と課題に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会総会、京都、2023 年 12 月 4 日

神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、冨田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊 大：HIV 陽性者の受診行動とその心理的背景に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会総会、京都、2023 年 12 月 4 日

西川歩美、安尾利彦、神野未佳、森田眞子、冨田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊 大、白阪琢磨：HIV 陽性者の精神科受診およびカウンセリング利用に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会総会、京都、2023 年 12 月 4 日

喜花伸子、安尾利彦：一般演題「カウンセリング 1」座長。第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都、2023 年 12 月 4 日

山中京子、宮本哲雄：一般演題「カウンセリング 2」座長。第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都、2023 年 12 月 4 日

早坂典生、入江恵子、橋本 謙、種田博之、小川良子、宮本哲雄、山田富秋：HIV/AIDS のスティグマによるコミュニケーションの困難を乗り越えるー薬害 HIV 感染被害者である早坂典生氏の生活史からー。第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都、2023 年 12 月 5 日

澤田華世、町登志雄、陰山朋久、宮階真紀、森田眞子、山中京子、古谷野淳子、塩野徳史：当事者スタッフと専門職者が連携した相談活動の実践と効果。第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都、2023 年 12 月 5 日

B-8
冨田朋子：メンタルヘルス。大阪医療センター新採用職員研修、大阪、2023 年 4 月 4 日

森田眞子：メンタルヘルス～セルフケア・ストレスマネジメント～（講義・実習）。人事院近畿地区新採用職員研修、大阪、2023 年 4 月 12 日

安尾利彦：事例提供。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会（延期開催分）、大阪、2023 年 7 月 28 日

森田眞子：事例提供。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会（延期開催分）、大阪、2023 年 7 月 28 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援、HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診

療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2023 年 9 月 5 日

安尾利彦：HIV とカウンセリング。HIV 感染症研修会、大阪、2023 年 10 月 3 日

東 政美、櫛田宏幸、岡本 学、西川歩美：症例検討－他職種との連携－、HIV 感染症研修会、大阪、2023 年 10 月 3 日

牧 寛子：事例提供。HIV 医療におけるコミュニケーションとチーム医療に関する研修会、大阪、2023 年 10 月 4 日

森田眞子：HIV 感染症と心理支援。奈良県立医科大学 4 回生実習、大阪、2023 年 10 月 5 日

安尾利彦：新人看護師とメンタルヘルス。大阪医療センター看護師ラダー教育研修ラダーI、大阪、2023 年 10 月 6 日

宮本哲雄：神経心理検査と事例検討。2023 年度 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2023 年 10 月 18 日

安尾利彦、森田眞子、冨田朋子、宮本哲雄、西川歩美、水木 薫、牧 寛子、神野未佳：ファシリテーション。2023 年度遺族交流会、京都、2023 年 10 月 29 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援。HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際、HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2023 年 11 月 7 日

水木 薫：事例提供。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2023 年 12 月 21 日

冨田朋子：事例提供。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2023 年 12 月 21 日

森田眞子：公認心理師による支援の実際。公認心理師実習担当教員及び実習指導者養成講習会、オンライン、2023 年 12 月 22 日

安尾利彦：HIV 陽性者との心理臨床の実際。令和 5 年度東海ブロック HIV カウンセラー拡大会議、愛知、2024 年 1 月 13 日

森田眞子：公認心理師による支援の実際。公認心理師実習担当教員及び実習指導者養成講習会、オンライン、2024 年 1 月 19 日

西川歩美：血友病保因者とのかかわりの中で見える心理的な配慮について。遺族担当相談員、ネットワーク医療と人権　患者・家族担当相談員合同研修会、大阪、2024 年 1 月 27 日

森田眞子：公認心理師による支援の実際。公認心理師実習担当教員及び実習指導者養成講習会、オンライン、2024 年 2 月 2 日

宮本哲雄：HIV 感染症と物質依存、認知症。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2024 年 2 月 15 日

森田眞子：服薬支援～カウンセラーの視点から、服薬支援ロールプレイ指導。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2024 年 2 月 15 日

安尾利彦：看護職に必要なレジリエンス。大阪医療センター付属看護学校特別講義、大阪、2024 年 2 月 22 日

安尾利彦：メンタルヘルスケア。大阪医療センター付属看護学校特別講義、大阪、2024 年 2 月 29 日

森田眞子：dista でのメンタルケアについて考える。大阪府 STI 学習会、大阪、2024 年 3 月 24 日

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」

科長名または室長名（構成員）
三田英治副院長、田宮裕子精神科科長、渡邉裕美子副看護部長、藤田貴子管理課長、
井尻亜矢子職員研修部係長、岡本裕子保健師、冨田朋子心理療法士

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」は、当院の職員のメンタルヘルス、なかでも主に 1 次予防（メンタルヘルスに関する情報提供・教育研修・環境改善）と 2 次予防（メンタルヘルス不調の早期把握・早期対策）に関する企画、立案、評価、対策を行う組織横断的なチームである。

平成 18 年の厚生労働省からの「労働者の心の健康づくりのための指針」の改定に基づき、「事業者が自らの事業場におけるメンタルヘルスケアを積極的に推進すること」との指針に従い、平成 23 年 4 月からの院内での立ち上げの準備期間を経て、安全衛生委員会のもとで平成 24 年 1 月から本格的な活動を開始した。

チームの愛称である「なのはな」は、菜の花の花言葉「豊かな日々」「快活」に由来しており、「職員一人ひとりが心豊かに、活き活きと働くための職場づくりをサポートしたい」という願いが込められている。

「なのはな」がこれまでに取り組んできた主な活動は大きく分けて、1）職員からの個別相談、2）チームの広報と情報提供、3）教育研修、4）危機介入、以上 4 つである。

1）職員からの個別相談：相談窓口を設け、本人およびその上司や同僚からの相談について、精神科医 1 名と臨床心理士 1 名が対応している（精神科診療や心理療法の提供はせず、コンサルテーションのみとしている）。
2）チームの広報と情報提供：ネームプレートに入れることができる、相談窓口を記載したカードを作成した。また院内広報誌になのはな便りを掲載した。
3）教育研修：新入職者オリエンテーション時の講義に加え、ラインケア研修、セルフケア研修を企画運営またはその協力をしている。
4）危機介入：入院患者の自殺等の緊急事態が発生した際、現場に暴露された職員の個別面談、グループミーティングを行った。

3．今年度の主な活動状況

1）定例連絡会議：計 11 回（令和 5 年 4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 19 日、7 月 10 日、9 月 11 日、10 月 16 日、11 月 20 日、12 月 18 日、令和 6 年 1 月 15 日、2 月 19 日、3 月 18 日）
2）研修会（企画運営および協力）：新規採用職員研修（令和 5 年 4 月 4 日）

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」　令和 5 年度業績

【2023 年度 研究発表業績】

B-8

冨田朋子：メンタルヘルス　新採用職員研修。大阪医療センター、大阪、2023 年 4 月 4 日

臨床工学室

吉龍正雄

1．概要

臨床工学室は、生命維持管理装置の管理・操作を中心に業務を行うとともに、当直およびオンコール体制にて緊急業務に対しても 365 日 24 時間、柔軟に対応している。また、生命維持管理装置の動作点検を日々行い医療安全の向上に貢献している。

a.手術室部門

心臓血管外科手術において人工心肺装置ならびに周辺機器の管理・操作業務を週 3 回の定期手術および緊急手術にて行っている。また循環器内科にて行われる CIEDs 植込み・交換術におけるプログラマー操作を担い術中の医療機器トラブルにも対応している。ダヴィンチ Xi でのチームの一員として機器管理および操作・デバイス管理などを行っている。その他、手術室の ME 機器の選定や定数見直しなどに携わっている。

b．循環部門

心臓カテーテル室におけるカテーテルインターベーションおよび心臓アブレーション業務に加え、WATCHMAN、BAV 業務を行っている。今年度より新たに MitraClip 業務も行っている。CIEDs 領域においては循環器外来での外来患者、遠隔モニタリングでの CIEDs チェック、MRI や CT 対応を行っている。また、手術室・心臓カテーテル室・初療室・各種集中治療室における経皮的心肺補助装置（ECMO）・大動脈内バルーンパンピング（IABP）・Impella の管理・操作業務を行っている。

c．血液浄化部門

人工腎室では臨床工学技士 2-3 名を常駐し、入院患者を対象とした血液浄化業務や装置のメンテナンス、RO 装置（逆浸透水製造装置）の水質管理を行っている。タスクシフトにおける業務範囲追加に伴う厚生労働大臣認定研修を受け穿刺や抜針などこれまで医師が行っていた業務にも介入している。また、特殊血液浄化も行っている。

d．ME 機器部門

中央管理室の医療機器における日常点検と物品管理、病棟での医療機器トラブル対応や医療機器の購入に関する助言と提言を行っている。また、一般病棟および集中治療室に貸し出された全ての人工呼吸器が正常に作動しているかを、毎日の巡回にて確認している。この巡回業務は機械的人工呼吸療法時の事故防止の観点から大きな成果を上げている。その他、RST の一員として人工呼吸器や呼吸ケアに関する支援、近年増加している人工呼吸器の医療事故を防ぐため人工呼吸器装着患者の搬送に立ち会うようにしている。

e．教育・研修

生命維持管理装置（人工呼吸器、補助循環など）の院内向け勉強会を定期

的に実施している。臨床工学室の教育体制としては、新人教育プログラムなどを設けるとともに、認定士資格取得に向けたスキルアップ教育も行っている。

f. 集中治療業務

特定集中治療室管理の基準を満たすため ICU と救命 ICU に各 1 名の人員を配置し、人工呼吸管理や補助循環、急性血液浄化療法の管理・操作を行っている。また、カンファレンスに参加し各患者の状態を把握している。

2．業務実績

手術室部門

人工心肺症例数：73 件

補助循環部門

ECMO 症例数　：43 件
IABP 症例数：40 件
Impella 症例数：22 件

循環器部門

CIEDs 手術　：122 件
CIEDs チェック：1395 件
CIEDs 遠隔モニタリング：1335 件
心臓アブレーション：274 件
心臓カテーテル検査：375 件
心臓カテーテル治療：203 件

血液浄化部門

血液透析（HD or HDF）：2034 件
持続的血液浄化（CHDF）：380 件
単純血漿交換（PE）：54 件
血漿吸着（PA）：1 件
腹水還元濾過療法（CART）：6 件
血液吸着（HA）：45 件
PBSCH：3

【2023 年度 研究発表業績】

A-3

岩本和也、本吉宣也、冨貞公貴、児玉圭太、武島智隆、宮川幸恵、薗田誠:アンケート調査から見る本邦における補助循環での安全管理の現況−『人工心肺ならびに補助循環に関するインシデント・アクシデントおよび安全に関するアンケート 2021』より−51（1）: P.12-21、一般社団法人日本体外循環技術医学会、2024 年 3 月 1 日

B-4

四井田英樹：有毒ガス吸入による急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に対する V-V ECMO 管理。第 48 回日本体外循環技術医学会大会、大阪、2023 年 10 月 20 日

B-6
槙尾圭一郎：QDOT におけるタイトレーション好発部位の検討。第 3 回国立病院機構臨床工学技士協議会近畿支部学術大会、兵庫、2024 年 2 月 10 日

B-8
宮川幸恵：IABP。大阪府臨床工学技士会 2023 年度循環基礎セミナー、大阪、2024 年 2 月 3 日

藤井順也：ECG と不整脈の基礎。日本光電 Nexus Knowledge Seminar.2023 Part1、web、2023 年 11 月 2 日

院長室

松村泰志

【2023年度 研究発表業績】

A-0

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Manabe S, Matsumura Y, Takeda T. Extracting Clinical Information From Japanese Radiology Reports Using a 2-Stage Deep Learning Approach: Algorithm Development and Validation. JMIR Med Inform. 14:11:e49041.2023 年 11 月

Kogetsu A, Isono M, Aikyo T, Furuta J, Goto D, Hamakawa N, Hide M, Hori R, Ikeda N, Inoi K, Kawagoe N, Kubota T, Manabe S, Matsumura Y, Matsuyama K, Nakai T, Nakao I, Saito Y, Senoo M, Takahashi MP, Takeda T, Takei M, Tamai K, Tanaka A, Torashima Y, Tsuchida Y, Yamasaki C, Yamamoto BA, Kato K. Enhancing evidence-informed policymaking in medicine and healthcare: stakeholder involvement in the Commons Project for rare diseases in Japan. Res Involv Engagem. 29;9(1):107. 2023 年 11 月

Kodama K, Konishi S, Manabe S, Okada K, Yamaguchi J, Wada S, Sugimoto K, Itoh S, Takahashi D, Kawasaki R, Matsumura Y, Takeda T. Impact of an Electronic Medical Record-Connected Questionnaire on Efficient Nursing Documentation: Usability and Efficacy Study. JMIR Nurs. 25:6:e51303. 2023 年 9 月

A-3

松村泰志：医療情報の安全な流通と活用を進めるための課題と対策を考える「月刊新医療」587：15、2023 年 11 月 1 日

A-6

松村泰志：社長職を経験して「JAHIS 会誌」72：P4-9、2024 年 2 月 9 日

B-3

松村泰志：電子カルテをベースとする臨床研究基盤の構築を目指して。第 43 回日本医療情報学連合大会、神戸ファッションマート、2023 年 11 月 25 日

松村泰志：社会医学系専門医の医療情報領域の教材の作成。第 43 回日本医療情報学連合大会、神戸ファッションマート、2023 年 11 月 24 日

B-6

松村泰志：医療 DX ことはじめ。滋慶医療科学大学大学院同窓会定期講演会、滋慶医療科学大学院大学、2024 年 3 月 16 日

松村泰志：再生医療等製品の有効性・安全性評価のための臨床データ収集方法。経済産業省、再生医療等データ登録システム(NRMD)のあり方検討協議会、Web、2024 年 2 月 26 日

松村泰志：Personal Health Record による新しい診療の形と臨床データの収集。Molecular Cardiology 2024、グランフロント大阪ナレッジキャピタルセンター、2024 年 1 月 27 日

松村泰志：NRMD の重要課題：臨床研究の手順とデータ収集の現状と課題。第 2 回 NRMD のあり方検討協議会、Web、2023 年 12 月 11 日

松村泰志：医療ネットワークによる医療 DX の実現。第 12 回関西ファーマデジタルマーケティングフォーラム、田辺三菱製薬株式会社、2023 年 11 月 30 日

松村泰志：社会実装における NRMD 利用に関する目的と課題。再生医療等データ登録システム（NRMD）のあり方検討協議会、Web、2023 年 10 月 16 日

松村泰志：医療情報活用基盤の構築に向けて～医療情報連携から臨床研究のためのデータ収集～。医療 DX セミナー、大阪医科薬科大学、2023 年 9 月 1 日

松村泰志：未来の医療ネットワークのビジョン―Personal Health Record による地域医療連携と臨床研究のためのデータ収集―。第 30 回日本遺伝子診療学会大会・第 8 回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム合同学術集会、三井ガーデンホテル千葉、2023 年 7 月 29 日

松村泰志：医療データ利活用ニーズの整理とそれぞれに必要とするシステム MyDataJapan2023 コンファレンス。一橋講堂、2023 年 7 月 14 日

-臨床研究センター-

臨床研究センター

臨床研究センター長　金村米博

当臨床研究センターは、前身の旧国立大阪病院臨床研究部として昭和 54 年（1979 年）4 月に設置され、本年度で設置後 44 年目、平成 20 年（2008 年）の臨床研究センター昇格後、16 年目を迎えた。現在の体制は、4 部（先進医療研究開発部、エイズ先端医療研究部、EBM 研究開発部、臨床研究推進部）12 室で構成され、専任職員 9 名（臨床研究センター長 1 名、部長 1 名、室長 3 名、室員 4 名）に加え、院内で臨床研究に関わる医師・コメディカルスタッフが併任職員として所属する。令和 5 年度は、金村が臨床研究センター長、渡邊がエイズ先端医療研究部・部長に昇任すると同時に、矢倉が HIV 感染制御研究室・室長、森下が臨床研究推進室・室長として新たに着任した。

令和 5 年度の研究活動としては、先進医療研究開発部においては、iPS 細胞等を用いた幹細胞・再生医療研究、ゲノム医療等の分子医療研究、エイズ先端医療研究部では、リーディング分野として HIV/AIDS 研究、EBM 研究開発部では、臨床疫学研究、がん療法研究、高度医療技術開発研究、医療情報研究、災害医療研究の分野で、各々精力的な研究を展開した。また、臨床研究推進部では、企業等からの依頼を受けて GCP（Good Clinical Practice）に則って行われる「治験」、並びに国が定める倫理指針等を遵守して各研究者が独自に行う「臨床研究」の支援業務業務、並びにレギュラトリーサイエンスに関わる研究を実施した。各分野において、臨床研究および治験等の実施で多数の優れた研究成果を発信したことに加えて、特許取得、競争的研究費の獲得、論文著書発表、国内外での学会発表等で数多くの実績を上げ、国立病院機構本部が令和 5 年度に実施したこれら研究活動の総合力評価において、国立病院機構運営病院に設置された全ての臨床研究センター/臨床研究部の中で、第 2 位となるトップクラスの高い評価を獲得した。

（沿革）

昭和 54 年（1979 年）4 月：前身の国立大阪病院時代に臨床研究部として設置

平成 20 年（2008 年）4 月：臨床研究センターに昇格、1 部 5 室から 2 部 9 室へ改組

病院内組織であった治験管理センターを、新たに臨床研究も含めた支援を行う臨床研究推進室として臨床研究センターに編入

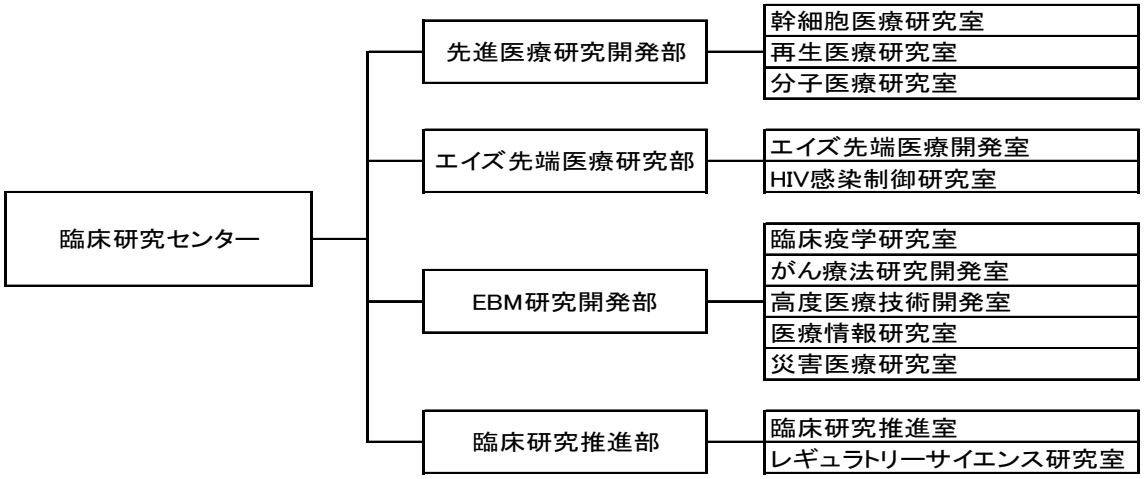
平成 23 年（2011 年）4 月：3 部 11 室へ改組

高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室設置

平成 25 年（2013 年）4 月：DMAT 西日本拠点に指定されたのに伴い、災害医療研究室設置

4 部 12 室へ改組（現体制）

令和 5 年度（2023 年度）組織図



臨床研究センター長　金村米博（専任）

臨床研究センターは以下の部門により構成される。

I　先進医療研究開発部

部長：金村米博（併任）

医師に加えて、各種コメディカル部門を含む、医療を担う多種多様な全医療職が参加して、(1) 全医療職の有する専門的医学知識を医療機器の技術評価に活用する体制の構築、(2) 全医療職/全医療現場が持つ、医療機器に対する大小様々なニーズ/シーズの発掘を可能にする体制の構築、の 2 目標を実現し、産業界がワンストップで全病院レベルの情報に容易かつ効率的にアクセスできる「全医療職ニーズ/シーズ収集をワンストップで実現する次世代医療機器連携拠点(Bi-AMPS 拠点)」の体制整備・運営を実施している。

①幹細胞医療研究室

室長：正札智子（専任）

再生医療研究室と共同で、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）より、神経幹細胞（自己複製と、神経系細胞を供給する能力を持つ細胞）への分化誘導技術と、細胞品質評価法の開発をメインテーマとして研究を実施している。更に、分子医療研究室と共同で、脳腫瘍の分類と治療法の判断に必須となる遺伝子の解析（分

子診断）を行うとともに、新規診断法や、ヒト iPS 細胞や由来細胞の腫瘍化に関与するマーカー遺伝子の探索を実施している。

②再生医療研究室
室長：金村米博（併任）
各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を実施している。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。

③分子医療研究室
室長：金村米博（併任）
各種遺伝子検査を用いた悪性脳腫瘍、難治性脳形成障害症等の難治性神経疾患の分子診断技術の開発と、分子診断結果を用いた病態解析研究、および新規治療法開発を実施している。

II　エイズ先端医療研究部
部長：渡邊大（専任）

①エイズ先端医療開発室
室長：渡邊大（併任）
大阪医療センターは薬害 HIV 裁判の和解に基づく恒久対策の一環として、平成 9 年にエイズ診療における近畿ブロックのブロック拠点病院に選定され、診療、研究、教育・研修、情報発信の機能が求められている。その中で、当研究室は、HIV 感染制御研究室および院内設置の感染症内科や HIV/AIDS 先端医療開発センターと連携し、HIV 感染症の診療におけるさまざまな問題に対して研究を行っている。

②HIV 感染制御研究室
室長：矢倉裕輝（専任）
HIV 感染制御研究室では、HIV 感染症に対する臨床における諸問題に対する研究を行っている。近年では、殆どの症例でウイルス抑制が得られるようになったが、現在の抗 HIV 薬では潜伏感染細胞を駆逐できないが故に、ほぼ一生涯の薬物治療が必要となる。
これまでに、HIV インテグラーゼ阻害剤の薬物動態の相違と代謝酵素の遺伝子多型の関連（ J Infect Chemother. 2015, BMC Infect Dis. 2017）、非核酸系逆転写酵素阻害剤であるドラビリンの透析による薬物動態への影響（J Infect Chemother. 2023）等について研究報告を行った。

III　EBM 研究開発部

部長：三田英治（併任）

①臨床疫学研究室

室長：三田英治（併任）

臨床疫学研究室は主に難治性疾患の病態を分子疫学面から検証し、最適な治療方法や安全性を検討している。

②がん療法研究開発室

室長：平尾素宏（併任）

最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しいがん治療法の開発を目的として、基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究を行っている。

③高度医療技術開発室

室長：松村泰志（併任）

本研究室では、情報処理や画像処理技術、AI 応用などの新技術を取り入れ、働き方改革につながる新しい医療技術開発の基盤を構築していくと同時に実際に運用することによってアウトカムを追求する。

④医療情報研究室

室長：岡垣篤彦（併任）

医療情報研究室では、医療への IT 応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム 本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関する システム的検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準電子カルテについて、あるいは FHIR、SS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHR といった標準規格を通して異なる 電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。

⑤災害医療研究室

室長：大西光雄（併任）

今年度も昨年度に引き続き、COVID-19 への対応をもとにした災害医療の研究を行った。感染症への対応における人的・物的・空間的な不足（需要と供給のアンバランス）がもたらす事態という意味においては“災害”と捉えることができる。しかし、一般的な自然災害とは違い、いつから災害と認識できるのか？、ライフ

ラインは全く影響を受けていない、といった災害をイメージしにくい状況があることから、当院では事業継続計画（BCP）を軸にした対応をおこなってきた。この取り組みは当初よりユニークであり、学会発表では注目されたと言える。

また、他の災害医療における研究としては、高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）があるが、今年度はあまり進展させることができなかった。さまざまな高齢者施設、あるいは在宅医療を行う医療機関と連携し災害時に“災害時要配慮者”に分類される、これらの医療・介護の利用者をいかにしてアセスメントし、医療への負荷を軽減させ、生命を守るかといった課題に取り組んでいく。

IV　臨床研究推進部

部長：金村米博（併任）

① 臨床研究推進室

室長：森下典子（専任）

臨床研究事業は、従来から国立病院機構が果たすべき先駆的な政策医療の一分野である。当院では治験・臨床研究の円滑な運営・管理、支援を行うことを目的に、臨床研究センター4 部 12 室の中に「臨床研究推進部」、「臨床研究推進室」を配置している。臨床研究推進室は“治験管理部門” と“臨床試験支援部門”の 2 つの部門から成るが、治験管理部門が、治験以外の臨床研究支援も含め専ら活動の中心となっている。

②レギュラトリーサイエンス研究室

室長：松村泰志（併任）

レギュラトリーサイエンスは、科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学とされている。当研究室は、レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成 23 年 4 月に設立された。

先進医療研究開発部

部長：金村米博（併任）
スタッフ：高田愛（診療情報管理士）、渡部耕治（流動研究員、Bi-AMPS 研究コーディネーター）、松田由香子

令和 5 年度の活動実績：

AMED 次世代医療機器連携拠点整備等事業「全医療職ニーズ/シーズ収集をワンストップで実現する次世代医療機器連携拠点」において設置された Bi-AMPS 拠点の事業活動として、令和 5 年度は以下を実施した。

拠点体制整備として、コメディカル部門（12 名）を含む総勢 17 名（国立病院機構所属の他病院から 4 名参加）で構成されるワーキンググループ会議を定例開催（合計 11 回）し、全医療職/全医療現場レベル（17 診療科、7 部門）の事業参加協力を得て事業運営体制を強化・充実させた。拠点事業として、(1)メディカルカンファレンス：座学講習と医療現場見学会をハイブリットさせた教育事業［参加企業等延べ 53 社、参加者：延べ 53 名］、(2)ユーザー技術評価システムの構築：個別技術評価会を 10 回（対面）開催し、10 製品・技術の評価［参加企業等 10 社、参加者：延べ 111 名］、(3)医療現場ニーズ/シーズ調査見学会：各部門で使用される主たる機器の概説を行う紹介動画の YouTube 公開（放射線科：合計 1604 アクセス、薬剤部：合計 36171 アクセス）の継続、(4)医療現場発ニーズ/シーズマッチング交流フォーラム開催：MDF フォーラム（現地開催、共同研究開発提案 5 件、参加者：38 社 85 名）、NHO フォーラム（Web 開催、共同研究開発提案 9 件、参加者：84 社 116 名）の開催、を実施した。また、Digital Works Bi-AMPS の活動を本格化させ、各種動画コンテンツ制作体制を強化し、拠点愛称（Bi-AMPS）の認知度向上を図った。事業成果として、1 製品（医療用パーティション）の上市達成、Bi-AMPS 商標の実施許諾（第 2 号）を行った。拠点外連携として、大阪商工会議所との連携体制の更なる強化、国立病院機構内病院間の連携体制強化、次世代医療機器連携拠点 9 拠点間の連携推進ネットワーク「和（やわらぎ）」の体制強化、共通ポータルサイト運営、共同出展（メディカルクリエーションふくしま）を行った。その他として、SNS を用いた情報発信体制の充実、第 77 回国立病院総合医学会展示出展、拠点愛称（Bi-AMPS）を用いたブランド・イメージ戦略の強化、部門横断的研究開発テーマ（優しい病院）への取組を実施した。

今後の活動方針：

国立病院機構ネットワークを活用して、医療機器、ヘルスケア製品等の開発を支援するための Bi-AMPS 拠点の活動を更に充実させていきたいと考える。

①幹細胞医療研究室

スタッフ：正札智子（室長）、福角勇人（室員）、山本篤世（流動研究員）

令和 5 年度の活動実績：

１．ヒト iPS 細胞由来神経系細胞を用いた再生医療、及び神経毒性評価系の構築を目的とした、細胞分化誘導法と品質評価法技術の改良

ヒト iPS 細胞を用いて、再生医療応用や神経毒性評価系の構築を目指し、使用目的に応じた、安全性と有効性が担保された神経系細胞への分化誘導技術と、分子生物学的な手法を用いた細胞品質評価法の探索を実施した。

２．神経疾患細胞の変異解析と特性解析

神経疾患患者由来の細胞試料を用い、疾患を起因する原因遺伝子の変異解析と、細胞形質の特性を、分子生物学と細胞生物学的解析を進めている。更に、患者由来 iPS 細胞を用いた解析のため、神経科学的解析が可能な十分に成熟した神経細胞の誘導技術の開発を行った。

３．脳腫瘍の分子診断精度の向上に寄与する解析技術の開発と、ヒト iPS 細胞を用いた再生医療の安全性に関わるマーカーの探索

分子医療研究室で実施している脳腫瘍組織の分子診断の向上を目指し、予後との関連が示唆されている遺伝子の解析を行った。また医療応用を目指す iPS 細胞由来神経細胞の腫瘍化リスクの指標となるマーカーの探索を実施した。

今後の活動方針：

AMED 再生医療等実用化研究事業「慢性期脳梗塞に対する iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発」において、細胞品質評価業務の支援を行う。また、再生医療事業で培われた細胞特性解析の知見を、創薬や神経疾患、及び脳腫瘍の各分野に活用して解析を進める。

②再生医療研究室

スタッフ：金村米博（室長）、隅田美穂（室員）、半田有佳子（流動研究員）、勝間亜沙子（流動研究員）、

令和 5 年度の活動実績：

１．iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発

AMED 再生医療等実用化研究事業「慢性期脳梗塞に対する iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発」において、HLA3 座ホモ iPS 細胞（京都大学 iPS 細胞研究財団から分与）から作製した iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた慢性期脳梗塞に対する再生医療の臨床研究を開始するための準備を行う研究を開始した。また、AMED 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム「遺伝子導入神経幹細胞を用いた脊髄機能再生に関する基礎研究」において、最適な移植細胞を作製するための細胞培養技術改良とその品質管理方法の再検討を実施し、脊髄損傷治療用新規 iPS 細胞由来神経前駆細胞の製造法開発を開始した。

２．新規共培養系を用いたヒト神経細胞シナプス成熟法の開発

ヒトグリア系細胞との共培養により、iPS 細胞由来神経前駆細胞から成熟シナプスを有するヒト神経細胞を分化誘導させるロバストな新規共培養系を用いたヒト神経細胞シナプス成熟法開発を更に進め、より安定的な培養系開発を実施した。

今後の活動方針：

iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脳梗塞の再生医療開発に関しては、その臨床応用実現に向けてさらに研究を加速させていくと同時に、脊髄損傷治療用の新規 iPS 細胞由来神経前駆細胞の早期実用化を目指し、製造法開発を進めていく予定である。また、開発済の新規共培養系に関しては、医薬品等の安全性評価試験への応用を目指し、更なる技術改良を実施していく計画である。

③分子医療研究室

スタッフ：金村米博（室長）、兼松大介（室員）、松山裕美（室員、遺伝カウンセラー）、吉岡絵麻（臨床検査技師）

令和 5 年度の活動実績：

悪性脳腫瘍の分子遺伝学的解析として、前年度に継続して、悪性グリオーマを対象として、関西地域を中心とした 70 以上の医療機関で構成される「関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク」を主宰し、脳腫瘍検体レジストリーを行い、WHO 脳腫瘍分類に基づく中央遺伝子診断の実施と、大規模症例を用いた悪性グリオーマの分子遺伝学的特性解析を実施した。また、小児悪性脳腫瘍の中で最も頻度の高い腫瘍の一つである髄芽腫に関して、「日本小児がん研究グループ（JCCG）」が実施する「小児固形腫瘍観察研究」と特定臨床研究「小児髄芽腫に対し新規リスク分類を導入したチオテパ／メルファラン大量化学療法併用放射線減量治療の有効性と安全性を検討する第 II 相試験」（jRCTs051200021）において、全国レベルで収集された髄芽腫標本の中央分子診断を実施した。

今後の活動方針：

悪性脳腫瘍の分子診断実施体制に関しては、今後も引き続き関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク並びに JCCG での活動を継続して実施していく予定である。また、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークでの脳腫瘍検体レジストリーに関しては、その実施体制を更に充実させていきたいと考える。

エイズ先端医療研究開発部

部長：渡邊大（専任）

①エイズ先端医療研究開発室

スタッフ名：白阪琢磨、安尾利彦

令和 5 年度の活動実績：

臨床研究では厚生労働科学研究費補助金等によるエイズ対策政策研究事業（令和 5 年度は「エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究」（研究代表者　白阪琢磨））などを実施し、臨床研究の主なテーマとして HIV 感染症の病態解析や治療、メンタルヘルスや認知機能障害に関する研究と患者中心の医療の提供に関する研究に取り組みました。教育･研修では院外ならびに院内を対象とし、看護部・医療相談室・臨床心理室等と共に職員研修部と協働で実施し、多くの参加者を得ました。これらの研究成果は学会あるいは論文として発表いたしました。

今後の活動方針：

今後も、HIV/AIDS 先端医療開発センターの研究部門として HIV 感染症/AIDS に関する臨床研究、教育・研修、情報発信を進め、治癒を目指した治療に関する研究や高齢 HIV 陽性者に対する新たな課題に関する研究を推進して行きたい。

②HIV 感染制御研究室

スタッフ：矢倉裕輝（室長）

令和 5 年度の活動実績：

世界初の HIV 感染症に対する持効性筋注製剤の血漿中薬物濃度について、高速液体クロマトグラフィーを用いた測定方法の開発を行った。また、HIV 感染症治療薬の投与による自覚症状の発現と関連する薬物トランスポーターの探索を行い、その遺伝子多型の影響について検討、解析を行なった。

今後の活動方針：

長期にわたる薬物治療の成功を見据えた、治療レジメンの個別化の実現をメインテーマとして、薬物治療が有効かつ安全に実施できるよう、Pharmacokinetics(PK)、Pharmacodynamics(PD)、Pharmacogenomics（PGx）および製剤学観点からアプローチしていく。

EBM 研究開発部

部長：三田英治（併任）

① 臨床疫学研究室

スタッフ：三田英治（室長）、上田恭敬、岩谷博次、山上宏、永野恵子、阪森亮太郎、藤中俊之、渋谷博美、東将浩、西村洋、大鳥安正、藤井順也、辻本豊、加藤研、天野栄三、青野博之、松田理、田宮裕子、吉龍正雄、木村良紀、榊原祐子、山本司郎、井上耕一、西宏之、井上敦夫、辻野知栄子、浅井克則、南誠剛、岡田陽子、安藤性實、山本俊祐

令和 5 年度の活動実績：

インターフェロンフリー治療によって C 型肝炎は HCV 排除が期待できる時代になったが、残された少数の難治例に対する最適治療法を検討している。インターフェロンフリー治療は非代償性肝硬変にまで適応が拡大されたが、肝予備能が低下した症例に投薬するため、死亡例が出ている。より安全に治療できる条件とその有効性を検証している。同じく心機能低下や腎機能低下症例に対する治療法も検討している。HIV 感染合併例でのインターフェロンフリー治療の成績もまとめ、論文化している。

次に B 型肝炎では、核酸アナログの長期投与成績から導かれる耐性化の問題点を検討している。そしてラミブジン・アデホビル併用療法効果不良例に対し、アデホビルを TDF に切り替えることの有効性と安全性を明らかにした。現在はさらに TDF から TAF への切り替えを検証している。近年散発的に発生している B 型急性肝炎では genotype A が大半を占めるが、その特徴を解析し、慢性化への関与についても検討している。また HIV 感染が B 型急性肝炎の重症度に与える影響についても検討している。

肝細胞癌に対する治療では肝動注化学療法に注目し、現在症例の蓄積中である。また分子標的薬と免疫チェックポイント阻害剤との併用も治療選択肢に入った。病状に応じた最適治療の方向性を示していけるよう検証すると同時に、特有の副反応についても検討を加えている。

今後の活動方針：

消化器疾患、循環器・腎臓疾患、脳神経疾患を始め、幅広い領域の病勢と疫学の相関を検証していく。特に遺伝的背景を有する疾患は興味ある領域である。また、新しい疾患概念、たとえば MASH（metabolic dysfunction-associated steatohepatitis）などは国立病院機構ネットワーク研究など多施設でのデータ収集と解析を行いたいと考える。また疫学データを基にして、疾患を「未病」の段階で予防するための知識啓発につとめるため、ショート動画コンテンツを作成することも企画している。

②がん療法研究開発室

スタッフ：平尾素宏（室長）、高見康二、加藤健志、巽啓司、吉龍澄子、小澤健太郎、西村健作、田中英一、眞能正幸、廣瀬由美子、森清、飛梅孝子、後藤邦仁、鹿野学、松本久宣、竹野淳、柴山浩彦、八十島宏行、吉本仁、酒井健司

令和 5 年度の活動実績：

がんが日本人の死因のトップとなって久しい。国立がん研究センターのがん情報サービスによれば、2020 年の年間がん罹患数は 94 万人を超え、2022 年のがんによる死亡者数は約 38 万 6 千人と報告されている。最近、がん免疫治療法が脚光を浴び、臨床の場において使用され、その評価が明らかになってきたが、すべてのがんに効果があるわけではなく、がんに対する有効な治療法の開発の重要性は依然変わっていない。

免疫治療を含め従来の多くのがん治療法の有効性は、症例ごと、施設ごとの経験から得られたものであり、複数施設における大規模な臨床試験による治療効果の検証が必須となっている。そのような状況において、現在、がん治療成績向上を目的として科学的根拠に基づいた効果的ながん治療法の開発が求められている。さらに、発がん、増殖、転移といったがん自体やそれに伴う病態に関わる遺伝子や蛋白、糖鎖といった数多くの分子の異常が報告され、これらの分子の特徴や機能が新しいがんの診断法や治療に応用され、個別化医療やオーダーメイド医療という語に代表されるような各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が進められつつある。実際、2019 年よりがん遺伝子パネル検査が保険診療可能となった。

本研究室では、最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しいがん治療法の開発を目的として、基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究を行っている。

今後の活動方針：

今後も引き続き、多施設共同臨床研究や自主的臨床試験研究に参画し、がん診療の開発を目指していきたい。

③高度医療技術開発室

スタッフ：松村泰志（室長）、安部晴彦、上田麻里

令和 5 年度の活動実績：

令和５年度は、心不全早期診断・早期介入のための運動負荷心エコー検査件数を増やし（前年比１３５％）、シンポジウムでの報告（２０２３年日本心エコー図学会）も行った。また、学会主催の運動負荷心エコー検査に関する多施設共同研

究にも参加し、本邦での心不全早期診断のエビデンス創出を進めた。

今後の活動方針：

情報処理や画像処理技術、AI 応用などの新技術を取り入れ、医療現場で技術的解決が求められるニーズを抽出し、こうしたニーズに対し技術的に解決させるためのアイデアをまとめる。具体的には、心エコー検査画像の AI 解析によるレポート自動作成支援である。心エコー検査室での現場で、実際に AI 解析・レポート作成を行い、検査技師の業務負担がどの程度軽減し、その結果として、検査件数がどの程度増えるのかについて検証を行う。

④医療情報研究室

スタッフ：岡垣篤彦（室長）、三木秀宣

令和 5 年度の活動実績：

2023 年は「Rapid Response への気付き、急変時の正確な記録を意識した電子カルテの工夫」というタイトルで第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術総会ワークショップでの発表（当院救命救急センターとの共同研究）を行った。

今後の活動方針：

今年度は、以下の研究プロジェクトに参加した：国立病院機構の「診療情報集積基盤（NHO Clinical Data Archives, NCDA）構築事業」、および大阪大学が主導する「医療データの統合解析環境の構築に関する検討」、「大阪がん診療実態調査」、「がん診療きんてん化のための臨床情報データベース構築と活用に関する研究（QI 研究）」、「がん登録を基盤とするリアルワールドのがん医療への影響調査（旧課題名:新型コロナウイルス感染症がリアルワールドのがん診療に及ぼした影響:癌登録を基礎とした調査（CanReCO 研究）」。

今年度は、これまでの室長の最終年度となる。これまで行ってきた病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究、治験・臨床研究や医療安全に関する システム的検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究をまとめる。

⑤災害医療研究室

スタッフ：大西光雄（室長）、島原由美子

令和 5 年度の活動実績：

今年度も昨年度に引き続き、COVID-19 への対応をもとにした災害医療の研究を行った。感染症への対応における人的・物的・空間的な不足（需要と供給のアンバランス）がもたらす事態という意味においては“災害”と捉えることができる。しかし、一般的な自然災害とは違い、いつから災害と認識できるのか？、ライフラインは全く影響を受けていない、といった災害をイメージしにくい状況があることから、当院では事業継続計画（BCP）を軸にした対応をおこなってきた。こ

の取り組みは当初よりユニークであり、学会発表では注目されたと言える。

また、他の災害医療における研究としては、高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）があるが、今年度はあまり進展させることができなかった。さまざまな高齢者施設、あるいは在宅医療を行う医療機関と連携し災害時に“災害時要配慮者”に分類される、これらの医療・介護の利用者をいかにしてアセスメントし、医療への負荷を軽減させ、生命を守るかといった課題に取り組んでいく。

臨床研究推進部

部長：金村米博（併任）

① 臨床研究推進室

スタッフ名：森下典子（室長）、原田真里子、羽田かおる、仁谷めぐみ、小林恭子、松尾友香、柚本育世、奥村葵美、三井知子、千賀明日香、福岡利恵、名畑優保、池田佐知子、濱充代、阿久津さえ子、堀田千恵子、上﨑頼子、朝比奈雅子、信谷宗平、松田里美、大場実咲

令和 5 年度の活動実績：

臨床研究推進室は、CRC および治験事務局・受託研究審査委員会（IRB）事務局を配置し、治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している。

当院の IRB は独立した 2 つの IRB（第 1 委員会・第 2 委員会）から構成されており、第 1 委員会は主に治験等受託研究を、第 2 委員会は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が適応となる自主研究を審査している。令和 5 年度も新型コロナウイルス感染防止対策から Web 会議形式とした。

審査件数では、第 1 委員会は月 1 回（計 12 回）開催し、新規課題 42 件、継続課題 87 件、迅速審査 10 件を含む 1634 件の審査を行った。第 2 委員会では本審査を 12 回、迅速審査を 23 回開催し、新規課題 5 件、継続課題 263 件、迅速審査 115 件を含む 656 件の審査を行った。

令和 5 年度の治験実績（受託研究費請求額）は、新規受託件数 27 件、総件数 107 件であり、研究請求金額総額は 2 億円を越え、国立病院機構施設では全国 6 位の成績であった。

新規の治験受託件数を増やすため、治験依頼者や SMO（Site Management organization）と平素より積極的にコミュニケーションをとり、獲得に向けて努力している。

また第 1 委員会・第 2 委員会ともに治験、臨床研究に関連した文書の電磁化に取り組んでおり、第 1 委員会では令和 4 年度から、第 2 委員会では令和 5 年度から導入し、業務効率化を図るなど、絶え間なく質の高い倫理審査を行うための体制整備に取り組んでいる。

自主研究の支援については、基本的に先進医療 B または国立病院機構 EBM 研究の治療介入のある研究を支援している他、引き続き新型コロナワクチンコホート調査への支援や、令和 5 年度より一部の特定臨床研究においても支援を開始した。また、臨床研究法や倫理指針に基づいた質の高い臨床研究の実施を進めるために、研究機関の長が行う点検（自己点検）を実施し、その結果を研究者にもフィードバックしている。

その他、地域治験ネットワークの活動では大阪府内の 16 医療機関で形成する「治験ネットおおさか」に参加し、他医療機関との意見交換を行い、CRC 養成研

修での講師やファシリテーターを務めた。

学術的活動および教育・啓発については、学会等でも積極的に発表を行い、国立病院機構本部主催初級者CRC養成研修やCRC実務者研修で講師を務めたほか、「臨床研究推進室News」（年3回）の発行、「治験セミナー」、「臨床研究セミナー」を開催し職員等への啓発も実施した。

今後の活動方針：

１．受託研究費2億1000万円の維持
・新規治験を獲得する
・品質マネジメントシステムの確実な実行と組み入れ症例数の向上
・SMOとの協同を推進し、CRC、治験事務局のサステナブルな体制作り

２.「医師の働き方改革」の時代に即した臨床研究実践力の向上
・質（プロトコル、説明・同意文書のひな型の充実）と効率化（電磁化促進）の両立を可能とする支援体制
・倫理観を兼ね備えた研究者の養成と育成

３．治験・臨床研究の電磁化の円滑な運用にむけた体制整備
・DDWorks※1のより積極的な活用
・臨床研究電子申請システムの円滑な運用
・R-SDV※2の導入検討

※１　DDWorks：治験文書管理システム（富士通）
※２　R-SDV（リモートモニタリング）：治験依頼者である製薬企業等が、被験者の電子カルテを含む臨床データ（原資料）をインターネット経由で照合し、モニタリングを行う仕組みの総称

②レギュラトリーサイエンス研究室

スタッフ：松村泰志（室長）

令和5年度の活動実績：

令和5年度においてはReal World Dataのソースである電子カルテデータを活用した臨床研究のあり方についての検討を継続して行った。大阪大学との共同により進めているOCR-netの臨床研究基盤システムを充実させ、これを活用した多施設共同研究に参加した。また、多施設共通DWHの秘密分散・秘密計算の事業を継続発展させることとなり、当院も参加し、共通DWHを構築した。

日本イーライリリー、大阪大学との共同研究で、レセプトデータから間質性肺疾患患者の抽出について、開発した手法の精度を、当院のデータを用いて評価した。この研究では、共通DWHのデータを利用し、大阪大学で開発されたプログ

ラムを適用して評価対象患者のデータを抽出した。189 症例を抽出し、呼吸器内科、放射線科の協力を得て間質性肺疾患の有無の判定を行い、評価した。

Personal Health Record（PHR）のシステムの開発を進め、個人が施設をまたがって診療を受けている場合でも、個人に重要な診療データが構造化されて集積する仕組みについて研究開発を継続させた。これにより、長期の予後を追跡することが容易となる。これらのプロジェクトについて、各方面からの依頼を受けて講演を行った。

今後の活動方針：

研究を推進する上で必要な臨床データ収集を診療現場に負担をかけずに適切に行う方法について研究開発し、当院で行う臨床研究のデータ収集に利用することを目指す。また、PHR の基盤となるシステムの助言及び設計を行い、PHR の実用化を目指し、PHR を活用した長期フォローアップの臨床研究の実現を目指す。また、当院も PHR に参加するよう準備を行う。

幹細胞医療研究室

室長　正札智子

【概要】

幹細胞医療研究室では、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）より、神経幹細胞（自己複製と、神経系細胞を供給する能力を持つ細胞）への分化誘導技術の開発をメインテーマとして研究を行っています。その成果は、脊髄損傷や脳梗塞患者への移植治療を視野に入れた再生医療や、ハイスループットの神経毒性評価試験に使用する細胞の提供に役立てています。また神経疾患の発症メカニズムの解明にも有用な細胞技術です。更に当センター脳神経外科及び再生医療研究室と共同で、脳腫瘍の分類と治療法の判断に必須となる遺伝子の解析（分子診断）を行うとともに、新規腫瘍マーカーの探索を実施しています。

【研究テーマ】

１．ヒト iPS 細胞由来神経系細胞の作製と培養法の検討

ヒト iPS 細胞を用いた、再生医療応用や神経毒性評価系の構築を目指し、使用目的に応じた神経系細胞への分化誘導技術の開発と、分子生物学的な手法を用いて細胞の評価を実施しています。

２．神経疾患細胞の変異解析と特性解析

神経疾患患者由来の細胞試料を用い、疾患を起因する原因遺伝子の変異解析と、細胞形質の特性を、分子生物学と細胞生物学的解析を進めています。更に、疾患 iPS 細胞を用いて、神経科学的解析が可能な十分に成熟した神経細胞の誘導技術の開発を行っています。

３．脳腫瘍患者摘出手術検体の分子診断と新規腫瘍マーカーの探索

大阪医療センター及び近隣施設の神経膠腫患者、また小児に発症例の多い脳腫瘍である髄芽腫と上衣腫患者は全国規模で、摘出腫瘍組織をご提供いただき、発症原因や予後との関連が示唆されている遺伝子の分子診断を行っています。また腫瘍組織から樹立し、長期培養に成功した細胞株の生物学的特性解析を行い、医療応用を目指す iPS 細胞由来神経幹細胞の腫瘍化リスクの指標となるマーカーの探索を実施しています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Fukusumi H, Togo K, Beck G, Shofuda T, Kanematsu D, Yamamoto A, Sumida M, Baba K, Mochizuki H, Kanemura Y: Human induced pluripotent stem cell line (ONHi001-A) generated from a patient with infantile neuroaxonal dystrophy having PLA2G6 c.517C > T

(p.Q173X) and c.1634A > G (p.K545R) compound heterozygous mutations. 「Stem Cell Res」69:103122、2023 年 6 月

Fukuoka K, Kurihara J, Shofuda T, Kagawa N, Yamasaki K, Ando R, Ishida J, Kanamori M, Kawamura A, Park YS, Kiyotani C, Akai T, Keino D, Miyairi Y, Sasaki A, Hirato J, Inoue T, Nakazawa A, Koh K, Nishikawa R, Date I, Nagane M, Ichimura K, Kanemura Y: Subtyping of Group 3/4 medulloblastoma as a potential prognostic biomarker among patients treated with reduced dose of craniospinal irradiation: a Japanese Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group study. 「Acta Neuropathol Commun」11(1):153、2023 年 9 月

B-3
川路博史、中戸川裕一、佐藤史崇、稲永親憲、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：Private hospital での WHO 第５版に準じた脳腫瘍診断:中央分子診断システムを利用することによる効果の検証。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

中戸川裕一、川路博史、林 宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：半球性の H3F3A 遺伝子変異の glioma の臨床的特徴について。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 27 日

B-4
荒川芳輝、川内 豪、牧野恭秀、吉岡絵麻、正札智子、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、宮本 亨、金村米博：BRAF V600E 変異型神経膠腫の後方視的解析。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

呉 浩一、川内 豪、牧野恭秀、勝間亜沙子、吉岡絵麻、正札智子、寺田行範、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、荒川芳輝、金村米博：BRAF V600E 変異型神経膠腫の後方視的解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、木嶋教行、沖田典子、森 鑑二、金村米博、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

川路博史、中戸川裕一、仲村友博、佐藤史崇、荒川朋弥、林 正孝、山添知宏、稲永親憲、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：Private hospital での WHO 第 5 版に準じた Glioma 診断：中央分子診断システムを利用することの意義。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日～11 月 30 日（ポスターオンデマンド配信）

呉 浩一、勝間亜沙子、牧野恭秀、山本悦子、吉岡絵麻、正札智子、寺田行範、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、市村幸一、平戸純子、佐々木惇、西川 亮、伊達 勲、永根基雄、荒川芳輝、金村米博：髄芽腫の分子診断：国内症例の特徴と WNT の診断方法。第 11 回 Neuro-Oncology WEST、大阪市淀川区、2023 年 11 月 11 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、木嶋教行、沖田典子、森 鑑二、金村米博：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

真田隆広、木下 学、佐々木貴浩、山本祥太、藤川征也、福山秀青、林 宣秀、深井順也、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、有田英之、森 鑑二、石橋謙一、高野浩司、西田南海子、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、谷野美智枝、児玉良典、眞能正幸、金村米博：膠芽腫の造影 T1 強調画像による MGMT 遺伝子プロモーター領域のメチル化の予測。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

林 宣秀、深井順也、中戸川裕一、川路博史、沖田典子、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、中尾直之、森 鑑二、金村米博：H3 K27M 変異視床グリオーマの臨床･画像学的特徴。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

中戸川裕一、川路博史、林 宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：半球性の H3F3A 遺伝子の変異をもつ non-midline glioma の臨床的特徴について。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 4 日

勝間亜沙子、山本篤世、兼松大介、隅田美穂、福角勇人、吉岡絵麻、正札智子、金村米博：バーチャルスライドシステムによる免疫染色画像の定量評価法の検討。第 23 回日本再生医療学会総会、新潟市、2024 年 3 月 21 日

兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、福角勇人、吉岡絵麻、山本篤世、半田有佳子、正札智子、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞の画像解析による細胞収量の非破壊予測方法の検討。第 23 回日本再生医療学会総会、新潟市、2024 年 3 月 21 日

再生医療研究室

室長　金村米博

【概要】

再生医療研究室では、各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっています。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤安全性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施しています。

【主な研究テーマ】

１．治療用ヒト細胞培養プロセスの開発

治療に使用する各種ヒト細胞を培養・加工するヒト細胞培養専用施設（セルプロセッシングセンター）の管理・運用を担当し、セルプロセッシングセンター内でのヒト細胞培養プロトコールの開発を行っています。また、細菌・真菌検査や遺伝子検査などを組み込んだ治療用ヒト細胞の品質検査法の開発などを行なっています。

２．医療用ヒト幹細胞の品質管理技術の開発

再生医療に使用する細胞として、組織幹細胞であるヒト神経幹細胞および間葉系幹細胞さらにヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞などを主な研究対象として、細胞増殖能、染色体構造、細胞表面マーカー発現様式、細胞分化能等を詳細に解析してこれら細胞の生物学的特性を明らかにし、医療応用するための細胞の品質管理に必要な項目の策定とその検査方法の開発を行っています。

３．iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脳梗塞再生医療の開発

亜急性期脊髄損損傷の再生医療の臨床研究で使用している HLA3 座ホモ iPS 細胞（京都大学 iPS 細胞研究所から分与）から作製した iPS 細胞由来神経前駆細胞と同一規格の細胞を用いて、脳梗塞の再生医療を実現するためのトランスレーショナルリサーチを実施しています（AMED 再生医療実用化研究事業)。

４．ヒト幹細胞を応用した薬剤安全性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索

ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞、ヒト iPS 細胞由来神経細胞を主に使用して、各種薬剤の薬効および毒性評価を実施するためのハイスループットスクリーニングシステムの開発を行っています。また、ヒト神経前駆細胞やグリオーマ幹細胞を標的とする新規治療薬候補化合物の探索を実施しています。

【2023 年度 研究業績発表】

A-0

Fukusumi H, Togo K, Beck G, Shofuda T, Kanematsu D, Yamamoto A, Sumida M, Baba K, Mochizuki H, Kanemura Y: Human induced pluripotent stem cell line (ONHi001-A) generated from a patient with infantile neuroaxonal dystrophy having PLA2G6 c.517C > T (p.Q173X) and c.1634A > G (p.K545R) compound heterozygous mutations. 「Stem Cell Res」69:103122、2023 年 6 月

Nishimoto K, Ozaki T, Kidani T, Nakajima S, Kanemura Y, Yamazaki H, Fujinaka T: Flow Diverter Stenting for Symptomatic Intracranial Internal Carotid Artery Aneurysms: Clinical Outcomes and Factors for Symptom Improvement. 「Neurol Med Chir (Tokyo)」63(8):343-349、2023 年 8 月

Mizushima M, Okamoto M, Yamaguchi S, Oki S, Motegi H, Sugiyama M, Manabe A, Shimizu A, Nishioka K, Hashimoto T, Hirato J, Kanemura Y, Fujimura M: Slow-growing WNT medulloblastoma with atypical magnetic resonance imaging findings: illustrative case. 「J Neurosurg Case Lessons」6(7): CASE23277、2023 年 8 月

Fukuoka K, Kurihara J, Shofuda T, Kagawa N, Yamasaki K, Ando R, Ishida J, Kanamori M, Kawamura A, Park YS, Kiyotani C, Akai T, Keino D, Miyairi Y, Sasaki A, Hirato J, Inoue T, Nakazawa A, Koh K, Nishikawa R, Date I, Nagane M, Ichimura K, Kanemura Y: Subtyping of Group 3/4 medulloblastoma as a potential prognostic biomarker among patients treated with reduced dose of craniospinal irradiation: a Japanese Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group study. 「Acta Neuropathol Commun」11(1):153、2023 年 9 月

Kidani T, Ozaki T, Nakajima S, Kanemura Y, Izutsu N, Kawamoto S, Taki K, Murakami K, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T: Predictors of Middle Meningeal Artery-Related Vascular Diseases Associated with Blunt Head Trauma. 「World Neurosurg」180:e667-e675、2023 年 12 月

Sanada T, Kinoshita M, Sasaki T, Yamamoto S, Fujikawa S, Fukuyama S, Hayashi N, Fukai J, Okita Y, Nonaka M, Uda T, Arita H, Mori K, Ishibashi K, Takano K, Nishida N, Shofuda T, Yoshioka E, Kanematsu D, Tanino M, Kodama Y, Mano M, Kanemura Y: Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image.「Neurooncol Adv」6:vdae016、2024 年 2 月

Fujimi Y, Ozaki T, Izutsu N, Nakajima S, Kanemura Y, Kidani T, Kawamoto S, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujinaka T: Fungal symptomatic intracranial aneurysm treated with a flow diverting stent: A case report. 「Surg Neurol Int」15:58、2024 年 2 月

A-2
福角勇人、金村米博:神経幹細胞の培養と分化「細胞培養・組織培養の技術　第4版」日本組織培養学会 編、P.249-253、株式会社朝倉書店、東京、2023年7月1日

A-3
園田順彦、松田憲一朗、伊藤美以子、齋藤竜太、金森政之、金村米博、冨永悌二：再発小児悪性脳腫瘍に対する手術療法「小児の脳神経」48(1):33-38、2023年4月12日

A-4
金村米博：Medulloblastoma「Clinical Neuroscience」41(4):518-522、2023年4月1日

金村米博：小児脳腫瘍の分類・診断「脳神経外科」51(5)778-788、2023年9月10日

金村米博：脳梗塞の再生医療「再生医療」22(3):150-155、2023年10月31日

B-3
荒川芳輝、山崎夏維、前林勝也、副島俊典、加藤実穂、瀧本哲也、市村幸一、金村米博、信澤純人、平戸純子、義岡孝子、山本哲哉、坂本博昭、原 純一、西川 亮、隈部俊宏：小児脳腫瘍に対する治療の進歩と今後。第126回日本小児科学会学術集会、東京都港区、2023年4月15日

川路博史、中戸川裕一、佐藤史崇、稲永親憲、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：Private hospitalでのWHO第5版に準じた脳腫瘍診断:中央分子診断システムを利用することによる効果の検証。第41回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023年5月26日

金村米博、黒瀬 顕：病理中央診断 vs. 施設診断。第41回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023年5月27日

金村米博：全医療職が参加する医療機器開発拠点（Bi-AMPS）の取り組み。第77回国立病院総合医学会、広島市、2023年10月20日

中戸川裕一、川路博史、林 宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：半球性のH3F3A遺伝子変異のglioma の臨床的特徴について。一般社団法人日本脳神経外科学会第82回学術総会、横浜市、2023年10月27日

B-4
荒川芳輝、川内 豪、牧野恭秀、吉岡絵麻、正札智子、佐野徳隆、丹治正大、

峰晴陽平、宮本 亨、金村米博：BRAF V600E 変異型神経膠腫の後方視的解析。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

中村和貴、菊地善彰、松田憲一朗、金村米博、園田順彦：高齢者膠芽腫の予後因子に関する検討。第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都千代田区、2023 年 5 月 26 日

真田隆広、木下 学、佐々木貴浩、林 宣秀、深井順也、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、有田英之、森 鑑二、石橋謙一、西田南海子、谷野美智枝、児玉良典、眞能正幸、金村米博：膠芽腫の造影 T1 強調画像による MGMT 遺伝子プロモーター領域のメチル化の予測。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

平井健太郎、萩岡起也、高野浩司、金村米博、有田英之：Gyriform Infiltration は IDH 野生型グリオーマの浸潤領域を示唆する。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

呉 浩一、川内 豪、牧野恭秀、勝間亜沙子、吉岡絵麻、正札智子、寺田行範、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、荒川芳輝、金村米博：BRAF V600E 変異型神経膠腫の後方視的解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、木嶋教行、沖田典子、森 鑑二、金村米博、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

大谷理浩、藤井謙太郎、石田穣治、佐々木達也、水田 亮、井上陽平、鷲尾佳奈、遠西大輔、柳井広之、松下博和、里見介史、金村米博、義岡孝子、平戸純子、市村幸一、伊達 勲：マルチモダリティを用いた WHO 新分類への対応と現状。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日

沖田典子、千田大樹、宇津木玲奈、村上皓紀、館 哲郎、黒田秀樹、平山龍一、木嶋教行、有田英之、有澤亜津子、木下 学、藤本康倫、香川尚己、金村米博、貴島晴彦：膠芽腫での MRI perfusion による MGMT プロモーターメチル化と予後予測について。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、

2023 年 10 月 26 日

中村和貴、松田憲一朗、大江倫太郎、二口 充、金村米博、園田順彦：脊髄神経膠腫の臨床像についての検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日～11 月 30 日（ポスターオンデマンド配信）

川路博史、中戸川裕一、仲村友博、佐藤史崇、荒川朋弥、林 正孝、山添知宏、稲永親憲、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：Private hospital での WHO 第 5 版に準じた Glioma 診断:中央分子診断システムを利用することの意義。一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会、横浜市、2023 年 10 月 25 日～11 月 30 日（ポスターオンデマンド配信）

呉 浩一、勝間亜沙子、牧野恭秀、山本悦子、吉岡絵麻、正札智子、寺田行範、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、市村幸一、平戸純子、佐々木惇、西川 亮、伊達 勲、永根基雄、荒川芳輝、金村米博：髄芽腫の分子診断：国内症例の特徴と WNT の診断方法。第 11 回 Neuro-Oncology WEST、大阪市淀川区、2023 年 11 月 11 日

深井順也、林 宣秀、中戸川裕一、川路博史、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、木嶋教行、沖田典子、森 鑑二、金村米博：ヒストン変異を有するグリオーマ症例の世代間比較。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

真田隆広、木下 学、佐々木貴浩、山本祥太、藤川征也、福山秀青、林 宣秀、深井順也、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、有田英之、森 鑑二、石橋謙一、高野浩司、西田南海子、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、谷野美智枝、児玉良典、眞能正幸、金村米博：膠芽腫の造影 T1 強調画像による MGMT 遺伝子プロモーター領域のメチル化の予測。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

有田英之、平井健太郎、萩岡起也、高野浩司、金村米博：MRI における皮質限局の脳回腫大所見は IDH 野生型グリオーマの浸潤領域を示唆する。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日
沖田典子、千田大樹、宇津木玲奈、川本有輝、中河寛治、村上皓紀、館 哲郎、黒田秀樹、平山龍一、木嶋数行、有田英之、有澤亜津子、木下 学、藤本康倫、香川尚己、金村米博、貴島晴彦：膠芽腫での MRl perfusion による MGMT プロモーターメチル化と予後予測について。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

林 宣秀、深井順也、中戸川裕一、川路博史、沖田典子、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、中尾直之、森 鑑二、金村米博：H3 K27M 変異視床グリオーマの臨床･画像学的特徴。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

中村和貴、松田憲一朗、大江倫太郎、二口 充、金村米博、園田順彦：脊髄神経膠腫の臨床像についての検討。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 3 日

西川真弘、井上明宏、大西丘倫、金村米博、尾崎沙耶、松本 調、末廣 諭、山下大介、重川誠二、渡邉英昭、國枝武治：膠芽腫再発の鍵となる腫瘍幹細胞における低酸素環境下の形質転換。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 4 日

中戸川裕一、川路博史、林 宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：半球性の H3F3A 遺伝子の変異をもつ non-midline glioma の臨床的特徴について。第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会、新潟県新発田市、2023 年 12 月 4 日

勝間亜沙子、山本篤世、兼松大介、隅田美穂、福角勇人、吉岡絵麻、正札智子、金村米博:バーチャルスライドシステムによる免疫染色画像の定量評価法の検討。第 23 回日本再生医療学会総会、新潟市、2024 年 3 月 21 日

兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、福角勇人、吉岡絵麻、山本篤世、半田有佳子、正札智子、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞の画像解析による細胞収量の非破壊予測方法の検討。第 23 回日本再生医療学会総会、新潟市、2024 年 3 月 21 日

B-8
金村米博：大阪医療センター臨床研究センター概要とユーザー評価事業紹介。『京 MED』交流会兼「医療のパズルを解く！医療機関との連携で創出する製品開発」セミナー、京都市、2023 年 8 月 25 日

分子医療研究室

室長　金村米博

【概要】

分子医療研究室では各種遺伝子検査を用いた悪性脳腫瘍、難治性脳形成障害症等の難治性神経疾患の分子診断技術の開発と、分子診断結果を用いた病態解析研究、および新規治療法開発を実施しています。

【主な研究テーマ】

１．悪性脳腫瘍の分子遺伝学的解析

悪性グリオーマを対象として、関西地域を中心とした 70 以上の医療機関で構成される「関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク」を主宰し、脳腫瘍検体レジストリーを行い、WHO 分類に基づく中央遺伝子診断の実施と、大規模症例を用いた悪性グリオーマの分子遺伝学的特性解析を実施しています。また、小児悪性脳腫瘍の中で最も頻度の高い腫瘍の一つである髄芽腫に関して、「日本小児がん研究グループ（JCCG)」に参加し、全国レベルで収集された髄芽腫標本の中央分子診断を実施しています。

２．難治性脳形成障害症の分子遺伝学的解析

L1CAM 変異で発症する X 連鎖性遺伝性水頭症を中心に、各種難治性脳形成障害症患者の臨床情報、画像情報、患者由来生体試料（組織・細胞・DNA）を収集し、次世代シークエンサーを駆使した遺伝子解析研究を実施すると同時に、患者由来試料から分離した線維芽細胞、神経幹細胞、間葉系細胞（臍帯由来)、血液細胞の特性解析を行い、並行してそれら細胞から疾患 iPS 細胞の樹立を実施し、その特性解析を実施しています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Fukusumi H,Togo K,Beck G,Shofuda T,Kanematsu D,Yamamoto A,Sumida M,Baba K,Mochizuki H,Kanemura Y:Human induced pluripotent stem cell line (ONHi001-A) generated from a patient with infantile neuroaxonal dystrophy having PLA2G6 c.517C > T (p.Q173X) and c.1634A > G (p.K545R) compound heterozygous mutations.「Stem Cell Res」69:103122、2023 年 6 月

Nishimoto K,Ozaki T,Kidani T,Nakajima S,Kanemura Y,Yamazaki H,Fujinaka T:Flow Diverter Stenting for Symptomatic Intracranial Internal Carotid Artery Aneurysms: Clinical Outcomes and Factors for Symptom Improvement.「Neurol Med Chir (Tokyo)」63(8):343-349、2023 年 8 月

Mizushima M,Okamoto M,Yamaguchi S,Oki S,Motegi H,Sugiyama M,Manabe

A,Shimizu A,Nishioka K,Hashimoto T,Hirato J,Kanemura Y,Fujimura M:Slow-growing WNT medulloblastoma with atypical magnetic resonance imaging findings: illustrative case.「J Neurosurg Case Lessons」6(7):CASE23277、2023 年 8 月

Fukuoka K, Kurihara J, Shofuda T, Kagawa N, Yamasaki K, Ando R, Ishida J, Kanamori M, Kawamura A, Park YS, Kiyotani C, Akai T, Keino D, Miyairi Y, Sasaki A, Hirato J, Inoue T, Nakazawa A, Koh K, Nishikawa R, Date I, Nagane M, Ichimura K, Kanemura Y:Subtyping of Group 3/4 medulloblastoma as a potential prognostic biomarker among patients treated with reduced dose of craniospinal irradiation: a Japanese Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group study.「Acta Neuropathol Commun」11(1):153、2023 年 9 月

Kidani T, Ozaki T, Nakajima S, Kanemura Y, Izutsu N, Kawamoto S, Taki K, Murakami K, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T:Predictors of Middle Meningeal Artery-Related Vascular Diseases Associated with Blunt Head Trauma.「World Neurosurg」180:e667-e675、2023 年 12 月

Sanada T,Kinoshita M,Sasaki T,Yamamoto S,Fujikawa S,Fukuyama S,Hayashi N,Fukai J,Okita Y,Nonaka M,Uda T,Arita H,Mori K,Ishibashi K,Takano K,Nishida N,Shofuda T,Yoshioka E,Kanematsu D,Tanino M,Kodama Y,Mano M,Kanemura Y:Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image.「Neurooncol Adv」6:vdae016、2024 年 2 月

Fujimi Y,Ozaki T,Izutsu N,Nakajima S,Kanemura Y,Kidani T,Kawamoto S,Nishizawa N,Kobayashi K,Fujinaka T:Fungal symptomatic intracranial aneurysm treated with a flow diverting stent: A case report.「Surg Neurol Int」15:58、2024 年 2 月

A-2
福角勇人、金村米博：神経幹細胞の培養と分化「細胞培養・組織培養の技術　第 4 版」日本組織培養学会 編、P.249-253、株式会社朝倉書店、東京、2023 年 7 月 1 日

A-3
園田順彦、松田憲一朗、伊藤美以子、齋藤竜太、金森政之、金村米博、冨永悌二：再発小児悪性脳腫瘍に対する手術療法「小児の脳神経」48(1):33-38、2023 年 4 月 12 日

A-4
金村米博：Medulloblastoma「Clinical Neuroscience」41(4):518-522、2023 年 4 月 1 日

金村米博：小児脳腫瘍の分類・診断「脳神経外科」51(5)778-788、2023 年 9 月 10 日

金村米博：脳梗塞の再生医療「再生医療」22(3):150-155、2023 年 10 月 31 日

B-3
金村米博：脳腫瘍の分子遺伝学：分子診断の現状と今後の課題。第 111 回日本病理学会総会、神戸市、2022 年 4 月 15 日

金村米博、正札智子、吉岡絵麻、市村幸一、中野嘉子、平戸純子、佐々木惇、義岡孝子、山崎夏維、原 純一、隈部俊宏、伊達 勲、永根基雄、西川 亮：脳腫瘍の中央分子診断体制の構築。第 40 回日本脳腫瘍病理学会、埼玉県川越市、2022 年 5 月 27 日

園田順彦、松田憲一朗、金村米博、菊地善彰：TERT プロモーター変異のある膠芽腫は FLAIRectomy の適応である。第 22 回日本分子脳神経外科学会、金沢市、2022 年 7 月 22 日

真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原 徹、佐藤広崇、斉藤仁十、三井宣幸、広島覚、安栄良悟、金村米博、谷野美智枝、中西克之、貴島晴彦、木下 学：T1 強調画像 /T2 強調画像比（rT1/T2）による神経膠腫の IDH 遺伝子変異予測。第 22 回日本分子脳神経外科学会、金沢市、2022 年 7 月 22 日

木嶋教行、中川智義、長谷川加奈、黒田秀樹、館 哲郎、平山龍一、沖田典子、香川尚己、金村米博、保仙直毅、貴島晴彦：患者由来初代培養株を用いた膠芽腫の新規免疫治療の開発。第 22 回日本分子脳神経外科学会、金沢市、2022 年 7 月 22 日

岡田正康、金子奈穂子、玉田篤史、棗田 学、大石 誠、河﨑洋志、金村米博、澤本和延、藤井幸彦、五十嵐道弘：リン酸化プロテオミクスを駆使したヒト神経成長マーカーの検討。第 22 回日本分子脳神経外科学会、金沢市、2022 年 7 月 23 日

尾崎友彦、木谷知樹、中島 伸、金村米博、井筒伸之、川本早希、瀧 毅伊、西澤尚起、村上慶次朗、小林弘治、藤見洋佑、藤中俊之：細径母血管をもつ未破裂脳動脈瘤に対するステントアシストコイル塞栓術の治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 28 日

金村米博、市村幸一、中野嘉子、平戸純子、佐々木 惇、義岡孝子、山崎夏維、原純一、隈部俊宏、伊達 勲、永根基雄、西川 亮：小児脳腫瘍の中央分子診断の現状と展望。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 30 日

館 哲郎、木嶋教行、中川智義、黒田秀樹、平山龍一、沖田典子、香川尚己、金村米博、保仙直毅、貴島晴彦：膠芽腫に対する患者由来腫瘍細胞を用いた CAR-T 療法の開発。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 30 日

山崎夏維、前林勝也、副島俊典、加藤実穂、瀧本哲也、市村幸一、金村米博、信澤純人、平戸純子、義岡孝子、荒川芳輝、山本哲哉、坂本博昭、隈部俊宏、西川 亮、原 純一：JCCG 中央診断に基づいた小児脳腫瘍の前向き臨床研究。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 30 日

金村米博：小児脳腫瘍における基礎・トランスレーショナル研究の現状と展望。第 64 回日本小児血液・がん学会学術集会、オンラインライブ配信、2022 年 11 月 27 日

福岡講平、栗原 淳、正札智子、佐々木惇、西川 亮、伊達 勲、永根基雄、康 勝好、市村幸一、金村米博：低線量全脳脊髄照射での治療歴のある髄芽腫における予後分子マーカーの探索。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 4 日

川内 豪、荒川芳輝、勝間亜沙子、吉岡絵麻、正札智子、兼松大介、竹内康英、牧野恭秀、丹治正大、峰晴陽平、宮本 享、金村米博：WHO2021 中枢神経系腫瘍分類に則った当院における膠芽腫の分子遺伝子学的特徴。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 5 日

森 鑑二、吉岡絵麻、正札智子、兼松大介、隅田美穂、勝間亜沙子、眞能正幸、児玉良典、金村米博：グリオーマ分子診断の可能性と課題。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 5 日

林 宣秀、深井順也、中戸川裕一、川路博史、沖田典子、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、中尾直之、森 鑑二、金村米博：正中部とその近傍における H3 K27M 変異グリオーマの臨床学的特徴。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 5 日

中戸川裕一、川路博史、林 宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：H3F3A 遺伝子の変異をもつ non-midlineglioma の臨床的特徴について。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 5 日

B-4
里見介史、藤本健二、有田英之、山崎夏維、松下裕子、中村大志、宮北康二、梅原 徹、小林啓一、田村 郁、田中將太、樋口芙未、沖田典子、金村米博、深井順也、阪本大輔、宇田武弘、前原健寿、永根基雄、西川 亮、鈴木博義、澁谷 誠、小森隆司、成田善孝、市村幸一：IDH 野生型びまん性星細胞腫は存在するか？。第 111 回日本病理学会総会、神戸市、2022 年 4 月 15 日
金村米博：小児脳腫瘍の分子分類。第 42 回日本脳神経外科コングレス総会、大阪市、2022 年 5 月 13 日

福岡講平、中澤温子、市村香代子、金村米博、市村幸一、平戸純子、義岡孝子、

大宅宗一、栗原 淳、康 勝好：特徴的な分子遺伝学的異常を認めた Large cell/Anaplastic Medulloblastoma の２症例。第 40 回日本脳腫瘍病理学会、埼玉県川越市、2022 年 5 月 28 日

石毛良実、水戸部祐太、松田憲一朗、浦野由佳、大江倫太郎、二口 充、鈴木修平、吉岡孝志、金村米博、園田順彦：ミスマッチ修復遺伝子異常により発生した膠芽腫に対しペムブロリズマブの投与を行い奏功が得られた一例。第 40 回日本脳腫瘍病理学会、埼玉県川越市、2022 年 5 月 28 日

深井順也、三笠友理奈、岩元竜太、中井康雄、佐々木貴浩、横矢美穂、金村米博、村田晋一、中尾直之：てんかん発症した小児側頭葉腫瘍の一例。第 40 回日本脳腫瘍病理学会、埼玉県川越市、2022 年 5 月 28 日

岡田正康、河嵜麻実、金子奈穂子、野住素広、山崎博幸、福角勇人、金村米博、澤本和延、藤井幸彦、五十嵐道弘：齧歯類とヒトの成長軸索における複数の JNK 依存的 GAP-43 リン酸化サイトの同定。NEURO2022、沖縄県宜野湾市、2022 年 7 月 1 日

館 哲郎、木嶋教行、阿知波孝宗、中川智義、黒田秀樹、香川尚己、沖田典子、平山龍一、金村米博、貴島晴彦：グリオブラストーマの浸潤における ALCAM の機能的役割についての検討。第 22 回日本分子脳神経外科学会、金沢市、2022 年 7 月 22 日

岡田正康、金子奈穂子、金村米博、澤本和延、藤井幸彦、五十嵐道弘：JNK 制御リン酸化 GAP-43 はヒトの神経成長を同定できる。第 47 回日本医用マススペクトル学会年会、オンライン、2022 年 9 月 10 日

西澤尚起、尾崎友彦、井筒伸之、木谷知樹、中島 伸、金村米博、川本早希、瀧 毅伊、村上慶次朗、小林弘治、藤見洋佑、藤中俊之：くも膜下出血後水頭症に対するシャント手術におけるシャント閉塞の危険因子の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、Web 配信、2022 年 9 月 28 日～11 月 30 日

山本祥太、真田隆広、酒井美緒、有澤亜津子、下瀬川恵久、中西克之、金村米博、香川尚己、貴島晴彦、木下 学：T1/T2ratio を用いた膠芽腫における T2high 非造影病変の推定。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、Web 配信、2022 年 9 月 28 日～11 月 30 日

村上慶次朗、木谷知樹、尾崎友彦、井筒伸之、中島 伸、金村米博、瀧 毅伊、川本早希、西澤尚起、小林弘治、藤見洋佑、藤中俊之：脳膿瘍の手術術式と再発・転帰に関する検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、Web 配信、2022 年 9 月 28 日～11 月 30 日

松田憲一朗、大江倫太郎、二口 充、鹿戸将史、金村米博、園田順彦：膠芽腫にお

ける FLAIR 高信号域の変化と予後の関連。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、Web 配信、2022 年 9 月 28 日～11 月 30 日

武内勇人、高橋義信、谷川成佑、岡本貴成、金村米博、橋本直哉：初回病理所見では診断が確定できなかった molecularGBM の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、Web 配信、2022 年 9 月 28 日～11 月 30 日

川内 豪、荒川芳輝、竹内康英、正札智子、吉岡絵麻、牧野恭秀、丹治正大、峰晴陽平、金村米博、宮本 享：BRAFV600E 変異を有する神経膠腫の臨床・組織像の解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、Web 配信、2022 年 9 月 28 日～11 月 30 日

中川智義、香川尚己、平山龍一、黒田秀樹、館 哲郎、木嶋教行、沖田典子、金村米博、市村幸一、貴島晴彦：当院における小児期悪性神経膠腫の病理診断と発生母地、予後に関する検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 28 日

五十嵐晃平、水戸部祐太、松田憲一朗、金村米博、園田順彦：膠芽腫患者の日常生活能力に関与する因子についての解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 28 日

林 宣秀、深井順也、中戸川裕一、川路博史、沖田典子、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、中尾直之、森 鑑二、金村米博：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークにおける Diffusemidlineglioma の臨床学的特徴。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 28 日

中戸川裕一、川路博史、林宣秀、深井順也、木嶋教行、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、稲永親憲、森 鑑二、金村米博：H3F3A 遺伝子の変異をもつ non-midlineglioma の臨床的特徴について。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 28 日

真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原 徹、佐藤広崇、齊藤仁十、三井宣幸、広島覚、安栄良悟、金村米博、谷野美智枝、中西克之、貴島晴彦、木下 学：T1 強調画像/T2 強調画像比（rT1/T2）による神経膠腫の IDH 遺伝子変異予測。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 29 日

木谷知樹、小林弘治、藤見洋佑、西澤尚起、村上慶次朗、瀧 毅伊、川本早希、井筒伸之、尾崎友彦、金村米博、中島 伸、藤中俊之：外傷性中硬膜動脈損傷のリスクファクターと経過に関する検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 30 日

川野晴香、羽柴哲夫、内藤信晶、李 強、宮田真友子、小森裕美子、李 一、亀井

孝昌、武田純一、吉村晋一、天神博志、金村米博、埜中正博、淺井昭雄：膠芽腫における重複癌の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 30 日

瀧 毅伊、尾崎友彦、小林弘治、藤見洋佑、西澤尚起、村上慶次朗、井筒伸之、木谷知樹、金村米博、中島 伸、藤中俊之：未破裂脳動脈瘤に対する血管内治療による造影剤脳症のリスク因子および予防策についての検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜市、2022 年 9 月 30 日

Fukuoka K, Kurihara J, Shofuda T, Sasaki A, Nishikawa R, Date I, Nagane M, Koh K, Ichimura K, Kanemura Y: 低線量全脳脊髄照射にて治療を行った高リスク Group3/4 髄芽腫における予後バイオマーカーの探索。第 64 回日本小児血液・がん学会学術集会、東京都港区、2022 年 11 月 27 日

Irikura T, Fukuoka K, Kanemura Y, Hirato J, Yoshioka T, Tanami Y, Kurihara J, Oysa S, Nakazawa A, Koh K: 腫瘍内に不均一な MYC 増幅が認められ、不良な転帰をたどった Group3 髄芽腫の 1 例。第 64 回日本小児血液・がん学会学術集会、東京都港区、2022 年 11 月 27 日

瀧 毅伊、尾崎友彦、小林弘治、藤見洋佑、西澤尚起、村上慶次朗、川本早希、井筒伸之、木谷知樹、金村米博、中島 伸、藤中俊之：未破裂脳動脈瘤に対する血管内治療後の造影剤脳症発生リスク因子についての検討。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会、大阪市北区、2022 年 11 月 10 日

木谷知樹、藤見洋佑、小林弘治、村上慶次朗、西澤尚起、瀧 毅伊、川本早希、井筒伸之、尾崎友彦、金村米博、中島 伸、藤中俊之：ONYX を用いた外傷性中硬膜動脈偽性動脈瘤に対する塞栓術の有用性。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会、大阪市北区、2022 年 11 月 10～12 日

井筒伸之、西澤尚起、中島 伸、金村米博、尾崎友彦、木谷知樹、川本早希、瀧 毅伊、村上慶次朗、小林弘治、藤見洋佑、藤中俊之：下位脳神経麻痺をきたした頸部内頸動脈解離性動脈瘤に対するフローダイバーター留置により症状が改善した 1 例。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会、大阪市北区、2022 年 11 月 10～12 日

村上慶次朗、尾崎友彦、中島 伸、金村米博、木谷知樹、川本早希、瀧 毅伊、西澤尚起、小林弘治、藤見洋佑、井筒伸之、藤中俊之：内頸動脈終末部大型動脈瘤に対し同側前大脳動脈起始部閉塞を併用したフローダイバーターステント留置術を行った 1 例。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会、大阪市北区、2022 年 11 月 10～12 日

藤見洋佑、尾崎友彦、中島 伸、金村米博、木谷知樹、井筒伸之、川本早希、瀧 毅伊、西澤尚起、村上慶次朗、小林弘治、藤中俊之：フローダイバーターステント

を用いて治療した真菌性症候性脳動脈瘤の一例。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会、大阪市北区、2022 年 11 月 10～12 日

小林弘治、尾崎友彦、中島 伸、金村米博、木谷知樹、井筒伸之、川本早希、瀧 毅伊、西澤尚起、村上慶次朗、藤見洋佑、藤中俊之：フローダイバーターステント治療不応の内頸動脈瘤に対して後交通動脈経由のコイル塞栓術による追加治療を試みた 2 例の検討。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会、大阪市北区、2022 年 11 月 10～12 日

館 哲郎、木嶋教行、宇津木玲奈、黒田秀樹、平山龍一、沖田典子、香川尚己、金村米博、貴島晴彦：グリオブラストーマの浸潤における ALCAM の機能的役割についての検討。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 4 日

真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原 徹、佐藤広崇、斉藤仁十、三井宣幸、広島覚、安栄良悟、金村米博、谷野美智枝、中西克之、貴島晴彦、木下 学：Tl 強調画像/T2 強調画像比(rTl/T2)による神経膠腫の IDH 遺伝子変異予測。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 4 日

松田憲一朗、大江倫太郎、二口 充、鹿戸将史、金村米博、園田順彦：膠芽腫における FLAIR 高信号域の変化と予後の関連。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 4 日

武内勇人、高橋義信、谷川成佑、岡本貴成、金村米博、橋本直哉：分子遺伝学的所見が組織学的な腫瘍性変化に先行して膠芽腫の特徴を呈した病態の解析。第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会、鴨川市、2022 年 12 月 5 日

勝間亜沙子、兼松大介、正札智子、稲垣直之、金村米博 : Elucidation of the invasion mechanism of human-derived glioma cells via L1CAM.。日本生理学会第 100 回記念大会、京都市、2023 年 3 月 16 日

B-8
金村米博：遺伝子診断。小児神経外科教育セミナー2022、Web 開催（オンデマンド配信）、2022 年 6 月 9 日～7 月 3 日

金村米博：WHO2021 脳腫瘍分類の概要と分子診断実施におけるポイント。第 36 回多摩脳腫瘍研究会、オンライン、2022 年 10 月 29 日

エイズ先端医療開発室

室長　渡邊 大

当研究室は、HIV 診療のさまざまな問題に対して研究を行っております。この 10 年で HIV 感染の発生率は低下しましたが、CD4 数が低い状態で診断される患者も少なくはありません（J Epidemiol. 2023）。治療に関しては多くの症例でウイルス抑制が得られるようになりました（Jpn J Infect Dis. 2017）。しかし、潜伏感染細胞を駆逐できず、一生の内服加療を強いられます。我々は潜伏感染細胞数に相当する残存プロウイルス量の測定を行い、早期に治療を開始した症例では残存プロウイルス量が低く抑えられていることを明らかにしました（BMC Infect Dis. 2011）。しかし、国内では早期に抗 HIV 療法を開始することは困難（J Infect Chemother. 2023）で、たとえ抗 HIV 療法を行っても免疫系は完全に回復しません。ウイルス抑制が得られた症例で血中インターフェロンγが持続的に高値を示す症例（Viral Immunol. 2010）が存在し、それらの症例では CD4 数の回復が不十分でした（BMC Infect Dis. 2019）。抗 HIV 薬の副作用の課題も残されています。ドルテグラビルの神経精神系有害事象は血中濃度や UGT1A1 遺伝子多型と関連すること（BMC Infect Dis. 2017）をはじめ、様々な報告（J Infect Chemother. 2012, J Infect Chemother. 2014, J Infect Chemother. 2018）を行いました。

薬剤耐性や薬物動体も HIV 感染者の治療では重要になってきます。当研究室ではこれらに関する研究も行っております（Antiviral Res. 2010, J Infect Chemother. 2015, Inter Med. 2016, J Infect Chemother. 2023, J Antimicrob Chemother. 2023, J Int AIDS Soc. 2023）。また、急性 HIV 感染症（AIDS Res Ther. 2015）、ヒトヘルペスウイルス 8 型感染症（Inter Med. 2014, J Infect Chemother. 2017, J Med Vorl. 2023）、水痘・帯状疱疹ウイルス感染症（J Med Virol. 2013）A 型急性肝炎（Hepatol Res. 2019）、悪性リンパ腫（J Clin Immunol. 2018）、市中感染型 MRSA 感染（J Infect Chemother. 2020）、脳構造への影響（J Neurovirol. 2020, J Neurovirol. 2022）などの研究にも取り組んでいます。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Kushida H, Watanabe D, Yagura H, Nakauchi T, Hirota K, Ueji T, Nishida Y, Uehira T, Yoshino M, Shirasaka T : Evaluation of plasma doravirine concentrations in patients with HIV-1 undergoing Hemodialysis.「J Infect Chemother」29(5):558-561、2023 May; Epub 2023 Feb 9.

Kagiura F, Matsuyama R, Watanabe D, Tsuchihashi Y, Kanou K, Takahashi T, Matsui Y, Kakehashi M, Sunagawa T, Shirasaka T : Trends in CD4+ Cell Counts, Viral Load, Treatment, Testing History, and Sociodemographic Characteristics of Newly Diagnosed HIV Patients in Osaka, Japan, From 2003 through 2017: A Descriptive Study.「J Epidemiol」33(5):256-261. 2023 May 5. Epub 2022 Feb 11.

Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, Minami R, Nishizawa M, Teshima T, Yoshida S, Ito T, Hayashida T, Koga M, Nagashima M, Sadamasu K, Kondo M, Kato S, Uno S, Taniguchi T, Igari H, Samukawa S, Nakajima H, Yoshino Y, Horiba M, Moro H, Watanabe T, Imahashi M, Yokomaku Y, Mori H, Fujii T, Takada K, Nakamura A, Nakamura H, Tateyama M, Matsushita S, Yoshimura K, Sugiura W, Matano T, Kikuchi T; Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network : Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network.「J Int AIDS Soc」26(5): e26086、2023 年 5 月

Yotsumoto M, Kinai E, Watanabe H, Watanabe D, Shirasaka T：Latency to initiation of antiretroviral therapy in people living with HIV in Japan.「J Infect Chemother」2023 Oct. 29(10): 997-1000. Epub 2023 Jun 22.

Watanabe D, Iida S, Hirota K, Ueji T, Matsumura T, Nishida Y, Uehira T, Katano H, Shirasaka T : Evaluation of human herpesvirus-8 viremia and antibody positivity in patients with HIV infection with human herpesvirus-8-related diseases.「J Med Virol」95(12): e29324. 2023 Dec.

Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, Imahashi M, Minami R, Koga M, Samukawa S, Watanabe D, Fujii T, Tateyama M, Nakamura H, Matsushita S, Yoshino Y, Endo T, Horiba M, Taniguchi T, Moro H, Igari H, Yoshida S, Teshima T, Nakajima H, Nishizawa M, Yokomaku Y, Iwatani Y, Hachiya A, Kato S, Hasegawa N, Yoshimura K, Sugiura W, Kikuchi T : Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study.「J Antimicrob Chemother」78(12)：2859-2868、2023 年 12 月 1 日

A-1
四本美保子、渡邊 大：抗 HIV 治療ガイドライン 2024 年 3 月、令和 5 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究」、2024 年 3 月 31 日

HIV 感染者のためのワクチンガイドライン ver.1、一般社団法人日本エイズ学会ワクチン接種勧奨のためのガイドライン作成委員会、2023 年 7 月

A-4
渡邊 大：日本における HIV 診療の現状と課題「保健医療科学」72(2)：P.90-97、国立保健医療科学院、2023 年 5 月

潟永博之、安達英輔、遠藤知之、渡邊 大：座談会 “Long-acting の注射薬の現状「HIV 感染症と AIDS の治療」14(1)：P.4-10、メディカルレビュー社、2023 年 11 月

A-5
渡邊 大：近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和 5 年度研究報告書、P.2-9、2024 年 3 月 31 日

B-2
Minami R, Watanabe D, Teruya K, Yokomaku Y, Endo T, Watanabe Y, A Marongiu, Tanikawa T, M Heinzkill, Shirasaka T, Oka S: Evaluation of efficacy, safety and tolerability of victegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in clinical practice: results of the second 12-month analysis of BICSTaR Japan. Asia Pacific AIDS and Co-Infections Conference (APACC) 2023. Sngapore, 2023 年 6 月 8 日

Tadashi Kikuchi, Mayumi Imahashi, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Lucky Ronald Runtuwene, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, on behalf of the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network: Trends in prevalence of pretreatment drug-resistance in Japan: a comparison between the pre- and post- second-generation INSTI era.　INTERNATIONAL WORKSHOP ON HIV DRUG RESISTANCE AND TREATMENT STRATEGIES. Cape Town, 2023 年 9 月 20 日

Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Brend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Dai Watanabe, Pro-Liang Lu, Alper Gündüz, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, Richard Haubrich, Stefan Scholten. Real-World Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. IDWeek 2023, Boston, 2023 年 10 月 13 日

Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Berend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Dai Watanabe, Po-Liang Lu, Alper Gündüz, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, MengJu Tsai, Richard Haubrich, Stefan Scholten: Real-World Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. Taiwan AIDS Society Annual Meeting, Taipei, 2024 年 2 月 24 日

B-3
渡邊 大：帯状疱疹ワクチン。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

渡邊 大：抗 HIV 作用注射剤と 2 剤療法の現状と課題。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 5 日

渡邊 大：3 剤療法の歴史と 2 剤療法の未来。第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会、横浜、2023 年 4 月 29 日

B-4
古賀道子、福田あかり、石坂 彩、田中貴大、保坂 隆、伊藤俊広、江口 晋、遠藤知之、柿沼章子、木内 英、後藤智巳、高橋俊二、武田飛呂城、照屋勝治、花井十五、藤井輝久、藤谷順子、三田英治、南 留美、茂呂 寛、横幕能行、渡邊 大、渡邊珠代、四柳 宏：非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者に合併する腫瘍に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

安達英輔、横幕能行、渡邊 大、潟永博之、岡 慎一、白阪琢磨、若田部るみ、Nadine Chamay、Kenneth Sutton、Denise Sutherland-Phillips、Rimagaile Urbaityte、Ronal D'Amico、Jean van Wyk：SOLAR 試験 12 か月の日本人参加者の結果：持効性カポテグラビル+リルピビリン(CAB+RPV LA)の BIC/TAF 経口療法に対する無作為化切り替え試験。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カポテグラビル・リルピビリンの特効性 注射製剤の血中濃度に関する検討 第 1 報。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、潟永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岡﨑玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、 南 留美、松下修三、饒平名聖、 仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦 亙：2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤訂正 HIV-1 の動向。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

渡邊 大、Vasiliki Chounta、Cristina Mussini、Charles Cazanave、安達英輔、Beng Eu、Marta Montero Alonso、 Gordon Crofoot、Kenneth Sutton、Denise Sutherland-Phillips、Rimgaile Urbaityte、Alice Ehmann、Patricia de los Rios、Ronald D'Amico、William R. Spreen：持効性カボテグラビル+リルピビリンの bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide に対する Patient-reported outcomes：SOLAR 後期第 III 相臨床試験 12 カ月の結果。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 3 日

神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、冨田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊 大：HIV 陽性者の受診行動とその心理的背景に関する研究。第 37 回日本エイズ学会学術集会･総会、京都、2023 年 12 月 4 日

阪野文哉、川畑拓也、浜みなみ、渡邊 大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野 淳、森 治代、本村和嗣：クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン(2022 年度実績報告)。第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023 年 12 月 4 日

照屋勝治、横幕能行、渡邊 大、遠藤知之、南 留美、田口 直、Rebecca Harrison、Andrea Marongiu、白阪琢磨、岡 慎一：ビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド（B/F/TAF）の日本人 HIV 陽性者（PWH）に対する有効性と安全性：BICSTaR Japan 24 ヵ月解析結果。第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023 年 12 月 5 日

中野理美、木原実香、田井 静、若崎真衣子、那須 紬、松村拓朗、渡邊 大、河合健、眞能正幸：Microbacterium oxydans によるカテーテル関連血流感染(CRBSI)の一症例。第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会、横浜、2024 年 2 月 9 日

B-6

渡邊 大、西田恭治、矢田弘史、矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染者における rotational thromboelastometry を用いた凝固機能検査に関する検討。第 36 回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの特効性注射製剤の投与初期における血中濃度に関する調査。第 36 回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、渡邊 大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野 淳、森 治代、本村和嗣：クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン・2022 年度実績報告。第 36 回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

古賀道子、堤 武也、石坂 彩、水谷壮利、遠藤知之、田中聡司、渡邊 大、由雄祥代、三田英治、考藤達哉、藤谷順子、四柳 宏：HIV/HCV 共感染血友病患者の血中ケモカインの検討。第 31 回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会、横浜、2023 年 9 月 14 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：ABCG２の遺伝子多型がビクテグラビル投与症例の自覚症状およびトラフ濃度に及ぼす影響。第 31 回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会、横浜、2023 年 9 月 15 日

B-7

渡邊 大：エビデンスをどう活かす？HIV感染症治療最前線。HIVインターネット

講演会、WEB開催、2023年5月22日
渡邊 大：最新の臨床試験と実臨床のART。HIV感染症 UP to Date、WEB開催、2023年6月19日

渡邊 大：多剤耐性例に対する新たなる治療選択肢～国内におけるシュレンカ®の対象患者。Gilead Infectious Disease Symposium 2023～HIV治療、新時代の幕開け～、東京、2023年9月23日

渡邊 大：ドウベイト配合錠の位置づけ。E^2 HIV Expert Forum、大阪、2023年11月8日

渡邊 大：耐性バリアを考慮した治療選択～新規カプシド阻害剤シュンレンカも含めて。HIVセミナー in 京都滋賀、WEB開催、2023年12月21日

渡邊 大：長期治療成功を見据えた治療戦略とは～耐性獲得リスク・アドヒアランスを考える～。HIV/AIDS診療マネジメントセミナー、WEB開催、2024年3月21日

B-8
渡邊 大：HIV 診療の最新トピックス。大阪府医師会令和 5 年度 HIV 医療講習会、大阪、2023 年 11 月 1 日

渡邊 大：併用療法は 2 剤、3 剤、4 剤？。第 21 回 HIV/AIDS 診療スキルアップセミナー～若手医師のための症例検討会、大阪、2024 年 3 月 9 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識：HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2023 年 9 月 4 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 2 日

渡邊 大、矢倉裕輝：抗 HIV 療法の実際。令和 5 年度 HIV 感染症研修会/ HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 2 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2023 年 10 月 5 日

渡邊 大：HIV 急性感染。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 11 日

渡邊 大：新規抗 HIV 薬。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2023 年 10 月 12 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識：HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2023 年

度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2023 年 11 月 6 日

渡邊 大：HIV/AIDS 医療の現状と当院の役割。大阪医療センター令和 5 年度新採用職員研修計画、大阪、2023 年 4 月 5 日

渡邊 大：HIV 感染症とは。大阪医療センター令和 5 年度新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2023 年 4 月 12 日

渡邊 大：病理学各論IV HIV 感染症。大阪医療センター看護学校講義、2023 年 6 月 15 日

渡邊 大：病理学各論IV　7.自己免疫疾患 1) SLE 2) シェーグレン症候群 3) 膠原病 4) 敗血症。大阪医療センター看護学校講義、2023 年 9 月 26 日

HIV 感染制御研究室

室長　矢倉　裕輝

当研究室では、HIV 感染症に対する臨床における薬物治療の諸問題に対する研究を行っております。近年では、殆どの症例で持続的なウイルス抑制が得られるようになりましたが、現在の HIV 感染症治療薬では潜伏感染細胞を駆逐できないが故に、ほぼ一生涯の薬物治療が必要です。また、HIV 感染症治療薬は国内第III相臨床試験を実施することなく申請、承認されるため、承認時点で日本人の有効性、安全性および薬物動態に関わる情報が不足しています。更に、治療薬のその殆どが錠剤であり、粉砕、簡易懸濁等、剤型変更を行った上で投与した際の主薬の安定性をはじめとする製剤学的な情報等も不足しております。

そのため、薬物治療が有効かつ安全に実施できるよう、Pharmacokinetics(PK)、Pharmacodynamics(PD)、Pharmacogenomics（PGx）および製剤学観点から評価することが重要となります。具体的には、高速液体クロマトグラフィー（High Performance Liquid Chromatography ; HPLC）等を用いて薬物濃度の測定法の開発を行い、実臨床における日本人の薬物動態や製剤学的安定性のデータを収集し、解析を行っています。更に、HIV 感染症治療薬の薬物動態や副作用、投与による臨床検査値の変化を規定する薬物代謝酵素および薬物トランスポーターの遺伝子多型の探索を行い、それらの保有が及ぼす影響についても検討を行っています。

これまでに、HIV インテグラーゼ阻害剤であるラルテグラビルおよびドルテグラビルの代謝に関与する UGT1A1 の遺伝子多型と薬物動態および精神神経系有害事象の関連（ J Infect Chemother. 2015, BMC Infect Dis. 2017）、非核酸系逆転写酵素阻害剤であるドラビリンの透析による薬物動態への影響（J Infect Chemother. 2023）、核酸系逆転写酵素阻害剤であるテノホビルジソプロキシルフマル酸塩の熱安定性（Jpn J Pharm Health Care Sci. 2014）、抗 HIV 薬の懸濁時における主薬の安定性に関する検討（医療薬学. 2012）等について報告し、現在は厚生労働省エイズ対策政策研究事業を中心に、多施設共同研究も行っています。

現在も HIV 感染症治療薬は完成の域に達していないため、長期にわたる薬物治療の成功を見据えた、PK/PD/PGx による治療レジメンの個別化の実現をメインテーマとして研究を行っています。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Kushida H, Watanabe D, Yagura H, Nakauchi T, Hirota K, Ueji T, Nishida Y, Uehira T, Yoshino M, Shirasaka T : Evaluation of plasma doravirine concentrations in patients with HIV-1 undergoing hemodialysis.「J Infect Chemother」29(5) : P558-561、2023 年 5 月 1 日

A-4

矢倉裕輝 : 薬物代謝からみた抗 HIV 薬の特徴「HIV 感染症と AIDS の治療」14(1):

P.88-93、メディカルレビュー社、2023 年 11 月 30 日

矢倉裕輝：Evidence Update 2024 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する「抗ウイルス薬」P.118-122、南山堂、2024 年 1 月 1 日

A-5
矢倉裕輝：適正な抗 HIV 療法の実施と HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成等を通じた人材育成に関する研究－　厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和 5 年度研究報告書、P.2-8、2024 年 3 月 31 日

B-3
矢倉裕輝：HIV 感染症に対する持効性注射薬の展望と課題―薬剤師の立場から―。第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会 第 71 回日本化学療法学会学術集会合同学会、横浜、2023 年 4 月 29 日

矢倉裕輝：HIV 感染症 UpToDate～最新の TOPICS～。第 6 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum、WEB、2023 年 7 月 15 日

B-4
矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊大：ABCG2 の遺伝子多型がビクテグラビル投与症例の自覚症状および血漿中薬物濃度に及ぼす影響。第 31 回日本抗ウイルス療法学会学術集会、横浜、2023 年 9 月 15 日

平野 淳、矢倉裕輝、 増田純一、國本雄介、田澤佑基、井上正朝、佐藤 萌、安井淳子、三枝祐美、田川尚行、成田綾香、田中和行、西 勇治、大東敏和、合原嘉寿、吉田知由：抗 HIV 薬を含む院外処方箋の受け入れ状況と問題点に関する検討。第 33 回日本医療薬学会年会、仙台、2023 年 11 月 5 日

矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射製剤の血中濃度に関する検討　第 1 報。第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都、2023 年 12 月 3 日

B-6
矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射製剤の投与初期における血中濃度に関する調査。第 36 回 近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2023 年 6 月 10 日

B-8
矢倉裕輝：HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。神戸薬科大学講義　先

端医療論、神戸、2023 年 5 月 24 日

矢倉裕輝 : みんなで支える HIV 感染者の長期療養～チーム医療の一員として薬剤師が知っておくべきこと～。札幌病院薬剤師会 2023 年度第 1 回「HIV 感染症専門薬剤師セミナー」、WEB、2023 年 7 月 28 日

矢倉裕輝 : 症例検討。第 42 回薬剤師のための抗 HIV 薬服薬指導研修会、広島、2023 年 7 月 29 日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2023 年 9 月 4 日

矢倉裕輝:「慢性疾患の薬物治療に対する薬剤師の関わり～血友病治療薬と抗 HIV 薬を中心に～」。令和 5 年度第 2 回愛知県病院薬剤師会 HIV 部会学術講演会、WEB、2023 年 9 月 12 日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 薬の特徴と薬剤師の役割。令和 5 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2023 年 10 月 3 日

渡邊 大、矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法の実際。令和 5 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2023 年 10 月 3 日

矢倉裕輝 : 長期療養、高齢 HIV 感染者の薬物治療で遭遇する諸問題～薬剤師として考えるべきこと～。HIV Pharmacist Forum 2023 ～Part2～、WEB、2023 年 10 月 20 日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2023 年 11 月 7 日

矢倉裕輝 : HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。兵庫医科大学薬学部講義 感染制御学、神戸、2023 年 11 月 25 日

矢倉裕輝 : 最近の処方動向と長期療養を見据えた薬剤選択。薬剤師のための！HIV 感染症長期療養マネジメントセミナー第 1 部、WEB、2023 年 12 月 13 日

矢倉裕輝 : 日本人 HIV 陽性者におけるボカブリア・リカムビスの薬物動態。HIV UP TO DATE seminar、WEB、2023 年 12 月 16 日

矢倉裕輝 : 服薬支援の実際～服薬スケジュールの組み方・服薬継続への関わり～。2023 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2024 年 1 月 22 日

矢倉裕輝 : 最近遭遇することから考える薬剤選択。薬剤師のための！HIV 感染症長期療養マネジメントセミナー第２部、WEB、2024 年 3 月 10 日

臨床疫学研究室

室長　三田英治

臨床疫学研究室は主に消化器疾患の病態を分子疫学面から検証し、最適な治療方法や安全性を検討しています。代表的な研究内容を示します。

インターフェロンフリー治療によってC型肝炎はHCV排除が期待できる時代になりましたが、残された少数の難治例に対する最適治療法を検討しています。インターフェロンフリー治療は非代償性肝硬変にまで適応が拡大されましたが、肝予備能が低下した症例に投薬するため、死亡例が出ています。より安全に治療できる条件とその有効性を検証しています。同じく心機能低下や腎機能低下症例に対する治療法も検討しています。HIV感染合併例でのインターフェロンフリー治療の成績もまとめ、論文化しています。

次にB型肝炎では、核酸アナログの長期投与成績から導かれる耐性化の問題点を検討しています。そしてラミブジン・アデホビル併用療法効果不良例に対し、アデホビルをTDFに切り替えることの有効性と安全性を明らかにしました。現在はさらにTDFからTAFへの切り替えを検証しています。近年散発的に発生しているB型急性肝炎ではgenotype Aが大半を占めますが、その特徴を解析し、慢性化への関与についても検討しています。またHIV感染がB型急性肝炎の重症度に与える影響についても検討しています。

肝細胞癌に対する治療では肝動注化学療法に注目し、現在症例の蓄積中です。また分子標的薬と免疫チェックポイント阻害剤との併用も治療選択肢に入りました。病状に応じた最適治療の方向性を示していけるよう検証すると同時に、特有の副反応についても検討を加えています。

【2023年度 研究発表業績】

A-0

Yamamoto S, Ishida H, Mita E. Purple haze: a useful sign for detecting gastric intestinal metaplasia. *Gastrointest Endosc.* 2023 May;97(5):987-989. 2023年5月

Yamamoto S, Matsushima K, Sakakibara Y, Sakamori R, Mita E. Large recurrent lateral spreading tumor resected en bloc with soft bipolar snare. *Am J Gastroente*rol. 2023 Jul 1;118(7):1123. 2023年7月

Yamamoto S, Kozuki M, Matsushima K, Sakakibara Y, Sakamori R, Mita E. Endoscopic mucosal resection with a dedicated bipolar soft snare for large flat colonic polyps. *Endoscopy.* 2023 Dec;55(S 01):E1045-E1046. 2023年12月

A-3

高橋実佑、田中聡司、笠倉至言、渡邊和具、原田理史、宮崎愛理、上月美穂、川端将生、津室 悠、西村佑子、松島健祐、阿部友太朗、福武伸康、長谷川裕子、山

本俊祐、榊原祐子、山本司郎、石田永、山上 宏、三田英治：肝細胞癌の多発肺転移に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法を導入し、ギラン・バレー症候群を来した一例「肝臓」64(5)：P243-252、2023 年

東浦玲意、榊原祐子、石田永、長谷川裕子、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、阪森亮太郎、森清、三田英治：クローン病に合併した直腸癌術後 5 年で多発転移を認めた 1 例「日本消化器病学会雑誌」120(8)：P671-679、2023 年

B-2
Yamamoto S, Sakamori R, Mita E：En bloc resection of large colonic polyps with Bipolar snare; two video cases. Free Paper session, ESGE DAYS 2023, Dublin, Ireland, 2023 年 4 月 20 日

Yamamoto S, Sakamori R, Mita E：Aceto-electrical chromoendoscopy and Linked Color Imaging for determining treatment indication for colonic T1 suspected lesions, Poster, ESGE DAYS 2023, Dublin, Ireland, 2023 年 4 月 20 日

Sakamori R, Watanabe W, Nishimura Y, Miyazaki A, Harada S, Higashiura R, Kozuki M, Matsushima K, Abe Y, Tanaka S, Fukutake N, Hasegawa Y, Yamamoto S, Sakakibara Y, Mita E：Assessing risk of hepatic and non-hepatic events in fatty liver patients: a comparison of MAFLD and NAFLD criteria. JSH International Liver Conference 2023, 東京, 2023 年 9 月 8 日

B-3
阿部友太朗、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、伊藤典明、川端将生、津室 悠、西本奈穂、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：胆管に近接する肝細胞癌に対する焼灼療法における胆管損傷を予防するための画像支援の試み。第 59 回日本肝癌研究会、ワークショップ 7 肝腫瘍画像診断の新たな展開、大阪、2023 年 7 月 28 日

B-4
伊藤典明、榊原祐子、宮崎愛理、原田理史、高橋実佑、上月美穂、津室 悠、川端将生、西本奈穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、飯島英樹、三田英治：当院における潰瘍性大腸炎に対するウステキヌマブの治療成績。第 109 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 大腸 IBD、MO-065、長崎、2023 年 4 月 6 日

上月美穂、榊原祐子、原田理史、宮崎愛理、伊藤典明、高橋実佑、津室悠、川端将生、西本菜穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：当院における潰瘍性大腸炎に対するフィルゴチニブの治療成績。第 109 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 大腸 IBD 2、MO-072、長崎、2023 年 4 月 6 日

山本俊祐、原田理史、宮崎愛理、伊藤典明、上月美穂、高橋実佑、津室 悠、川端将生、松島健祐、西本奈穂、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：Japan NBI Expert Team（JNET）2B 病変に対する酢酸併用 pit pattern 診断追加の有用性。第 109 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 大腸 1、MO-113、長崎、2023 年 4 月 6 日

山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：Acetoelectorical chromoendoscopy を用いた早期大腸癌の治療前診断。第 105 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2023 年 5 月 25 日

原田理史、榊原祐子、宮崎愛理、伊藤典明、上月美穂、高橋実佑、津室 悠、川端将生、西本奈穂、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：PPI 長期内服中の H.pylori 陰性患者に認めた過形成性ポリープ 4 症例の検討。第 105 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2023 年 5 月 27 日

阿部友太朗、宮﨑愛理、原田理史、上月美穂、高橋実佑、伊藤典明、川端将生、津室 悠、西本奈穂、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：当院における肝硬変の成因別実態。第 59 回日本肝臓学会総会、奈良、2023 年 6 月 15 日

阿部友太朗、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、伊藤典明、高橋実佑、川端将生、津室 悠、西本奈穂、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：切除不能肝細胞癌に対する二次薬物療法への移行可否に関与する因子の検討。第 28 回日本肝がん分子標的治療研究会、ポスターセッション 3、P3-1、札幌、2023 年 6 月 24 日

松島健祐、榊原祐子、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、西村佑子、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery を目的とした大腸ステント留置術の検討。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2023 年 11 月 10 日

渡辺和具、阿部友太朗、田中大地、原田理史、宮崎愛理、東浦玲意、上月美穂、西村佑子、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：ラジオ波焼灼術後の肝細胞癌多発再発に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法が著効した一例。第 29 回日本肝がん分子標的治療研究会、ポスターセッション 9、P9-1、埼玉、2024 年 1 月 27 日

佐藤直也、原田理史、榊原祐子、田中大地、渡辺和具、宮崎愛理、上月美穂、東浦玲意、西村佑子、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：繰り返す発熱とともに著明な鼠径リンパ節の腫大を認め、治療に難渋したクローン病の一症例。第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会、一般演題、O11-5、神戸、2023 年 12 月 1 日

長谷川裕子、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治:高齢者 BRAF 変異陽性大腸癌に対する BRAF 阻害剤の治療成績。第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会、P50-7、名古屋、2024 年 2 月 23 日

B-5
山本俊祐、松島健祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：大型大腸腫瘍に対する改良型バイポーラスネアを用いた内視鏡的粘膜切除。第 120 回日本消化器病学会近畿支部例会 シンポジウム、S-14、神戸、2024 年 1 月 27 日

B-6
東俊樹、上月美穂、榊原祐子、田中大地、渡邉和具、宮崎愛理、原田理史、西村佑子、川端将生、津室 悠、西本奈穂、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：長期における炎症を背景に認めた潰瘍性大腸炎関連大腸癌の 1 例。第 110 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2023 年 6 月 24 日

山下勇大、松島健祐、宮崎愛理、原田理史、伊藤典明、上月美穂、津室 悠、川端将生、西本奈穂、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：心拡大による食道圧排の影響が疑われたダビガトラン起因性食道粘膜障害の一例。第 110 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2023 年 6 月 24 日

山下勇大、松島健祐、田中大地、渡辺和具、原田理史、宮崎愛理、上月美穂、東浦玲意、西村佑子、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：内視鏡的整復術により保存的に軽快した上行結腸軸捻転の一例。第 119 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2023 年 9 月 30 日

宮崎愛理、山本俊祐、田中大地、渡辺和具、原田理史、上月美穂、東浦玲意、西村佑子、松島健祐、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：血便を契機に発見された肺癌大腸転移の一例。第 111 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、Young Endoscopist Session（YS） 下部消化管 2（大腸）YS-24、大阪、2023 年 11 月 18 日

西村佑子、田中聡司、渡辺和具、田中大地、原田理史、宮崎愛理、東浦玲意、上月美穂、松島健祐、阿部友太朗、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：感染性心内膜炎に続発した肝動脈瘤胆道穿破の一例。第 45 回日本肝臓学会西部会、若手セッション 22 症例・移植 OY22-1、京都、2023 年 12 月 7 日

阿部友太朗、田中大地、西村佑子、宮崎愛理、原田理史、上月美穂、東浦玲意、松島健祐、田中聡司、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：

脂肪性肝疾患症例における MAFLD と NAFLD 基準を用いた肝疾患イベント・非肝疾患イベント発生リスクの検討。第 45 回日本肝臓学会西部会、一般演題 11 MAFLD O11-4、京都、2023 年 12 月 8 日

藤平和秀、東浦玲意、長谷川裕子、阿部友太朗、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：CIC-DUX4 遺伝子再構成を伴った胃肉腫の 1 例。日本内科学会第 243 回近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

B-8
三田英治：法円坂 GI カンファレンス 座長、大阪、2024 年 3 月 7 日

B-9
三田英治：01 HCV 抗体が陽性と言われたら。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 2 月 5 日

三田英治：03 C 型肝炎 Q&A。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 2 月 20 日

三田英治：04 肝臓の検査。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 2 月 27 日

三田英治：05 B 型肝炎は制御できる時代に。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 3 月 5 日

三田英治：07 ピロリ菌について教えてください。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 3 月 19 日

三田英治：08 女性でも増えている大腸癌。肝炎消化器コンテンツ、You Tube、2024 年 3 月 26 日

がん療法研究開発室

室長　平尾素宏

1981 年以降がんが日本人の死因のトップとなって久しい。国立がん研究センターのがん情報サービスによれば、2019 年の年間がん罹患数は 99 万人を超え、2022 年のがんによる死亡者数は約 38 万 6 千人と報告されている。最近、がん免疫治療法が脚光を浴び、臨床の場において使用され、その評価が明らかになってきたが、すべてのがんに効果があるわけではなく、がんに対する有効な治療法の開発の重要性は依然変わっていない。

免疫治療を含め従来の多くのがん治療法の有効性は、症例ごと、施設ごとの経験から得られたものであり、多施設における大規模な臨床試験による治療効果の検証が必須となっている。そのような状況において、現在、がん治療成績向上を目的として科学的根拠に基づいた効果的ながん治療法の開発が求められている。さらに、発がん、増殖、転移といったがん自体やそれに伴う病態に関わる遺伝子や蛋白、糖鎖といった数多くの分子の異常が報告され、これらの分子の特徴や機能が新しいがんの診断法や治療に応用され、個別化医療やオーダーメイド医療という語に代表されるような各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が進められつつある。実際、2019 年よりがん遺伝子パネル検査が保険診療可能となった。

本研究室では、このような最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しい癌治療法の開発を目的として、がん細胞やがん組織を用いた基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、外科手術時などに得られたがん組織を利用してがんにおける分子異常を探り、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究（橋渡し研究、トランスレーショナルリサーチ）を行っている。

【2023 年度 研究業績発表】

A-0

Shitara K, Hirao M, Iwasa S, Oshima T, Komatsu Y, Kawazoe A, Sato Y,Hamakawa T, Yonemori K, Machida N, Yuki S,Suzuki T, Okumura S, Takase T, Semba T, Zimmermann B, Teng A, Yamaguchi K: Phase I Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF) : Results from the Advanced Gastric Cancer Expansion Cohort.「Clin Cancer Res」29(8) : P 1460-1467、2023 年 4 月 14 日

Aoyama S, Motoori M, Yamasaki M, Shiraishi O, Miyata H, Hirao M, Takeno A, Sugimura K, Makino T,Tanaka K, Hamakawa T, Yamashita K, Kimura　Y,Fujitani K, Yasuda T, Yano M, Dok Y：The impact of weight loss during neoadjuvant chemotherapy on postoperative infectious complications and prognosis in patients with esophageal

cancer: exploratory analysis of OGSG1003 .「Esophagus」20(2)：P 225-233、2023 年 4 月 20 日

Kubo Y, Makino T, Yamasaki M, Tanaka K, Yamashita K, Shiraishi O, Sugimura K, Miyata H, Motoori M, Fujitani K, Takeno A, Hirao M, Kimura Y, Satoh T, Yano M, Eguchi H, Yasuda T, Doki Y：Three-Course Neoadjuvant Chemotherapy Associated with Unfavorable Survival of Non-responders to the First Two Courses for Locally Advanced Esophageal Cancer.「Ann Surg Oncol」30(9)：P 5899-5907、2023 年 9 月

Katada C, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Furue Y, Yamamoto K, Doyama H, Koike T, Tamaoki M, Kawata N, Hirao M, Kawahara Y, Ogata T, Katagiri A, Yamanouchi T,Kiyokawa H, Kawakubo H, Konno M, Yokoyama A, Ohashi S, Kondo Y,Kishimoto Y, Kano K, Mure K, Hayashi R, Ishikawa H, Yokoyama A, Muto M：Alcohol consumption, multiple Lugol-voiding lesions, and field cancerization.「Den Open」4(1)：P e261、2023 年 7 月 3 日

Yamasaki M, Miyata H, Yamashita K, Hamakawa T, Tanaka K, Sugimura K, Makino T, Takeno A, Shiraishi O, Motoori M, Kimura Y, Hirao M, Fujitani K, Yasuda T, YanoM, Eguchi H, Doki Y：Chemoradiotherapy versus triplet chemotherapy as initial therapy for T4b esophageal cancer: survival results from a multicenter randomized Phase 2 trial.「British Journal of Cancer」129(1)：P 54-60、2023 年 7 月

Hirao M, Katada C, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Furue Y, Yamamoto K, Doyama H, Koike T, Tamaoki M, Kawata N, Kawahara Y, Katagiri A, Ogata T, Yamanouchi T, Kiyokawa H, Kawakubo H, Konno M Ishikawa H, Yokoyama A, Muto M：Metachronous primary gastric cancer after endoscopic resection in patients with esophageal squamous cell carcinoma.「Gastric Cancer」26(6)：P 988-1001、2023 年 11 月

Hori K, Katada C, Okada H, Katagiri A, Matsuo Y, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Shimizu Y, Furue Y, Nakanishi H, Koike T, Takizawa K, Hirao M, Yoshii T, Yamanouchi T, Kawakubo H, Kobayashi N, Shimoda T, Ochiai A, Ishikawa H,Yokoyama A, Muto M：Association between continuous cessation or reduction of drinking alcohol and improvement of multiple dysplastic lesions in patients with esophageal squamous cell carcinoma after endoscopic resection.「Esophagus」21(1)：P 31-40、2024 年 1 月

Kanai M, Kawaguchi T, Kotaka M, Manaka D, Hasegawa J, Takagane A, Munemoto Y, Kato T, Eto T, Touyama T, Matsui T, Shinozaki K, Matsumoto S, Mizushima T, Mori M, Sakamoto J, Ohtsu A, Yoshino T, Saji S, Matsuda F：Poor association between dihydropyrimidine dehydrogenase (DPYD) genotype and fluoropyrimidine-inducedtoxicity in an Asian population .「Cancer Medicine」12(7)：P 7808-7814、2023 年 4 月

Watanabe J, Muro K, Shitara K, Yamazaki K, Shiozawa M, Ohori H, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Misumi T,Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Panitumumab vs Bevacizumab Added to Standard First-line Chemotherapy and Overall Survival Among Patients With RAS Wild-type,Left-Sided Metastatic Colorectal Cancer A Randomized Clinical Trial .「JAMA」329(15) : P1271-1282、 2023 年 4 月 18 日

Aoki Y, Nakamura Y, Denda T, Ohta T, Esaki T, Shiozawa M, Yamaguchi K, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Okano N, Taniguchi H, Sato T, Oki E, Nishina T, Komatsu Y, Matsuhashi N, Goto M, Yasui H, Ohtsubo K, Moriwaki T, Takahashi N, Horita Y, Boku S, Wakabayashi M, Ikeno T, Mitani R, Yuasa M, Yoshino T : Clinical Validation of Plasma-Based Genotyping for RAS and BRAF V600E Mutation in Metastatic Colorectal Cancer: SCRUM-Japan GOZILA Substudy.「JCO Precis Oncol」e2200688、2023 年 6 月 7 日

Oki E,Nakanishi R,Ando K, Nambara S,Takemasa I,Watanabe J,Matsubayashi N,Kato T, Kagawa Y,Kotaka M,Hirata K,Sugiyama M,Kusumoto T,Miyamoto Y,Toyosaki K,Kishimoto J,Kimura Y,Yoshizumi T,Nakamura Y : Recurrence monitoring using ctDNA in patients with metastasis of colorectal cancer: COSMOS- oligo study .「Research Square」、2023 年 5 月

Kobayashi S, Bando H,Taketomi A, Takamoto T, Shinozaki E, Shiozawa M, Hara H, Yamazaki K, Komori K, Matsuhashi N, Kato T, Kagawa Y, Yokota M, Oki E, Komine K, Takahashi S, Wakabayashi M, Yoshino T : NEXUS trial: a multicenter phase II clinical study evaluating the efficacy and safety of the perioperative use of encorafenib, binimetinib, and cetuximab in patients with previously untreated surgically resectable BRAF V600E mutant colorectal oligometastases .「BMC Cancer」23(1) : P 779、2023 年 8 月 21 日

Yuki S, Yamazaki K,Sunakawa Y, Taniguchi H, Bando H, Shiozawa M, Nishina T, Yasui H, Kagawa Y,Takahashi N, Denda T, Esaki T, Kawakami H, Satake H, Takashima A, Matsuhashi N,Kato T,Asano C,Abe Y,Nomura S,Yoshino T : Role of plasma angiogenesis factors in the efficacy of first-line chemotherapy combined with biologics in RAS wild-type metastatic colorectal cancer: Results from the GI-SCREEN CRC-Ukit study .「Cancer Medicine」12(18) : P 18702-18716、2023 年 9 月

Watanabe J,Takemasa I,Kotake M,Noura S,Kimura K,Suwa H,Tei M,Takano Y,Munakata K,Matoba S,Yamagishi S,Yasui M,Kato T,Ishibe A,Shiozawa M,Ishii Y,Yabuno T,Nitta T, Saito S,Saigusa Y,Watanabe M : Blood Perfusion Assessment by Indocyanine Green Fluorescence Imaging for Minimally Invasive Rectal Cancer Surgery (EssentiAL trial) : A Randomized Clinical Trial.「Ann Surg」278(4) : P e688 - e694、2023 年 10 月

Ando K,Nakamura Y,Kitao H,Shimokawa M,Kotani D,BandoH, Nishina T,Yamada T,Yuki S, Narita Y, Hara H, Ohta T, Esaki T, Hamamoto Y, Kato K,Yamamoto Y, Minashi K, Ohtsubo K, Izawa N, Kawakami H, Kato T, Satoh T, Okano N, Tsuji A, Yamazaki K, Yoshino T, Maehara Y, Oki E : Mutational spectrum of TP53 gene correlates with nivolumab treatment efficacy in advanced gastric cancer (TP53MUT study) .「British Journal of cancer」129(6)：P 1032-1039、2023 年 10 月

Eric Van Cutsem, Julien Taieb, Rona Yaeger, Yoshino T, Axel Grothey, Evaristo Maiello, Elena Elez, Jeroen Dekervel, Paul Ross, Ana Ruiz-Casado, Janet Graham, Kato T, Jose C. Ruffinelli, Thierry Andre, Edith Carriere Roussel, Isabelle Klauck, Melanie Groc, Jean-Claude Vedovato, Josep Tabernero : ANCHOR CRC: Results From a Single-Arm, Phase II Study of Encorafenib Plus Binimetinib and Cetuximab in Previously Untreated BRAFV600E-Mutant Metastatic Colorectal Cancer .「J Clin Oncol」41(14) : P 2628-2637、2023 年 5 月

Nakamura Y, Sawada K, Yamashita R, Sakai S, Horasawa S, Yoshikawa A, Fujisawa T, Kadowaki S, Kato K, Ueno M, Oki E, Komatsu Y, Chiyoda T, Horita Y, Yasui H, Denda T, Satake H, Esaki T, Satoh T, Takahashi N, Yamazaki K,,Matsuhashi N, Nishina T, Takeda H, Ohtsubo K, Ohta T, Tsuji A, Goto M, Kato T, Bando H, Tsuchihara K, Nakamura Y,Yoshino T : Microbiome landscape and association with response to immune checkpoint inhibitors in advanced solid tumors : SCRUM-Japan MONSTARSCREEN.「Research Square」2023 年 8 月

Shitara K, Muro K, Watanabe J, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Mori I,i Yamanaka K, Hihara M,i Soeda J, Misumi T,i Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Baseline ctDNA gene alterations as a biomarker of survival after panitumumab and chemotherapy in metastatic colorectal cancer .「nature medicine」30(3):P730-739、2024 年 3 月

Marukawa D, Gotoh K, Kobayashi S, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Akita H, Asaoka T, Noda T, Takahashi H, Tanemura M, Doki Y, Eguchi H. : Rubiconcan predict prognosis in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma after neoadjuvant chemoradiotherapy.「Int J Clin Oncol.」28(4)：P 576-586、2023 年 4 月

Higashiguchi M, Murakami H, Akita H, Kobayashi S, Takahama S, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Noda T, Gotoh K, Doki Y, Yamamoto T, Eguchi H : The impact of cellular senescence and senescence-associated secretory phenotype in cancer-associated fibroblasts on the malignancy of pancreatic cancer.「Oncol Rep.」49(5)：P 98、2023 年 5 月

Mizuno N, Ioka T, Ogawa G, Nakamura S, Hiraoka N, Ito Y, Katayama H, Takada R, Kobayashi S, Ikeda M, Miwa H, Okano N, Kuramochi H, Sekimoto M, Okusaka T, Ozaka M, Todaka A, Gotoh K, Tobimatsu K, Yamaguchi H, Nakagohri T, Kajiura S, Sudo K, Okamura K, Shimizu S, Shirakawa H, Kato N, Sano K, Iwai T, Fujimori N,Ueno M, Ishii H, Furuse J; Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group (HBPOG) of Japan Clinical Oncology Group (JCOG). : Effect of systemic inflammatory response on induction chemotherapy followed by chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer: an exploratory subgroup analysis on systemic inflammatory response in JCOG1106. 「Jpn J Clin Oncol.」 53(8) : P 704-713、2023 年 7 月

Takayama H, Kobayashi S, Gotoh K, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Akita H, Asaoka T, Noda T, Wada H, Takahashi H, Tanemura M, Doki Y, Eguchi H : SPARC accelerates biliary tract cancer progression through CTGF-mediated tumor-stroma interactions: SPARC as a prognostic marker of survival after neoadjuvant therapy.「J Cancer Res Clin Oncol.」 149(12) : P 10935-10950、2023 年 9 月

Kubo M,Tomimaru Y,Gotoh K,Kobayashi S, Marukawa D, Sasaki K, Iwagami Y,Yamada D, Akita H, Noda T, Takahashi H, Asaoka T, Tanemura M, Marubashi S,Nagano H, Dono K, Doki Y, Eguchi H. : Long-Term Feasibility of Rescue Reconstruction for Isolated Bile Ducts With Using Cystic Duct in Living Donor Liver Transplantation .「Transplant Proc.」 55(7) : P 1611-1617、2023 年 9 月

Nishi H, Gotoh K, Tomimaru Y, Kobayashi S, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Akita H, Asaoka T, Noda T, Takahashi H, Tanemura M, Doki Y, Eguchi H : Anti-tumor effect of avadomide in gemcitabine-resistant pancreatic ductal adenocarcinoma.「Cancer Chemother Pharmacol.」 92(4) : P 303-314、2023 年 10 月

Sasaki K, Asaoka T, Kobayashi S, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Noda T,Wada H, Gotoh K, Takahashi H, Maeda N, Kimura Y, Ono Y, Doki Y, Eguchi H : Successful endovascular embolization of the common hepatic artery for pseudoaneurysm associated with pancreatic fistula after liver transplantation: a case report.「Surg Case Rep.」 9(1) : P 143、2023 年 8 月

Imaoka H, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Okusaka T, Ozaka M, Shimizu S, Yamazaki K, Okano N, Sugimori K, Shirakawa H, Mizuno N, Satoi S, Yamaguchi H, Sugimoto R, Gotoh K, Sano K, Asagi A, Nakamura K, Ueno M : Development of a nomogram to predict survival in advanced biliary tract cancer.「Sci Rep.」 13(1) : P 21548、2023 年 12 月

Kawabata R, Takahashi T, Saito Y, Nakatsuka R, Imamura H, Motoori M, Makari Y, Takeno A, Kishi K, Adachi S, Miyagaki H, Kurokawa Y, Yamasaki M, Eguchi H, Doki Y : Analysis of the risk factors for osteoporosis and its prevalence after gastrectomy for

gastric cancer in older patients: a prospective study.「Surg Today」53(4)：P 435-442、2023 年 4 月

Kurokawa Y, Kawase T, Takeno A, Furukawa H, Yoshioka R, Saito T, Takahashi T, Shimokawa T, Eguchi H, Doki Y：Phase 2 trial of neoadjuvant docetaxel, oxaliplatin, and S-1 for clinical stage Ill gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma .「Ann Gastroenterol Surg.」7(23)：P 247-254、2023 年 3 月

Yamamoto K、Omori T, Kurokawa Y, Takeno A, Akamaru Y, Demura K, Okada K, Kishi K, Saito T, Takahashi T, Eguchi H, Doki Y：Laparoscopic Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer 「Am Surg」89(12)：P 5660-5668、2023 年 11 月

Kubo Y, Makino T, Yamasaki M, Tanaka K, Yamashita K, Shiraishi O, Sugimura K, Miyata H, Motoori M, Fujitani K, Takeno A, Hirao M, Kimura Y, Satoh T, Yano M, Eguchi H, Yasuda T, Doki Y.：Three-Course Neoadjuvant Chemotherapy Associated with Unfavorable Survival of Non-responders to the First Two Courses for Locally Advanced Esophageal Cancer.「Ann Surg Oncol.」30(9)：P 5899-5907、2023 年 8 月

Kawada J, Saito T, Kurokawa Y, Kawabata R, Takeno A, Takeoka T, Nose Y, Wada H, Eguchi H, Doki Y：Serum NY-ES0-1 and p53 antibodies as useful tumor markers in gastric cancer .「Ann Gastroenterol Surg」8(2)：P 243-250、2023 年 11 月

Hattori M, Masuda N, Takano T, Tsugawa K, Inoue K, Matsumoto K, Ishikawa T, Itoh M, Yasojima H, Tanabe Y, Yamamoto K, SuzukiM,Wilbur Pan, Javier Cortes, Iwata H：Pembrolizumab plus chemotherapy in Japanese patients with triple-negative breast cancer: Results from KEYNOTE-355 .「Cancer Medicine」12(9)：P 10280-10293、2023 年 5 月

Masuda J, Sakai H, Tsurutani J, Tanabe Y, Masuda N, Iwasa T, Takahashi M, Futamura M, Matsumoto K, Aogi K, Iwata H, Hosonaga M, Mukohara T, Yoshimura K, Imamura CK, Miura S, Yamochi T, Kawabata H, Yasojima H, Tomioka N, Yoshimura K, Takano T：Efficacy, safety, and biomarker analysis of nivolumab in combination with abemaciclib plus endocrine therapy in patients with HR-positive HER2-negative metastatic breast cancer: a phase II study (WJOG11418B NEWFLAME trial).「Journal for ImmunoYherapy of Cancer」11(9)：P e007126 、2023 年 9 月

Manabu F, Nakayama T, Yoshinami T, Oshiro C, Ishihara M, Morita M, Watanabe A, Tanigichi A, Tsukabe M, Shimoda M, Nitta K, Chihara Y,Yasojima H, Ouchi Y, Tokumaru Y, Masuda N：Detection of high-risk patients resistant to CDK4/6 inhibitors with hormone receptor-positive HER2-negative advanced and metastatic breast cancer in Japan (KBCSG-TR-1316).「Breast Cancer」30(6)：P 943-951、2023 年 11 月

Takahashi M, Osako T,Yasojima H, Inoue K, Kawashima M, Maeda H, Ichikawa A, Muramatsu Y, Masuda N : Overall survival in Japanese patients with ER+/HER2- advanced breast cancer treated with first-line palbociclib plus letrozole.「Breast Cancer」31(1) : P 53-62、2024 年 1 月

A-3
平尾素宏、竹野 淳、山本昌明、浜川卓也、西川和宏：急性腹膜炎の治療戦略と手術　II原因疾患別の治療戦略 2）胃癌による穿孔性腹膜炎に対する手術「手術」78(3) : P.297-304、2024 年 3 月

加藤健志：術後補助化学療法として FOLFOX/CapeOX 療法施行後の再発症例の治療「ガイドラインに沿った大腸癌薬物療法の要点と盲点」2 : P. 43-44、 2023 年 10 月 29 日

竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、山本昌明、松井優紀、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：腎機能低下食道癌症例に対する白金製剤使用についての検討「癌と化学療法」50(13) : P. 1783-1785、2023 年 12 月

八十島宏行：腫瘍マーカーの意義「乳癌薬物療法の要点と盲点」P. 22-23、2023 年 6 月 27 日

浜川卓也、西田謙太郎、赤丸祐介、竹野 淳、平尾素宏：手術手技　困難症例（肥満症例、進行胃癌）に対する腹腔鏡下胃切除術におけるガーゼテーピング法「手術」78(3) : P. 371-375、2024 年 3 月

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：肝内胆管癌術後局所再発に対して集学的治療にて長期生存を得られている一例「癌と化学療法」50(13) : P.1795-1797、2023 年 12 月

大崎真央、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：骨盤内膿瘍を伴う直腸癌に対し術前化学療法後に根治切除を施行した 1 例「癌と化学療法」50(13) : P.1615-1617、2023 年 12 月

林 千恵、赤澤 香、岡田公美子、森 清、眞能正幸、八十島宏行： 乳癌再発治療中の胃転移にて HER2 陽転化をきたした 1 例「乳癌の臨床」39(1) : P. 99-103、2024 年 1 月

梅津匡宏、後藤邦仁、徳山信嗣、酒井健司、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：切除不能の直腸癌

肝転移に対して化学療法が奏効し根治切除を施行し得た 1 例「癌と化学療法」50(13）：P. 1789 - 1791、2023 年 12 月

阿部 優、俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、寺川航基、柳澤公紀、三代雅明、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：放射線治療後に横行結腸浸潤を伴う臍転移（Sister Mary Joseph’s Nodule）を来した子宮頸癌の 1 例「癌と化学療法」50(4）：P. 535-537、2023 年 4 月

今西涼華、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：腎癌術後 16 年目の転移性膵癌に対してロボット支援下膵体尾部切除術を施行した 1 例「癌と化学療法」50(13）：P. 1771-1773、2023 年 12 月

今西涼華、高橋佑典、加藤健志、森清、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏：骨盤内に進展した臀部表皮嚢胞に対して腹腔鏡アプローチを併用し経仙骨的に切除した 1 例「日本消化器外科学会雑誌 」56(12）：P. 670-676 、2023 年 12 月

豊後雅史、竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、山本昌明、松井優紀、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：胃癌腹膜播種再発に対して二度の切除と nivolumab の集学的治療により長期病勢制御が得られた 1 例「癌と化学療法」50(13）：P. 1715-1717、2023 年 12 月

豊後雅史、酒井健司、後藤邦仁、大崎真央、加藤健志、平尾素宏：保存的加療で軽快した広範囲に及ぶ腸管嚢胞様気腫症の 3 例「日本臨床外科学会雑誌」84(11）：P. 1771-1775、2023 年 11 月

萩原佳菜、河合賢二、徳山信嗣、山本昌明、酒井健司、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：下行結腸穿孔をきたした血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例「日本腹部救急医学会雑誌」44(1）：P. 61-64、2024 年 1 月

本持知子、平尾素宏:診療看護師(NP)へのタスク・シフト/シェア「Current Therapy」41(12）：P. 36-38、2023 年 12 月 1 日

A-4
後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：【ラパコレを再考する-腹腔鏡下胆嚢摘出術をマスターするために】胆嚢癌疑診例に対する腹腔鏡手術と胆嚢癌と判明した場合の対応「手術」77(10）：P. 1513-1517、2023 年 9 月

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、加藤健志：大腸がんにおける周術期薬物療法「腫瘍内科」32(3）：P. 1-7、2023 年 9 月

B-2

Yamazaki K, Muro K, Watanabe J, Shitara K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naito T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T：Efficacy of panitumumab in patients with left-sided disease, MSS/MSI-L, and RAS/BRAF WT: A biomarker study of the phase III PARADIGM trial.ASCO2023 , Chicago,USA , 2023 年 6 月 2 日

Oki E, Kotani D, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Miyo M,Watanabe J, Hirata K, Akazawa N,Kun-Huei Yeh, George Laliotis, Shruti Sharma, Minetta Liu, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T：Circulating tumor DNA dynamics as an early predictor of recurrence in patients with radically resected colorectal cancer: Updated results from GALAXY study in the CIRCULATE-Japan. . ASCO2023 , Chicago,USA , 2023 年 6 月 2 日

Osumi H, Shinozaki E, Nakamura Y, Esaki T, Yasui H,Taniguchi H, Satake H, Sunakawa Y, Komatsu Y, Kagawa Y, Denda T, Shiozawa M, Satoh T, Nishina T, Goto M, Takahashi N, Kato T, Bando H, Yamaguchi K, Yoshino T : NeoRAS wild-type metastatic colorectal cancer in the SCRUM-Japan GOZILA study. . ASCO2023 , Chicago,USA , 2023 年 6 月 2 日

Imai M, Bando H, Tsukada Y, Kato T, Komatsu Y, Uemura M, Yuki S, Taketomi A, Fujisawa T, Nakamura Y, Kojima M, Koyama S,Chiyoon Oum, Seunghwan Shin, Chan-Young Ock, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T : Predictive value of tumor-infiltrating lymphocyte (TIL) dynamics in the tumor microenvironment (TME) during preoperative chemoradiotherapy (CRT) on pathologic complete response (pCR) in microsatellite-stable (MSS) locally advanced rectal cancer (LARC). . ASCO2023 , Chicago,USA , 2023 年 6 月 2 日

Bando H, Satake H, Kotani D, Hamaguchi T, Shiozawa M, Ikumoto T, Okita Y, Masuishi T, Kagawa Y, Yasui H,Oki E, Komatsu Y, Taniguchi H, Muro K, Kotaka M, Yamazaki K, Misumi T, Yoshino T, Kato T, Tsuji A : A multicenter randomized phase II trial comparing CAPOXIRI + bevacizumab with FOLFOXIRI + bevacizumab as first-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer: Primary results of the QUATTRO-II study . ASCO2023 , Chicago,USA , 2023 年 6 月 2 日

JogoT, Shinozaki E, Masuishi T, Kato T, Nishina T, Esaki T, Komatsu Y, Kato K, Suzuki M, Fuse N, Sato A, Ikeno T, Nomura S, Bando H,Justin Iver Odegaard, Fujii S, Ebi H, Yoshino T, Nakamura Y：Efficacy and safety of futibatinib for refractory advanced solid malignancies with FGFR alterations identified in circulating tumor DNA: TiFFANY, A GOZILA-affiliated Trial. . ASCO2023 , Chicago,USA , 2023 年 6 月 28 日

Kato T, Kotani D, Takashima A, Satoh T, Masuishi T, Komatsu Y, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H,

Yamada S, Yoshino T : Clinical outcomes of encorafenib, binimetinib, and cetuximab for pretreated BRAF V600E-mutant metastatic colorectal cancer in the BEACON EAP follow-up study. ESMOGI2023 , Barcelona,Spain , 2023 年 6 月 3 日

Oki E, Muro K, Watanabe J, Shitara K, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Sato T, Naito T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : First-line (1L) panitumumab (PAN) vs bevacizumab (BEV) in patients (pts) with HER2 amplification (HER2amp+), RAS wild type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC) according to tumor sidedness . ASCO Breakthrough , Yokohama , 2023 年 8 月 3 日

Watanabe J, Oki E, Kotani D, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Miyo M, Hirata K, Akazawa N,Kun-Huei Yeh, George Laliotis, Adham A Jurdi, Minetta Liu, Taniguchi H,Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T : Postoperative circulating tumor DNA-based molecular residual disease in patients with BRAF V600E and MSI-H colorectal cancer: Updated results from GALAXY study in the CIRCULATE-Japan . ASCO Breakthrough , Yokohama , 2023 年 8 月 3 日

Imai M, Nakamura Y, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Sato A, Kuwata T, Yamashita R, Fujisawa T, Bando H, Jongchan Park, Seunghwan Shin, Chan-Young Ock, Fujii S, Yoshino T : Artificial intelligence (AI)-powered HER2 quantification continuous score (QCS) and tumor microenvironment (TME) analysis in HER2-amplified metastatic colorectal cancer (mCRC) treated with pertuzumab plus trastuzumab . ASCO Breakthrough , Yokohama , 2023 年 8 月 10 日

Kato T, Muro K, Watanabe J, Shitara K,Yamazaki K, Ohori H,Shiozawa M, Yasui H,Oki E, Sato t, Naitoh T, Komatsu Y, Soeda J, Yamamoto K,Yamashita R, Akagi K,Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Panitumumab (PAN) vs bevacizumab (BEV) in metastatic colorectal cancer (mCRC) by microsatellite stable (MSS), RAS/BRAF, and HER2 amplification (HER2amp) status: Phase III PARADIGM biomarker study . ESMO ASsia2023 , Singapore , 2023 年 12 月 2 日

Yukami H, Nakamura Y, Mishima S, Ando K, Bando H, Watanabe J, Hirata K, Akazawa N, Ikeda M, Yokota M, Kato K, George Laliotis, Vasily N. Aushev, Adham A Jurdi, Minetta Liu, Kotani D, Oki E, Takemasa I, Kato T, Yoshino T : Circulating tumor DNA (ctDNA) dynamics in patients with colorectal cancer (CRC) with molecular residual disease: Updated analysis from GALAXY study in the CIRCULATE-JAPAN. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Murano T Ikematsu H, Matsuhashi N, Shiozawa M, Kato T, Oki E, Goto M, Kagawa Y Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Notake C,Elmira Forouzmand, Yupeng He, Victoria M. Raymond, Sven Duenwald, Yoshino T, Nakamura Y : Circulating tumor DNA (ctDNA) positivity and its association with clinicopathological

characteristics by novel blood-based test for colorectal cancer (CRC) screening from a multi-center large cohort: COSMOS-CRC-01. ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Nakamura Y, Tsukada Y, Matsuhashi N, Murano T, Shiozawa M, Kato T, Oki E, Goto M, Kagawa Y, Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Notake C, Mingyang Cai, Shile Zhang, Thereasa A. Rich, Kimberly Banks, Yoshino T : Multiomic analysis for minimal residual disease detection: Addressing challenges in stage II-III colon cancer from COSMOS-CRC-01. ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Miyo M, Kato T, Nakamura Y, Mishima S, Bando H, Yukami H, Ando K, Watanabe J, Akazawa N, Yokota M, Kagawa Y,Adaham A Jurdi, Minetta C. Liu, Oba K, Taniguchi H, Kotani D, Oki E, Takemasa I, Mori M, Yoshino T : Association of circulating tumor DNA (ctDNA) molecular disease (MRD) detection with lymph node metastasis after local excision of pathological T1 colorectal cancer: First results from DENEB, a CIRCULATE-Japan GALAXY substudy . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Bando H, Tsukada Y, Taketomi A, Yuki S, Komatsu Y, Akiyoshi T, Shinozaki E, Kanemitsu Y, Takashima A, Shiozawa M, Shiomi A, Yamazaki K, Matsuhashi N,Hasegawa H, Kato T, Oki E, Wakabayashi M, Fuse N, Ito M, Yoshino T : Neoadjuvant anti-programmed death 1 (PD-1) therapy in patients (pts) with resectable mismatch repair–deficient (dMMR) locally advanced rectal cancer (LARC): EPOC2201. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Nakamura Y, Kaneva K, Christine Lo, Daniel Neems, Jonathan Freaney, Hala Boulos, Seung Won Hyun, Oki E, Kotani D, Wantanabe J, Kotaka M, Bando H, Yamazaki K, Takemasa I, Kato T, Chithra Sangli, Richard Blidner, Kate Sasser, Halla Nimeiri, Yoshino T: Predicting recurrence using a tumor-uninformed ctDNA assay detecting MRD in patients with resected stage II or III colorectal cancer: Subset analysis from the GALAXY study in CIRCULATE-Japan. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Oyoshi H, Bando H, Yamashita R, Kageyama S, Horasawa S, Nakamura M, Fujisawa T, Tomizawa K, Motegi A, Mishima S, Kotani D, Taniguchi H, Oki E, Takemasa I, Kato T, Nakamura Y, Mori M, Adham A Jurdi, Minetta C. Liu, Yoshino T : Prediction of postoperative recurrence by integrating preoperative ctDNA levels and tumor metastasis volume in patients (pts) with colorectal cancer (CRC) with resectable lung or liver metastasis . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Hashimoto T, Fujisawa T, Machida N, Makiyama A, Boku S, Kadowaki S, Takahashi N, Oki E, Morizane C, Sunakawa Y, Komatsu Y, Okano N, Esaki T, Ohta T, Kato T, Ozaki H, Iida N, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T : Efficacy of biomarker-matched therapy

in clinical trials for advanced gastrointestinal cancers: A pooled analysis of SCRUM-Japan studies. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Nakamura Y, Esaki T, Nishina T, Komatsu Y, Yuki S, Shinozaki E, Taniguchi H, Kato T, Kato K, Nomura S, Ikeno T, Ishiguro Y, Takahashi K, Higuchi T, Sato A,Justin Iver Odegaard, Kuwata T, Matsushima K, Nakatsura T, Yoshino T：Nivolumab in patients (pts) with advanced gastrointestinal (GI) cancers with high plasma tumor mutational burden (pTMB): Results from a SCRUM-Japan GOZILA phase II trial. . ASCO2024 , San Francisco , 2024 年 1 月 18 日

Takeno A, Omori T, Shinno N, Katsuyama S, Motoori M, Akamaru Y, Kishi K, Murakami K, Kurokawa Y, Doki Y：Feasibility of staging laparoscopy for detecting peritoneal recurrence for gastric cancer after gastrectomy: multi-institutional prospective study. IGCC2023 , Yokohama , 2023 年 6 月 16 日

Yamamoto K, Motoori M, Kurokawa Y, Fujitani K, Omori T, Hara H, Kishi K, Takeno A, Hamakawa T, Masuzawa T, Sugimura K, Takahashi T, Saito T, Makino T, Tanaka K, Yamashita K, Momose K, Nakajima K, Eguchi H, Doki Y：Impact of remnant positive cytology (CY1) at comversion surgery following chemotherapy for stage IV gastric cancer
. IGCC2023 , Yokohama , 2023 年 6 月 16 日

Motoori M, Yamamoto K, Kishi K, Takeno A, Masuzaa T, Hara H, Hamakawa T, Nakahara Y, Sugimura K, Omori T, Kurokawa Y, Fujitani K,Doki Y：Prognostic factors and significance of postoperative adjuvant chemotherapy in patients with gastric cancer undergoing neoadjuvant chemotherapy followed by gastrectom . IGCC2023 , Yokohama , 2023 年 6 月 15 日

Fatima Cardoso, Joyce O'Shaughnessy, Heather McArthur, Peter Schmid, JavierCortes, Nadia Harbeck, Melinda L Telli , David W. Cescon, Peter A. Fasching, Zhimin Shao, Delphine Loirat, Yeon Hee Park , Manuel Gonzalez Fernandez, Gabor Rubovszky, Seock-Ah Im, Rina Hui, Toshimi Takano, Fabrice Andr, Yasojima H, Zhenzhen Liu, Yu Ding, Liyi Jia, Vassiliki Karantza, Konstantinos Tryfonidis, Aditya Bardia：Phase 3 study of neoadjuvant pembrolizumab or placebo plus chemotherapy, followed by adjuvant pembrolizumab or placebo plus endocrine therapy for early-stage high-risk ER+/HER2 breast cancer: KEYNOTE-756 . SABCS , San Antonio,USA , 2023 年 12 月 5 日

Takahashi Y, Kato T, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Wakabayashi M, Kumagai S, Koyama S, Kotani D, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Taketomi A, Uemura M, Fukui M, Kojima M, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T：VOLTAGE cohort D: Preoperative chemoradiotherapy followed by consolidation nivolumab plus ipilimumab in patients

with locally advanced rectal cancer. ESMOGI2023 , Barcelona,Spain , 2023 年 6 月 28 日

B-3
平尾素宏、下司有加、渋谷博美、西村健作、山本司郎、宇都本理夫：医療安全の文化醸成のための当院の取り組み。第 77 回国立病院総合医学会、広島、2023 年 10 月 21 日

Gotoh K, Sakai K, Imanishi S, Toshiyama R : Short-term outcomes of laparoscopic repeat partial hepatectomy。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 6 月 30 日

後藤邦仁：ICG 蛍光法を用いた局所進行膵体部癌に対する動門脈合併膵切除術。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 16 日

八十島宏行、赤澤 香、萩原佳菜、岡田公美子：NAC 後腋窩リンパ節転移に対する縮小手術へ向けたエビデンスと当院の現状。第 25 回 SNNS 研究会学術集会、東京、 2023 年 10 月 28 日

阿部 優、山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：術前に診断困難であったバイク事故による外傷性小腸穿孔に対して腹腔鏡下手術で治療し得た 1 例。第 60 回日本腹部救急医学会総会、北九州、2024 年 3 月 22 日

B-4
高見康二、土井貴司、徳永拓也：HIV 感染者に発症した気胸 11 例の検討。第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会、新潟、2023 年 7 月 13 日

本告正明、山崎 誠、牧野知記、平尾素宏、宮田博志、白石 治、杉村啓二郎、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎：切除可能進行食道癌の治療成績向上を目指した多施設共同ランダム化比較試験。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

藤谷和正、黒川幸典、竹野 淳、川端良平、大森 健、今村博司、平尾素宏、遠藤俊治、川田純司、文 正浩、和田遼平、瀧口修司、森 正樹、江口英利、土岐祐一郎：胃癌肝転移に対する外科切除に関する前向き多施設臨床試験：3 年全生存割合と無再発生存割合。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：リンパ節転移を伴う胆道癌に対する治療戦略の構築。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、福武伸康、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：後腹膜先行アプローチを併用したロボット支援下膵体尾部切除術の 1 例。第 54 回日本膵臓学会大会、福岡、2023 年 7 月 22 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志：pT2 以浅胆嚢癌に対する腹腔鏡下手術の適応に関する検討。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 14 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：膵癌オリゴ遠隔転移に対する外科的切除の有用性の検討。JDDW2023、神戸、2023 年 11 月 4 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：導入初期におけるロボット支援下膵体尾部切除術の安全性の検討。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

竹野 淳、浜川卓也、平尾素宏、河合賢二、俊山礼志、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：食道浸潤長にもとづいた食道胃接合部腺癌に対する治療成績。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

岸健太郎、文 正浩、中原裕次郎、山本和義、大森 健、原 尚志、益澤 徹、杉村啓二郎、本告正明、竹野 淳、浜川卓也、黒川幸典、藤谷和正、土岐祐一郎：ypT0 胃癌の予後因子に関する検討　多施設後向き研究。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

西塔拓郎、黒川幸典、川瀬朋乃、竹野 淳、古川陽菜、吉岡 亮、高橋 剛、江口英利、土岐祐一郎：胃癌および食道胃接合部癌に対する術前化学療法の治療成績 胃・食道胃接合部腺癌に対する DOS 術前化学療法の第 2 相臨床試験。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、長谷川裕子、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：腎機能低下食道癌症例に対する白金製剤使用についての検討。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

竹野 淳、浜川卓也、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：80 才以上の高齢者に対する食道癌手術の治療成績の検討。第 66 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 9 日

竹野 淳、浜川卓也、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志：ロボット支援下食道切除導入期の短期治療成績～胸腔鏡手術との比較～。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

川端良平、西川和宏、今村博司、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野 淳、下村一景：悪液質を伴う進行再発胃癌の化学療法に対するプロシェアの有用性に関する第 II 相試験。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

山本和義、本告正明、黒川幸典、大森 健、竹野 淳、高橋 剛、西塔拓郎、牧野知紀、江口英利、土岐祐一郎：化学療法後胃切除時における CY1 の臨床的意義。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

竹野 淳、山本昌明、浜川卓也、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：残胃癌に対するロボット支援手術の経験。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

竹野 淳、山本昌明：食道亜全摘術後体重減少に関与する因子の検討。第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、横浜、2024 年 2 月 15 日

川端良平、西川和宏、竹野 淳、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、今村博司：悪液質を伴う進行胃癌の化学療法に対する EPA 強化経口栄養補助食品の有用性に関する第 II 相試。第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、横浜、2024 年 2 月 15 日

竹野 淳、山本昌明、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志：残胃癌における術後合併症と予後の関係。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

松山 仁、木村 豊、杉本直俊、遠藤俊治、川端良平、竹野 淳、今野元博、田村茂行、中村将人、竹下宏樹、坂井大介、川上尚人、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎：高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する周術期カペシタビン＋オキサリプラチン療法の第 II 相試験（OGSG1701）。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

八十島宏行、Miyoshi Y, Yonemori K, Wtanabe J, Takano T, Shimoura A, Tokunaga E, Mukohara T, Naoi Y,Matsuoka D, Okumura S, Suzuki T,　Otake Y, Ichikawa Y,Takase T,Semba T, lshiguro H：E7389-LF as lL chemotherapy for advanced/metastatic HER2-negative breast cancer (HER2- BC): Phase 1 dose-expansion study。第 21 回日本臨床腫瘍学会 2024、名古屋、2024 年 2 月 22 日

浜川卓也、竹野 淳、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二、平尾素宏：胃癌術後 1 年目サルコペニアに関する検討。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 27 日

浜川卓也、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：T4 食道癌、胃前庭部出血性 GIST、早期胃癌の 3 重複がん患者に対する治療方針の検討。第 77 回日本食道学会学術集会、大阪、2023 年 6 月 29 日

浜川卓也、竹野 淳、本告正明、岸 健太郎、大森 健、益澤 徹、山本和義、黒川幸典、藤谷和正、土岐祐一郎：StageIV 胃癌に対する conversion surgery の治療成績(多施設共同後方視的解析)。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、今西涼華、大崎真央、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：腹腔鏡下再肝切除術の安全性に関する検討。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 28 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、大崎真央、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、土井貴司、加藤健志、高見康二、平尾素宏：肝内胆管癌術後局所再発に対して集学的治療にて長期生存を得られている一例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

Sakai K, Gotoh K, Imanishi S, Toshiyama R：Surgical resection for anaplastlc carcinoma of the pancreas: Two cases report。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 6 月 30 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：腹腔鏡下再肝切除術の安全性に関する検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

酒井健司、後藤邦仁、今西涼華、俊山礼志、福武伸康：膵腺扁平上皮癌の 4 切除例。第 54 回日本膵臓学会大会、福岡、2023 年 7 月 22 日

酒井健司、後藤邦仁、今西涼華、俊山礼志、福武伸康：切除不能肝内胆管癌に対して化学療法後二期的肝切除（ALPPS）を施行した一例。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 14 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏： 若手教育にも配慮した手術の質を落とさない私の腹腔鏡下胆嚢摘出術。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 18 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、今西涼華、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：胆石性慢性胆嚢炎の急性増悪症例における Bail out surgery の先に待ち受ける胆嚢管壊死をどうする？。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 9 日

高橋佑典、加藤健志、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、酒井健司、浜川卓也、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏：若手医師に対するエネルギーデバイスの安全使用に関するハンズオントレーニングの成果。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

高橋佑典、宮崎道彦、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：直腸脱に対する TANKO+1 port による直腸固定術。10th Reduced Port Surgery Forum in Kitakyushu、北九州、2023 年 8 月 19 日

高橋佑典、徳山信、河合賢、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援直腸癌手術における安全性に留意したエネルギーデバイスの使用。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 11 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：当院における局所進行直腸癌に対する術前治療後の手術療法の短期成績と工夫。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

岡田公美子、萩原佳菜、赤澤 香、八十島宏行：当院における AYA 世代乳がん患者の現状と課題。第 61 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2023 年 10 月 20 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、酒井健司、浜川卓也、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：術前化学・化学放射線療法後のロボット支援下直腸癌手術の工夫。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：当院におけるロボット支援腹腔鏡下回盲部切除術の定型化と短期成績。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 10 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援下結腸癌手術における脾弯曲部授動。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：噴門側胃切除における食道残胃吻合再建とダブルト

ラクト再建の短期成績比較。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：胃癌に対する噴門側胃切除における開腹 vs 腹腔鏡の短期成績の比較。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

山本昌明、木場瑞貴、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏：閉鎖孔ヘルニア小腸嵌頓に対して水圧法にて嵌頓解除し、腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した一例。第 60 回日本腹部救急医学会総会、北九州、2024 年 3 月 22 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、豊後雅史、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、土井貴司、加藤健志、高見康二、平尾素宏：抗血小板・抗凝固薬服用症例に対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の安全性の検討。第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京、2023 年 4 月 27 日

Toshiyama R, Gotoh K, Sakai K：A case of suspected acinic cell carcinoma diagnosed as serous cystic neoplasm by postoperative pathological examination。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 7 月 1 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：当院における閉鎖孔ヘルニア嵌頓手術例の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、加藤健志、平尾素宏、竹野 淳、土井貴司、高見康二：多臓器転移を認めたものの長期生存を得た膵頭部癌の 1 例。第 54 回日本膵臓学会大会 福岡、2023 年 7 月 22 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司：胆嚢捻転手術例の検討。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 14 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、松井優紀、竹野 淳、平尾素宏、高見康二、加藤健志：膵頭十二指腸切除術後の通過障害に対して胃空腸バイパス術を施行した２例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 17 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、山本昌明、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：化学療法中に発症した壊疽性胆嚢炎の 1 例。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 9 日

松井優紀、高見康二、森清：肺カルチノイド切除 7 症例の臨床的検討。第 64 回日本肺癌学会学術集会、幕張、2023 年 11 月 3 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、浜川卓也、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：当院における限局性腹膜炎を合併した大腸憩室炎に対する治療法の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：当院における閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery の治療成績。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 11 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：汎発性腹膜炎を合併した下部消化管穿孔に対する鏡視下手術の短期成績の検討。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：pT1b 大腸癌におけるリンパ節転移リスクの検討。第 100 回大腸癌研究会学術集会、東京、2024 年 1 月 26 日

赤澤 香、森 清、清水幸生、林 千恵、岡田公美子、八十島宏行：当院におけるセンチネルリンパ節生検：術中迅速捺印細胞診の妥当性の再検証。第 31 回日本乳癌学会学術集会、横浜、2023 年 6 月 30 日

赤澤 香、森 清、萩原佳菜、岡田公美子、八十島宏行：当院におけるセンチネルリンパ節生検：術中迅速捺印細胞診の妥当性の再検証。第 25 回 SNNS 研究会学術集会、東京、2023 年 10 月 28 日

大崎真央、高橋佑典、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、酒井健司、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：骨盤内膿瘍を伴う直腸癌に対し術前化学療法後に根治切除を施行した 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

大崎真央、高橋佑典、宮崎道彦、徳山信嗣、河合賢二、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：直腸脱に対する TANKO+1 port による直腸固定術。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 14 日

松井雅貴、浜川卓也、平尾素宏：虫垂穿孔、骨盤内膿瘍を来した虫垂子宮内膜症の 1 例。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 22 日

梅津匡宏、後藤邦仁、徳山信嗣、酒井健司、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：切除不能の直腸癌肝転移に対して化学療法が奏功し根治切除を施行し得た一例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

梅津匡宏、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、竹野淳、加藤健志、平尾素宏：当院における壊疽性胆嚢炎に対する緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

梅津匡宏、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術における PNI を用いた手術困難性についての検討。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 7 日

阿部 優、河合賢二、加藤健志、高橋佑典、徳山信嗣、俊山礼志、酒井健司、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、後藤邦仁、高見康二、平尾素宏：肛門外脱出嵌頓で見つかった S 状結腸癌重積症の 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

阿部 優、竹野 淳：食道癌術後の再建胃管癌発生におけるリスク因子の検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 13 日

阿部 優、酒井健司、松井優紀、後藤邦仁、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏、高見康二：肝細胞癌の孤立性縦隔転移の 1 例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 16 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：虫垂が絞扼帯となった絞扼性腸閉塞の 1 例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2024 年 2 月 3 日

今西涼華、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、大崎真央、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、土井貴司、竹野 淳、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：腎癌術後 16 年目の転移性膵癌に対してロボット支援下膵体尾部切除術を施行した 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

Imanishi S, Sakai K, Toshiyama R, Gotoh K : A case of primary mixed adenoneuroendocrine carcinoma of the ampulla of Vater。第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会、東京、2023 年 7 月 1 日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁：抗血栓薬内服症例に対する腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 14 日

今西涼華、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、浜川卓也、福武伸康、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：腎癌術後長期間経過した後の転移性膵癌に対して膵体尾部切除術を施行した 2 例。第 54 回日本膵臓学会大会、福岡、2023 年 7 月 21 日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、福武伸康：当院での ERCP 施行例における腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績について。第 59 回日本胆道学会学術集会、札幌、2023 年 9 月 15 日

今西涼華、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、山本昌明、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏：膵頭部癌術後 16 年目に肺転移を来し、肺転移切除後 4 ヶ月で死亡した 1 例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 17 日

今西涼華、浜川卓也、酒井健司、竹野 淳、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：幽門側胃切除 Roux-en Y 再建後の十二指腸憩室内魚骨穿通に対し腹腔鏡下魚骨摘出を行った 1 例。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 9 日

豊後雅史、竹野 淳、平尾素宏、浜川卓也、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、土井貴司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二：再発胃癌に対して 2 度の切除と nivolumab の集学的治療により長期病勢制御が得られた 1 例。第 45 回日本癌局所療法研究会、東京、2023 年 6 月 2 日

豊後雅史、高橋佑典、加藤健志：非代償性肝硬変を合併する大腸癌症例に対して腹腔鏡下大腸癌手術を行った 2 例。第 78 回日本消化器外科学会総会、函館、2023 年 7 月 12 日

豊後雅史、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、高見康二、平尾素宏、加藤健志：肝硬変合併症例に対する腹腔鏡下大腸手術時に注意すべき腹膜下筋膜の構造変化。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

豊後雅史、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：胃に穿破し出血コントロール不良であった膵管内乳頭粘液性腺癌残膵再発に対して残膵全摘を施行した 1 例。第 60 回日本腹部救急医学会総会、北九州、2024 年 3 月 21 日

木場瑞貴、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志： 虫垂子宮内膜症に対し腹腔鏡下回盲部切除術を施行した 2 例。第 99 回大腸癌研究会学術集会、尼崎、2023 年 7 月 7 日

木場瑞貴、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、加藤健志：腹腔鏡下回盲部切除術にて確定診断に至った虫垂子宮内膜症の 2 例。第 36 回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023 年 12 月 8 日

木場瑞貴、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：異時性遠隔リンパ節転移を伴った pT1b 横行結腸癌の一例。第 100 回大腸癌研究会学術集会、東京、2024 年 1 月 26 日

木場瑞貴、高橋佑典、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、酒井健司、竹野淳、後藤邦仁、高見康二、平尾素宏、加藤健志：直腸静脈瘤を伴う直腸癌に対しロボット支援腹腔鏡下に根治切除した一例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2023 年 2 月 3 日

木場瑞貴、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二、廣瀬由美子、森 清：急速に増大した胃腫瘍に対して左上腹部内臓全摘術にて摘出し得た一例。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

萩原佳菜、赤澤 香、岡田公美子、八十島宏行：T-DXd 治療中に薬剤性間質性肺炎と鑑別困難なニューモシスチス肺炎を併発し救命困難となった De-novo StageIV 乳癌の一例。第 21 回日本乳癌学会近畿地方会、京都、2023 年 11 月 25 日

櫻井義正、高見康二、松井優紀：自然気胸の肺嚢胞切除検体に tumorlet を認めた一例。第 85 回日本臨床外科学会総会、岡山、2023 年 11 月 16 日

櫻井義正、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏、高見康二：高度リンパ節転移を伴う同時性胃癌および胃びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対して集学的治療を行った 1 例。第 96 回日本胃癌学会総会、京都、2024 年 2 月 29 日

上村 廉、徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、加藤健志：血便により発見された肺癌結腸転移の一切除例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2023 年 2 月 3 日

佐藤直也、酒井健司、後藤邦仁、豊後雅史、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：FOLFIRINOX 療法が奏効し根治切除を施行し得た原発性肺癌と膵腺扁平上皮癌の重複癌の一例。第 207 回近畿外科学会、枚方、2023 年 2 月 3 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、河合賢二、高橋佑典、徳山信嗣、平尾素宏：How I Do It 嵌頓痔核。第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会、熊本、2023 年 11 月 10 日

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、加藤健志、河合賢二、高橋佑典、徳山信嗣、平尾素宏：拡張率に注目したSSG法の治療成績－アンケートによる術後QOLの調査-。第78回日本大腸肛門病学会学術集会WS、熊本、2023年11月10日

B-5
加藤健志：進行・再発大腸がん薬物療法Update。第10回平成大腸癌カンファレンス、 神戸、2023年5月25日

加藤健志：直腸癌治療　過去、現在、未来。大阪南部エリアNST講演会、WEB、2023年6月9日

加藤健志：大腸癌個別化医療の新たな展開。第48回北海道消化器癌化学療法研究会学術講演会、札幌、2023年6月16日

加藤健志：BRAF 変異型大腸癌の最新の話題 。 BRAFTOVI ＋MEKTOVI Expert Meeting、Barcelona,Spain、2023年6月30日

加藤健志：進行・再発大腸がん薬物療法Update。第18回本郷大腸セミナー、東京、 2023年11月13日

加藤健志：PARADIGM試験　Update。大腸癌薬物療法Webinar、三島、2023年11月 22日

加藤健志：局所進行直腸癌治療Update。消化器癌カンファレンスin香川、高松、2023年12月15日

B-6
後藤邦仁：肝臓がん・胆道がん・膵臓がん治療における最近の知見。大阪市中央区東医師会・法円坂地域医療フォーラム、大阪、2023年5月20日

後藤邦仁：治癒切除不能胆道癌治療を考える会in Osaka、大阪、2023年7月7日

八十島宏行：プロジェクトBreast Cancer～One team for Patient～、大阪 2023年8月 31日

八十島宏行：納得の治療選択のための基礎知識：乳がん治療の今。がんの治療と暮らしフェア2023、WEB、2023年11月26日

八十島宏行：HER2 陽性乳癌周術期レジメンとフェスゴの役割。和歌山乳がん治療ネットワーク2023、和歌山、2023年12月1日

八十島宏行：HR 陽性 HER2 陰性進行再発乳癌の治療戦略。イブランス 6 周年講演会～最新情報と使用経験から考える mBC 患者への貢献～、大阪、2023 年 12 月 15 日

山本昌明、浜川卓也、竹野 淳、平尾素宏：食道胃接合部癌縦隔内吻合術後の逆流性食道炎に難渋した 1 例。第 40 回近畿過大侵襲研究会、大阪、2023 年 10 月 13 日

山本昌明、竹野 淳、平尾素宏：当施設における胃癌術後補助化学療法の現状 。OSAKA Gaastric Cancer Weblecture、大阪、2023 年 11 月 30 日

赤澤 香、萩原佳菜、岡田公美子、八十島宏行：cN+乳癌における腋窩リンパ節のマネジメントと課題。第 150 回阪神乳腺疾患談話会、大阪、2024 年 3 月 1 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：虫垂が絞扼帯となり生じた絞扼性腸閉塞の 1 例。第 651 回大阪外科集談会、大阪、2023 年 12 月 2 日

木場瑞貴、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、高見康二、平尾素宏：急速に増大した胃腫瘍に対して左上腹部内臓全摘術にて摘出し得た一例。第 650 回大阪外科集談会、大阪、 2023 年 9 月 9 日

酒井康平、阿部 優、酒井健司、松井優紀、後藤邦仁、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏、高見康二：肝細胞癌の孤立性縦隔転移の 1 例。第 649 回大阪外科集談会、大阪、2023 年 7 月 22 日

佐々木礼央、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、豊後雅史、徳山信嗣、松井優紀、赤澤 香、山本昌明、河合賢二、岡田公美子、高橋佑典、八十島宏行、竹野 淳、加藤健志、髙見康二、平尾素宏：胃に穿破し出血コントロール不良であった膵管内乳頭粘液性腺癌残膵再発に対して残膵全摘を施行した 1 例。第 653 回大阪外科集談会、大阪、2024 年 3 月 16 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、河合賢二、高橋佑典、徳山信嗣、平尾素宏：抗血栓剤を服用中の症例に対する肛門手術の検討。第 124 回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2023 年 6 月 10 日

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、平尾素宏：ALTA 施行後に発症した肛門周囲膿瘍、痔瘻の検討。第 125 回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2023 年 11 月 18 日

高度医療技術開発室

室長　松村泰志

近年における医療を取り巻く情報処理や画像処理の技術革新により、診断、治療における医用画像診断装置の利用範囲は拡大しており、著しいイノベーションを引き起こしている。昨年より新型コロナウイルスの世界的パンデミックによって我々の生活や産業構造は大きな変革を余儀なくされた。そのような変革の中で画像が果たす役割は大きくなってきている。遠隔モニタを用いた遠隔診療などはさらに推進されていくであろう。診断技術に関しても AI などのサポートを受けながら今まで以上に向上していくものと考えられる。本研究室では新しい医療技術開発の基盤を構築していく。

平成 24 年度より循環器系研究室員を配置し、医用画像診断装置の技術開発を大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座とともに推進した。

平成 27 年度より、院内臨床症例（特に心房細動症例、大動脈弁狭窄症症例）の心臓超音波画像解析も並行して推進した。

平成 29 年度は、僧帽弁輪石灰化、大動脈弁石灰化を CT 画像から解析し、心臓超音波画像と組み合わせた解析によって、冠動脈石灰化のリスク層別化が可能であること。また心エコー検査と生体インピーダンス分析の併用によって心不全患者の再入院リスク層別化が可能であることを報告した。（AHA2017、ACC2018）

平成 30 年度は、昨年の CT 画像検査、心エコー検査に関する研究を進め、それぞれ報告を行った。（AHA2018）この研究が、心エコー図学会に認められ海外発表優秀論文賞を受賞した。

平成 31 年度（令和元年）は、大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学において多施設で実施している心不全レジストリ登録を行っているデータから、心エコーによるうっ血の指標をスコア化し、層別化することによって心不全患者の予後を予測することを報告した。（AHA2019）。

令和 2 年度は、心臓リハビリテーションにおいて、心不全患者の栄養状態と身体活動性が生命予後に影響していることを報告した（ESC Heart Fail 2020;7:1801-1808）。

令和 3 年度は、COVID-19 パンデミックの影響もあったが、心エコー検査の簡便な指標を用いて、収縮の保たれた心不全患者の予後予測が可能であることを報告した（JACC Asia 2022;1:73-84）。

令和 4 年度は、COVID-19 ワクチン関連劇症型心筋炎の報告（EHJ Case Reports 2022 doi:10.1093/ehjcr/ytac290.）を行った。

令和 5 年度は、心不全早期診断・早期介入のための運動負荷心エコー検査の件数を増やし（前年比 135%）、シンポジウムでの報告（2023 年日本心エコー図学会）も行った。また、学会主催の運動負荷心エコー検査に関する多施設共同研究にも参加し本邦での心不全早期診断のエビデンス創出を進めていく。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Yamane H, Ueda Y, Ikeoka K, Kosugi S, Abe H, Mishima T, Inoue K, Matsumura Y：The observation of below-the-knee artery by optical frequency domain image and angioscopy : a case series.「European Heart

Journal Case Reports」7(11):ytad518、Oxford University Press、2023 年 10 月 18 日

Ueda Y：Slow-Flow Phenomenon Caused by Distal Embolization Should Be Predicted and Prevented to Maximize the Efficacy of Coronary Intervention.「Circulation Journal」doi: 10.1253/circj.CJ-23-0702、日本循環器学会、2023 年 10 月 20 日

Takeuchi T, Kosugi S, Ueda Y, Ikeoka K, Yamane H, Takayasu K, Ohashi T, Fukushima T, Horiuchi k, Iehara T, Sakamoto M, Ukai K, Minami S, Mizumori Y, Muraoka N, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y: Impact of a Cancer History on Cardiovascular Events Among Patients with Myocardial Infarction Who Received Revascularization.「Circulation Journal」88(2):207-214、日本循環器学会、2024 年 1 月 25 日

Ikeoka K, Nishi H, Ueda Y, Yamane H, Matsumura Y：Hybrid endovascular treatment for complicated aortic dissection concomitant with true lumen obliteration: a case report.「European Heart Journal Case Reports」8(2):ytae068、Oxford University Press、2024 年 1 月 31 日

A-3
大崎慧、家原卓史、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、鵜飼一穂、玉城勇樹、竹内太郎、越智公一、小畑理沙子、大里和樹、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：前立腺癌のホルモン治療中に発症したアビラテロン関連心不全の 1 例「Osaka Heart Club」47(3):6-10、公益社団法人大阪ハートクラブ、2023 年 8 月 18 日

A-4
上田恭敬：冠動脈造影検査「日本臨床増刊号 臨床冠動脈疾患学」81(8):225-229、日本臨床社、2023 年 8 月 31 日

上田恭敬：血管内視鏡「日本臨床 増刊号 臨床冠動脈疾患」学 81(8):230-235、日本臨床社、2023 年 8 月 31 日

上田恭敬：CCS 患者に対する PCI の適応を再考する（Over view）「Coronary Intervention」 19:8-9 、株式会社メディアルファ 、2023 年 9 月 29 日

上田恭敬：内視鏡医学のすべて 循環器「週刊医学のあゆみ」286（14）:1236-1259、医歯薬出版株式会社 、2023 年 9 月 30 日

B-3
中村雅之、安部晴彦、柳 善樹、近藤信吾、上田恭敬：運動負荷心エコー図検査では診断がつかず、運動負荷右心カテーテル検査で左室拡張機能障害の診断を得た一例。日本心エコー図学会第 34 回学術集会、岐阜市、2023 年 4 月 22 日

上田恭敬：CCS 患者の診断と管理の重要性。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日
Murasato Y, Nakashima H, Sugino H, Arikawa M, Mori F, Ueda Y, Matsumura K, Abe M, Koizumi T,

Shimomura M, Fujimoto K, Saeki T, Imagawa S, Takenaka T, Morita Y, Kashima K, Ono Y, Fukase A, Imai T：Imaging-guided Left Main Percutaneous Coronary Intervention in Japanese National Hospital Organization (LM-JANHO). 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

上田恭敬：循環器集中治療のための CCU の特徴。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

池岡邦泰、リージュン、シシボーメディ 飯田修 山根治野 上田恭敬、南都伸介：迫り来るコロナ禍の中、米国末梢血管インターベンション留学で学んだもの。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

B-4
柳 善樹、安部晴彦、中村雅之、中川紗希、赤嶺和昭、近藤信吾、上田恭敬、西 宏之、河合 健、眞能正幸：左室心尖部への転移をきたした粘液線維肉腫の一例。日本心エコー図学会第 34 回学術集会、岐阜市、2023 年 4 月 21 日

近藤信吾、中村雅之、安部晴彦、柳 善樹、 鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、堀内恒平、山根治野、大橋拓也、髙安幸太郎、小杉隼平、尾﨑立尚、三嶋 剛、 池岡邦泰、井上耕一、松村泰志、上田恭敬：植え込み型除細動器植え込み後慢性期に右室心筋にリード穿孔を認めた一例。日本心エコー図学会第 34 回学術集会、岐阜市、2023 年 4 月 22 日

Ukai K, Yamane H, Ikeoka K, Ueda Y: A case of ablating the in-stent superficial femoral artery by various methods using an excimer laser atherectomy catheter. JET2023、東京都、2023 年 5 月 26 日

Ozaki T, Inoue K, Mishima T, Ohashi T, Ukai K, Iehara T, Fukushima T, Nakamura M, Yamane H, Ikeoka K, Abe H, Ueda Y: ACCURACY AND CLINICAL USEFULNESS OF LEFT ATRIAL 3D IMAGE CONSTRUCTION MODULE USING INTRACARDIAC ECHOCARDIOGRAPHY. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌市、2023 年 7 月 8 日

福島貴嗣、池岡邦泰、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、尾﨑立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：左冠尖洞起源の心室期外収縮に対するカテーテルアブレーション後に発症した急性左主幹部閉塞の一例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

Ikeoka K, Mizumori Y, Muraoka N, Minami S, Ukai K, Iehara T, Horiuchi K, Fukushima T, Nakamura M, Yamane H, Ohashi T, Takayasu K, Ozaki T, Kosugi S, Mishima T, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: Protected Percutaneous Coronary Intervention Associated with Stent Under expansion of Left Main Trunk. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

南 慎哉、家原卓史、小杉隼平、水森祐樹、村岡直哉、鵜飼一穂、堀内恒平、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、髙安幸太郎、尾﨑立尚、池岡邦泰、上田恭敬：弾性線維性仮性黄色腫患者におけるバルーンカテーテルおよびマイクロカテーテル不通過の右冠動脈高度石灰化病変の

PCI。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

水森祐樹、池岡邦泰、中村雅之、村岡直哉、南 慎哉、鵜飼一穂、家原卓史、堀内恒平、福島貴嗣、山根治野、髙安幸太郎、尾﨑立尚、小杉隼平、上田恭敬：生体弁患者に Impella を挿入し重度の大動脈弁閉鎖不全症となった一例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 4 日

Muraoka N, Ikeoka K, Kosugi S, Ozaki T, Yamane H, Nakamura M, Fukushima T, Horiuchi K, Iehara T, Ukai K, Minami S, Mizumori Y, Ueda Y: Effective Endovascular Therapy with Directional Laser Atherectomy for Acute Limb Ischemia Complicated by Massive Pulmonary Embolism. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Ikeoka K, Iehara T, Kosugi S, Muraoka N, Mizumori Y, Muraoka N, Minami S, Ukai K, Fukushima T, Horiuchi K, Yamane H, Ohashi T, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: The Change of Lipid Core Burden after Angioplasty is a Novel Predictor of Periprocedural Myocardial Infarction. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Iehara T, Ikeoka K, Kosugi S, Muraoka N, Mizumori Y, Ukai K, Fukushima T, Horiuchi K, Yamane H, Ohashi T, Takayasu K, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: The Lipid Core Plaque Area Index (LAI) Obtained by Near Infrared Spectroscopy Serves as a Predictor of Periprocedural Myocardial Infarction. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Yamane H, Muraoka N, Mizumori Y, Minami S, Sakamoto M, Ukai K, Iehara T, Horiuchi K, Fukushima T, Nakamura M, Ohashi T, Takayasu K, Ozaki T, Kosugi S, Mishima T, Ikeoka K, Abe H, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: Impact of Laser Atherectomy to Obtain Luminal Area in Endovascular Treatment of Femoropopliteal Artery In-Stent Restenosis. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Ukai K, Yamane H, Mizumori Y, Muraoka N, Minami S, Sakamoto M, Iehara T, Horiuchi K, Fukushima T, Nakamura M, Ohashi T, Takayasu K, Ozaki T, Kosugi S, Mishima T, Ikeoka K, Abe H, Inoue K, Matsumura Y: Isolated below-the-knee stenosis/ occlusion is a risk factor of wound healing in patients with chronic limb-threatening ischemia. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

Ukai K, Yamane H, Ikeoka K, Ueda Y, Takeuchi T: Isolated below -the knee stenosis /occlusion is a risk factor of wound healing in patients with chronic limb-threatening ischemia. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会、福岡市、2023 年 8 月 5 日

越智公一、家原卓史、池岡邦泰、安部晴彦、 鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、井上耕一、上田恭敬、 松村泰志：留置後 3 ヶ月で石灰化結節によるステント内再狭窄を認めた弾性線維性仮性黄色腫の 1 例。第 71 回日本心臓病学会学術集会、東京都、2023 年 9 月 10 日

小畑理沙子、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、家原卓史、 鵜飼一穂、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：HFpEF の早期診断と SGLT2 阻害薬導入に運動負荷心エコー検査が有用であった一例。第 71 回日本心臓病学会学術集会、東京都、2023 年 9 月 10 日

Kobata R, Yamane H, Abe H, Nakamura M, Mukai T, Mishima T, Ikeoka K, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y: A Case of Breast Cancer Patients with Drug Induced Chronic Lymphocytic Myocarditis Successfully Treated with Steroid Therapy. 第 27 回日本心不全学会学術集会、横浜市、2023 年 10 月 7 日

竹内太郎、向井 隆、上田恭敬、池岡邦泰、山根治野、鵜飼一穂、家原卓史、 福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、尾﨑立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、松村泰志：急性心筋梗塞患者における、Door to balloon time と退院後の心血管イベントの関連。第 36 回日本冠疾患学会学術集会、金沢市、2023 年 11 月 25 日

福島貴嗣、安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：Factors Influencing Hospital Length of Stay Comparison Between Heart Failure with Preserved and Reduced Ejection Fraction. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 8 日

大橋拓也、井上耕一、家原卓史、池岡邦泰、安部晴彦、鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、上田恭敬、松村泰志：Pulmonary Vein Isolation Using QDOT MICRO: A Comparison of vHPSD and Ablation Index-Guided Approaches. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 8 日

三嶋 剛、井上耕一、尾崎立尚、大橋拓也、大﨑 慧、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大里和樹、越智公一、鵜飼一穂、坂本 麻衣、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、向井 隆、池岡邦泰、安部晴彦、上田恭敬：縫合糸媒介閉鎖装置を使用した止血患者における大腿静脈狭窄症。 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 8 日

大橋拓也、井上耕一、家原卓史、池岡邦泰、安部晴彦、鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、上田恭敬、松村泰志：Suboptimal Acute Outcome of Right Pulmonary Vein Isolation Utilizing Very High-Power Short-Duration Ablation: Possible Attribution of Epicardial Conduction. 第 88 回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024 年 3 月 10 日

B-5

安部晴彦 ：循環器スペシャリストが教える診療エッセンス。第 12 回阪神心血管セミナー、WEB、2023 年 10 月 20 日

安部晴彦：循環器内科医と心不全緩和ケア：現状と今後の課題。第 47 回なにわ緩和ケアカンファレンス、WEB、2024 年 2 月 15 日

B-6

大橋拓也、井上耕一、安部晴彦、池岡邦泰、三嶋 剛、尾﨑立尚、小杉隼平、髙安幸太郎、山根治野、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、家原卓史、 鵜飼一穂、南 慎哉、水森祐樹、村岡直哉、上田恭敬：当院における QDOT MICRO カテーテルと QMODE+を用いた心房細動アブレーションの初期使用経験。第 135 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 7 月 15 日

玉城勇樹、池岡邦泰、家原卓史、竹内太郎、小畑理沙子、越智公一、大里和樹、大﨑 慧、上田恭敬、 松村泰志：ELCA 後の slow flow、残存血栓に対して long inflation balloon angioplasty が有効であった plaque erosion の心筋梗塞の一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、玉城勇樹、竹内太郎、越智公一、小畑理沙子、大里和樹、大﨑 慧、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、大橋拓也、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：原発性鎖骨下静脈血栓症(Paget-Schroetter 症候群) に経カテーテル的血 栓吸引術を行った一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

越智公一、池岡邦泰、家原卓史、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：左主幹部の多量血栓を伴う心筋梗塞に対して ELCA が有効であった 1 例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

竹内太郎、池岡邦泰、玉城勇樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、山根治野、向井隆、小畑理沙子 越智公一、大﨑 慧、大里和樹、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：院外心停止に対し Impella を導入した症例 に関するケースシリーズ研究。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

池岡邦泰、家原卓史、竹内太郎、玉城勇樹、越智公一、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、福島貴嗣、大橋拓也、山根治野、中村雅之、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：脂質コアプラークを有する左主幹部病変を合 併した急性心筋梗塞に対し補助循環サポート下に DCA による治療を行なった 1 例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

福島貴嗣、池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、越智公一、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：経皮的大動脈弁拡張術を施行したことで Rot ablator を用いた経皮的冠動脈形成術 を安定した血行動態下に完遂できた一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

山根治野、玉城勇樹、竹内太郎、小畑理沙子、越智公一、大里和樹、大﨑慧、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、尾﨑立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：膝下動脈の再狭窄の形態を Optical Frequency Domain Imaging にて観察 した一例。

第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

大﨑 慧、池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大里和樹、越智公一、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志一：左室流出路起源心室期外収縮に対するカテーテルアブレーション直後に発症した急性左主幹部閉塞の一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

大里和樹、家原卓志、池岡邦泰氏、玉城勇樹、竹内太郎、小畑梨沙子、越智紘一、大崎 慧、鵜飼一穂、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、山根治野、尾﨑立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：近赤外線分光法を用いて脂質コアプラークを評価した慢性冠症候群における糖尿病と周術期心筋梗塞の関連の検討。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

池岡邦泰、山根治野、竹内太郎、玉城勇樹、越智公一、小畑理沙子、大﨑 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣 大橋拓也、中村雅之、尾﨑立尚、向井隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：Primary Tibial Artery Approach における血管内治療の安全性について。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

池岡邦泰、西 宏之、山根治野、上田恭敬、松村泰志：解剖学的に複雑な解離性大動脈瘤に対し 2 期的血管内治療を施行し血行再建に成功した一例。第 41 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪市、2023 年 10 月 7 日

鵜飼一穂、中村雅之、安部晴彦、柳 善樹、家原卓史、福島貴嗣、山根治野、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：経皮的左心耳閉鎖術前の経食道心エコー図検査にて左心耳内に加速血流を認めた一例。日本超音波医学会第 50 回関西地方会学術集会、神戸市、2023 年 10 月 21 日

竹内太郎、家原卓史、安部晴彦、中村雅之、向井隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：心破裂をきたした、COVID-19 合併たこつぼ型心筋症の 1 例。第 242 回日本内科学会近畿地方会、豊中市、2023 年 12 月 9 日

羽白 亮、山本司郎、福島貴嗣、森山拓也、小川拓也、永野恵子、中村雅之、上田恭敬、山上宏：心臓腫瘤・完全房室ブロックを合併しステロイドが著効した IgG4 関連大動脈周囲炎疑診の一例。第 242 回日本内科学会近畿地方会、豊中市、2023 年 12 月 9 日

竹内太郎、向井隆、上田恭敬、池岡邦泰、山根治野、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、松村泰志：AMI にて ECPR・PCI を施行された院外心停止患者での来院から PCPS 駆動までの時間と予後の関連。第 136 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 12 月 16 日

余田拓海、大崎 慧、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：静脈へエタ

ノールアブレーションが奏効した僧帽弁輪旋回型心房頻拍の一例。第 136 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 12 月 16 日

竹内太郎、向井 隆、上田恭敬、池岡邦泰、山根治野、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、大橋拓也、中村雅之、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、松村泰志：血行再建を施行された夏型・冬型心筋梗塞の背景因子・予後比較。第 136 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2023 年 12 月 16 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、玉城勇樹、竹内太郎、越智公一、小畑理沙子、大里和樹、大崎 慧、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志、高度蛇行：屈曲の右冠動脈末梢慢性閉塞性病変に対して、ダブルガイドエクステンション法が有効であった 1 例。SPIRIT Video Live Demonstration 2024、大阪市、2024 年 2 月 17 日

B-8
上田恭敬：CCS における積極的脂質低下療法の意義： JCS GL フォーカスアップデート版 安定冠動脈疾患の診断と治療。第 3 回桜橋ハートカンファレンス、大阪市、2023 年 4 月 6 日

上田恭敬：冠動脈疾患における最適な脂質低下療法とは？ PCSK 9 Premium Forum 2023、WEB、2023 年 4 月 18 日

安部晴彦：心不全診療のパラダイムシフト ～運動負荷心エコーによる早期診断への新たな試み～。第 58 回法円坂地域医療フォーラム、大阪市、2023 年 6 月 3 日

上田恭敬：狭心症と心筋梗塞についてくわしく説明します。国立病院機構大阪医療センター第 14 回 WEB 公開講座、WEB、2023 年 6 月 20 日

上田恭敬：慢性冠症候群におけるリスク管理の重要性について。Cardiovascular Conference in JCHO 大阪病院、大阪市、2023 年 11 月 16 日

安部晴彦:前心不全とは？心不全を早期診断し治療介入する。第 46 回循環器病談話会、WEB、2024 年 1 月 27 日

安部晴彦:「心臓の音に異常がありますね」って言われたことはありませんか？もしかしたら弁膜症かもしれません！でも安心してください。最新の治療法があります。第 72 回おおさか健康セミナー、大阪市、2024 年 2 月 10 日

安部晴彦：循環器内科医と心不全緩和ケア現状と今後の課題。なにわ緩和ケアカンファレンス、WEB、2024 年 2 月 15 日

医療情報研究室

室長　岡垣篤彦

医療情報研究室では、医療への IT 応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム 本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関する システム的検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準 電子カルテについて、あるいは FHIR、SS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHR といった標準規格を通して異なる 電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。国内で行なわれている医療機関間のデータ共有に関する主要な研究プロジェクトのうち代表的な 2 つのプロジェクト、すなわち、国立病院機構の「電子カルテデータ標準化等のためのＩＴ基盤構築事業」、および大阪大学が主導する「病院情報システムデータを利用した横断的研究基盤構築に関する研究」、に参加している。さらに、がん登録関連の研究として、「大阪がん診療実態調査」、「癌診療きんてん化のための臨床情報データベース構築と活用に関する研究」、「新型コロナウイルス感染症がリアルワールドのがん診療に及ぼした影響：癌登録を基礎とした調査」に参加している。2014 年 1 月より実用化された救命救急外来経過表は、救命救急外来の診療速度についてける国内で最も進んだ電子カルテとして大きな注目を集め、東京大学、京都大学、沖縄中部病院、国立病院機構名古屋医療センター、松波総合病院など、国内の一流研究・医療機関より見学を受け入れた。2020 年 1 月に更新した電子カルテシステムは、システムの応用範囲が広くなり、データ利用についても 多彩な可能性が考えられる。診療データ参照系では各診療科に必要な高度な機能を実装している。腎臓内科では慢性腎臓病患者の聴器予後を見える化し、診療の質の向上に貢献している。感染管理については創部感染、カテーテル関連感染、耐性菌の発生状況を日々の病床状況とともに把握するシステム、COVID-19 感染状況を把握するシステム、抗生剤使用監視システム、血液培養結果監視システムなどで感染対策チームに有用な情報を提供している。看護部には褥瘡管理および予防、転倒転落、肺塞栓予防、がん相談など、多彩な情報を提供している。2022 年にはこれらに加えて入院患者の急変予測を可能とする Rapid Response System を実用化した。2013 年度は災害医療研究室と共同で厚労省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対する DMAT による急性期医療対応に関する研究」において GIS の技術を用いた DMAT 被災地派遣支援ソフトウエアの開発を行い 2014 年度に報告書を上梓した。引き続き災害関連の研究として 2015 年度より厚労省指定研究「首都直下地震に対応した DMAT の戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を 2 年間行なった。南海トラフ地震への医療支援に関してはその後も継続的に研究に参加しており、2016 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究「南海トラフ地震に関する研究」に共同研究者として参加し、2017 年度,2018 年度も引き続き共同研究者として参加した。医療情報学会におい

て 2017 年に「災害・救急医療へのユーザーメード IT の貢献」、2018 年には「医療の質向上に貢献する診療支援システムとその効果分析」というテーマでワークショップを主催した。2019 年には災害時の療養病床の支援について研究を行なった。2020 年秋の医療情報学連合大会では、「COVID-19 パンデミック対策としての広域および医療機関内情報システムの検討」というタイトルでワーショップを主宰した。2021 年秋の医療情報学連合大会には「COVID-19 パンデミックに対し、広域情報システム、単独医療機関の情報システムはいかに 貢献したか」というタイトルでシンポジウムを主宰した。2022 年は「RRS への臨床現場への対応―病院情報システムを用いた診療補助の可能性―」というタイトルでワークショップを主宰した。今後も医療情報学会などを中心に研究を継続していく予定である。

【2023 年度 研究発表業績】

A-3

大西光雄、上尾光弘、岡垣篤彦：Rapid Response への気付き、急変時の正確な記録を意識した電子カルテの工夫「日本臨床救急医学会雑誌(Journal of Japanese Society for Emergency Medicine)」26（3）P293、2023 年 7 月 17 日

B-8

岡垣篤彦:救命救急、災害分野におけるユーザーメードアプリケーションの貢献。Claris Engage Japan、東京、2023 年 11 月 9 日

災害医療研究室

室長　大西光雄

台風のような予測可能な災害は少なく、多くの災害は突然発生し、病院機能は一旦低下する。しかし、同時に医療機関への需要が増大することが多いため、病院機能を維持することが求められる。一口に“災害”といってもさまざまな災害がある。

- 地震や風水害に代表されるような自然災害
- 化学物質による汚染、感染症、放射性物質、あるいは爆発といった事案が原因となる CBRNE 災害（化学：Chemical、生物：Biological、放射性物質：Radiological、核：Nuclear、爆発物：Explosive）
- 多数傷病者が発生するような、交通事故や火災、事件などの局地災害、および大規模イベントにおける医療対応
- ライフライン（電気・水道・通信等）の途絶、停止による医療機関の機能低下や地域の衛生状況の悪化
- 診療情報（検査、薬剤、給食などを含む）を司る診療情報システムの麻痺

など実にさまざまである。いずれにせよ、c の機能低下を防ぐべく、医療機関の事業継続を念頭においた対応が望まれる。過去の災害を分析し、将来の可能性を想定し、準備・訓練することが重要である。

ここでいう“災害”という概念は、事業を継続するために必要な人的・物的・空間的な資源の需要と供給のバランスが崩れた状態を指す。このことを踏まえた上で、当研究室の災害研究は“オールハザードアプローチ（あらゆる危機・障害に対して事業を継続し続ける）”の方策を研究している。
特に化学物質が関連する災害に関して、世界安全保障イニシアティブ（Global Health Security Initiative：GHSI）における化学イベントワーキンググループ（Chemical Event Working Group：CEWG）の会議に参加しており、この WG で得た知見を活かし、日本における災害対応に取り組んでいきたい。

災害時に健康を失いやすい“災害時要配慮者”に対する研究・取り組みもおこなっている。東日本大震災における災害関連死の統計データより“病院の機能停止”によって“初期治療の遅れ”や“既往症が増悪”の発生、“避難所等への移動”、“避難所等での生活”における肉体・精神的疲労が災害関連死の原因とされていることから、平時より何が取り組めるのか、といった研究が必要と考えている。

また、大阪医療センターは以前より大阪市消防の有志とともに運営されている大阪 EMS（Emergency Medical Service）研究会を通じて消防との連携のあり方など、15 年以上にわたりプレホスピタルでの活動・研究に取り組んできた。COVID-19 の影響により、WEB 開催が主体となったことが幸いし、非常に広域、かつさまざまな職種からの参加者が得られるようになった。米国で救命士として活躍してい

る人物との意見交換、米国の戦傷救護を学んだ自衛隊員を講師に招き、警察官、刑務官など救護を行う可能性のある多職種での研究会を多数開催でき、取り組みを研究発表してきた。当院の院内救命士も参加しており、医療の質の向上、各組織の視点を理解した上での連携を図るべく活動していきたい。また、対面の研究会開催が可能となってきたため、今後、さらに発展させる予定である。

大阪医療センターでは、以上を勘案した上で、災害訓練等をおこなってきた。COVID-19 禍以前は放射性物質が関わる災害対応を含む広域災害への対応を地域医療機関との連携を考慮した上での大規模災害訓練をおこなってきたが、COVID-19 の影響により訓練形式はワークショップや机上演習へ変更せざるを得なかった。しかし、その中でも自宅を避難所・救護所と見立て、自宅から災害訓練に参加可能なシステム、あるいは病院幹部（災害対策本部）の機能強化を目的とした訓練などさまざまな工夫、開発をおこなった。今後は、従来規模の災害訓練を再開すべく、地域（医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション等）との連携を視野に入れた訓練を開催していく予定である。

現在の研究

- 南海トラフ地震における災害医療対応シミュレーション・システムの開発（研究分担者　大西光雄　21K09087）
- 大規模イベントの公衆衛生・医療に関するリスクアセスメント及び対応の標準化に向けた研究（分担研究者　大西光雄　22LA2002）
- CBRNE テロリズム等に係る健康危機管理体制の国際動向の把握及び国内体制強化に向けた研究（分担研究者　大西光雄　22LA1012）
- 化学テロ発生時に必要な薬剤の国家備蓄等の適正化の研究（分担研究者　大西光雄　23CA2019）

終了した研究

- オールハザード・アプローチによる公衆衛生リスクアセスメント及びインテリジェンス機能の確立に資する研究（研究分担者　大西光雄　21LA2003）
- CBRNE テロリズム等の健康危機事態における対応能力向上及び人材強化に関わる研究（研究分担者　大西光雄　19LA1010）
- プレホスピタルでの心肺蘇生時における脳内酸素飽和度の推移に基づいた脳循環の解明（研究分担者　大西光雄　19H03758）
- 高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（研究分担者　大西光雄　19K10532）

臨床研究推進室

室長　森下典子

臨床研究事業は、従来から国立病院機構が果たすべき先駆的な政策医療の一分野である。当院では治験・臨床研究の円滑な運営・管理、支援を行うことを目的に、臨床研究センター4部12室の中に「臨床研究推進部」、「臨床研究推進室」を配置している。臨床研究推進室は“治験管理部門”と“臨床試験支援部門”の2つの部門から成るが、治験管理部門が、治験以外の臨床研究支援も含め専ら活動の中心となっている。

臨床研究推進室の構成員は、部長1名、室長1名、臨床研究コーディネーター（CRC）8名、治験・臨床研究事務局3名、データマネジャー1名、事務補助5名、研究員1名である（2024年3月末現在）。

臨床研究推進室は、CRCおよび治験事務局として治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。受託研究と各種臨床研究関連指針が適応される自主研究は、それぞれ独立した2つのIRB（第1委員会・第2委員会）により毎月審議を行っている。今年度も新型コロナウイルス感染防止対策からWeb会議形式による開催を継続した。

治験実績（受託研究費請求額）では、国立病院機構内施設で全国6位の成績であった（2024年2月現在）。新規受託件数27件、総件数103件、研究請求金額総額は2024年3月見込として2億円を超え、目標を達成することができた。新規受託件数27件のうち、当院に直接依頼があった課題は17件、国立病院機構本部からの紹介課題3件、SMOからの紹介課題7件と年々SMOを通した治験紹介が増加傾向にあり、製薬企業の施設選定方法が変化してきているため、今後も治験依頼者やSMO（Site Management Organization）と積極的にコミュニケーションをとり、新規治験獲得に向け努力する必要がある。

また、治験に関連した文書では2021年度に電磁化を行い、その後、後継システムへの移行を経て順調に運営できている。自主研究においても2024年3月末に、臨床研究電子申請システムを稼働することができた。本格的な運用は2024年度になるが、研究事務局と研究者双方の効率性が高まるようにさらに体制を整えていきたい。

自主研究の支援では先進医療Bを1件、国立病院機構EBM研究を1件行っている。他には新型コロナワクチンコホート調査、国立病院機構院長協議会より協力依頼のあった多施設共同研究の支援も実施中である。また、臨床研究法や倫理指針に基づいた質の高い臨床研究の実施を進めるために、研究機関の長が行う点検（自己点検）を実施し、その結果を研究者にもフィードバックしている。

その他、地域治験ネットワークの活動として大阪府内の16医療機関で形成する「治験ネットおおさか」の活動にも参加し、他医療機関との意見交換を定期的に行った。

学術的活動および教育については、学会・研究会で発表を行い、国立病院機構本部主催の初級者 CRC 養成研修では講師を務めた。

院内教育および啓発活動としては「臨床研究推進室ニュース」（年 3 回）の発行、「治験セミナー」、「臨床研究セミナー」を実施した。

【2023 年度 研究発表業績】

B-4

名畑優保、小林恭子、松尾友香、福岡利恵、信谷宗平、森下典子、金村米博：治験業務で苦慮した事例からみえること。第 23 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議、2022 in 岡山、岡山、現地・web 開催、2023 年 9 月 16 日～9 月 17 日

B-8

仁谷めぐみ：プロセスマップの使用方法、管理方法について。国立病院機構本部主催令和５年度臨床研究コーディネーター実務者研修、web 開催、2023 年 7 月 7 日

森下典子：CRC 実務者の方へ。国立病院機構本部主催令和５年度臨床研究コーディネーター実務者研修、web 開催、2023 年 7 月 7 日

羽田かおる：本気のエンロールコミットメント　その後。第 11 回 DIA クリニカルオペレーション･モニタリング ワークショップ 特別企画スペシャルディスカッション、Web 開催、2023 年 7 月 22 日

奥村葵美:CRC の役割と研究協力者として必要な倫理的態度。国立病院機構主催 2023 年度初級者臨床研究コーディネーター養成研修、Web 開催、2023 年 8 月 30 日

羽田かおる：CRC が考える電子カルテから CRF 記載までのプロセスとその課題について。国立病院機構近畿グループ主催令和５年度臨床研究・治験研修、Web 開催、2023 年 9 月 8 日

信谷宗平：医薬品業界について（摂南大学薬学部 5 年次生対象「医薬品開発演習」の 1 コマ）。摂南大学枚方キャンパス、大阪、2023 年 11 月 7 日

羽田かおる：シンポジウム 1「原資料の取り扱いについて」。第 16 回中国地区臨床研究・治験活性化連絡協議会、Web 開催、2024 年 1 月 6 日

森下典子：「治験を担う若手の育成と課題～治験事務局、CRC のキャリアパスを考える～」。国立病院機構東海北陸グループ主催令和 5 年（独）国立病院機構東海北陸グループ治験研修、Web 開催、2024 年 2 月 9 日

レギュラトリーサイエンス研究室

室長　松村　泰志

レギュラトリーサイエンスは、科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学とされている。また、レギュラトリーサイエンスは、的確な予測、評価、判断によって①限りなく進歩する科学技術を正しく生かして有効に利用する最善の道を見出すことと、②人間の願望から出発した科学技術が、社会や人間を無視して発達することによってもたらされる深刻な影響を未然に防ぐこと、の二つの大きな目的/役割を担っている。当研究室は、レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成 23 年 4 月に設立された。

令和 4・5 年度においては Real World Data のソースである電子カルテデータを活用した臨床研究のあり方についての検討を継続して行った。大阪大学との共同により進めている OCR-ne の臨床研究基盤システムを充実させ、これを活用した多施設共同研究を実施した。また、Personal Health Record のシステムの開発を進め、個人が施設をまたがって診療を受けている場合でも、個人に重要な診療データが構造化されて集積する仕組みについて研究開発を継続させた。これにより、長期の予後を追跡することが容易となる。これらのプロジェクトについて、各方面からの依頼を受けて講演を行った。

【2023 年度 研究発表業績】

A-0

Kogetsu A, Isono M, Aikyo T, Furuta J, Goto D, Hamakawa N, Hide M, Hori R, Ikeda N, Inoi K, Kawagoe N, Kubota T, Manabe S, Matsumura Y, Matsuyama K, Nakai T, Nakao I, Saito Y, Senoo M, Takahashi MP, Takeda T, Takei M, Tamai K, Tanaka A, Torashima Y, Tsuchida Y, Yamasaki C, Yamamoto BA, Kato K. Enhancing evidence-informed policymaking in medicine and healthcare: stakeholder involvement in the Commons Project for rare diseases in Japan. Res Involv Engagem. 29;9(1):107.2023 年 11 月

Akao M , Inoue H, Yamashita T, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Shimizu W. Relationship Between Direct Oral Anticoagulant Doses and Clinical Outcomes in Elderly Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation ― ANAFIE Registry Sub-Analysis ― Circ J. 24;87(12):1765-1774. 2023 年 11 月

Morimoto T, Hoshino H, Matsuo Y, Ibuki T, Miyata K, Koretsune Y. Safety and Effectiveness of Apixaban Versus Warfarin in Japanese Patients with Nonvalvular Atrial

Fibrillation Stratified by Renal Function: A Retrospective Cohort Study
Am J Cardiovasc Drugs;23(6):721-733. 2023 年 11 月

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Manabe S, Matsumura Y, Takeda T. Extracting Clinical Information From Japanese Radiology Reports Using a 2-Stage Deep Learning Approach: Algorithm Development and Validation. JMIR Med Inform. :11:e49041.2023 年 11 月 14 日

Akao M, Yamashita T, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H. Comprehension of Nonvalvular Atrial Fibrillation and Anticoagulant Adherence in Elderly Patients in a Subcohort Study of the All Nippon Atrial Fibrillation in the Elderly Registry.Am J Cardiol 1:204:159-167.2023 年 10 月

Shiozawa M, Koga M, Inoue H, Yamashita T, Yasaka M, Suzuki S, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Hirayama A, Nakahara J, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Yamaguchi T, Toyoda K. Risk of both intracranial hemorrhage and ischemic stroke in elderly individuals with nonvalvular atrial fibrillation taking direct oral anticoagulants compared with warfarin: Analysis of the ANAFIE registry. International Journal of Stroke.202;18(8):986-995. 2023 年 10 月

Kodama K, Konishi S, Manabe S, Okada K, Yamaguchi J, Wada S, Sugimoto K, Itoh S, Takahashi D, Kawasaki R, Matsumura Y, Takeda T. Impact of an Electronic Medical Record-Connected Questionnaire on Efficient Nursing Documentation: Usability and Efficacy Study. JMIR Nurs. 25:6:e51303. 2023 年 9 月

Koretsune Y, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H. Coagulation Biomarkers and Clinical Outcomes in Elderly Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation: ANAFIE Subcohort Study. JACC Asia 15;3(4):595-607.2023 年 8 月

Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H. Causes of Death in Elderly Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation - Results From the ANAFIE Registry. Circulation Journal 23;87(7):957-963.2023 年 6 月

Ikeda T, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H. Prognostic impact of heart rate during atrial fibrillation on clinical outcomes in elderly non-valvular atrial fibrillation patients: ANAFIE Registry sub-cohort study. Journal of Cardiology;81(5):441-449.2023 年 5 月

Shimizu W, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H. Renal Function and Clinical Outcomes Among Elderly Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation From ANAFIE. JACC: Asia. 11;3(3):475-487.2023 年 4 月

A-3
松村泰志：医療情報の安全な流通と活用を進めるための課題と対策を考える「月刊新医療」587：15、2023 年 11 月 1 日

A-6
松村泰志：社長職を経験して「JAHIS 会誌」72：P4-9、2024 年 2 月 9 日

B-3
松村泰志: 電子カルテをベースとする臨床研究基盤の構築を目指して。第 43 回日本医療情報学連合大会、神戸ファッションマート、2023 年 11 月 25 日

松村泰志: 社会医学系専門医の医療情報領域の教材の作成、第 43 回日本医療情報学連合大会、神戸ファッションマート、2023 年 11 月 24 日

B-6
松村泰志：医療 DX ことはじめ。滋慶医療科学大学大学院同窓会定期講演会、滋慶医療科学大学院大学、2024 年 3 月 16 日

是恒之宏：お酒と心房細動の切っても切れない関係。Life long Support Care web Seminar、埼玉県上尾、2024 年 2 月 28 日

松村泰志：再生医療等製品の有効性・安全性評価のための臨床データ収集方法。経済産業省　再生医療等データ登録システム(NRMD)のあり方検討協議会、Web 開催、2024 年 2 月 26 日

松村泰志：Personal Health Record による新しい診療の形と臨床データの収集。Molecular Cardiology 2024、グランフロント大阪ナレッジキャピタルセンター、2024 年 1 月 27 日

松村泰志：NRMD の重要課題：臨床研究の手順とデータ収集の現状と課題。第 2 回 NRMD のあり方検討協議会、Web 開催、2023 年 12 月 11 日

松村泰志: 医療ネットワークによる医療 DX の実現。第 12 回関西ファーマデジタルマーケティングフォーラム、田辺三菱製薬株式会社、2023 年 11 月 30 日

是恒之宏: ANAFIE REGISTRY 総括報告会―結果を実臨床に活かすために。Round Table Discussion4 Clinical Outcomes サブグループ解析　死因詳細、東京、2023 年

11 月 26 日

松村泰志：社会実装における NRMD 利用に関する目的と課題。再生医療等データ登録システム（NRMD）のあり方検討協議会、Web 開催、2023 年 10 月 16 日

是恒之宏：お酒と心房細動の切っても切れない関係。医家のための日常診療 WEB セミナー　将来を見据えた抗凝固療法を考える、静岡、2023 年 9 月 25 日

是恒之宏:お酒と心房細動の切っても切れない関係。AF 患者さんの lifelong support 心房細動 WEB セミナー、越谷、2023 年 9 月 21 日

松村泰志：医療情報活用基盤の構築に向けて～医療情報連携から臨床研究のためのデータ収集～。医療 DX セミナー、大阪医科薬科大学、2023 年 9 月 1 日

松村泰志：未来の医療ネットワークのビジョン―Personal Health Record による地域医療連携と臨床研究のためのデータ収集―。第 30 回日本遺伝子診療学会大会・第 8 回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム合同学術集会、三井ガーデンホテル千葉、2023 年 7 月 29 日

是恒之宏：お酒と心房細動の切っても切れない関係。置賜医会特別講演会、山形県置賜、WEB 講演会、2023 年 7 月 29 日

是恒之宏：お酒と心房細動の切っても切れない関係。心房細動 WEB セミナーAF 患者さんの Lifelong Support、水戸、2023 年 7 月 21 日

松村泰志：医療データ利活用ニーズの整理とそれぞれに必要とするシステム。MyDataJapan2023 コンファレンス、一橋講堂、2023 年 7 月 14 日

是恒之宏：AF 患者さんの Lifelong Support を考える会～お酒、ストレスと AF,いつアブレーション？いつまで抗凝固療法？～。千葉県船橋 WEB 講演会、2023 年 7 月 12 日

II. 研究助成一覧

令和5年度　研究助成一覧

	研究課題名 （採択番号があれば採択番号も記載）	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任又は分担	新規又は継続	研究種別	研究費獲得額（**単位：万円**）			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	リンパ管奇形に対するシロリムス薬事承認を見据えた病理診断基準の確立(21K15384)	廣瀬　由美子	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）	主任	継続	補助金（研究費）	90　万円	0　万円	27　万円	117　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	慢性腎臓病におけるADH1BALDH2を考慮した飲酒の残腎機能への影響(20k17270)	木村　良紀	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）	主任	継続	補助金（研究費）	20　万円	0　万円	6　万円	26　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	微小流路を連結した灌流培養系によるα－シヌクレイン線維化条件の探索(22K07530)	福角　勇人	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	主任	継続	補助金（研究費）	120　万円	0　万円	36　万円	156　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	血友病A患者・保因者の第Ⅷ因子遺伝子型に基づく病態解析と新規個別化治療戦略の開発(21K07856)	矢田　弘史	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	主任	新規	補助金（研究費）	60　万円	0　万円	18　万円	78　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	南海トラフ地震における災害医療対応シュミレーション・システムの開発(21K09087)	大西　光雄	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	5　万円	2　万円	7　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	可視化・定量化・ウイルス解析によるサージカルスモークの多角的解析研究(22K12931)	高橋　佑典	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	30　万円	9　万円	39　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	頸動脈波の非侵襲簡易計測による脳動脈閉塞のプレホスピタル診断手法の開発(21H01344)	山上　宏	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	30　万円	9　万円	39　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	定量的MRIによる神経膠腫の分子診断と可視化技術の開発(22K09200)	金村　米博	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	5　万円	2　万円	7　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究(21K08826)	西　宏之	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	1　万円	0　万円	1　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	機能亢進型GNAS変異マウスを用いた線維性骨異形成症の病態解明と創薬展開(21H03110)	廣瀬　由美子	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（B））	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	10　万円	3　万円	13　万円
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	もやもや病感受性遺伝子RNF213変異が脳梗塞をおこす機序の解明と治療戦略の探索(19K06922)	岡崎　周平	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	分担	新規	補助金（研究費）	0　万円	31　万円	0　万円	31　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究(21HB2003)	渡邊　大	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	630　万円	0　万円	850　万円	1,480　万円
⑥厚生労働科学研究費	エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究(21HB1002)	白阪　琢磨	厚生労働科学研究費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	756　万円	0　万円	288　万円	1,044　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究(21HB2003)	武山　雅博	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	1,000　万円	0　万円	1,000　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究(21HB2003)	安尾　利彦	厚生労働行政推進調査事業費補助金	主任	継続	補助金（研究費）	0　万円	30　万円	0　万円	30　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究(21HB2003)	矢倉　裕輝	厚生労働行政推進調査事業費補助金	主任	継続	補助金（研究費）	0　万円	200　万円	0　万円	200　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究(21HB2003)	東　政美	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	20　万円	0　万円	20　万円
⑥厚生労働科学研究費	非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病患者に合併する腫瘍への包括対策に関する研究(21HB2005)	渡邊　大	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	30　万円	0　万円	30　万円
⑥厚生労働科学研究費	非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病患者に合併する腫瘍への包括対策に関する研究(21HB2005)	三田　英治	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	30　万円	0　万円	30　万円
⑥厚生労働科学研究費	オーダーメードな肝炎ウィルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究(21HC2001)	田中　聡司	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	50　万円	0　万円	50　万円
⑥厚生労働科学研究費	循環器救急疾患に対する救急医療現場の連携推進のための課題抽出と専門医間の連携構築を目指したガイドブックの作成(22FA1017)	山上　宏	厚生労働科学研究費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	20　万円	0　万円	20　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究(20HB2001)	渡邊　大	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	500　万円	0　万円	500　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究(20HB2001)	矢倉　裕輝	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	300　万円	0　万円	300　万円
⑥厚生労働科学研究費	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究(21HB2002)	上平　朝子	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	20　万円	0　万円	20　万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV陽性者に対する精神・心理的支援のための身体科主治医と精神科専門職の連携体制構築に資する研究(21HB1010)	白阪　琢磨	厚生労働科学研究費補助金	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	70　万円	0　万円	70　万円
⑥厚生労働科学研究費	大規模イベントの公衆衛生・医療に関するリスクアセスメント及び対応の標準化に向けた研究(22LA2002)	大西　光雄	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	新規	補助金（研究費）	0　万円	100　万円	0　万円	100　万円
⑩その他財団等からの研究費	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究	白阪　琢磨	友愛福祉財団研究助成金	分担	継続	補助金（研究費）	740　万円	0　万円	0　万円	740　万円

	研究課題名 （採択番号があれば採択番号も記載）	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任又は分担	新規又は継続	研究種別	研究費獲得額（単位：万円）			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
⑨日本医療研究開発機構研究費	全医療職ニーズ/シーズ収集をワンストップでで実現する次世代医療機器連携拠点	金村　米博	次世代医療機器連携拠点整備研究事業	分担	継続	補助金（研究費）	1,000　万円	0　万円	100　万円	1,100　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	渡邊　大	エイズ対策実用化研究事業	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	60　万円	18　万円	78　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	慢性期脳梗塞に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発	金村　米博	再生医療等実用化研究事業	分担	新規	補助金（研究費）	2,480　万円	0　万円	744　万円	3,224　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	局所切除術後pT1 大腸癌の新たな根治度判定基準の確立	三代　雅明	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	補助金（研究費）	980　万円	0　万円	294　万円	1,274　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	エイズウィルス完全排除を目指すワクチン開発に関する研究	渡邊　大	エイズ対策実用化研究事業	分担	継続	補助金（研究費）	0　万円	200　万円	60　万円	260　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	BRAF V600E変異型切除可能大腸癌遠隔転移に対する個別化周術期治療の医師主導治験の実施	加藤　健志	臨床研究・治験推進事業	主任	新規	補助金（研究費）	0　万円	50　万円	15　万円	65　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	切除可能な高頻度マイクロサテライト不安定性結腸直腸癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を用いた根治治療の有効性・安全性を検討する研究	加藤　健志	臨床研究・治験推進事業	主任	新規	補助金（研究費）	0　万円	300　万円	90　万円	390　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	高齢者初発膠芽腫に対する分子分類に応じたテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究開発	金村　米博	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0　万円	100　万円	30　万円	130　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	金村　米博	革新的先端研究開発支援事業	分担	継続	委託研究費	0　万円	10　万円	3　万円	13　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	髄芽腫、非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究	金村　米博	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0　万円	250　万円	75　万円	325　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の卑劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験	平尾　素宏	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0　万円	30　万円	9　万円	39　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	遺伝子導入神経幹細胞を用いた脊髄機能再生に関する基礎研究	金村　米博	再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	分担	継続	委託研究費	0　万円	1,000　万円	300　万円	1,300　万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	エピゲノムの理解に基づく小児脳腫瘍の新規治療標的の同定を目指した研究開発	金村　米博	次世代がん医療加速化研究事業	主任	継続	委託研究費	0　万円	100　万円	30　万円	130　万円
⑪民間セクターからの寄附金	DES留置後のDES　Failure予防のために強化LDLコレステロール低下療法が有効か検討する単施設無作為化試験	上田　恭敬	アボットﾒﾃﾞｨｶﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ合同会社	分担	継続	委託研究費	300　万円	0　万円	0　万円	300　万円
⑪民間セクターからの寄附金	心臓血管外科手術における長時間人工心肺後凝固異常に対する薬物療法の検討	西　宏之	帝人ﾒﾃﾞｨｶﾙﾃｸﾉﾛｼﾞｰ株式会社	主任	継続	委託研究費	30　万円	0　万円	0　万円	30　万円
⑪民間セクターからの寄附金	心臓血管外科手術における長時間人工心肺後凝固異常に対する薬物療法の検討	西　宏之	株式会社バイタル	分担	継続	委託研究費	25　万円	0　万円	0　万円	25　万円
⑪民間セクターからの寄附金	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究他	上田　恭敬	日本ライフライン株式会社	分担	継続	委託研究費	50　万円	0　万円	0　万円	50　万円
⑪民間セクターからの寄附金	亜鉛と貧血・腎疾患との関連についての検討	岩谷　博次	大塚製薬株式会社	分担	継続	委託研究費	20　万円	0　万円	0　万円	20　万円
⑪民間セクターからの寄附金	慢性肝疾患における新規バイオマーカーの探索	田中　聰司	中外製薬株式会社	分担	継続	委託研究費	30　万円	0　万円	0　万円	30　万円
⑪民間セクターからの寄附金	心房細動アブレーションにおけるSoundFAMを用いた左房画像構築の有用性の検討	尾崎　立尚	日本ベーリンガーインゲルハイム㈱	分担	継続	委託研究費	30　万円	0　万円	0　万円	30　万円
⑪民間セクターからの寄附金	心疾患患者における心臓リハビリテーション予後と運動耐容能に関する研究	中村　雅之	日本ベーリンガーインゲルハイム㈱	分担	継続	委託研究費	30　万円	0　万円	0　万円	30　万円
⑪民間セクターからの寄附金	DES留置後のDES　Failure予防のために強化LDLコレステロール低下療法が有効か検討する単施設無作為化試験	上田　恭敬	アボットﾒﾃﾞｨｶﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ合同会社	分担	新規	委託研究費	300　万円	0　万円	0　万円	300　万円
⑪民間セクターからの寄附金	ポリ-L乳酸(PLLA)製の胸骨ピン又はPLLAとハイドロキシアアパタイト(HA)粒子の複合体プレートを用いた閉胸法の検討	西　宏之	日本ライフライン株式会社	分担	継続	委託研究費	50　万円	0　万円	0　万円	50　万円
⑩その他財団等からの研究費	血圧測定時の腕カバーに関する調査研究	大西　敦子	イトマン株式会社	分担	継続	委託研究費	20　万円	0　万円	3　万円	23　万円
⑩その他財団等からの研究費	「医療ベッドアシスト装置」の開発	山中　真美子	株式会社椿本チエイン	分担	継続	委託研究費	90　万円	0　万円	14　万円	104　万円
⑩その他財団等からの研究費	下肢の良肢位を確保可能な膝関節部屈曲機構付き開脚足板の開発	飛梅　孝子	タカラベルモント株式会社	主任	継続	委託研究費	35　万円	0　万円	5　万円	40　万円
⑩その他財団等からの研究費	慢性期脳梗塞、脳出血及ぶ外傷性中核神経損傷を対象とするヒトiPS細胞を活用した新規再生医療等製品開発研究	金村米博	株式会社ケイファーマ	主任	新規	委託研究費	2,600　万円	0　万円	400　万円	3,000　万円
⑩その他財団等からの研究費	放射線治療領域における新型皮膚マーカーの開発	水野　雄貴	三菱鉛筆株式会社	主任	新規	委託研究費	9　万円	0　万円	1　万円	10　万円

III. 全研究業績の区分分類と業績件数の総括表

診療科の研究業績

診療科名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
総合診療部	24	1	1		1	12						7				2	
腎臓内科	13	2										2		2		6	1
糖尿病・内分泌内科	27	6		1				1				4	1	5		7	2
輸血療法部	1															1	
血液内科	77	9			1	3				1	1	6	1	3		51	1
血友病科	58	11				1		1	1		7	2	1		30	3	1
呼吸器内科	7			1								2				3	1
脳神経内科	58	31	1		1	2			3	1	12	4		3			
感染症内科	111	10	2	1		6	6			4	6	17	1	5	7	44	2
精神科	15							1				1	2			10	1
消化器内科	100	8			2	1				15	9	19	2	9	6	21	8
循環器内科	162	12		1	2	9			1		14	40	8	24		51	
小児科	4		1		1									1			1
外科	216	38			16	2				26	5	97	7	17		4	4
形成外科	8	1		1							3	1	1	1			
整形外科	34	6		1	1					6	4	12	2	1			1
脳神経外科	124	8		5	2	15			2	3	12	49	3	11		13	1
心臓血管外科	29	3		1	1					3	4	4	12	1			
皮膚科	11				3							1		5		2	
泌尿器科	11	1										5				5	
産科・婦人科	6	1			2						2		1				
眼科	21		2		1	2							4	6		5	1
耳鼻咽喉科	3											2		1			
放射線診断科・放射線治療科	46	7						2			2	12		7		16	
口腔外科	11	2			1							5		1		1	1
救命救急センター	104	16		3	10					1	11	28	2	4		28	1
麻酔科	4								1	1	1	1					
臨床検査科	37	7	1		5	5					6	7		3		3	
リハビリテーション科	9										9						
臨床腫瘍科	27	4		1	1					2		5	1	4		8	1
薬剤部	40				2	2	1				6	6		4		19	
看護部	15										1	7	1	6			
栄養管理部	3											1		2			
ケアサポートチーム	28	3		1	1					1	2	1		5		13	1
臨床心理室	36			1							2	8				25	
メンタルヘルスチーム「なのはな」	1															1	
臨床工学室	5				1							1		1		2	
院長室	16	3			1			1			2			9			
小計	1,502	190	8	18	56	60	7	6	8	64	121	357	50	141	43	344	29

臨床研究センターの研究業績

研究室名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
臨床研究センター	41	7		1	1	4					5	22				1	
幹細胞医療研究室	16	2									2	12					
再生医療研究室	42	7		1	1	3				2	5	22				1	
分子医療研究室	65	7		1	1	3					16	35				2	
エイズ先端医療開発室	51	6	2			2	1			4	3	9		5	6	13	
HIV感染制御研究室	24	1				2	1				2	3		1		14	
臨床疫学研究室	36	3			2					3	1	11	1	8		1	6
がん療法研究開発室	196	35			16	2				25	5	91	7	15			
高度医療技術開発室	65	4			1	4					5	22	2	19		8	
医療情報研究室	2				1											1	
災害医療研究室																	
臨床研究推進室	9											1				8	
レギュラトリーサイエンス研究室	31	11			1			1			2			16			
小計	578	83	2	3	24	20	2	1	0	34	46	228	10	64	6	49	6

全研究業績

分類	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
合計	2,080	273	10	21	80	80	9	7	8	98	167	585	60	205	49	393	35

研究業績の分類基準と記号

<table>
<tr><td colspan="7">著　述　発　表　業　績　区　分</td><td colspan="9">口　演　発　表　業　績　区　分</td></tr>
<tr><td>A-0</td><td>A-1</td><td>A-2</td><td>A-3</td><td>A-4</td><td>A-5</td><td>A-6</td><td>B-1</td><td>B-2</td><td>B-3</td><td>B-4</td><td>B-5</td><td>B-6</td><td>B-7</td><td>B-8</td><td>B-9</td></tr>
<tr><td></td><td>単独執筆
編集者
監修者</td><td>共同執筆
（含連名）</td><td>原著</td><td>総説</td><td></td><td></td><td>シンポジウム
特別講演等</td><td>一般演題
（ポスター）</td><td>シンポジウム
特別講演等</td><td>一般演題
(ポスター)</td><td>シンポジウム
特別講演等</td><td>一般演題
（ポスター）</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>英文
著述</td><td colspan="2">単行書</td><td colspan="2">邦文著述
(学会誌・学術専門誌)</td><td>学術医学研究班報告書
講演発表論文</td><td>その他</td><td colspan="2">国際学会</td><td colspan="2">国内学会の全国年次学会</td><td colspan="2">国内学会の地方会
及び分科会研究会</td><td>薬効調査
研究会発表</td><td>文化講演
教育講演等</td><td>TV 出演
ラジオ
放送出演</td></tr>
</table>

Research Vol.43（2023）

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
臨床研究業績年報

発行者　独立行政法人国立病院機構
大阪医療センター　院長　松村泰志

編　集　臨床研究センター
〒540-0006　大阪市中央区法円坂 2 丁目 1 番 14 号
電話（06）6942-1331

印刷所　株式会社　中島弘文堂印刷所
〒537-0002　大阪市東成区深江南 2 丁目 6 番 8 号
電話（06）6976－8761